ツ可キ旨

第十　利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨

第六百五十九條　競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

第六百六十條　競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第六百六十一條　競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス

第一　裁判所ノ揭示板

第二　不動產所在地ノ市町村ノ揭示板

此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ揭載スルコトヲ得

第六百六十二條　最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ揭ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百六十三條　競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記錄ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告ス可シ

第六百六十四條　利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメンコトヲ申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス

有申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ淵ヲルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦効力アリ

第六百六十五條　競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

競賣ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス

第六百六十六條　執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競買ノ終局ヲ告知スヘシ

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ卽時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ

第六百六十七條　競賣ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　不動產ノ表示

第二　差押債權者ノ表示

第三　執行記錄ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト

第四　競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時

第五　總テノ競買價額竝ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト

第六　競賣ノ終局ヲ告知シタル日時

第七　申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト

第八　最高價競買人ノ氏名及ヒ其ノ價額ヲ呼上ケタルコト

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取リ之ヲ調書ニ添附ス可シ

第六百六十八條　執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

第六百六十九條　最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住居ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第百七十條第二項及ヒ第百七十三條ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十條　競買期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競買價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十一條　裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

第六百七十二條　競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

第一　强制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト

第二　最高價競買人及ヒ其買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動產ヲ取得スル能力ナキコト

第三　法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト

第四　競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ揭ケタル要件ノ記載ナキコト

第五　競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト

第六　第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト

第七　第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト

第八　第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

第六百七十三條　異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

第六百七十四條　裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ揭ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動產カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限リ第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限リ第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ル

第六百七十五條　數箇ノ不動產ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動產

ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ强制執行ノ費用ヲ償フニ足ルル可キトキハ他ノ不動產ニ付テハ競落ヲ許サス

此場合ニ於テ債務者ハ其不動產中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

第六百七十六條　第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ許サヽル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ

新競賣期日ハ少クトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十七條　前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許サヽル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ

競落期日ノ調書ニ付テハ第百四十二條乃至第百四十七條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十八條　競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動產カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六百七十九條　競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動產、競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ揭ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ揭ク可シ

右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百八十條　利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ揭ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

第六百八十一條　競落ヲ許サヽル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ揭クル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ揭クル競落ハ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

再審ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ因リ妨ケラルルコト無シ

第六百八十二條　抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ倂合ス可シ

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

第六百八十三條　執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百八十四條　競落ヲ許サヽル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル

第六百八十五條　第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許サヽルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十六條　競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動產ノ所有權ヲ取得スルモノトス

第六百八十七條　競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動產ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動產ヲ管理セシメンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動產ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

第六百八十八條　競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動產ノ再競賣ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競賣ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百八十九條　共有物持分ノ强制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ强制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其强制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債權者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

第六百九十條　競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル差押記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

第六百九十一條　競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ當テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

第六百九十二條　各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百九十三條　代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

第六百九十四條　期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動產ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ

左ノモノヲ賣却代金トス

第一　代金

第二　不動產カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

最高競賣價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十五條　裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ

因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第六百九十六條　配當表ニハ賣却代金各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位竝ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條　配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第六百九十八條　期日ニ出頭シタル債務者ハ各債務者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十九條　競賣人ハ賣却條件ニ因リ不動產ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條　配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調査書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第一　競落人ノ所有權ノ登記

第二　競落人ノ引受ケサル不動產上負擔記入ノ抹消

第三　第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス可シ

第七百一條　數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動產ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百二條　裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競落ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條　入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　入札人ノ氏名及ヒ住所

第二　不動產ノ表示

第三　入札價額

第七百四條　執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

第七百五條　最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求ヲ受クルモ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

第三款　強制管理

第七百六條　強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

不動產カ債權者ノ債權ニ付キ不動產上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動產ヲ債務者カ占有スルコトヲ疏明スル證書ヲ以テ足ル

第七百七條　裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干涉スルコト及ヒ不動產ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動產ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ

既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス

開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百八條　裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動產ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記錄ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動產ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第十百九條　配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第七百十條　執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

第七百十一條　管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動產ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

第七百十二條　裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ二十圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

第七百十三條　第三者不動產ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第七百十四條　管理人ハ直チニ不動產ニ付キ得タル收益ヨリ其不動產ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作リ其配當表ニ基キ管

理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシムル可シ

第七百十五條　管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ

若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可シ

第七百十六條　强制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者不動產ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキハ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ强制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ强制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

第三節　船舶ニ對スル强制執行

第七百十七條　商船其他ノ海船ニ對スル强制執行ハ不動產ノ强制競賣ニ關スル規示ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

端舟其他艀擔ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ艀擔ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

第七百十八條　船舶ノ强制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第七百十九條　船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條　强制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一　債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疏明スルニ足ル可キ證書

第二　船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アランコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第七百二十一條　裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス

若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七百二十二條　船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前

船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

第七百二十三條　船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄內ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消ス可シ

第七百二十四條　競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ揭ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ揭ク可シ

第七百二十五條　定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ揭示板ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

第七百二十六條　船舶ノ處分ニ對スル强制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百二十七條　債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明證ヲ添附ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

第七百二十八條　船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條　外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ强制執行

第七百三十條　債務者カ特定ノ動產又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

第七百三十一條　債務者カ不動產又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此强制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

强制執行ノ目的物ニ非サル動產ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ

債務者及ヒ前項ニ揭ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ト動產ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ

債務者カ其動產ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

第七百三十二條　引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

第七百三十三條　民法第四百十四條第二項及第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス（明治三十一年六月法律第十一號民法施行法第五十四條ヲ以テ本項ヲ改正）

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生スヘキ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アランコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケ

ス

第七百三十四條　債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ニ付キ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス（同上法令第五十五條ヲ以テ本條ヲ改ム）

第七百三十五條　前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊スヘシ

第七百三十六條　債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾スヘキコトヲ裁判所ニ陳述ヲ爲シタルトキ又ハ其判決ノ確定ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做スヘキコトヲ裁判所ニ陳述ヲ爲シ可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

第四章　假差押及ヒ假處分

第七百三十七條　假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ニ換ヘ得ヘキ請求ニ付キ動產又ハ不動產ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十八條　假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲シ難キ事情アルトキ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十九條　假差押ノ命令ハ假差押ヲ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案カ既ニ繫屬シタルトキハ此裁判所ニ申立ヲ爲スコトヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第七百四十條　假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換ヘ請求ニ付キ動產又ハ不動產ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

第七百四十一條　假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル裁判所ノ表示假差押ノ理由及ヒ假差押スヘキ金額ヲ記載スヘシ

第七百四十二條　假差押ノ命令ハ假差押ノ理由ヲ消滅セシムル事情アルトキハ債務者ノ申立ニ因リ假差押ノ執行ヲ停止シ又ハ執行ヲ爲サシメ若ハ既ニ爲シタル執行ヲ取消スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

第七百四十三條　假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メ其期間内ニ執行ヲ爲ササルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

第七百四十四條　債務者ハ假差押ノ執行ヲ爲サシメ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ金額ヲ記載スヘシ

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百四十五條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第七百四十六條　假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

第七百四十七條　假差押ノ命令ハ假差押ノ理由ヲ消滅セシムル事情アルトキハ債務者ノ申立ニ因リ假差押ノ執行ヲ停止シ又ハ執行ヲ爲サシメ若ハ既ニ爲シタル執行ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ債務者ハ假差押ノ理由ヲ消滅セシムル事情ヲ證スルニ非サレハ假差押ノ執行ヲ爲サシメ又ハ既ニ爲シタル執行ヲ取消スコトヲ得ス

第七百四十八條　假差押ノ命令ハ假差押ノ理由ヲ消滅セシムル事情アルトキハ債務者ノ申立ニ因リ假差押ノ執行ヲ停止シ又ハ執行ヲ爲サシメ若ハ既ニ爲シタル執行ヲ取消スコトヲ得ス

第七百四十九條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百五十條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百五十一條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百五十二條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百五十三條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百五十四條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百五十五條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百五十六條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百五十七條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百五十八條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百五十九條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百六十條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百六十一條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百六十二條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百六十三條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百六十四條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百六十五條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百六十六條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百六十七條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百六十八條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百六十九條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百七十條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百七十一條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百七十二條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百七十三條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百七十四條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百七十五條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百七十六條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百七十七條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百七十八條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百七十九條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百八十條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百八十一條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百八十二條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百八十三條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百八十四條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百八十五條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百八十六條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百八十七條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百八十八條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百八十九條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百九十條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百九十一條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百九十二條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百九十三條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百九十四條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百九十五條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百九十六條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百九十七條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百九十八條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第七百九十九條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百一條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百二條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百三條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百四條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百五條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百六條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百七條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百八條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百九條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百十條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百十一條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百十二條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百十三條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百十四條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百十五條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百十六條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百十七條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百十八條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百十九條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百二十條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ爲メ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第八百二十一條　假差押ノ命令ハ假差押ノ執行ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルトキハ假差押ノ執行ヲ爲スヘカラサル旨ヲ命スルコトヲ要ス

假差押ノ執行ヲ爲スニ付キ特別ノ必要アルトキハ假差押ノ命令ニ於テ債權者ヲシテ供託セシムル金額ヲ定メ且之カ

者カ豫納セサルトモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得
右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百五十五條　係爭物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

第七百五十六條　假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル指定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十六條ノ二　假處分ヲ取消ス判決ハ財産權上ノ請求ニ關セサルモノニ付テモ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

第七百五十七條　假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス
右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十八條　裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

第七百五十九條　特別ノ事情アルトキニ限リ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

第七百六十條　假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル强暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第七百六十一條　急迫ナル場合ニ於テハ係爭物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得
此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ
右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百六十二條　本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繋屬スルトキニ限リ控訴裁判所トス

第七百六十三條　急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限リ裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

第七編　公示催告手續

第七百六十四條　請求又ハ權利ノ屆出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其屆出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十五條　公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲ス可ク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ
第一　申立人ノ表示
第二　請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ屆出ツ可キコトノ催告
第三　屆出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四　公告催告期日ノ指定

第七百六十六條　公告催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ裁判所相當ト認ムルトキハ新聞紙ニ公告ス可キコトヲ命スルコトヲ得

第七百六十七條　公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ二箇月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百六十八條　公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ屆出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十九條　除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス
右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得
除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十條　申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ爭フコトノ屆出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ屆出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ屆出テタル權利ヲ留保ス可シ

第七百七十一條　申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六箇月ノ期間内ニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス

第七百七十二條　公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條　裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條　除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス
除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得
第一　法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ
第二　公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ
第三　公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ
第四　判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ
第五　請求又ハ權利ノ屆出アリタルニ拘ハラス判決ニ於テ其屆出ヲ法律ニ從ヒ顧ミサルトキ
第六　第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十五條　不服申立ノ訴ハ一箇月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル
除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五箇年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

第七百七十六條　裁判所ハ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十七條　盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無效ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無效宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限リハ之ヲ適用ス

第七百七十八條　無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

第七百七十九條　公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七百八十條　申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一　證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二　證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ル理由タル事實ヲ疏明スルコト

第七百八十一條　公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ屆出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無效宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示ス可シ

第七百八十二條　公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ揭載シ及ヒ新聞紙ニ三回揭載シテ之ヲ爲ス

公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ揭示ス可シ

第七百八十三條　公示催告ヲ官報又ハ公報ニ揭載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六箇月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條　除權判決ニ於テハ證書ヲ無效ナリト宣言ス可シ

除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無效宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第七百八十五條　除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

第八編　仲裁手續

第七百八十六條　一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ爭ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係爭物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限リ其效力ヲ有ス

第七百八十七條　將來ノ爭ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル爭ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス

第七百八十八條　仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

第七百八十九條　當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ

右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

第七百九十條　當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル

第七百九十一條　仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

第七百九十二條　當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アリト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得

無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

第七百九十三條　仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ選定ヲ爲サヽリシトキハ其效力ヲ失フ

第一　契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ責務ノ履行ヲ不當ニ遲延シタルトキ

第二　仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

第七百九十四條　仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限リハ爭ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第七百九十五條　仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

第七百九十六條　仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲ス可シ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ

第七百九十七條　仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可カラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷ス可キ爭ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

第七百九十八條　數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲ス可キトキハ過半數ヲ以テ其判斷ヲ爲ス可シ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七百九十九條　仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可シ

仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ

第八百條　仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ

效力ヲ有ス

第八百一條　仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一　仲裁手續ヲ許ス可カラサリシトキ

第二　仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ

第三　當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

第四　仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セサリシトキ

第五　仲裁判斷ニ理由ヲ付セサリシトキ

第六　第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ揭ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百二條　仲裁判斷ニ因リ爲ス强制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百三條　執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ揭ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明シタルトキニ限ル

第八百四條　仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間內ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヨリ起算シテ五个年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

仲裁判斷ニ付テハ其ノ取消ノ原因カ判決ニ依リ消滅シタル場合ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ揭ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百五條　仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許ス可カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス

前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

民事訴訟法中改正法律施行法

（大正十五年四月廿四日法律第六十二號）

第一條　本法ニ於テ新法ト稱スルハ大正十五年民事訴訟法中改正法律ニ依ル改正規定ヲ謂ヒ舊法ト稱スルハ從前ノ規定ヲ謂フ

第二條　新法ハ新法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ舊法ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス

第三條　新法施行前ヨリ繫屬スル事件ニ付新法ニ依リ管轄權アル裁判所ハ舊法ニ依レハ管轄權ナキ場合ニ於テモ管轄權ヲ有ス

前項ノ事件ニ付舊法ニ依リ管轄權アル裁判所ハ新法ニ依レハ管轄權ナキ場合ニ於テモ管轄權ヲ有ス

第四條　新法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル訴訟行爲ニシテ新法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ新法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第五條　新法第八十五條ノ規定ハ新法施行前同條ニ揭クル事由ヲ生シタル訴訟代理ニシテ新法施行前委任消滅ノ通知ヲ爲ササリシモノニモ之ヲ適用ス

第六條　新法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付テハ舊法ニ依リ訴訟費用ノ保證ヲ立ツル義務ナキ者ハ新法ニ依リ擔保ヲ供スルコトヲ要セス

第七條　新法施行前ヨリ進行ヲ始メタル法定期間及其ノ計算ハ舊法ニ依ル

新法施行前言渡シタル判決ニ對スル上訴ノ期間カ新法施行後進行ヲ始メタル場合亦前項ニ同シ

第八條　新法施行前裁判所書記カ判決原本ノ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ判決ノ送達ハ申立アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第九條　新法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付テハ特ニ裁判所ノ命シタル場合ニ限リ新法ニ依リ準備手續ヲ爲ス

第十條　新法施行前舊法ニ依リテ罰金又ハ過料ニ處スヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ新法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ新法ニ於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限リ新法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ舊法ノ罰金又ハ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條　新法施行前第一審裁判所又ハ控訴裁判所カ管轄違トシテ訴ヲ却下シタル場合ニ於テ上訴裁判所カ第一審訴訟判所ニ其ノ管轄權ナシトスルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審ノ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ上訴裁判所カ第一審裁判所ニ管轄權アリトスルトキハ事件ヲ其ノ裁判所ニ差戻スコトヲ要ス但シ第一審裁判所カ管轄權アリト爲シタル事件ニ付控訴裁控訴所カ管轄違トシテ訴ヲ却下シタル場合ニ於テハ上告裁判所ハ事件ヲ控訴裁判所ニ差戻スコトヲ得

第十二條　新法施行前抗告裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテハ仍舊法ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第十三條　闕席判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

執行命令ニ對シテハ舊法ニ依ル故障期間內ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第十四條　新法施行前ヨリ進行ヲ始メタル法定期間內ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得タル中間判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得

第十五條　新法施行前ヨリ繫屬スル證書訴訟及爲替訴訟ハ仍舊法ニ依リ

之ヲ完結ス

但シ訴訟カ新法施行ノ際一審ニ繫屬スルトキハ新法施行ノ日ヨリ通常ノ手續ニ於テ繫屬スルモノト看做ス

第十六條　故障ヲ許ササル闕席判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得

第十七條　新法施行前請求ノ拋棄又ハ認諾ニ基キ判決ヲ求ムル申立アリタルトキハ仍舊法ニ依リ裁判ス新法施行前闕席判決ノ申立アリタルトキ亦同シ

第十八條　新法施行前言渡シタル判決ニシテ舊法第四百二十二條ニ掲クルモノニ對シ控訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ仍同條ノ規定ニ依ル

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

民事訴訟法施行條例

（明治二十三年七月十七日法律第五十號）

【沿革】大正二年三月法律第二號改正

第一條　民事訴訟法實施前ニ提起シタル訴訟ニ付テノ爾後ノ訴訟手續ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス

第二條　民事訴訟法實施前ニ闕席ノ儘言渡シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

故障ノ期間ハ新法ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

第三條　民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ニ對スル控訴上告期限ハ新法ノ控訴上告期間ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴

（次ページ）

上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

第四條　民事訴訟法實施前ニ確定シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ再審ヲ求ムル訴ヲ爲スコトヲ得但民事訴訟法實施前ニ再審ノ條件生シタルトキハ其條件ノ生シタル日ヨリ再審ノ期間ヲ起算ス

第五條　民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ强制執行ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス但シ既ニ身代限ノ揭示ヲ爲シ又ハ公賣ニ著手シタル事件ハ其手續ノ終了マテハ舊法ニ從フ

第六條　民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ執行命令ヲ得サル場合ニ於テ民事訴訟法第四百九十九條ノ規定ニ從ヒ證明書ヲ要スル者ハ其訴訟記錄ノ存在スル裁判所ニ之ヲ求ムルコトヲ得

第七條　民事訴訟法實施前既ニ勸解ヲ出願シ未タ完結ニ至ラサル事件ハ民事訴訟法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所繼續シテ之ヲ完結スルコトヲ得

第八條　民事訴訟法ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス

第九條　民事訴訟法ニ於テ親族ト稱スル者ハ當分ノ內刑法ノ親屬例ニ依ル

第十條　婚姻離婚及養子ノ緣組離緣ニ關スル訴ニ付テハ特別ノ慣例アルモノハ當分ノ內其慣例ニ從フ

第十一條　明治八年第六號布告ハ當分ノ內其効力ヲ有スルモノトス

第十二條　（削除）

附　則（大正二年三月法律第二號）

本法ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前提起シタル上告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

民事訴訟費用法

（明治二十三年八月十六日法律第六十四號）

（次ページ）

【沿革】明治三十三年一月法律第三號、大正十年四月同第六七號、同十五年四月法律第六三號改正

第一條　民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナル限度ノ費用トシ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス

第二條　訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金五錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

圖面ハ一葉ニ付金二十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第三條　翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金一圓トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

第四條　民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代價ニ依ル

第五條　執達吏ノ手數料及ヒ立替金ハ執達吏手數料規則ノ規定ニ從フ

第六條　郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル

第七條　官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其定價ニ依ル

第八條　民事訴訟法第百三十五條ノ規定ニ從ヒ辯護士附添ヲ命シタルトキ又ハ同法第二百六十二條若クハ第三百十條第一項ノ規定ニ從ヒ囑託ヲ爲シタルトキハ其報酬ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第九條　當事者及ヒ證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ二圓以內ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十條　（削除）

第十一條　鑑定人通事及ヒ民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル說明者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金二圓乃至十圓ノ範圍內ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

鑑定又ハ通辯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第十二條　當事者、證人、鑑定人通事及民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル說明者ノ止宿料ハ一日五圓以內ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十三條　當事者、證人、鑑定人、通事及民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル說明者ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等以下ノ汽車賃又ハ船賃ニシテ裁判所ノ相當ト認ムルモノニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里每ニ五錢其他ニ在リテハ一里每ニ三十錢トス但一海里未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

外國ニ在ル當事者ノ旅費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十四條　判事及ヒ裁判所書記檢證ノ爲メ實地臨檢ヲ爲スニ付テノ旅費及ヒ止宿料ハ證人ニ準ス

第十五條　本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

第十六條　强制執行及ヒ非訟事件ニ關スル費用ハ執達吏手數料規則ニ定メタルモノヲ除ク外前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス

强制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十七條　證人、鑑定人、通事及ヒ民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル說明者ノ日當、旅費、止宿料其他ノ費用ハ請求ニ因リ裁判所之ヲ支拂フ民事訴訟法第二百六十二條及ヒ第三百十條第一項ノ規定ニ依ル囑託ヲ受ケタル者ニ對スル報酬亦同シ

第十八條　當事者ノ豫納ニ係ラサル費用ハ裁判ニ因リテ其費用ヲ負擔スヘキ者ヨリ裁判所之ヲ取立ツルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル費用ノ取立ハ第一審ノ受訴裁判所ノ決定ニ依リ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス其決定ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ規定ハ民事訴訟法第百二十三條ノ規定ニ從ヒ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ相手方ヨリ裁判費用ノ取立ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　民事訴訟法第百二十一條及ヒ第百二十二條ノ規定ニ依ル費用ノ取立ノ決定ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス其決定ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

附　則（大正十年四月法律第六七號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年四月勅令第一七五號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

本法施行前要シタル費用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年五月勅令第一〇五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

民事訴訟用印紙法（明治二十三年八月十六日法律第六十五號）

【沿革】明治四十三年三月法律第一五號、大正十五年四月同第六四號改正

第一條　民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用スヘシ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用スヘシ

追2

第二條　財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價格金五圓マテ	二十五錢
同　十圓マテ	四十錢
同　二十圓マテ	八十錢
同　五十圓マテ	一圓八十錢
同　七十五圓マテ	二圓五十錢
同　百圓マテ	三圓五十錢
同　二百五十圓マテ	七圓
同　五百圓マテ	十二圓
同　七百五十圓マテ	十五圓
同　千圓マテ	十八圓
同　二千五百圓マテ	二十五圓
同　五千圓マテ	三十圓

五千圓以上ハ千圓ニ達スル每ニ三圓ヲ加フ

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第二十二條第一項及ヒ第二十三條ノ規定ニ從フ

第三條　財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ

財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條　本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

第五條　控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第五條ノ二　民事訴訟法第七十一條又ハ第七十五條ノ規定ニ依ル參加ノ申出書ニハ第二條、第三條及ヒ前條ノ規定ニ準シ印紙ヲ貼用ス可シ

追2

第六條　支拂命令ノ申立ニシテ訴訟物ノ價額十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ第二條ニ依リ第一審ノ訴狀ニ貼用ス可キ印紙金額ノ半額ヲ貼用ス可シ

第六條ノ二　左ニ揭クル申立申出又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ四十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一　期日指定ノ申立
二　中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申立
三　民事訴訟法第六十四條ノ參加ノ申出
四　除斥又ハ忌避ノ申立
五　和解ノ申立
六　費用額確定ノ申立
七　假執行ニ關スル申立
八　强制執行ノ停止若クハ續行又ハ執行處分ノ取消ノ申立
九　配當要求
十　强制競賣又ハ强制管理ノ申立
十一　債權又ハ他ノ財産權差押ノ申請
十二　民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立

第六條ノ三　左ニ揭クル申立申出又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ五十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一　抗告
二　故障
三　證據ノ申出

四　假差押又ハ假處分ノ申請

五　判決送達ノ申立

六　執行力アル正本ヲ求ムル申立但二通以上ヲ求ムルトキハ一通毎ニ印紙ヲ貼用スル可シ

第七條　和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百五十六條第三項又ハ第四百四十二條ノ規定ニ依リ訴訟カ繫屬スルトキハ第二條及ヒ第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用スル可シ但第六條又ハ第十條ノ規定ニ依リ貼用シタル印紙ノ額ヲ通算ス

第八條　再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第九條　（削除）

第十條　答辯書其他前數條ニ揭ケサル申立、申出又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條　民事訴訟法第百二十條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其效ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルヲ得

第十二條　（削除）

第十三條　（削除）

第十四條　（削除）

第十五條　（削除）

第十六條　非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價格二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ但第六條ノ三ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

左ニ揭クル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價格二十圓以下ナル場合ヨリ於テハ五十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一　裁判上代位ノ申請

二　競賣法ニ依ル競賣ノ申立

三　競賣法ニ依ル競賣又ハ不動產登記ニ關スル抗告

非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額ナキモノハ其請求ノ價額二十圓以下ノモノト看做ス

第十一條ノ規定ハ之ヲ非訟事件ニ準用ス

附　則　（明治四十三年三月法律第一五號）

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中民事訴訟用印紙ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年五月勅令第一〇五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定

（明治二十四年一月七日　勅令第三號）

【沿革】明治二十五年一月勅令第六號、同四十一年六月同第一六〇號、同年十二月同第三〇三號、同四十二年六月同第一六六號、同四十三年二月同第九號、同十五年四月同第六六號改正

第一條　各省、內閣印刷局、樺太廳、北海道廳及府縣廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

第二條　各省大臣ハ省令ヲ以テ所屬特別地方機關中其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得

第三條　前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲スモノハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス

第四條　官制其他特別ノ勅令ヲ以テ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定メタルトキハ本令ニ依ルノ限ニ在ラス

民事訴訟ニ付國ヲ代表スル官廳

（明治二十五年四月十三日　內務省令第四號）

【沿革】明治二十八年九月省令第一一號、同十八年三月同第一〇號、同三十九年四月同第三號、大正十年二月同第六號、同十二年八月同第二五號、同十三年十月同第二二號、同十四年三月同第三號、同年十月同第二四號、同十五年十月同第四六號改正

鐵道廳內務省土木出張所復興局社會局健康保險署衞生試驗所特殊財產管理局明治神宮造營局傳染病研究所道路管理者及集治監ハ各其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

但明治二十四年七月內務省令第九號同年十一月內務省令第二十號ハ廢止ス

（明治二十五年二月四日　大藏省令第二號）

本年勅令第六號第二條ニ據リ造幣局及各稅關ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者左ノ通相定ム

造幣局及稅關ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

（明治三十五年十一月五日　大藏省令第二十七號）

第一編　民事、商事、刑事　第一章　民事

稅務監督局及稅務署ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ施行ス

（明治四十年九月二十七日　大藏省令第三十八號）

【沿革】明治四十二年三月省令第一二號、大正十一年七月同第四九號改正

專賣局、地方專賣局ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

附　則

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ施行ス

（大正四年三月二日　大藏省令第九號）

釀造試驗所ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治三十五年二月一日　陸軍省令第三號）

【沿革】明治四十一年八月省令第一四號、同四十三年六月同第五號、大正五年四月同第五號、同十二年三月同第一四號、同十三年十二月同第三四號改正

明治三十二年陸軍省令第十八號左ノ通改正シ明治三十五年二月一日ヨリ施行ス

明治二十五年勅令第六號第二條ニ依リ陸軍經理部ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

（明治二十六年七月十一日　海軍省令第四號）

【沿革】明治四十三年十月省令第一一號改正

明治二十五年三月海軍省令第一號左ノ通改正ス

鎭守府ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

（明治二十五年四月二十七日
司法省令第五號）

司法官廳ヨリ起ス可キ民事ノ訴訟ニ於テハ明治二十五年勅令第六號第二條ニ依リ訴訟ヲ受クヘキ裁判所ノ檢事局ヲシテ國ヲ代表セシム

（明治三十六年三月二十四日
司法省令第九號）

各監獄ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（明治三十年十二月二十七日
文部省令第二十八號）

【沿革】大正十年一月省令第六號改正

帝國大學官立大學文部省直轄諸學校竝帝國圖書館ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

（大正十四年四月一日
農林省令第一號）

民事訴訟法ニ依リ國ヲ代表スル官廳指定ノ件左ノ通定ム

農事試驗場、蠶業試驗場、生絲檢査所、茶業試驗場、園藝試驗場、督林局、督林署、林業試驗場、水產講習所、水產試驗場、畜產試驗場、獸疫調查所、種羊場、種馬牧場、種馬育成所及種馬所ハ各其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十四年四月一日
勅令第一號）

【沿革】昭和三年十一月省令第一四號改正

民事訴訟法ニ依リ國ヲ代表スル官廳指定ノ件左ノ通定ム

第一條　朝鮮總督府ハ其ノ所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

第二條　朝鮮總督ハ朝鮮總督府令ヲ以テ所屬官署中其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得

第三條　前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲ス者ハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス

（明治四十三年十一月一日
朝鮮總督府令第四十二號）

【沿革】明治四十五年五月府令第九六號、大正十一年九月同第一三五號、同十三年五月同第二四號改正

本府所屬官署ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル件左ノ通定ム

朝鮮總督府遞信局、朝鮮總督府專賣局、專賣支局、道、府、郡、朝鮮總督府稅關、朝鮮總督府監獄、朝鮮總督府營林廠、朝鮮總督府醫院、朝鮮總督府濟生院、朝鮮總督府勸業模範場、朝鮮總督府中央試驗所、朝鮮總督府水產試驗場、朝鮮總督府獸疫血淸製造所及朝鮮總督府林業試驗場ハ各其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

朝鮮總督府裁判所及檢事局ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付テハ訴ヲ受クヘキ裁判所ノ檢事局國ヲ代表ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治三十一年八月一日
勅令第百八十一號）

第一條　臺灣總督府、縣、廳ハ其ノ所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

第二條　臺灣總督ハ府令ヲ以テ所屬特別地方機關中其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定ムルコトヲ得

第三條　前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲ス者ハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス

（明治三十三年十一月十七日
臺灣總督府令第百七號）

明治三十一年勅令第百八十一號第二條ニ從リ臺灣總督府鐵道部ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

（明治三十四年七月三十一日
臺灣總督府令第五十號）

【沿革】明治三十五年一月府令第八號、大正三年九月同第五八號改正

臺灣總督府一、二等郵便電信局ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

（明治三十六年九月十八日
臺灣總督府令第六十四號）

臺灣總督府專賣局ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

（明治三十八年八月五日
臺灣總督府令第五十七號）

臺灣總督府監獄ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

（明治四十年三月二十六日
勅令第五十七號）

【沿革】大正八年四月勅令第九四號改正

第一條　關東廳ハ其ノ所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

第二條　關東長官ハ府令ヲ以テ所屬官署中其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定ムルコトヲ得

第三條　前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲ス者ハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス

（大正十四年九月二十四日
關東廳令第五十三號）

【沿革】大正八年四月廳令第三號改正

明治四十年勅令第五十七號第二條ニ依リ關東廳民政署、同支署、關東廳遞信局及關東廳法院ハ各其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年關東都督府令第三十九號ハ之ヲ廢止ス

和議法（大正十一年四月二十四日法律第七十二號）

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ和議ト稱スルハ破產豫防ノ爲ニスル強制和議ヲ謂フ

第二條　和議手續ハ其ノ開始決定ノ時ヨリ效力ヲ生ス

第三條　破產法第百五條及第百七條ノ規定ハ和議事件ノ管轄ニ付之ヲ準用ス

第四條　破產法第八十七條、第八十八條、第八十九條第一項、第九十條及第九十一條ノ規定ハ和議ノ開始アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五條　破產法第九十八條乃至第百四條ノ規定ハ和議債權者ノ相殺權ニ付之ヲ準用ス

第六條　前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ和議開始ノ申立ハ之ヲ破產ノ申立ト看做シ和議ノ開始ハ之ヲ破產ノ宣告ト看做ス

第七條　和議手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本法ニ特別ノ規定アル場合ニ限リ其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス

第八條　破產法第百十九條、第百二十二條及第百二十四條ノ規定ハ和議開始、和議開始決定取消又ハ和議廢止ノ決定アリタル場合及和議認否又ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テ裁判所ハ破產ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ、申立ナキトキハ職權ヲ以テ破產ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ破產ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ル登記又ハ登錄ノ囑託ハ破產ノ登記又ハ登錄ノ囑託ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十條　前條第一項ノ規定ニ依リ破產ノ宣告アリタルトキハ破產法第一編ノ適用ニ付テハ和議開始若ハ和議取消ノ申立又ハ詐欺破產ノ罪ニ該ルヘキ和議申立人ノ行爲ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破產ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破產ノ申立ト看做シ和議ノ爲ニ生シタル債權及和議手續ノ費用ハ之ヲ財團債權トス

第十一條　破產法第二條、第三條、第百九條乃至第百十一條、第百十三條乃至第百十八條及第百二十五條ノ規定ハ和議ニ關シ之ヲ準用ス

和議手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ民事訴訟法ヲ準用ス

第十二條　破產ノ原因タル事實アル場合ニ於テハ債務者ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス

相續財產ニ付テハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　和議開始ノ申立ヲ爲スニハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルトキハ其ノ擔保其ノ他和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス

和議申立人ハ申立ト同時ニ財產ノ狀況ヲ示スヘキ明細書竝債權者及債務者ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス申立ト同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ爾後遲滯ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス

第十四條　和議開始ノ申立ヲ爲スニハ和議手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス

第十五條　和議開始ノ決定アリタル後ハ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條　破產ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　和議開始ノ申立及破產ノ申立アリタルトキハ破產手續ハ之ヲ中止ス

第十八條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

一　破產回避ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキ

二　和議申立人ノ所在カ不明ナルトキ

三　詐欺破產ノ罪ニ該ルヘキ行爲アリト認ムルトキ

四　和議ノ條件カ法律ノ規定ニ反スルトキ

五　和議ノ條件カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第十九條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ノ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

一　和議手續ノ費用ノ豫納ナキトキ

二　債權者集會ニ於テ和議ヲ否決シタルコトアルトキ

三　和議開始ノ申立又ハ和議ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ

四　和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

五　和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

第二十條　裁判所ハ和議開始ノ決定前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ債務者ノ財產ニ關シ假差押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　裁判所ハ整理委員ヲ選任シ期間ヲ定メテ債務者ノ財產、帳簿及和議ノ條件ニ付必要ナル調查ヲ爲サシメ且和議ヲ開始スヘキカ否ニ付意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

第二十二條　和議申立人ハ前條第一項ニ依ル調查ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條　破產法第百五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ整理委員ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條　重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ整理委員ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ整理委員ヲ審訊スルコトヲ要ス

第二十五條　破產法第百五十九條乃至第百六十一條、第百六十四條乃至第百六十六條、第百六十九條及第百七十二條ノ規定ハ整理委員ニ之ヲ準用ス

第二十六條　和議開始決定書ニハ決定ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十七條　裁判所ハ和議開始ノ決定ト同時ニ管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一　債權屆出ノ期間但シ其ノ期間ハ決定ノ日ヨリ二週間以上二月以下

ナルコトヲ要ス

二　債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ト債權屆出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス

和議開始ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　裁判所カ和議開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ第告スルコトヲ要ス

一　和議開始決定ノ主文

二　管財人ノ氏名及住所

三　債權屆出ノ期間及債權者集會ノ期日

知レタル債權者、和議申立人、管財人及整理委員ニハ前項ニ揭ケル事項、和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ第一項第二號及第三號ニ揭ケル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　裁判所カ和議開始決定取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　和議開始ノ申立ニ關スル書類竝第二十一條ノ規定ニ依ル整理委員ノ調査書類及意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第三十一條　和議開始申立ノ時ヨリ決定ノ時迄ハ債務者ハ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條　和議ノ開始ハ債務者カ其ノ財產ヲ管理及處分スル權利ニ影響ヲ及ホサス但シ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ハ管財人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

通常ノ行爲ト雖管財人ノ異議アルトキハ債務者ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

重要ナル行爲ニ付管財人カ第一項ノ規定ニ依リ同意ヲ爲スニハ整理委員ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三十三條　第三十一條又ハ前條第一項第二項ノ規定ニ反スル行爲ハ和議債權者ニ於テ之ヲ否認スルコトヲ得但シ相手方カ行爲ノ當時其ノ事實ヲ知リタルトキニ限ル

第三十四條　管財人ハ自ラ金錢ノ收支ヲ爲スヘキコトヲ債務者ニ請求スルコトヲ得

第三十五條　管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ債務者及之ニ扶養セラルル者ニ給スヘキ扶助料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

第三十六條　管財人ハ何時ニテモ債務者ニ對シテ其ノ財產ニ關スル報告ヲ求メ又ハ債務者ノ財產ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

整理委員ハ何時ニテモ管財人ニ對シテ債務者ノ財產ニ關スル報告ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條　破產法第百五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ管財人又ハ債權者集會ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ管財人又ハ其ノ相續人ハ遲滯ナク裁判所ニ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第三十九條　第二十四條及破產法第百五十八條乃至第百六十一條第百六十三條乃至第百六十六條第百六十九條ノ規定ハ管財人ニ之ヲ準用ス

第四十條　和議手續中ハ和議債權ニ付債務者ノ財產ニ對シ強制執行、假差押又ハ假處分ノ爲スコトヲ得ス

和議開始前和議債權ニ付債務者ノ財產ニ對シ爲シタル強制執行、假差押及假處分ハ和議手續中之ヲ中止ス

第三章　和議債權及其ノ屆出

第四十一條　債務者ニ對シ和議開始前ノ原因ニ基キテ生シタル財產上ノ請求權ハ之ヲ和議債權トス

第四十二條　一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ハ之ヲ和議債權トセス

第四十三條　破產ノ場合ニ於テ別除權ヲ行使スルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スル者ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル債權額ニ付和議債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第四十四條　左ニ揭ケル請求權ハ之ヲ和議債權トセス

一　和議開始後ノ不履行ニ因ル損害賠償及違約金

二　和議開始後ノ利息

三　和議手續參加ノ費用

四　罰金、科料、刑事訴訟費用、追徵金及過料

前項ノ請求權ハ和議債權ニ後ル

第四十五條　破產法第十七條乃至第二十條、第二十二條乃至第二十七條及第二百二十八條乃至第二百三十條ノ規定ハ和議債權ニ付之ヲ準用ス

此ノ場合ニ於テハ和議ノ開始ハ之ヲ破產ノ宣告ト看做ス

第四章　債權者集會

第四十六條　債權者集會ノ期日ニハ屆出ヲ爲シタル和議債權者、和權申立人及和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他債務者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ

和議債權者ノ爲ニ擔保ヲ供スル者ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ニ規定スル者ニハ和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス但シ第二十八條第二項第三項ノ規定ニ依リ既ニ送達ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條　管財人及整理委員ハ屆出アリタル各債權ニ付債權者集會ニ於テ議決權ヲ行ハシムヘキカ否及如何ナル金額ニ付之ヲ行ハシムヘキカヲ調査スルコトヲ要ス

第四十八條　管財人及整理委員ハ債權者集會ニ於テ和議ノ開始ニ至リタル事情、債務者及其ノ財產ニ關スル經過及現狀竝前條ノ規定ニ依ル調査ノ結果ニ付報告ヲ爲シ且和議ノ條件ノ適否ニ關シ意見ヲ述フルコトヲ要ス

破產法第百八十二條第二項乃至第四項ノ規定ハ屆出アリタル債權ニ付第四十六條第一項ニ規定スル者、管財人又ハ整理委員ノ異議アル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　破產法第百七十八條、第百八十一條、第二百三十八條但書、第三百一條、第三百二條、第三百六條及第三百七條ノ規定ハ債權者集會ニ付之ヲ準用ス

破產法第三百四條及第三百五條ノ規定ハ和議ニ付之ヲ準用ス

第五章　和議ノ認否

第五十條　債權者集會ニ於テ和議ヲ可決シタルトキハ裁判所ハ其ノ期日又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ和議ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

第四十六條第一項ニ規定スル者、管財人及整理委員ハ和議ノ認否ニ付意見ヲ述フルコトヲ得

破産法第二百三十八條但書ノ規定ハ和議認否ノ期日ヲ定ムル決定ニ付之ヲ準用ス

第五十一條　裁判所ハ左ノ場合ニ限リ和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

一　和議ノ手續又ハ決議カ法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺カ追完スヘカラサルモノナルトキ

二　第十八條第二號又ハ第三號ニ規定アル事由アルトキ

三　和議ノ決議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキ

四　和議ノ決議カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第五十二條　和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五十三條　和議認否ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

破産法第三百十九條ノ規定ハ和議債權者ニ之ヲ準用ス

第五十四條　和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第五十五條　和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所書記ハ和議ノ條件ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第五十六條　和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ債管者ハ和議ノ爲ニ生シタル債權、和議手續ノ費用及一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ規定スル債權ニシテ異議アルモノニ付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス

第五十七條　破産法第三百二十五條乃至第三百二十七條及第三百四十二條ノ規定ハ和議ノ效力ニ付之ヲ準用ス

第五十八條　和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ第十七條ノ規定ニ依リ手續ヲ中止シタル破産ノ申立竝第四十條第二項ノ規定ニ依リ中止シタル强制執行、假差押及假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

第六章　和議ノ廢止

第五十九條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

一　和證ノ可決前ニ和議ノ提供者カ其ノ提供ヲ撤回シタルトキ

二　債權者集會ノ第一期日ヨリ二月内ニ和議ヲ可決セサルトキ

第六十條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ管財人若ハ整理委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ債務者ヲ審訊スルコトヲ要ス

一　第二十條第一項第二項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

二　債務者カ第三十一條又ハ第三十二條第一項第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

三　債務者カ第三十四條ノ規定ニ依ル請求アリタルニ拘ラス自ラ金錢ノ收支ヲ爲シタルトキ

第六十一條　裁判所カ和議廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第七章　讓歩及和議ノ取消

第六十二條　破産法第三百二十九條乃至第三百三十一條ノ規定ハ和議ヲ以テ定メタル讓歩ノ取消ニ之ヲ準用ス

第六十三條　債務者ニ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アルトキハ裁判所ハ和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第六十四條　破産法第三百三十二條第一項及第二項ノ規定ハ和議ノ取消ニ之ヲ準用ス

和議取消ノ申立ニ必要ナル債權額及總債權ノ計算ニ付テハ第四十八條ノ規定ニ依リテ定リタル債權額ニ依ル

第六十五條　和議ノ取消ハ和議債權者カ和議ニ因リテ得タル權利ニ影響ヲ及ホサス

第六十六條　裁判所カ和議取消申立棄却又ハ和議取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十七條　破産法第三百三十八條、第三百四十條及第三百四十一條ノ規定ハ第九條ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八章　罰則

第六十八條　整理委員又ハ管財人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス和議債權者、其ノ代理人又ハ理事者ハ之ニ準スヘキ者債權者集會ノ決議ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十九條　整理委員、管財人又ハ和議債權者、其ノ代理人、理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第七十條　第二十三條又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ說明ノ義務アル者故ナク說明ヲ爲サス又ハ虛僞ノ說明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス和議申立人又ハ債務者第二十一條又ハ第三十六條ノ規定ニ依ル調査若ハ報告ヲ拒ミ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ罪ヲ犯シタル者和議裁判所ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年十一月勅令第四九八號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行）

和議手續參加ハ時效ノ中斷ニ關シテ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

民事訴訟用紙並行數字數認料釐譯料心得

（明治十七年三月五日司法省告示甲第一號）

今般第五號布告ヲ以テ訴訟用罫紙規則廢セラレ候ニ付テハ本年四月一日以後民事訴訟ニ關シ大審院又ハ裁判所ヘ差出ス書類ハ都テ美濃紙又ハ之レト同尺度ノ紙ヲ用ヒ一枚貳拾四行一行貳拾字詰ニ書スヘキモノトス

但訴訟入費ハ明治九年當省甲第五號布達第一條第九條ニ定メタル割合ニ依リ書類認料ハ一枚金貳拾錢飜譯料ハ一枚金四圓ト相成ル儀ト心得ヘシ

民事裁判上ノ手續書並口書判決ヲ等ニ年月日記載方

（明治九年二月二十四日司法省達第二十七號）

各裁判所　裁判所ヲ置カサル各縣

民事訴訟裁判ニ付手續並ニ口書ハ決文等裁判所ニ於テ書記スル書類ハ今後其文中ニ於テ本年本月本日同年同月同日昨年去月昨日翌年翌月翌日等ノ文字用ユ可ラス縱令再三重出ニ至ルモ必ス年號何年何月何日ト正明ニ記載致ス可キ相定候條此旨相達候事

民事訴訟法第百五十二條第百五十三條ニ依ル送達ノ嘱託手續準據方

（明治二十四年九月七日司法省訓令第七號）

民事訴訟法第百五十二條第百五十三條ニ依リテ爲ス送達ノ嘱託ニ付キテハ明治二十三年當省民第九五號訓令ノ手續ニ從フ可キモノトス

第三節　人事訴訟手續

人事訴訟手續法

（明治三十一年六月二十一日法律第十三號）

【沿革】大正十五年四月一部律第六十號改正

第一章　婚姻事件及ヒ養子緣組事件ニ關スル手續
第二章　親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續
第三章　禁治產及ヒ準禁治產ニ關スル手續
第四章　失踪ニ關スル手續
附　則

人事訴訟手續法

第一章　婚姻事件及ヒ養子緣組事件ニ關スル手續

第一條　婚姻ノ無效若クハ取消、離婚又ハ夫婦ノ同居ヲ目的トスル訴ハ夫カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但緣組事件ニ附帶シテ婚姻ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ普通裁判籍ハ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ニ依リ居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マル

最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ司法省令ヲ以テ指定

追2

シタル地ヲ住所地トス

第二條　夫婦ノ一方カ提起スル婚姻ノ無效又ハ取消ノ訴ニ於テハ其配偶者ヲ以テ相手方トス

第三者カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ夫婦ヲ以テ相手方トシ夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

前二項ノ規定ニ依リテ相手方トスヘキ者カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス

檢事カ當事者ト爲リタル後相手方カ死亡シタルトキハ本案ノ訴訟手續受繼ノ爲メ裁判所ハ辯護士ヲ承繼人トシテ選定スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ辯護士ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三條　無能力者カ婚姻ノ無效若クハ取消、離婚又ハ同居ニ關スル訴訟行爲ヲ爲スニハ其法定代理人、保佐人又ハ夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

無能力者カ前項ノ訴訟行爲ヲ爲サントスルトキハ受訴裁判所ノ裁判長ハ申立ニ因リ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スルコトヲ要ス

無能力者カ前項ノ申立ヲ爲ササルトキト雖モ受訴裁判所ノ裁判長ハ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スヘキ旨ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ其選任ヲ爲スコトヲ得

前條第五項ノ規定ハ受訴裁判所ノ裁判長カ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條　夫婦ノ一方カ禁治產者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

禁治產者ノ配偶者カ其後見人ナルトキハ後見監督人ハ親族會ノ同意ヲ得テ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第五條　婚姻事件ニ付テハ檢事ハ辯論ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ要ス

檢事ハ受命判事又ハ受託判事ノ審問ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

第六條　檢事ハ當事者ト爲ラサルトキト雖モ婚姻ヲ維持スル爲メ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第七條　婚姻ノ無效ノ訴、其取消ノ訴、離婚ノ訴及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合シ又ハ反訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ得

他ノ訴ハ之ヲ前項ノ訴ニ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得ス

但扶養ノ請求訴ノ原因タル事實ニ因リテ生シタル損害賠償ノ請求及ヒ民法ノ規定ニ依リ婚姻事件ニ附帶シテ爲スコトヲ得ル緣組ノ取消又ハ離緣ノ請求ハ此限ニ在ラス

第八條　婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ルマテ訴若クハ其事由ヲ變更シ、之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得

第九條　婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ訴若クハ其事由ノ變更又ハ併合ニ依リ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

被告ハ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立

ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第十條　民事訴訟法第百三十九條、第百四十條、第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三十條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ準用ス

裁判上ノ自白ニ關スル法則ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス

裁判所ハ婚姻ヲ維持スルカ爲メ職權ヲ以テ證調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第十一條　婚姻事件ノ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セサル證人ニ關スル規定ハ被告カ公示送達ニ依リテ呼出ヲ受ケタル場合ニハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ反訴ノ裁判ニ之ヲ適用ス

第十二條　裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者ニ自身又ハ受託裁判事務ヲ行フ者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事ヲシテ證人ノ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

檢事カ提出シタル訊問ヲ爲スコトヲ得

第十三條　和諧ノ調フヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限リ一年ヲ超エサル期間ヲ裁判上ノ離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得

第十四條　裁判所ハ婚姻ヲ維持スルカ爲メ職權ヲ以テ證調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第十五條　裁判上ノ自白ニ關スル法則ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス

裁判上ノ自白ニ關スル法則ハ第二百十六條及ヒ第二百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三十二條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ準用ス

第十六條　扶養若クハ同居ノ義務、子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十七條　檢事カ敗訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス

第十八條　婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ管轄裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第十九條　檢事カ提起スルコトヲ得ル婚姻事件ノ訴ニ限リ後四條ノ規定ヲ適用ス

第二十條　檢事カ訴ヲ提起スルトキハ夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ相手方トス

第二十一條　訴ノ變更若クハ反訴ノ提起ハ檢事カ提起スルコトヲ得ルノ規定ニ依リ檢事カ訴ヲ提起スルコトヲ得ル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ相手方トス

第二十三條　檢事カ上訴ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ相手方トス

前項ノ場合ニ於テハ夫ノ死亡ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ得ル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第十四條　裁判所ハ婚姻ヲ維持スルカ爲メ職權ヲ以テ證調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得ル場合ニ於テハ否認ノ訴ニ關スル期間ヲ裁判上ノ離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得

第十三條　和諧ノ調フヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限リ一年ヲ超エサル期間ヲ裁判上ノ離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得

第十二條　裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者ニ自身又ハ受託裁判事務ヲ行フ者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得ル場合ニハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ反訴ノ裁判ニ之ヲ適用ス

第十一條　婚姻事件ノ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セサル證人ニ關スル規定ハ被告カ公示送達ニ依リテ呼出ヲ受ケタル場合ニハ此限ニ在ラス

サルトキハ更ニ其期日ヲ要ス但被告カ公示送達ニ依リテ呼出ヲ受ケタル場合ニハ此限ニ在ラス

第十條　裁判上ノ自白ニ關スル法則ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス

裁判所ハ婚姻ヲ維持スルカ爲メ職權ヲ以テ證調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第九條　民事訴訟法第百三十九條、第百四十條、第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三十條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ準用ス

裁判上ノ自白ニ關スル法則ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス

裁判所ハ婚姻事件ニ付キ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第八條　民事訴訟法第百三十九條、第百四十條、第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三十條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ婚姻事件ニ付キ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第七條　民事訴訟法第百三十九條、第百四十條、第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三十條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ婚姻事件ニ付キ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第六條　民事訴訟法第百三十九條、第百四十條、第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三十條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ婚姻事件ニ付キ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第五條　民事訴訟法第百三十九條、第百四十條、第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三十條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ婚姻事件ニ付キ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第四條　民事訴訟法第百三十九條、第百四十條、第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三十條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ婚姻事件ニ付キ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第三條　民事訴訟法第百三十九條、第百四十條、第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三十條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ婚姻事件ニ付キ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第二條　民事訴訟法第百三十九條、第百四十條、第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三十條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ婚姻事件ニ付キ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第一條　民事訴訟法第百三十九條、第百四十條、第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三十條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ婚姻事件ニ付キ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第一章　民事

第一節　通則

第一條　民事ニ關スル法律ニ規定アル場合ヲ除ク外裁判所ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

第二條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル事實ヲ爭ハサルトキハ其事實ヲ自白シタルモノト看做スコトヲ得但其事實ニ付キ相手方ノ自白カ眞實ニ反スルトキハ此限ニ在ラス

第三條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第四條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第五條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第六條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第七條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第八條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第九條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第十條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第十一條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第十二條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第十三條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第十四條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第十五條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第十六條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第十七條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第十八條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第十九條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第二十條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第二十一條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第二十二條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第二十三條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第二十四條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第二十五條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第二十六條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第二十七條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第二十八條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第二十九條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第三十條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第三十一條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第三十二條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第三十三條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第三十四條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第三十五條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第三十六條　裁判所ハ當事者ノ一方カ相手方ノ提出シタル書證ヲ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ其書證ニ依リ證スヘキ事實ヲ認定スルコトヲ得

第一編　民事、商事、刑事

第一章　民事

第一章　民事

第一節　民事訴訟ノ通則

第一款　民事訴訟ノ通則

第一目　裁判所ノ管轄

第一款　裁判所ノ管轄

第一目　裁判所ノ管轄

第一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第二十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第三十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第四十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十四條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十五條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十六條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十七條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十八條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第五十九條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六十條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六十一條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六十二條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

第六十三條　民事訴訟ハ被告ノ普通裁判籍ノ在ル地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

ムル申立ハ禁治産者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項及ヒ第四十二條乃至第四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條　前條第一項ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告ノ取消アリタル場合ニ於テハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立テタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第六十五條　禁治産ノ取消ノ申立テヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達スヘシ

禁治産ヲ取消シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢事及ヒ禁治産者ニ送達スヘシ第六十二條第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス

檢事ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十六條　禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ其申立ヲ却下シタル決定ニ對シ訴ヲ以ヲ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第五十六條乃至第六十條、第六十一條第一項及ヒ第六十二條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十七條　準禁治産ニ關スル手續ニハ本章ノ規定ヲ準用ス

第四十三條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ浪費者ニ之ヲ適用セス

第三條第二項乃至第四項ノ規定ハ準禁治産者ニ之ヲ適用セス

第六十八條　準禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ民法第十二條第二項ノ規定ニ依リテ爲シタル宣告ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルコトヲ得

此場合ニ於テハ準禁治産ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス

第六十九條　本章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ノ方法ハ司法大臣之ヲ定ム

第四章　失踪ニ關スル手續

第七十條　失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條ニ定メタルモノノ外民事訴訟法第七百六十五條乃至第七百七十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十一條　失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條　公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　不在者ハ公示催告期日マテニ其生存ノ届出ヲ爲スヘク其届出ヲ爲ササルトキハ失踪ノ宣告ヲ受クヘキコト

二　不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲スヘキコト

公示催告期間ハ六箇月以上ナルコトヲ要ス

第七十三條　不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ公示催告期間ハ其公告ノ日ヨリ二箇月以上ナルヲ以テ足ル

第七十四條　檢事ハ失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ニ付キ意見ヲ述ヘ且審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

第四十二條、第二項第四十五條第二項及ヒ第四十六條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七十五條　各利害關係人ハ共同ノ申立人トシテ手續ニ加ハリ又ハ申立人ニ代ハリテ手續ヲ續行スルコトヲ得

第七十六條　不在者カ其生存ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ申立人カ其事實ヲ認メサルトキハ判決ノ確定ニ至ルマテ公示催告手續ヲ中止スヘシ

第七十七條　失踪ノ宣告ニ關スル手續ノ費用ハ失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續財産ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ申立人ノ負擔トス

第七十八條　失踪ノ宣告ノ判決ニ對シテ不服ヲ申立ツル訴ハ利害關係人ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ訴ニ付テハ失踪ノ宣言ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス此場合ニ於テハ第二條第四項及ヒ第五項ノ規定ヲ準用ス

第七十九條　數箇ノ不服申立ノ訴アルトキハ裁判所ハ之ヲ併合スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第六十二條及第六十三條ノ規定ヲ適用ス

第八十條　民法第三十二條ニ依ル失踪ノ宣告ノ取消ハ其判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得但失踪者ノ生存スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ民事訴訟法第七百七十五條ノ規定ヲ適用セス

附　則

第八十一條　本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十二條　明治二十三年法律第百四號其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第八十三條　本法施行前ニ提起シタル訴ニシテ其判決確定セサルモノニハ本法ノ規定ヲ適用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年五月勅令第一〇五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ハ東京市ヲ以テ住所地トスルノ件

（明治三十一年七月八日司法省令第八號）

人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハ東京市ヲ以テ住所地トス

禁治産及準禁治産ニ關スル公告手續

（明治三十一年七月八日司法省令第九號）

人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ官報及ヒ法人ノ登記ノ公告ニ付キ選定シタル新聞紙上ニ少クモ一回揭載シテ之ヲ爲スヘシ但上級裁判所ノ裁判ノ公告ハ其所在地ノ區裁判所カ選定シタル新聞紙ニ揭載シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ新聞紙ナキトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲スヘシ

第四節　非訟事件手續

非訟事件手續法（明治三十一年六月二十一日法律第十四號）

【沿革】明治三十二年三月法律第五一號、同四十四年五月同第七四號、大正二年四月同第一九號、大正十一年四月法律第六三號、同第七一號、大正十五年四月同第六七號、昭和二年三月同第三三號、同四年四月同第六〇號改正

第一編　民事、商事、刑事　第一章　民事
第一編　總則
第二編　民事非訟事件
第一章　法人ニ關スル事件
第二章　財産ノ管理ニ關スル事件
第三章　信託ニ關スル事件
第四章　裁判上ノ代位ニ關スル事件
第五章　保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件
第六章　隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件
第七章　相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件
第八章　遺言ノ確認及ヒ執行
第九章　法人及ヒ夫婦財産契約ノ登記
第三編　商事非訟事件
第一章　會社及ヒ鑛實ニ關スル事件
第二章　會社ノ清算ニ關スル事件
第三章　商業登記
第一節　通則
第二節　商號ノ登記
第三節　未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記
第四節　支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記
第五節　合名會社及ヒ合資會社ノ登記
第六節　株式會社ノ登記
第七節　株式合資會社ノ登記

第八節　外國會社ノ登記

第一編　總則

第一條　裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ本法其他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本編ノ規定ヲ適用ス

第二條　裁判所ノ土地ノ管轄カ住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ財產ノ所在地又ハ司法大臣ノ指名シタル地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス相續開始地ノ裁判所カ管轄裁判所ナル場合ニ於テ相續カ外國ニ於テ開始シタルトキ亦同シ

第三條　數箇ノ管轄裁判所アル場合ニ於テハ最初事件ノ申立ヲ受ケタル裁判所其事件ヲ管轄ス但其裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ適當ト認ムル他ノ管轄裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第四條　管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法第十條第一號ニ揭ケタル場合ノ外數箇ノ裁判所ノ土地ノ管轄ニ付キ疑アルトキ之ヲ爲ス

管轄裁判所ノ指定ハ關係アル裁判所ニ共通スル直近上級裁判所申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五條　裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第六條　事件ノ關係人ハ訴訟能力者ナシテ代理セシムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタルトキハ此限ニ在ラス

裁判所ハ辯護士ニ非スシテ代理ヲ營業トスル者ニ退斥ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七條　民事訴訟法第八十四條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但私文書ニ認證ヲ受クヘキ旨ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八條　民事訴訟法第百五十條ノ規定ハ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス

第九條　申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一　申立人ノ氏名住所
二　代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其氏名、住所
三　申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實
四　年月日
五　裁判所ノ表示

證據書類アルトキハ其原本又ハ謄本ヲ添附スヘシ

第十條　期日、期間、疏明ノ方法、人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第十一條　裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

第十二條　事實ノ探知、呼出、告知及ヒ裁判ノ執行ニ關スル行爲ハ之ヲ囑託スルコトヲ得

第十三條　審問ハ之ヲ公行セス但裁判所ハ相當ト認ムル者ニ傍聽ヲ許スコトヲ得

第十四條　證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ラシメ其他ノ審問ニ付テハ必要ト認ムル場合ニ限リ之ヲ作ラシムヘシ

第十五條　檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

事件及ヒ審問期日ハ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

第十六條　裁判所其他ノ官廳、檢事及ヒ公吏ハ其職務上檢事ノ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合カ生シタルコトヲ知リタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第十七條　裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

裁判ノ原本ニハ判事署名、捺印スヘシ但申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之ニ署名捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得

裁判ノ正本及ヒ謄本ニハ書記署名、捺印シ且正本ニハ裁判所ノ印ヲ押捺スヘシ

第十八條　裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生ス

裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス

告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ

第十九條　裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ因ルニ非サレハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス

即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス

第二十條　裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ其裁判ニ對シテ

第三十六條　裁判所ハ特ニ證據ヲ調ベシテ法人ノ證據ニ關スル檢查ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其負擔ヲ命シテ檢查ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條　民事訴訟法第六百四十四條、第六百四十五條及ヒ第六百四十六條ノ規定ハ法人ノ證據ニ關スル檢查ニ之ヲ準用ス

第三十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第三十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第四十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第四十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第四十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第四十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第四十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第四十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第四十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第四十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第四十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第四十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第五十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第五十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第五十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第五十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第五十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第五十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第五十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第五十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第五十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第五十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第六十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第六十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第六十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第六十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第六十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第六十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第六十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第六十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第六十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第六十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第七十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第七十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第七十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第七十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第七十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第七十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第七十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第七十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第七十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第七十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第八十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第八十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第八十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第八十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第八十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第八十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第八十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第八十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第八十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第八十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第九十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第九十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第九十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第九十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第九十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第九十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第九十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第九十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第九十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第九十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百二十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百二十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百二十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百二十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百二十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百二十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百二十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百二十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百二十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百二十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百三十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百三十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百三十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百三十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百三十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百三十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百三十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百三十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百三十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百三十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百四十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百四十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百四十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百四十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百四十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百四十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百四十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百四十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百四十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百四十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百五十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百五十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百五十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百五十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百五十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百五十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百五十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百五十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百五十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百五十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百六十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百六十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百六十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百六十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百六十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百六十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百六十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百六十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百六十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百六十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百七十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百七十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百七十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百七十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百七十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百七十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百七十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百七十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百七十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百七十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百八十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百八十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百八十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百八十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百八十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百八十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百八十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百八十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百八十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百八十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百九十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百九十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百九十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百九十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百九十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百九十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百九十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百九十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百九十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第百九十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百二十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百二十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百二十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百二十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百二十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百二十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百二十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百二十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百二十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百二十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百三十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百三十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百三十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百三十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百三十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百三十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百三十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百三十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百三十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百三十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百四十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百四十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百四十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百四十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百四十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百四十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百四十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百四十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百四十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百四十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百五十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百五十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百五十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百五十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百五十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百五十五條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百五十六條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百五十七條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百五十八條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百五十九條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百六十條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百六十一條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百六十二條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百六十三條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ相手方ニ通知スルコトヲ得

第二百六十四條　裁判所ハ申立人ノ申立ニ因リテノミ裁判

調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名捺印スヘシ

一　封印ヲ命シタル裁判ノ表示

二　封印ノ手續ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由

三　申立人ノ氏名、住所

四　封印ヲ爲シタル物件、家屋又ハ倉庫

五　封印ヲ爲ササリシ物件ノ概略及ヒ其理由

調書ハ二通ヲ作リ其一通ハ之ヲ裁判所ニ保存シ其一通ハ之ヲ保管者ニ交付シテ受領證ヲ取置クヘシ

第五十一條　裁判所ハ利害關係人、管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命スルコトヲ得

第四十六條、第五十條第一項及ヒ民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ除去ニ之ヲ準用ス

保管者ハ封印ノ除去ニ立會フコトヲ得

第五十二條　裁判所ハ豫メ封印ヲ除去スヘキ期日ヲ定メ申立人、利害關係人、保管者、管理人及ヒ檢事ニ之ヲ告知スヘシ

利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ前項ノ期日前ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ハ此限ニ在ラス

異議ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條　異議ノ申立アリタルトキハ其申立ノ取下又ハ却下ノ後ニ非サレハ封印ヲ除去スルコトヲ得ス

封印ヲ除去シタルトキハ直チニ書記又ハ公證人ヲシテ財産ノ目錄ヲ調製セシムヘシ但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ニハ立會人カ之ヲ調製セサルコトニ同意シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十四條　封印ノ除去ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名捺印スヘシ

一　封印ノ除去ヲ命シタル裁判ノ表示

二　封印ノ除去ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由

三　申立人ノ氏名、住所

四　異議ノ申立ナカリシコト又ハ其申立ノ取下若クハ却下アリタルコト

五　財産ノ目錄ヲ調製セシメ又ハ之ヲ調製セシメサリシコト

六　封印ノ狀況及ヒ異狀アルトキハ其事由

調書ハ裁判所ニ之ヲ保存スヘシ

第五十五條　管理人カ調製スヘキ財産ノ目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ管理人及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一　調製ノ場所、年月日及ヒ其事由

二　申立人ノ氏名、住所

三　不動産ノ表示

四　動産ノ種類及ヒ數量

五　債權及ヒ債務ノ表示

六　帳簿、證書其他ノ書類

財産ノ目錄ハ二通ヲ調製シ其一通ハ管理人之ヲ保管シ其一通ハ裁判所ニ提出スヘシ

第四十六條第二項ノ規定ハ財産ノ目錄ノ調製ニ之ヲ準用ス

第五十六條　民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ裁判所ハ公證人ヲシテ財産ノ目錄ヲ調製セシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコトヲ得

管理人カ調製シタル目錄ヲ不充分ト認メタルトキ亦同シ

前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

前條ノ規定ハ本條第一項又ハ第五十三條第二項ノ規定ニ依リテ書記又ハ公證人カ財産ノ目錄ヲ調製スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條　利害關係人ハ財産ノ目錄ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手數料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

檢事ハ財産ノ目錄ヲ閱覽スルコトヲ得

第五十八條　裁判所ハ不在者ノ財産ヲ賣却セシムヘキ場合ニ於テハ競賣法ノ規定ニ依リテ之ヲ賣却スヘキコトヲ命スヘシ

第五十九條　本人カ自ラ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至リタルトキ又ハ其死亡カ分明ト爲リ若クハ失踪ノ宣告アリタルトキハ裁判所ハ本人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命シタル處分ヲ取消スヘシ

第六十條　利害關係人ハ不在者ノ財産ノ管理若クハ保存ニ付キ處分ヲ命シ、其處分ヲ取消シ又ハ管理人ニ其權限ヲ超ユル行爲ヲ爲スコトヲ許可シタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

不在者カ置キタル管理人ハ其改任ヲ命シタル裁判ニ對シテ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ管理人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十一條　裁判所カ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ又ハ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス裁判所ノ命シタル處分ニ付キ必要ナル費用亦同シ

第六十二條　裁判所カ抗告人ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス

第六十三條　民法第八百九十二條第二項乃至第四項ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三者カ數人ノ子ニ財産ヲ與ヘタル場合ニ於テ其住所カ異ナルトキハ年少ノ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十四條　第三者カ被後見人ニ與ヘタル財産ノ管理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十五條　民法第千二十一條第二項、第三項及ヒ第千五十二條ノ相續財産ノ管理又ハ保存ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十六條　民法第九百七十八條ノ遺産ノ管理ニ關スル事件ハ相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十七條　民法第千四十三條ノ相續財産ノ管理ニ關スル事件ハ財産分離ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十八條　第三十九條乃至第六十二條ノ規定ハ前五條ニ揭ケタル事件ニ之ヲ準用ス

第六十九條　民法第千五十二條第二項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　申立人ノ氏名、住所

二　被相續人ノ氏名、身分、職業及ヒ最後ノ住所

三　被相續人ノ出生及ヒ死亡ノ場所竝ニ其年月日

四　管理人ノ氏名、住所

第七十條　民法第千五十八條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　前條第一號乃至第三號ニ揭ケタル事項

二　相續人ハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ノ催告

第七十一條　民事訴訟法第七百六十六條ニ定メタル公告ノ方法ハ前二條ノ公告ニ之ヲ準用ス

第三章　信託ニ關スル事件

第七十一條ノ二　信託法第八條第一項第三項、第二十二條第一項但書、第二十三條、第四十一條、第四十六條乃至第四十八條及ヒ第五十八條ニ定メタル事件ハ受託者ノ住所地ノ區裁判所、同法第四十九條第一項第四項ニ定メタル事件ハ前受託者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トシ受託者又ハ前受託者數人アル場合ニ於テハ其一人ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

信託法第四十九條第二項ニ定メタル事件ハ遺言者ノ最後ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十一條ノ三　裁判所ハ信託事務ノ監督ニ付キ必要ト認ムルトキハ財産目錄及ヒ信託事務ニ關スル帳簿竝ニ書類ノ提出ヲ命シ且信託事務ノ處理ニ付キ受託者其他ノ關係人ヲ審訊スルコトヲ得

前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十一條ノ四　裁判所ハ信託法第八條第一項又ハ同法第四十八條ノ規定ニ依リテ選任シタル信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ヲ改任スルコトヲ得

第七十一條ノ五　第三十九條、第四十條第二項及ヒ第四十條ノ二ノ規定ハ信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ノ選任又ハ改任ニ付キ之ヲ準用ス

第四十三條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ニ之ヲ準用ス

第七十一條ノ六　第百二十八條第百二十九條ノ二及第百二十九條ノ四ノ規定ハ信託法第四十一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所カ選任シタル檢査役ニ付キ之ヲ準用ス

第四章　裁判上ノ代位ニ關スル事件

第七十二條　債權者ハ自己ノ債權ノ期限前ニ債務者ノ權利ヲ行ハサレハ其債權ヲ保全スルコト能ハス又ハ之ヲ保全スルニ困難ヲ生スル虞アルトキハ裁判上ノ代位ヲ申請スルコトヲ得

第七十三條　裁判上ノ代位ハ債務者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十四條　代位ノ申請ニハ第九條ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　債務者及ヒ第三債務者ノ氏名、住所

二　申請人ノ保全セントスル債權及ヒ其行ハントスル權利ノ表示

第七十五條　裁判所ハ申請ヲ理由アリト認ムルトキハ擔保ヲ供セシメ又ハ供セルメスシテ之ヲ許可スルコトヲ得

第七十六條　申請ヲ許可シタル裁判ハ職權ヲ以テ之ヲ債務者ニ告知スヘシ

前項ノ告知ヲ受ケタル債務者ハ其權利ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第七十七條　申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ債務者ハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ債務者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第七十八條　抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ニ付テハ申請人及ヒ抗告人ヲ當事者ト看做シ民事訴訟法第八十九條ノ規定ニ從ヒテ其負擔者ヲ定ム

第七十九條　第十三條及ヒ第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ適用セス

第五章　保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

第八十條　民法第二百六十二條第三項ノ證書保存者ノ指定ハ共有物ノ分割アリタル地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前共有者ヲ訊問スヘシ

裁判所カ第一項ノ指定ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス

第八十一條　民法第四百九十五條第二項ノ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ハ債務履行地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前債權者及ヒ辨濟者ヲ訊問スヘシ

裁判所カ第一項ノ指定及ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債權者ノ負擔トス

第八十二條　第四十六條、第四十條ノ二、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ前條ノ保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ辨濟者ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條　第八十一條ノ規定ハ民法第四百九十七條ノ裁判所ノ許可ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ二　第八十一條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ民法第三百五十四條ニ依リ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

裁判所カ申請ヲ許可シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債務者ノ負擔トス

第八十四條　民法第五百八十二條ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ不動產所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ買主ノ負擔トス呼出及ヒ訊問ノ費用亦同シ

第八十五條　民法第千三十二條第二項、第千三十四條及ヒ第千百三十二條第二項ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第八十六條　民法第千四十七條及ヒ第千五十條ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ第六十七條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス

第八十七條　民法第千三十二條第二項、第千三十四條、第千四十七條及ヒ第千五十條ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任ニ關スル費用ハ相續財產ノ負擔トス

第八十八條　第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニハ之ヲ適用セス

第八十九條　本章ノ規定ニ依リテ指定若クハ選任ヲ爲シ又ハ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第六章　隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件

第九十條　隱居ノ許可ハ隱居ヲ爲サントスル戶主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

許可ノ申請ニハ法定ノ推定家督相續人ヲ表示シ又ハ家督相續人タルヘ

キコトヲ承認シタル者ヲ表示シ且其者ヲシテ署名、捺印セシムヘシ

隱居ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第九十一條　廢家ノ許可ハ廢家セントスル戶主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

利害關係人及ヒ檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十二條　子ノ懲戒ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十三條　民法第九百七十八條ノ戶主權ノ行使ニ付キ必要ナル處分ハ第六十六條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス

第九十四條　家督相續人ノ選定ニ關スル許可ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス

第九十五條　親族及ヒ檢事ハ前條ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十二條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十六條　無能力者ノ爲メニ設クヘキ親族會ニ關スル事件ハ其者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ

無能力者ノ負擔トス

第九十七條　家督相續人ノ選定ノ爲メニ開クヘキ親族會ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス

第九十八條　前二條ニ揭ケサル事件ノ爲メニ開クヘキ親族會ニ關シテハ事件ノ本人ノ住所地ノ區裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ事件ノ本人ノ負擔トス

第九十九條　裁判所ハ親族會員又ハ其補缺員ノ選定ニ付キ申請人又ハ民法第九百四十四條ニ揭ケタル者ヲシテ會員タルニ適當ナル者ヲ指名セシムルコトヲ得

第百條　親族會員タルコトヲ辭セントスル者ハ裁判所ニ其申請ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ相當スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百一條　親族會ノ招集又ハ親族會員ノ辭任ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

民法第九百四十四條ニ揭ケタル者ハ親族會員タルコトヲ得サル者ノ選任ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第百二條　親族會員其他民法第九百四十四條ニ揭ケタル者ハ親族會ノ決議ニ代ハルヘキ裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ裁判ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ

得

第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第七章　手續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件

第百三條　民法第千十七條第一項但書ニ定メタル期間ノ伸張ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百四條　相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百五條　相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ニハ第九條第一號、第二號、第四號及ヒ第五號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シテ申述人又ハ代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一　被相續人ノ氏名及ヒ最後ノ住所

二　相續ノ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ス旨

第百六條　期間ノ伸長ハ申請又ハ相續ノ限定承認若クハ拋棄ノ申述ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第八章　遺言ノ確認及ヒ執行

第百七條　遺言執行者ノ選任及ヒ解任ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ニ於テ選任シタル遺言執行者カ其任務ヲ辭セントスルトキ又ハ其就職ヲ拒マントスルトキハ相續開始地ノ區裁判所ニ其申立ヲ爲スヘシ

裁判所カ前二項ニ揭ケタル事件ニ付キ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス

第百八條　遺言執行者ヲ選任シタル裁判又ハ其任務ヲ辭シ若クハ就職ヲ

拒ムコトヲ許可シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

遺言執行者ノ選任若クハ解任ノ申請又ハ其任務ヲ辭シ若クハ就職ヲ拒ム申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

遺言執行者ハ其解任ヲ命シタル裁判ニ對シテ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ノ期間ハ遺言執行者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第百九條　民法第千七十六條及ヒ第千八十一條但書ニ定メタル遺言ノ確認ハ遺言者ノ住所地又ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百十條　遺言ノ確認ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

利害關係人及ヒ檢事ハ遺言ノ確認ニ對シテ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ確認ノ申請人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

前條第二項ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ適用ス

第百十一條　遺言書ノ檢認ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百十二條　遺言書ノ檢認ハ公證人カ記載シタルモノヲ除ク外遺言ノ方式ニ關スル總テノ事實ヲ調査シテ之ヲ爲ス

第百十三條　封印アル遺言書ノ開封ニ付テハ豫メ其期日ヲ定メテ相續人ヲ呼出スヘシ

第百十四條　遺言書ノ提出開封及ヒ檢認ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一　提出者ノ氏名、住所

二　提出、開封及ヒ檢認ノ年月日
三　立會人ノ氏名、住所
四　訊問シタル證人、鑑定人、相續人其他ノ利害關係人ノ氏名、住所及ヒ其陳述
五　事實調査ノ結果

第百十五條　裁判所ハ遺言書ノ開封及ヒ檢認ヲ爲シタルトキハ出頭セサリシ相續人其他遺言ノ旨趣ニ關係アル者ニ其旨ヲ告知スヘシ

前項ニ揭ケタル者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ノ調書ヲ閱覽スルコトヲ得

第百十六條　遺言書ノ提出、開封竝ニ檢認及ヒ其告知ノ費用ハ相續財産ト負擔トス

第八章　法人及ヒ夫婦財産契約ノ登記

第百十七條　法人ノ登記ニ付テハ法人ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第百十八條　夫婦財産契約ノ登記ニ付テハ夫ト爲ルヘキ者ノ住所地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

夫ト爲ルヘキ者カ入夫又ハ婿養子ナルトキハ妻ト爲ルヘキ者ノ住所地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第百十九條　各登記所ニ法人登記簿及ヒ夫婦財産契約登記簿ヲ備フ

第百二十條　法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ定款、理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ主務官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條　事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、理事ノ缺ケタル場合ニ於テハ假理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ其許可證又ハ認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル理事又ハ假理事カ同一登記所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第百二十二條　法人ノ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及ヒ理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ清算人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十三條　夫婦財産契約ニ關スル登記ハ契約者雙方ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ夫婦財産契約書又ハ管理者ノ變更若クハ共有財産ノ分割ヲ許可シタル判決ノ謄本又ハ之ニ關スル契約書ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十四條　第百十七條、第百二百二條乃至第二百四條ノ規定ハ日本ニ事務所ヲ設ケタル外國法人ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百二十五條　第百四十一條乃至第百五十條、第百五十條ノ三乃至第百五十一條ノ六、第百五十四條乃至第百五十七條及ヒ第百七十七條ノ規定ハ本章ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス

第百六十五條ノ規定ハ夫婦財産契約ノ登記ノ更正ニ之ヲ準用ス

第三編　商事非訟事件

第一章　會社及ヒ鑑賣ニ關スル事件

第百二十六條　商法第四十七條、第四十八條、第百十一條第二項、第百二十一條、第百六十條第二項、第百九十六條第二項及ヒ第百九十八條ニ定メタル事件ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第二百六十條ニ定メタル事件ハ閉鎖ヲ命セラルヘキ外國會社ノ支店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第二百二十四條又ハ第百九十八條ノ規定ニ依リ裁判所カ檢査役ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽キ裁判所之ヲ定ム

第百二十九條ノ四　前二條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百三十條　商法第百九十八條ノ檢査ニ付キ株主總會ノ招集ヲ必要ト認ムルトキハ裁判所ハ一定ノ期間內ニ其招集ヲ爲スヘキコトヲ命スヘシ

第百三十一條　商法第百十一條第二項ノ規定ニ依リ檢査ノ許可ノ申請スル場合ニ於テハ檢査ヲ要スル事由、同法第百六十條第二項ノ規定ニ依リ總會招集ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ取締役カ其招集ヲ怠リシ事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

前項ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十二條　前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ノ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百三十三條　商法第九十六條第二項ノ規定ニ依ル定款ノ認可ノ申請ハ開業前ニ利息ノ配當ヲ爲スコトヲ要スル事由ヲ疏明シ總發起人又ハ總取締役之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ對スル裁判ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第百三十四條　商法第四十七條及ヒ第四十八條ノ場合ニ於ケル會社ノ解散ノ命令ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

二十四條、第百六十條第二項、第百九十六條第二項及ヒ第百九十八條ニ定メタル事件ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第二百六十條ニ定メタル事件ハ閉鎖ヲ命セラルヘキ外國會社ノ支店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第二百八十九條第一項及ヒ第六百十條第一項ニ定メタル事件ハ競賣ニ付スヘキ物品所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

地方鐵道法第六條ノ四第二項（軌道法第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ定メタル事件亦同シ

第百二十七條　檢査役ノ選任ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役又ハ株主之ニ署名捺印スヘシ

一、申請ノ事由　二、檢査ノ目的　三、年月日　四、裁判所ノ表示

第百二十八條　檢査役ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ檢査ニ付キ說明ヲ必要トスルトキハ檢査役ヲ審訊スルコトヲ得

條百二十九條　商法第百二十四條第二項ノ規定ニ依ル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前發起人及ヒ取締役ノ陳述ヲ聽クヘシ

發起人及ヒ取締役ハ第一項ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百二十九條ノ二　商法第百九十八條ノ規定ニ依リ檢査役ノ選任ニ關スル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽クヘシ

第百二十九條ノ三　商法第百二十四條又ハ第百九十八條ノ規定ニ依リ裁判所カ檢査役ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽キ裁判所之ヲ定ム

第百二十九條ノ四　前二條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百三十條　商法第百九十八條ノ檢査ニ付キ株主總會ノ招集ヲ必要ト認ムルトキハ裁判所ハ一定ノ期間內ニ其招集ヲ爲スヘキコトヲ命スヘシ

第百三十一條　商法第百十一條第二項ノ規定ニ依リ檢査ノ許可ノ申請スル場合ニ於テハ檢査ヲ要スル事由、同法第百六十條第二項ノ規定ニ依リ總會招集ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ取締役カ其招集ヲ怠リシ事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

前項ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十二條　前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ノ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百三十三條　商法第九十六條第二項ノ規定ニ依ル定款ノ認可ノ申請ハ開業前ニ利息ノ配當ヲ爲スコトヲ要スル事由ヲ疏明シ總發起人又ハ總取締役之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ對スル裁判ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第百三十四條　商法第四十七條及ヒ第四十八條ノ場合ニ於ケル會社ノ解散ノ命令ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

前二項ノ規定ハ會社ノ申請ニ因リ開業期間ノ伸長ニ付キ裁判ヲ爲ス場合、商法施行法ノ規定ニ依リ會社ノ營業ノ禁止ヲ命スル場合及日本ニ設立シタル外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

第百三十五條　會社及ヒ檢事ハ前條ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

抗告裁判所カ會社ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

第百三十五條ノ二　會社ノ解散若クハ營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル裁判カ確定シタルトキハ裁判所ハ解散シタル會社、營業ヲ禁止セラレタル會社ノ本店及ヒ支店又ハ閉鎖シタル外國會社ノ支店所在地ノ商業登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ抗告裁判所カ裁判ヲ爲シタルトキ亦同シ

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ外國會社ニ付テハ其支店ノ登記ヲ抹消シ營業ヲ禁止セラレタル會社ニ付テハ其本店及ヒ支店ノ登記ニ其旨ヲ記載スヘシ

第百三十五條ノ三　第百二十六條第一項及ヒ前三條ノ規定ハ會社ニ非スシテ商業登記ヲ爲シタル者ニ對シ裁判所カ商法施行法ノ規定ニ依リテ營業ノ禁止ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

第百三十五條ノ四　會社ノ設立ヲ無效トスル判決カ確定シタルトキハ受訴裁判所ハ會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ノ登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ會社ノ設立ノ無效ナルコトヲ登記スヘシ

第百三十五條ノ五　地方鐵道法第六條ノ四第二項（軌道法第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ已ムコトヲ得サル事由ヲ疏明シテ總取締役之ヲ爲スヘシ

第百三十五條ノ六　前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

申請ヲ認許セサル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二章　會社ノ清算ニ關スル事件

第百三十六條　清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス銀行ノ清算ノ監督亦同シ

第百三十七條　清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス裁判所カ銀行ノ清算ノ監督ニ付キ爲シタル命令ニ對シ亦同シ

第百三十八條　左ニ掲ケタル者ハ清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス

一　未成年者

二　禁治産者及ヒ準禁治産者

三　剝奪公權者及ヒ停止公權者

四　裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人

五　破産者

第百三十八條ノ二　裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ銀行ノ清算事務及ヒ財産ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得

第百三十八條ノ三　第百二十九條ノ三及ヒ第百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ清算人又ハ前條ノ規定ニ依リ檢査ヲナスヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

追3

第百三十八條ノ四　商法第九十一條ノ二第二項ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ會社ノ負擔トス呼出及ヒ訊問ノ費用亦同シ

第百三十八條ノ五　第八十八條及ヒ第八十九條ノ規定ハ前條ノ鑑定人ノ選任ノ手續及ヒ裁判ニ之ヲ準用ス

第三章　商業登記

第百三十九條　商法ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス者ノ營業所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第百四十條　各登記所ニ左ノ商業登記簿ヲ備フ

一、商業登記簿　二、未成年者登記簿　三、妻登記簿　四、法定代理人登記簿　五、支配人登記簿　六、合名會社登記簿　七、合資會社登記簿　八、株式會社登記簿　九、株式合資會社登記簿　十、外國會社登記簿

第百四十一條　各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ

第百四十二條　登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閲覽ヲ許シ又ハ手數料ヲ納付スルトキハ之ニ其謄本若クハ抄本ヲ交付スヘシ

登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ疏明シテ申請ヲ爲シタル者ニハ其關係アル部分ニ限リ登記簿ノ附屬書類ノ閲覽ヲ許スヘシ

郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ

第百四十三條　登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ

第百四十四條　登記シタル事項ノ公告ハ官報及ヒ新聞紙上ニ少クモ一回之ヲ爲スコトヲ要ス

公告ハ之ヲ掲載シタル最終ノ官報及ヒ新聞紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト看做ス

第百四十五條　區裁判所ハ每年十二月ニ翌年登記事項ノ公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙ヲ選定シ官報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙カ休刊又ハ廢刊ヲ爲ストキハ更ニ他ノ新聞紙ヲ選定シ前項ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第百四十六條　區裁判所ハ其管轄內ニ公告ヲ爲サシムルニ適當ナル新聞紙ナシト認ムルトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ登記所及ヒ其管轄內ノ市町村役場ノ掲示場ニ公告ヲ爲スコトヲ得

第百四十七條　登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十八條　當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得

第百四十八條ノ二　當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコトヲ得

第百四十九條　登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一　申請人ノ氏名、住所、會社カ申請人ナルトキハ其商號及ヒ本店又ハ支店

二　代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名、住所

三　登記ノ目的及ヒ事由

四　年月日

五　登記所ノ表示

第百五十條　本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル者アルトキハ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得

連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第百五十條ノ二　官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第百五十條ノ三　本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ定メタル書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第百五十一條　登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セサルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス

第百五十一條ノ二　登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ一箇月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ

登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

第百五十一條ノ三　異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第百五十一條ノ四　異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記所ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スヘシ

第百五十一條ノ五　前三條ノ規定ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ノ登記ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ニノミ之ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ本店所在地ノ登記所カ登記ヲ抹消シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ支店所在地ノ登記所ニ通知スヘシ

支店所在地ノ登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク登記ヲ抹消スヘシ

第百五十一條ノ六　登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ但其錯誤又ハ遺漏カ登記所ノ過誤ニ出テルタトキハ此限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遲滯ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ

第百五十二條、第百五十三條　（削除）

第百五十四條　商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第百五十五條　司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得

第百五十六條　登記簿ノ調製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百五十七條　不動產登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十條、第二十二條、第二十四條及ヒ第五十九條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

第二節　商號ノ登記

第百五十八條　商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テハ同一ノ營業ノ爲メ他人カ登記シタルモノト判然區別シ得ルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百五十九條　商法施行法第十三條第一項ノ規定ニ依リ他人カ登記シタル商號ト同一ノ商號ノ登記ヲ申請スル者ハ舊商法施行前ヨリ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコトヲ要ス

第百六十條　商號ノ登記ノ申請書ニハ第百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外營業ノ種類ヲ記載スヘシ商號ノ變更ノ登記ヲ申請スルトキ亦同シ

第百六十一條　商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ承繼人カ商號ヲ續用セントスルトキハ其資格ヲ證スル書面又ハ讓受證書ヲ添ヘ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

商號ノ登記ヲ爲シタル者カ氏、名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其登記ヲ申請スヘシ

第百六十二條　商號ヲ廢止シ又ハ變更シタルトキハ當事者ハ其登記ヲ申請スヘシ

相續人又ハ法定代理人カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ申請書ニ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條第三項ノ規定ハ本條第一項ノ申請ニ之ヲ準用ス

第百六十三條　商法第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ商號登記ノ抹消ヲ申請スル者ハ其登記上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

第百六十四條　第百五十一條ノ二乃至第百五十一條ノ四ノ規定ハ前條ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第百六十五條　登記所カ第百五十一條ノ六第二項ノ規定ニ依リ商號ニ關スル登記ノ更正ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ

第三節　未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記

第百六十六條　未成年者カ商業ヲ營ム場合ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ法定代理人ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但法定代理人カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ母又ハ後見人カ同意ヲ爲シタル場合ニ於テハ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス繼父、繼母又ハ嫡母カ同意ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百六十七條　妻カ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ

第百七十一條　法定代理人カ無能力者ノ爲メ商業ヲ管ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ法定代理人タルヘキ者ノ資格ヲ記載シ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四節　支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記

第百七十二條　支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ支配人ノ選任ノ登記ハ主人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

代表スヘキ社員

第百七十三條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ申請ニ因リテ其登記ヲ爲ス

一　清算人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ二　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ三　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ四　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ五　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ六　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ七　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ八　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ九　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ十　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ十一　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ十二　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ十三　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ十四　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ十五　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ十六　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ十七　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ十八　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ十九　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ二十　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ二十一　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄ニ屬ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ其選任ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一　佐第二號並ニ第三號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ハ清算人ノ選任ノ登記ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

二　一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人ノ選任ノ登記ノ申請ニハ數百四十九條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

三　スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

四　支配人ヲ置キタル場所

其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條ノ二十二　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ揭ケタル事項並ニ其變更ノ登記ノ申請ニ之

第百八十四條ノ三　第百八十二條ノ規定ハ合名會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十四條ノ四　商法第八十三條ノ三又ハ第八十三條ノ四ノ規定ニ依リ合資會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

有限責任社員ヲ加入セシメタル場合ニ於テハ其加入ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十五條　商法第百十八條第二項ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十五條ノ二　第百七十九條第二項及ヒ前條ノ規定ハ商法第百十八條ノ二ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ニ之ヲ準用ス

第百八十六條　第百七十九條乃至第百八十四條ノ三ノ規定ハ合名會社ノ登記ニ之ヲ準用ス但合名會社ニ於テ總社員ノ申請ニ因リテ爲スヘキ登記ハ合資會社ニ於テハ其無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第六節　株式會社ノ登記

第百八十七條　株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　定款

二　株式ノ引受ヲ證スル書面

三　株式申込證

四　取締役及ヒ監査役又ハ檢査役ノ調査報告書及ヒ其附屬書類

五　檢査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本

六　發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタルトキハ之ニ關スル書類

七　創立總會ノ決議錄

第百八十九條　支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ニ付キ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

取締役又ハ監査役ノ氏名又ハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第百八十九條　會社ノ資本增加ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　株式ノ引受ヲ證スル書面

二　株式申込書

三　商法第二百十四條ノ規定ニ從ヒテ監査役又ハ檢査役カ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類

四　資本ノ增加ニ關スル株主總會ノ決議錄

第百九十條　會社ノ資本減少ノ登記ノ申請書ニハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ資本減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十一條　社債ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ類書ヲ添附スルコトヲ要ス

一　最終ノ貸借對照表

二　社債ノ引受ヲ證スル書面

三　社債申込證

四　各社債ニ付キ商法第二百四條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面

五　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄

第百九十二條　社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十三條　會社ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且會社カ株主總會ノ決議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ株式會社カ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第百九十三條ノ二　株式會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百八十二條第二項竝ニ第百八十九條第三號、第四號ニ揭ケタル書類及ヒ株式ノ割當竝ニ引受ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十三條ノ三　株式會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百八十二條第二項竝ニ第百八十七條第二項ニ揭ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十四條　（削除）

第百九十四條ノ二　舊商法ノ規定ニ依リテ設立シタル株式會社カ商法施行法第五十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　定款

二　株主名簿

三　各株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面

四　設立免許書

五　創業總會ノ決議錄

第百九十四條ノ三　舊商法ノ規定ニ依リ資本ヲ增加シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百九十四條ノ四　舊商法ノ規定ニ依リ資本ヲ減少シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第八十五條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　株主名簿

二　新株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面

三　資本ノ增加ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ假決議錄

第百九十四條ノ四　舊商法ノ規定ニ依リ資本ヲ減少シタル場合ニ於テ會社カ資本減少ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　舊商法第二百七條ニ依ル通知及ヒ催告ヲ爲シタルコト及ヒ異議ヲ申出テタル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

二　資本ノ減少ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ假決議錄

第百九十四條ノ五　舊法ノ規定ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第七十九條及ヒ第八十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　株金ノ拂込金額ヲ證スル書面

二　債券原簿

三　主務省ノ認許書又ハ其認證アル謄本

四　債券ノ發行ニ關スル株主總會ノ決議錄

第百九十五條　資本ノ增加竝ニ減少、解散及ヒ合併ニ因ル變更竝ニ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第百九十五條ノ二　第百三十五條ノ四ノ規定ハ商法第百六十三條ノ四ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス

第七節　株式合資會社ノ登記

第百九十六條　株式合資會社ノ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リ之ヲ爲ス

第百七十九條第二項及ヒ第百八十七條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十七條　支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ申請書ニハ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十條第二項ノ規定ヲ準用ス

無限責任社員又ハ監査役ノ氏、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第百九十八條　第百八十九條、第百九十條及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ資本ノ增加又ハ減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合　之ヲ準用ス

第百九十八條ノ二　社債ノ登記ハ無限責任社員ノ全員　申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ第百九十一條第二項ニ揭ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十八條ノ三　社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十九條　第百七十九條第二項、第百九十三條ノ二、第百九十三條ノ三及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百條　株式合資會社ノ解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員又ハ其相續人及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於ケル解散ノ登記ハ無限責任社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附シ且無限責任社員ノ同意及ヒ株主總會ノ決議ニ因リ又ハ會社ノ合併ニ因リテ解散シタルトキハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第二百條ノ二　株式合資會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ株主總會ノ決議錄及ヒ第百八十二條第二項ニ揭ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百一條　株式合資會社ノ組織ヲ變更シ株式會社ト爲シタル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ設立シタル株式會社ノ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款、株式ノ引受ヲ證スル書面及ヒ組織變更ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ商法第二百四十七條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス

第二百一條ノ二　第百九十五條ノ二ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八節　外國會社ノ登記

第二百二條　外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ支店ノ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且左ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一　本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面

二　代表者タル資格ヲ證スル書面

三　會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

前項ノ書面ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二百三條　日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者ニ變更アリタルトキハ現任代表者ハ管轄登記所ニ其届出ヲ爲スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百四條　外國會社ノ支店ノ廢止又ハ其登記事項ノ變更ノ登記ハ支店ノ代表者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ**代表者**カ外國ニ於テ生シタル登記事項ノ變更ニ付キ其登記ヲ申請スル場合ニ於テハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證アル書面ニ依リテ變更ノ事實ヲ證明スルコトヲ要ス

第二百五條（削除）

附　則

第二百六條　民法第八十四條、第千百七條及ヒ民法施行法號二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第二百六十二條、第二百六十二條ノ二、第五百三十六條及ヒ商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

第二百七條　過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百八條　過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二百九條 非訟事件手續法其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ト牴觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ裁判所カ申立ヲ受ケ又ハ著手シタル事件ハ舊法令ニ依ル

第二百九條ノ二 外國人ニ關スル非訟事件手續ニシテ條約ニ因リ特ニ定ムルコトヲ要スルモノハ司法大臣之ヲ定ム

第二百十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（民法ハ明治三十一年七月十六日ヨリ商法ハ同三十二年六月十六日ヨリ施行）

附　則（明治四十四年法律第七四號）

本法ハ商法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（明治四十四年勅令第二一九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

本法施行前ニ裁判所ノ受理シタル事件ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

商法中改正法律附則ノ規定ニ依リ舊法ノ規定ヲ適用スヘキ場合ニ付テハ從前ノ規定ハ仍ホ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年五月勅令第一〇五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年十一月勅令第三三六號ヲ以テ同年十二月五日ヨリ施行）

非訟事件手續法第二條第三項ノ管轄裁判所指定

（大正五年六月十六日　司法省令第十四號）

非訟事件手續法第二條第三項ノ規定ニ依リ東京市ヲ管轄裁判所ノ所在地ト指定ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外國人ノ遺産ノ保存處分ニ關スル手續

（明治三十二年七月八日　司法省令第四十號）

非訟事件手續法第二百九條ノ二ニ依リ外國人ノ遺産ノ保存處分ニ關スル手續左ノ通相定ム

外國人ノ遺産ノ保存處分ニ關スル手續

第一條 條約ノ規定ニ依リ外國人ノ死亡ノ通知ヲ爲シ、其通知ヲ受ケ又ハ外國人ノ遺産ノ保存處分ニ干與スヘキ地方ノ當該官廳ハ死亡地ヲ管轄スル區裁判所トス

外國人カ日本ノ版圖外ニ於テ死亡シタルトキハ前項ノ當該官廳ハ遺産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所トス

第二條 外國人ノ遺産ノ保存處分ニ關スル行爲ハ之ヲ囑託スルコトヲ得

第三條 警察官ハ外國人ノ死亡ノ事實ヲ知リタルトキハ直ニ死亡者ノ國籍、住所又ハ居所、氏名、年齡及ヒ死亡ノ場所竝ニ年月日ヲ第一條第一項ノ區裁判所ニ報告スヘシ戸籍吏ハ外國人ノ死亡ノ登記ヲ爲シタルトキハ直ニ其謄本ヲ前項ノ區裁判所ニ送付スヘシ

第四條 條約ノ規定ニ依リ地方ノ當該官廳カ外國人ノ遺産ノ封印又ハ其開封ニ立會フヘキ場合ニ於テハ管轄區裁判所ノ判事及ヒ書記之ニ立會フヘシ檢事ハ之ニ立會フコトヲ得

第五條 條約ノ規定ニ依リ地方ノ當該官廳カ外國人、遺産目錄ヲ調製シ領事官ニ之ヲ送付スヘキ場合ニ於テハ管轄區裁判所ハ利害關係人又ハ領事ノ請求ニ因リ管理人ヲ選任シ財産目錄ノ謄本ヲ提出セシメ條約ニ定メタル他ノ書類ト共ニ之ヲ領事官ニ送付スヘシ

第六條 管轄區裁判所ハ外國人ノ遺産ニ關シ非訟事件手續法第六十九條第七十條ノ公告又ハ民法第千五十七條ノ公告アリタルトキハ其旨ヲ領事官ニ通知スヘシ

第七條 本令ハ明治三十二年七月十七日ヨリ之ヲ施行ス

商事非訟事件印紙法

（明治二十三年八月十六日　法律第六十六號）

【沿革】明治四十三年三月法律第一六號、大正十五年四月同第六五號、昭和二年三月同第三二號改正

第一條 商法中登記ニ關スル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其ノ他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼ス可シ

第二條 左ニ揭クルモノニ付テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一　抗告又ハ假差押ノ申立

二　債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

第三條 左ニ揭クルモノニ付テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一　抗告ニ對スル答辯

二　裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ

第四條乃至**第七條**（削除）

第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第三章第一節ノ規定ヲ準用ス

民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ牴觸セサルモノニ限リ之ヲ準用ス

（明治二十三年十二月二十七日法律第一〇九號ヲ以テ明治二十六年一月一日ヨリ施行）

附　則（昭和二年三月法律第三二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年四月勅令第七〇號ヲ以テ同年同月十日ヨリ施行）

本法施行ノ際未タ終局計算ニ至ラサル破産手續ニ在リテハ財團ノ全部ニ付印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

大正十五年法律第六十五號第三項ヲ削ル

（註記）

本法中左ニ揭クル改正ハ未施行ナルモ參考ノ爲登載ス

（大正十五年四月二十四日　法律第六十五號）

追2

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年五月勅令第一〇五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

第五節　抵當

鐵道抵當法（明治三十八年三月十一日法律第五十三號）

【沿革】大正八年四月法律第五六號改正

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ會社ト稱スルハ地方鐵道株式會社ヲ謂フ

第二條　會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鐵道ノ全部又ハ一部ニ付鐵道財團ヲ設クルコトヲ得

鐵道財團ニ屬スルモノハ同時ニ他ノ鐵道財團ニ屬スルコトヲ得ス

鐵道財團ハ之ヲ一箇ノ物ト看做ス

鐵道財團ハ抵當權ノ消滅ニ因リテ消滅ス

第三條　鐵道財團ハ左ニ揭クルモノニシテ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一　鐵道線路、其ノ他ノ鐵道用地及其ノ上ニ存スル工作物竝之ニ屬スル器具機械

二　工場、倉庫、發電所、變壓所、配電所、事務所、舍宅其ノ他工事又ノ運輸ニ要スル建物及其ノ他敷地竝之ニ屬スル器具機械

三　鐵道用水ニ關スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

四　鐵道用通信、信號又ハ蓄電ニ要スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

五　前四號ニ揭ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前四號ニ揭ケタル土地ノ爲ニ存スル地役權

六　車輛及之ニ屬スル器具機械

七　保線其ノ他修繕ニ要スル材料及器具機械

會社カ鐵道ニ要スル電氣ノ餘力ヲ以テ電氣供給ノ業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ供給ノ爲要スル第二號乃至第五號及第七號ニ揭ケタルモノニシテ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノハ之ヲ鐵道財團ニ屬セシムルコトヲ得

第四條　鐵道財團ハ所有權及抵當權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

鐵道財團ニ屬スルモノハ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

鐵道財團ニ屬スヘキモノニシテ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動産ニシテ賃借權ノ目的タルトキハ會社ハ鐵道財團ヲ設クルコトヲ得ス但シ不動産ニ關スル權利ニ付其ノ登記ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後

定款變更ト同一方法ノ決議ヲ經監督官廳ノ認可ヲ受クルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第六條　鐵道財團ヲ抵當ト爲ス債權ノ額ハ社債ノ額ト合セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス

第七條　抵當權設定ノ認可ヲ申請スルニハ抵當證書及鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ但シ擔保附社債ヲ發行スル場合ニ在リテハ信託證書ヲ以テ抵當證書ニ代フ

抵當證書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

二　抵當權者、債務者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

三　抵當權ノ順位

四　債權額及償還ノ方法竝期限

五　利率及利息支拂ノ方法竝期限

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生スヘキ契約ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八條　抵當權ノ設定認可ノ申請アリタルトキハ監督官廳ハ直ニ官報ヲ以テ鐵道財團ニ屬スヘキモノニ關シ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間內ニ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ但シ其ノ期間ハ一箇月ヲ下ルコトヲ得ス

監督官廳ハ抵當權ノ設定認可ノ申請前ニ於テモ會社ノ申請ニ因リ豫メ前項ノ公告ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告後六箇月內ニ抵當權設定認可ノ申請ナキトキハ公告ハ其ノ效力ヲ失フ

會社カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ

第九條　前條第二項ニ依ル公告ヲ爲シタルトキ又ハ抵當權ノ設定認可ノ申請ヲ爲シタルトキハ鐵道財團ニ屬スヘキモノハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十條　第八條ノ公告アリタル後ハ同條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ハサル間、抵當權ノ設定認可ノ申請カ却下セラレサル間及其ノ認可カ效力ヲ失ハサル間ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動産ニ關スル權利ニ付競落ヲ許ス決定ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ動産ニ對スル競賣ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　抵當權設定ノ認可アリタルトキハ其ノ鐵道ニ關スルモノニシテ第三條第一項ニ揭ケタルモノハ當然鐵道財團ニ屬ス其ノ抵當權設定後新ニ鐵道財團ノ所有者ニ屬シタルモノ亦同シ

前項ノ規定ハ第三條第二項ニ依リテ鐵道財團ニ屬セシメタルモノニ之ヲ準用ス

前二項ニ揭ケタルモノニ關シ第四條第三項ノ權利アルトキハ不動産ニ關スルモノノ登記ハ其ノ效力ヲ失ヒ動産ニ關スルモノハ存セサルモノト看做シ差押、假差押若ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ抵當權設定ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第八條ノ公告アリタルモノニ付期間內ニ申出ヲ爲ササル權利者竝期間經過後ニ於テ登記ノ申請ヲ爲シタル者、動産ニ關シ所有權以外ノ物權ヲ取得シタル者又ハ差押、假差押若ハ處分ヲ爲シタル

第二十四條　商標ノ視定ニ代ヒ又ハ之ニ附セラレタル指定ノ登録ヲ行フ者ハ其ノ抵當權ノ登錄ニ付テハ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第二十五條　抵當權者ハ同一ノ債權ノ爲メニ數個ノ商標ニ付テ抵當權ヲ有スルトキハ其ノ各商標ニ付テ分ニ付テハ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ爲メニ抵當權ノ登錄ヲ申請スルコトヲ得

第二十六條　抵當權ノ目的タル商標ニ付テハ其ノ商標ノ使用ヲ許諾スルコトヲ得ス

第二十七條　抵當權ノ存續期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ更ニ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十八條　抵當權ハ其ノ擔保スル債權ト共ニスルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第二十九條　抵當權ハ其ノ登錄ヲ抹消スルニ非サレハ消滅セス

第三十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第四十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第四十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第四十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第四十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第四十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第四十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第四十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第四十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第四十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第四十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第七十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第七十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第七十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第七十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第七十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第七十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第七十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第七十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第七十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第七十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第九十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第九十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第九十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第九十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第九十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第九十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第九十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第九十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第九十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第九十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百二十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百二十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百二十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百二十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百二十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百二十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百二十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百二十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百二十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百二十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百三十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百三十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百三十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百三十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百三十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百三十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百三十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百三十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百三十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百三十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百四十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百四十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百四十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百四十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百四十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百四十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百四十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百四十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百四十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百四十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百五十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百五十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百五十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百五十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百五十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百五十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百五十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百五十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百五十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百五十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百六十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百六十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百六十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百六十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百六十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百六十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百六十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百六十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百六十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百六十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百七十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百七十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百七十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百七十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百七十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百七十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百七十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百七十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百七十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百七十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百八十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百八十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百八十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百八十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百八十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百八十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百八十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百八十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百八十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百八十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百九十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百九十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百九十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百九十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百九十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百九十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百九十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百九十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百九十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百九十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百二十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百二十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百二十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百二十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百二十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百二十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百二十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百二十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百二十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百二十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百三十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百三十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百三十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百三十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百三十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百三十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百三十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百三十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百三十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百三十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百四十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百四十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百四十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百四十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百四十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百四十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百四十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百四十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百四十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百四十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百五十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百五十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百五十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百五十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百五十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百五十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百五十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百五十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百五十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百五十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百六十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百六十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百六十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百六十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百六十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百六十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百六十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百六十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百六十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百六十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百七十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百七十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百七十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百七十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百七十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百七十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百七十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百七十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百七十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百七十九條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百八十條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百八十一條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百八十二條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百八十三條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百八十四條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百八十五條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百八十六條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百八十七條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百八十八條　抵當權ハ其ノ商標ノ使用ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百八十九條　抵當權ハ其

第四十五條　鐵道財團ニ對スル強制管理ハ主務大臣之ヲ命ス

第四十六條　鐵道財團ニ對スル強制競賣及強制管理ハ鐵道財團ニ編綴スル其ノ旨ヲ記載シタル登錄ニ依リテ之ヲ效力ヲ生ス

前項ノ登錄ハ鐵道財團ニ屬スル一切ノ權利ニ及ホス

第四十七條　鐵道財團ニ屬スル一切ノ權利ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第四十八條　鐵道財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第四十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第五十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第五十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第五十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第五十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第五十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第五十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第五十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第五十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第五十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第五十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第六十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第六十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第六十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第六十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第六十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第六十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第六十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第六十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第六十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第六十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第八十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第八十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第八十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第八十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第八十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第八十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第八十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第八十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第八十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第八十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第九十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第九十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第九十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第九十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第九十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第九十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第九十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第九十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第九十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第九十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百二十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百二十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百二十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百二十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百二十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百二十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百二十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百二十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百二十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百二十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百三十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百三十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百三十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百三十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百三十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百三十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百三十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百三十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百三十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百三十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百四十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百四十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百四十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百四十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百四十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百四十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百四十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百四十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百四十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百四十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百五十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百五十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百五十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百五十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百五十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百五十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百五十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百五十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百五十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百五十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百六十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百六十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百六十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百六十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百六十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百六十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百六十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百六十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百六十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百六十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百七十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百七十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百七十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百七十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百七十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百七十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百七十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百七十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百七十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百七十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百八十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百八十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百八十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百八十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百八十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百八十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百八十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百八十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百八十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百八十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百九十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百九十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百九十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百九十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百九十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百九十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百九十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百九十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百九十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第百九十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百二十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百二十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百二十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百二十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百二十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百二十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百二十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百二十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百二十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百二十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百三十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百三十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百三十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百三十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百三十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百三十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百三十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百三十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百三十八條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百三十九條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百四十條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百四十一條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百四十二條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百四十三條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百四十四條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百四十五條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百四十六條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二百四十七條　鐵道財團ニ屬スル動產ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ニ屬スル不動產ニ對スル強制執行ニ從ヒ之

第五十八條　裁判所ハ競賣ニ關スル調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　競賣ニ付セラレタル鐵道財團ノ表示

二　競賣申立人ノ表示

三　入札及開札ノ日時

四　總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキコトヲ許スヘキ入札ナキコト若ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキコト竝第五十三條第二項又ハ第三項ノ手續ヲ爲シタルコト

五　競賣ノ終局ヲ告知シタル日時竝最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額

第五十九條　裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及競買人ニ競續ノ許可ニ付陳述ヲ爲サシムヘシ

第六十條　强制競賣申立ノ取下若ハ强制執行ノ取消アリタル場合又ハ第四十八條乃至第五十三條若ハ第五十七條ノ規定ニ違反シテ競賣ヲ爲シタル場合ニ限リ債務者ハ鐵道財團ノ所有者、抵當權者又ハ競買人ハ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキトキハ職權ヲ以テ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ノ許否ハ決定ヲ以テ之ヲ言渡スヘシ

第六十二條　競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ第六十條ニ揭ケタル理由アル場合ニ限リ競落ヲ許ス決定ニ對シ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落期日ニ出頭シ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲ササル者ハ競落ヲ許ササル理由ナキ場合ニ限リ競落ヲ許ササル決定ニ對シ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十三條　裁判所ハ競落ニ關スル調書ヲ作成スヘシ

第六十四條　競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ監督官廳ニ送付スヘシ

第六十五條　競落代金ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日又ハ第七十三條ノ許可ヲ受クルコトヲ要スル者ニ在リテハ其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一週間以內ニ之ヲ裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第六十六條　競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鐵道財團ニ關スル權利ハ競落人ニ、競落人カ會社ノ發起人ナルトキハ其ノ競落人ニ依リテ發起セラレタル會社ニ移轉ス

抵當權ハ前項ニ依リ鐵道財團ニ關スル權利カ移轉シタルトキニ消滅ス

第六十七條　第七十三條ノ許可ヲ受ケサルトキ、第七十三條ノ期間內ニ許可ノ申請ナキトキ又ハ第六十五條ノ期間內ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ競落ヲ許ス決定ヲ取消シ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競落ヲ許ス決定カ取消サレタルトキハ許可ハ取消サレタルモノトス

競落人ハ新競賣ニ加入スルコトヲ得ス且新競賣ニ於ケル競落代金カ最初ノ競落代金ヨリ少ナキトキハ其ノ不足額及手續ノ費用ヲ賠償スヘシ

第六十八條　裁判所ハ競落代金ノ中ヨリ順次ニ競賣ノ費用及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ハ抵當權ノ順位ニ從ヒ之ヲ抵當權者ニ配當シ仍殘餘アルトキハ之ヲ鐵道財團ノ所有者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ通知シ競賣申立ノ登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ

監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登錄及抵當權ノ登錄ヲ抹消スルコト

二　競落ヲ許ス決定アリタルコトヲ管轄登記所ニ通知シ競落人又ハ競落人ニ依リテ登記セラレタル會社カ取得シタル不動產ニ關スル權利ノ登記竝第十一條第二項ニ依リ效力ヲ失ヒタル登記ノ抹消ヲ囑託スルコト

第六十九條　競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルキトハ裁判所ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ通知シ競買申立ノ登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ

監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登記ヲ抹消スヘシ

第七十條　裁判所ハ二回以上競賣期日ヲ開始シタルモ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ抵當權者ノ同意アル場合ニ限リ競賣ニ付シタル鐵道財團ヲ簡簡ノモノトシテ競賣ニ付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ抵當權者ノ意見ヲ聽キ鐵道財團ニ屬スルモノヲ分割シテ競賣ニ付スルコトヲ得

第七十一條　前條ノ競賣ニ關シテハ第四十八條、第四十九條、第五十二條乃至第六十六條、第六十七條第一項、第三項、第六十八條及第六十九條ノ規定ヲ準用ス

競買人ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競買價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

第七十二條　（削除）

第七十三條　競落人カ政府ニ非サル場合ニ於テハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月內ニ許可ヲ申請スヘシ

第七十四條　競落人カ會社ノ發起人ナルトキハ前條ノ許可ノ申請ニハ定款及會社ノ設立登記謄本ヲ添附スヘシ

第七十五條　（削除）

第七十六條　監督官廳ハ第七十三條及第七十四條ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ許可スヘシ

第七十七條　第七十三條ノ許可ハ競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社カ競落代金ヲ支拂ヒタルトキニ其ノ效力ヲ生ス

第七十三條ノ許可カ效力ヲ生シタルトキハ競落人ハ又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社ハ免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼ス

第七十八條　强制管理ニ付テハ第四十三條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ヲ準用ス

第七十九條　强制管理開始ノ決定確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ監督官廳ニ送付スヘシ

第八十條　前條決定ノ謄本ノ送付アリタルトキハ監督官廳ハ一人又ハ數人ノ管理人ヲ選任スヘシ但シ强制管理ノ申立人ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

商事會社ハ管理人タルコトヲ得

第八十一條　監督官廳ハ管理人ヲ監督シ、管理方法ニ付指揮ヲ爲シ且管理人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ムヘシ

監督官廳ハ前項ニ揭ケタル事項ニ付債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當

權者及鑑定人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

監督官廳ハ管理人ニ擔保ヲ供スヘキコトヲ命シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第八十二條　監督官廳カ管理人ヲ任免シタルトキハ其ノ旨ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權及裁判所ニ通知スヘシ

第八十三條　鐵道財團ノ所有者カ管理人選任ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ鐵道財團ヲ管理人ニ引渡スヘシ

管理人ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ管理ニ必要ナル書類其ノ他ノ物ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得

第八十四條　鐵道財團ノ所有者カ前二項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ執達吏ヲシテ其ノ引渡ヲ爲サシムヘシ

第八十五條　管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ付必要ナル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スヘシ

第八十六條　鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル取締役ノ責任ハ管理人之ヲ負フ

第八十七條　管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ鐵道財團ノ收入ヨリ順次ニ管理ノ費用、管理人ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ヲ抵當權者ニ交付スヘシ

第八十八條　管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ計算報告書ヲ監督官廳ニ差出スヘシ

監督官廳ハ前項計算報告書ノ謄本ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者及抵當權者ニ送付シ且一定ノ期間內ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

前項ノ期間內ニ異議ヲ申出テサリシ者ハ計算ヲ承認シタルモノト看做ス

異議ヲ申出テタル者アリタルトキハ監督官廳ハ管理人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ裁決ス此ノ裁決ハ終局トス

第八十九條　管理人ハ前條第二項ノ期間ヲ過キ又ハ前條第四項ノ裁定ヲ經タル後ニ非サレハ抵當權者ニ對シ配當額ノ交付ヲ爲スコトヲ得ス

管理人カ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキハ抵當權者ノ名稱及配當額ヲ監督官廳及裁判所ニ通知スヘシ

第九十條　強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

強制管理ノ申立ヲ爲シタル抵當權者カ辨濟ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スヘシ

強制管理ノ申立人カ管理費用ノ立替支辨ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第九十一條　前條第二項ノ場合ニ關シテハ第六十八條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ヲ除クノ外強制管理ノ取消ニ關シテハ第六十九條ノ規定ヲ準用ス

第四章　罰則

第九十二條　左ノ場合ニ於テハ取締役又ハ管理人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ定メタル裁定ヲ遵守セサルトキ

二　第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

三　第二十條又ハ第二十一條ノ催告ヲ爲ササルトキ

四　登錄ニ關シ不正ノ申請ヲ爲シタルトキ又ハ第三十一條ノ登錄ノ申請ヲ爲ササルトキ

五　鐵道財團目錄ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ、第三十四條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ

六　管理方法ニ付監督官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

七　第八十八條ノ計算報告書ノ差出ササルトキ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ

八　配當額ノ交付ヲ爲ササルトキ又ハ第八十七條若ハ第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキ

九　第八十九條第二項ノ通知ヲ爲ササルトキ

第九十三條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十八年六月勅令第一八六號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

鐵道抵當法施行規則

（明治三十八年五月二十二日）
（遞省信令第三十七號）

【沿革】明治四十三年十二月閣令第一七號、大正三年三月同第一號、同八年八月同第一七號、明和二年五月總令第一號改正

第一條　鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由ヲ記載シ會社ノ取締役署名捺印シ監督官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第二條　鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當證書又ハ信託證書及鐵道財團目錄ノ外尙ホ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　抵當證書又ハ信託證書ノ謄本

二　株主總會ノ議事及決議ノ要領書

三　最終ノ貸借對照表

四　元利支拂ノ豫算

五　株金額及拂込額ノ登記抄本

社債ノ總額及其ノ償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本

前項ニ依リ差出シタル抵當證書又ハ信託證書ハ抵當權設定ノ認可アリタルトキハ認可ノ證印ヲ附シテ之ヲ還付ス

第三條　鐵道抵當權設定ノ認可申請前會社ノ申請ニ因リ豫メ鐵道財團ノ公告ヲ爲シタル場合ニ於テ鐵道抵當法第八條ニ依リ鐵道財團目錄ヲ差出シタルモノニ付テハ鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニ鐵道財團目錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條　第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當權者ニ對スル催告ノ始末書及催告アリタルコトヲ證スル書面又ハ抵當權者ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　第二條第一項第四號ニ記載セル事項ヲ變更セントスルトキハ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ變更ノ事項カ株主總會ノ決議ヲ要スルモノニ係ルトキハ認可申請書ニ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スルコトヲ要ス

第六條　抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項變更ノ認可申請書ニハ契約證書及其ノ謄本ヲ添附シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

第二條第二項及前條第二號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ノ變更ニシテ契約ニ基カサル場合ニ於テハ變更ノ事由竝年月日ヲ記載シ利害關係人署名捺印シテ届出ツヘシ

第七條　鐵道抵當權設定ノ認可申請前ニ於ケル鐵道財團公告ノ申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由及其ノ總額ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シテ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ鐵道財團目錄ノ外第二條第一項第三號及第四號ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

第八條　鐵道抵當法第二十六條ノ場合ニ於テ其ノ債務ニ付据置年限經過後ニ於ケル辨濟期ニ關シ特約アルトキハ抵當權設定後二十箇年ニ滿ツル迄其ノ特約ニ依ルモノトス

第九條　鐵道抵當原簿ハ別記第一號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條　鐵道財團目錄ハ別記第二號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十一條　鐵道財團目錄ニハ其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シ且每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條　鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ届書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ届書ハ鐵道財團目錄ノ樣式ニ依リ揭クヘキ事項ヲ記載シ目錄ノ部門及舊事項ヲ附記スヘシ

保線ニ要スル材料及未開業線ノ鐵道財團ニ屬スルモノニ付テハ決算期每ニ之カ調査ヲ爲シ變更及消滅ノ届出ヲ爲スヘシ

第十三條　鐵道抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ債權者及會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

一　鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

二　抵當權者債務者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

三　抵當權ノ順位

四　債權額及償還ノ方法竝期限

五　利率及利息支拂ノ方法竝期限

六　免許ニ附シタル條件

七　抵當權ヲ設定シタルコト

八　抵當權設定認可ノ年月日

九　登錄稅額

第十四條　登錄ハ申請書受附ノ順序ニ依リテ之ヲ爲ス

第十五條　登錄申請書其ノ他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ受領證ハ登錄濟證ヲ交付スルトキハ之ヲ還納セシムヘシ

第十六條　第十三條ノ規定ハ登錄シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ登錄申請ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登錄申請書ハ正本一通及副本一通ヲ差出スヘシ

第十七條　鐵道抵當原簿ニ登錄ヲ完了シタルトキハ抵當權設定ノ場合ニ在リテハ抵當證書又ハ信託證書ニ、登錄事項ノ變更又ハ消滅ノ届書ニハ變更又ハ消滅ノ場合ニ在リテハ申請書ノ副本ニ登錄番號、申請書受附ノ年月日、受附番號及登錄濟ノ旨ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ申請者ニ還付スヘシ

第十七條ノ二　登錄稅法施行規則第四條ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ徵集シタトキハ登錄官吏ハ後ニ登錄又ハ登記ヲ申請スヘキ官廳ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

登錄稅法施行規則第四條ノ場合ニ於テ旣ニ他ノ官廳ニ於テ登記又ハ登錄ヲ受ケタルトキハ登錄申請書ニ當該官廳ノ交付シタル登錄稅ノ受領證ヲ添附スヘシ

第十八條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スルモノアルトキハ申請書ニ署名捺印シ又ハ其ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ書類ヲ添附スヘシ

第十九條　鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ鐵道抵當原簿若ハ鐵道財團目錄ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ニ署名捺印シテ之ヲ差出スヘシ但シ抄本ヲ請求スル場合ニ於テハ抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載スヘシ

第二十條　鐵道抵當簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手數料金十錢ヲ納ムヘシ但シ一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

手數料ハ收入印紙ヲ以テ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第二十一條　鐵道抵當法第二十條ニ依ル裁定申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ正副二通ヲ差出スヘシ

一　申請者及對手人ノ名稱、住所

二　裁定事件ノ表示

三　申請ノ要旨及理由

第二十二條　前條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ其ノ副本ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シ答辯書ヲ差出サシムヘシ但シ裁定申請カ其ノ理由ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス

必要ト認ムルトキハ期限ヲ附シテ更ニ申請者、對手人ヨリ辯駁書、答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十三條　答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載シ二通ヲ差出スヘシ

一　申請者及對手人ノ名稱、住所

二　裁定事件ノ表示

三　答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由

第二十四條　必要ト認ムルトキ又ハ當事者一方ノ申立アルトキハ口頭審理ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　裁定申請者若ハ對手人期間內ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ指定ノ審理期日ニ出頭セサルトキハ相手方ノ意見ヲ聽キ裁定ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　第二十一條乃至第二十五條ノ規定ハ管理人ノ計算報告書ニ對スル異議ノ裁定ニ之ヲ準用ス

第二十七條　執行力アル正本付與ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請者署名捺印シ抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載ノ事項ヲ變更シタル契約書ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ

一　債務者及鐵道財團所有者ノ名稱及住所

二　强制執行ヲ要スル事由

第二十八條　管理人推薦ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人之ニ署名捺印スヘシ

一　管理人タルヘキ者ノ名稱、住所

二　管理人タルニ適當ト認メタル事由及經歷

第二十九條　（削除）

附　則

第三十條　本規則ハ鐵道抵當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正八年八月閣令第一七號）

本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年閣令第一號ハ之ヲ廢止ス

軌道ノ抵當ニ關スル件

（明治四十二年四月十三日　法律第二十八號）

第一條　軌道ノ抵當ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外鐵道抵當法ヲ準用ス

第二條　軌道財團ハ左ニ揭クルモノニシテ軌道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一　軌道線路、其ノ他ノ軌道用地及其ノ上ニ存スル工作物竝之ニ屬スル器具機械

二　工場、倉庫、既舍、發電所、變壓所、配電所、事務所、舍宅其ノ他工事又ハ運輸ニ要スル建物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

三　用水ニ關スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

四　軌道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地竝ニ之ニ屬スル器具機械

五　前四號ニ揭ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前四號ニ揭ケタル土地ノ爲ニ存スル地役權

六　車輛及馬匹竝之ニ屬スル器具機械

七　保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及器具機械

軌道營業者カ軌道ニ要スル電氣ノ餘力ヲ以テ電氣供給ノ業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ供給ノ爲要スル第二號乃至第五號及第七號ニ揭ケタルモノヲ軌道財團ニ附屬セシムルコトヲ得

第三條　公共團體カ軌道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テハ鐵道抵當法第二十六條ノ規定ヲ準用ス

特許ニ附シタル條件ニ依リ軌道財團ニ屬スルモノヲ無償ニテ國又ハ公共團體ニ引渡スヘキトキハ其ノ財團ヲ目的トスル抵當權ハ消滅ス

第四條　軌道營業者カ株式會社ニ非サル場合ニ於ケル軌道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本令施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十二年七月勅令第一九一號ヲ以テ同年七月二十二日ヨリ施行）

軌道抵當取扱規則

（明治四十二年七月二十一日　閣令第六號）

【沿革】大正三年四月閣令第二號、同八年八月同第一八號改正

軌道抵當取扱規則

第一條　軌道抵當ノ取扱ニ關シテハ鐵道抵當法施行規則ヲ準用ス

第二條　抵當權ノ設定若ハ變更又ハ抵當證書若ハ信託證書ニ記載セル事項ノ變更ニ關スル書類ハ內閣總理大臣及內務大臣宛トシ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ但シ動力ニ電氣ヲ使用スル場合ニ於テハ內閣總理大臣、內務大臣及遞信大臣宛トス

第三條　軌道抵當權設定ノ認可申請書ニハ鐵道抵當法施行規則第二條第一項ニ揭クル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　物件擔保ノ負債アルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本又ハ證明書

第四條　軌道財團ニ關スル公告ノ申請書、抵當權ノ登錄ニ關スル申請書及軌道財團目錄ニ關スル書類ハ內閣總理大臣宛トシ之ヲ差出スヘシ

第五條　馬匹ノ財團目錄ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第六條　馬匹、保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及未開業線ノ軌道財團ニ屬スルモノノ變更又ハ消滅ノ屆出ハ決算期ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第七條　執行力アル正本付與ノ申請書ハ內閣總理大臣宛トシ之ヲ差出スヘシ

第八條　競落人ニ依リテ發起セラレタル會社又ハ競落人タル會社ヨリ差出ス特許及許可ノ申請書ハ內閣總理大臣及內務大臣宛トシ地方長官ヲ經由スヘシ

第二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　裁定申請書、管理人推薦ノ申立書、計算報告書及配當報告書ハ內閣總理大臣及內務大臣宛トシ之ヲ差出スヘシ

第二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十二年法律第二十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

漁業財團抵當法

（大正十四年三月二十七日　法律第九號）

第一條　漁業權若ハ其ノ登錄シタル賃借權ヲ有スル者、漁業ノ用ニ供スル登記シタル船舶ヲ有スル者又ハ水產物ノ養殖場ヲ有スル者ハ之ニ付抵當權ノ目的ト爲ス爲漁業財團ヲ設クルコトヲ得

第二條　漁業財團ハ左ニ揭クルモノニシテ同一人ニ屬スルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得

一　漁業權又ハ其ノ登錄シタル賃借權

二　船舶竝其ノ屬具及附屬設備

三　土地及工作物

四　地上權及土地若ハ水面ノ使用又ハ引水若ハ排水ニ關スル權利

五　漁具及副漁具

六　機械、器具其ノ他ノ附屬物

七　物ノ賃借權

八　工業所有權

前項ノ權利ニシテ其ノ移轉ニ付行政廳ノ許可又ハ認可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ許可又ハ認可ヲ、賃借權ニ付テハ賃貸人ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ漁業財團ニ屬セシムルコトヲ得ス

第三條　漁業權又ハ其ノ登錄シタル賃借權カ漁業財團ニ屬スル場合ニ於テハ抵當權ハ其ノ漁場ニ定著シタル工作物ニ及フ

船舶カ漁業財團ニ屬スル場合ニ於テハ抵當權ハ其ノ船舶ノ屬具ニ及フ

前二項ノ規定ハ設定行爲ニ別段ノ定アルトキ又ハ民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ニハ之ヲ適用セス

第四條　漁業權ニ付漁業財團ヲ設定シタル場合ニ於テ其ノ漁業免許ノ取消アリタルトキハ其ノ處分ヲ爲シタル行政官廳ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ抵當權ヲ實行スルトキハ抵當權者ハ第一項ノ

通知ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ
漁業權ハ前項ノ期間内又ハ抵當權實行ノ終了ニ至ル迄抵當權實行ノ目的ノ圍範内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス
競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セサリシモノト看做ス
前四項ノ規定ハ水産物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊繫留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アル場合、公益上害アル場合又ハ錯誤ニ依リ漁業ノ免許カ與ヘラレタル場合ニ於ケル漁業免許ノ取消ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五條　前條第一項ノ規定ハ漁業權ノ登錄シタル賃借權ニ付漁業財團ヲ設定シタル場合ニ於テ其ノ漁業免許ノ取消アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條　漁業財團ニ付テハ本法ニ規定スルモノ及罰則ヲ除クノ外工場抵當法中工場財團ニ關スル規定ヲ準用ス但シ工場抵當法第十七條及第四十五條ノ規定ノ準用ニ付テハ漁業權又ハ其ノ登錄シタル賃借權ハ其ノ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃、漁業ノ用ニ供スル登記シタル船舶ハ其ノ船籍港ヲ以テ其ノ所在地ト看做ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　（大正十四年七月勅令第二四四號ヲ以テ同年同月六日ヨリ施行）

工場抵當法

（明治三十八年三月十三日法律第五十四號）

第一條　本法ニ於テ工場ト稱スルハ營業ノ爲物品ノ製造若ハ加工又ハ印刷若ハ撮影ノ目的ニ使用スル場所ヲ謂フ

營業ノ爲電氣又ハ瓦斯ノ供給ノ目的ニ使用スル場所ハ之ヲ工場ト看做ス

第二條　工場ノ所有者カ工場ニ關スル土地ノ上ニ設定シタル抵當權ハ建物ヲ除クノ外其ノ土地ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物及其ノ土地ニ備附ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニ及フ但シ設定行爲ニ別段ノ定アルトキ及民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ハ工場ノ所有者カ工場ニ屬スル建物ノ上ニ設定シタル抵當權ニ之ヲ準用ス

第三條　工場ノ所有者カ工場ニ屬スル土地又ハ建物ニ付抵當權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニシテ前條ノ規定ニ依リ抵當權ノ目的タルモノノ目錄ヲ提出スヘシ
第二十二條第二項、第三十五條及第三十八條乃至第四十二條ノ規定ハ前項ノ目錄ニ之ヲ準用ス

第四條　第二條第一項但書ニ揭ケタル別段ノ定アルトキハ抵當權設定ノ登記ノ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

第五條　抵當權ハ第二條ノ規定ニ依リテ其ノ目的タル物カ第三取得者ニ引渡サレタル後ト雖其ノ物ニ付之ヲ行フコトヲ得
前項ノ規定ハ民法第百九十二條乃至第百九十四條ノ適用ヲ妨ケス

第六條　工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ヲ土地又ハ建物ト分離シタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス
工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ備附ケタル機

械、器具其ノ他ノ物ノ備附ヲ止メタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス
工場ノ所有者カ抵當權者ノ爲差押、假差押又ハ假處分アル前ニ於テ正當ナル事由ニ因リ前二項ノ同意ヲ求メタルトキハ抵當權者ハ其ノ同意ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條　抵當權ノ目的タル土地又ハ建物ノ差押、假差押又ハ假處分ハ第二條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ニ及フ
第二條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ハ土地又ハ建物ト共ニスルニ非サレハ差押、假差押又ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第八條　工場ノ所有者ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲一箇又ハ數箇ノ工場ニ付工場財團ヲ設クルコトヲ得數箇ノ工場カ各別ノ所有者ニ屬スルトキ亦同シ

第九條　工場財團ニ屬スルモノハ同時ニ他ノ財團ニ屬スルコトヲ得ス
工場財團ハ抵當權ノ消滅ニ因リテ消滅ス

第十條　工場財團ノ設定ハ工場財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス

第十一條　工場財團ノ所有權保存ノ登記ハ其ノ登記後二箇月内ニ抵當權設定ノ登記ヲ受ケサルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第十二條　工場財團ハ左ニ揭クルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得
一　工場ニ屬スル土地及工作物
二　機械、器具、電柱、電線、配置諸管、軌條其ノ附屬物
三　地上權
四　賃貸人ノ承諾アルトキハ物ノ賃借權
五　工業所有權

工場ニ屬スル土地又ハ建物ニシテ未登記ノモノアルトキハ工場財團ヲ設クル前其ノ所有權保存ノ登記ヲ受クヘシ

第十三條　他人ノ權利ノ目的タルモノ又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノハ工場財團ニ屬セシムルコトヲ得ス
工場財團ニ屬スルモノハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ賃貸スルハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　工場財團ハ之ヲ一箇ノ不動産ト看做ス
工場財團ハ所有權及抵當權以外ノ權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ賃貸スルハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ工場財團ニ屬スルモノヲ財團ヨリ分離シタルトキハ抵當權ハ其ノモノニ付消滅ス
第六條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條　第二條、法民第三百七十一條、第三百八十八條及第三百八十九條ノ規定ハ土地又ハ建物カ抵當權ノ目的タル工場財團ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス
民法第二百八十一條ノ規定ハ要役地カ抵當權ノ目的タル工場財團ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス
民法第三百九十八條ノ規定ハ地上權カ抵當權ノ目的タル工場財團ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　工場財團ノ登記ニ付テハ工場所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス
不動産登記法第八條第二項ノ規定ハ工場カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カリ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇ノ登記所ノ管轄地内ニ

在ル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　各登記所ニ工場財團登記簿ヲ備フ

第十九條　工場財團登記簿ハ一箇ノ工場財團ニ付一用紙ヲ備フ

第二十條　工場財團登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙ノ二區ニ分チ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各財團ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ工場財團ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第二十一條　登記ノ申請書ニハ不動產登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　工場ノ名稱及位置

二　主タル營業所

三　營業ノ種類

第二十二條　工場財團ニ付所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動產登記法第三十五條第一項ニ揭ケタル書面ノ外工場財團目錄ヲ提出スヘシ

前項ノ目錄ニハ工場財團ヲ組成スルモノノ表示ヲ揭ケ申請人之ニ署名、捺印スヘシ

第二十三條　所有權保存ノ登記ノ申番アリタルトキハ其ノ財團ニ屬スヘキモノニシテ登記アルモノニ付テハ登記官吏ハ職權ヲ以テ其ノ登記用紙中相當區事項欄ニ工場財團ニ屬スヘキモノトシテ其ノ財團ニ付所有權保存ノ登記ノ申請アリタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

前項ニ揭ケタルモノカ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ヲ遲滯ナク管轄登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ第一項ノ手續ヲ爲シ其ノ登記簿ノ謄本ヲ通知ヲ爲シタル登記所ニ送付スヘシ但シ其ノ謄本ニハ抹消ニ係ル事項ヲ記載スルコトヲ要セス

前三項ノ規定ハ工業所有權カ工場財團ニ屬スヘキ場合ニ之ヲ準用ス但シ通知ハ之ヲ特許局ニ爲スヘシ

第二十四條　前條ノ場合ニ於テ登記官吏ハ官報ヲ以テ工場財團ニ屬スヘキ動產ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間內ニ其ノ權利ヲ申出スヘキ旨ヲ公告スヘシ但シ其ノ期間ハ一箇月以上三箇月以下トス

前項ノ公告ハ所有權保存ノ登記ノ申請カ期間ノ滿了前ニ却下セラレタルトキハ遲滯ナク之ヲ取消スヘシ

第二十五條　前條第一項ノ期間內ニ權利ノ申出ナキトキハ其ノ權利ハ存在セサルモノト看做シ差押、假差押又ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ所有權保存ノ登記ノ申請カ却下セラレタルトキ又ハ其ノ登記カ效力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　第二十四條第一項ノ期間內ニ權利ノ申出アリタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ所有權保存ノ登記ノ申請人ニ通知スヘシ

第二十七條　所有權保存ノ登記ノ申請ハ不動產登記法第四十九條ニ揭ケ

タル場合ノ外左ノ場合ニ於テ之ヲ却下スヘシ

一　登記簿若ハ其ノ謄本又ハ登錄ニ關スル原簿ノ謄本ニ依リ工場財團ニ屬スヘキモノカ他人ノ權利ノ目的タルコト又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルコト明白ナルトキ

二　工場財團目錄ニ揭ケタルモノノ表示カ登記簿若ハ其ノ謄本又ハ登錄ニ關スル原簿ノ謄本ト牴觸スルトキ

三　工場財團ニ屬スヘキ動產ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者カ其ノ權利ヲ申出テタル場合ニ於テ遲クトモ第二十四條第一項ノ期間滿了後一週間內ニ其ノ申出ノ取消アラサルトキ又ハ其ノ申出ノ理由ナキコトノ證明アラサルトキ

第二十八條　登記官吏カ所有權保存ノ登記ノ申請ヲ却下シタルトキハ第二十三條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル記載ヲ抹消スヘシ

他ノ登記所又ハ特許局ニ所有權保存ノ登記ノ申請アリタル旨ヲ通知シタル場合ニ於テハ其ノ申請ヲ却下シタル旨ヲ遲滯ナク通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所又ハ特許局ハ第二十三條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依リテ爲シタル記載ヲ抹消スヘシ

第二十九條　工場財團ニ屬スヘキモノニシテ登記又ハ登錄アルモノハ第二十三條ノ記載アリタル後ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第三十條　第二十三條ノ記載アリタル後競賣申立ノ登記アリタル場合ニ於テハ所有權保存ノ登記ノ申請カ却下セラレサル間及其ノ登記カ效力ヲ失ハサル間ハ競落ヲ許ス決定ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條　第二十三條ノ記載アリタル後ニ爲シタル差押、假差押若ハ假處分ノ登記又ハ先取特權ノ保存ノ登記ハ抵當權設定ノ登記アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第三十二條　前條ノ規定ニ依リ差押、假差押又ハ假處分ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ差押、假差押若ハ假處分ノ命令ヲ取消スヘシ

第三十三條　工場財團ニ屬スヘキ動產ハ第二十四條第一項ノ公告アリタル後ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第二十四條第一項ノ公告アリタル後差押、假差押又ハ假處分アリタル場合ニ於テ抵當權設定ノ登記アリタルトキハ差押、假差押又ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十四條　登記官吏カ所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ財團ニ屬シタルモノノ登記用紙中相當區事項欄ニ工場財團ニ屬シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登記簿又ハ登錄ニ關スル原簿ノ謄本ノ送付ヲ要セス

第三十五條　所有權保存ノ登記アリタルトキハ工場財團目錄ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第三十六條　工場財團ノ抵當權設定ノ登記ノ申請ハ不動產登記法第四十九條ニ揭ケタル場合ノ外第十條ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ之ヲ却下スヘシ

第三十七條　登記官吏カ抵當權設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ第三十一條ノ規定ニ依リ效力ヲ失ヒタル登記ヲ抹消スヘシ

第二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登記

謄本ノ交付ヲ要セス

第三十八條　工場財團目錄ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ所有者ハ遲滯ナク工場財團目錄ノ記載ノ變更ノ登記ヲ申請スヘシ

前項ノ登記ノ申請書ニハ抵當權者ノ同意書又ハ之ニ代ルヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第三十九條　工場財團ニ屬スルモノニ變更ヲ生シ又ハ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ヲ申請スルトキハ變更シタルモノ又ハ新ニ屬シタルモノノ表示ヲ掲ケタル目錄ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ提出シタル目錄ハ工場財團目錄ニ編綴シ登記官吏其ノ綴目ニ契印スヘシ

第四十條　工場財團ニ屬スルモノニ變更ヲ生シタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ前ノ目錄中其ノモノノ表示ノ側ニ其ノモノニ變更ヲ生シタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

第四十一條　新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ前ノ目錄ノ末尾ニ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

第四十二條　工場財團ニ屬シタルモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ目錄中其ノ登記ノ目的タルモノノ表示ノ側ニ其ノモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ其ノモノノ表示ヲ朱抹スヘシ

第四十三條　第二十三條乃至第三十四條及第三十七條ノ規定ハ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條　工場財團ニ屬シタルモノニシテ登記アルモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ其ノモノノ登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ旨ヲ記載シ第二十三條及第三十四條ノ記載ヲ抹消スヘシ

前項ニ掲ケタルモノカ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル旨ヲ遲滯ナク管轄登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

前三項ノ規定ハ工場財團ニ屬シタル工業所有權カ消滅シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス但シ通知ハ之ヲ特許局ニ爲スヘシ

第四十五條　工場財團ノ差押、假差押又ハ假處分ハ工場所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

民事訴訟法第二十六條ノ規定ハ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管轄地ニ跨カリ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管轄地内ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條　裁判所ハ抵當權者ノ申立ニ因リ工場財團ヲ箇箇ノモノトシテ競賣又ハ入札ニ付スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

第四十七條　民事訴訟法第七百條又ハ競賣法第三十三條ノ規定ニ依リ登記ノ囑託ヲ爲スヘキ場合ニ於テ工場財團ノ抵當權カ競落ニ因リ消滅シタルトキハ勅判所ハ同時ニ工場財團ニ屬シタル土地、建物、船舶又ハ工業所有權ニ付第二十三條及第三十四條ノ記載ノ抹消及競落人ノ取得シタル權利ノ登記又ハ登錄ヲ管轄登記所又ハ特許局ニ囑託スヘシ

第四十八條　工場財團登記簿ハ所有權保存ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ抵當權ノ登記カ全部抹消セラレタルトキハ其ノ用紙ヲ閉鎖ス

ヘシ

第四十四條　第四十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　工場ノ所有者又ハ法律ニ依リ之ニ代リテ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者カ讓渡又ハ質入ノ目的ヲ以テ第二條ノ想定ニ依リ抵當權ノ目的タル物ヲ第三者ニ引渡シ又ハ引渡サシメタルトキハ十五日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

前項ニ規定シタル行爲ト雖刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ從フ

第五十條　工場ノ所有者カ抵當權ノ目的ト爲シタル物又ハ抵當權ノ目的ト爲シタル工場財團ニ屬スル物ヲ毀損シ又ハ毀損セシメタルトキハ刑法第四百十七條乃至第四百二十三條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十八年六月勅令第一八七號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

鑛業抵當法

（明治三十八年三月十三日法律第五十五號）

第一條　採掘權者ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鑛業財團ヲ設クルコトヲ得

第二條　鑛業財團ハ左ニ掲クルモノニシテ鑛業ニ關シ同一採掘權者ニ屬スルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得

一　鑛業權

二　土地及工作物

三　地上權及土地ノ使用權

四　賃貸人ノ承諾アルトキハ物ノ賃貸權

五　機械、器具、車輛、船舶、牛馬其ノ他ノ附屬物

第三條　鑛業財團ニ付テハ工場抵當法中工場財團ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條　採掘權取消ノ登錄アリタルトキハ鑛山監督署長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ直ニ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

採掘權ハ前項ノ期間内又ハ抵當權實行ノ終了ニ至ル迄抵當權實行ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル法人ハ採掘權取消ノ登錄アリタルトキニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

前二項ノ規定ハ錯誤ニ因リ鑛業ノ出願カ許可セラレタル場合又ハ鑛業カ公益ヲ害スルモノト認メラレタル場合ニ於ケル採掘權ノ取消ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五條　前條ノ規定ハ採掘權者カ廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條　競賣ニ付セラレタル鑛業ヲ目的トシ帝國法律ニ從ヒ法人ヲ設立セムトスル者カ競賣ニ加入スルトキハ競賣ノ申込ト同時ニ其ノ旨ヲ執行裁判所ニ申出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競賣ノ申込ニ關シテハ連帶シテ其ノ責ニ任ス

第七條　鑛業財團ノ競落人カ前條第一項ノ規定ニ依リ競賣ニ加入シタル者アルトキハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月内ニ法人ヲ設立シ之ヲ執行裁判所ニ届出ツヘシ

第八條　前條ノ競落人ハ法人設立ノ日ヨリ一週間以内ニ競落代金ノ執行裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落

代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第九條　前條ノ規定ニ依ル競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鑛業財團ノ所有權ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル法人ニ移轉ス

第十條　第七條ノ期間内ニ法人設立ノ届出ナキトキ又ハ第八條ノ期間内ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ鑛業財團ノ再競賣ヲ命スヘシ

前項ノ再競賣ニ關シテハ民事訴訟法第六百八十八條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　工場抵當法中工場財團ニ關スル罰則ハ鑛業財團ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十八年六月勅令第一八八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

第六節　著作權

著作權法（明治三十二年三月四日法律第三十九號）

【沿革】明治四十三年六月法律第六三號、同九年八月同第六〇號改正

第一章　著作者ノ權利
第二章　僞作
第三章　罰則
第四章　附則
著作權法

第一章　著作者ノ權利

第一條　文書演述圖畫建築彫刻模型寫眞演奏歌唱其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス

第二條　著作權ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第三條　發行又ハ興業シタル著作物ノ著作權ハ著作者ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス

第四條　著作者ノ死後發行又ハ興行シタル著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第五條　無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ其期間内ニ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ第三條ノ規定ニ從フ

第六條　官公衙學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第七條　著作權者原著作物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ヲ消滅セス

第八條　冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス

一部分ツヽヲ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第九條　前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十條　相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十一條　左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲スコトヲ得ス

一　法律命令及官公文書

二　新聞紙ニ記載シタル雜報及時事ノ記事

三　公開セル裁判所、議會並政談集會ニ於テ爲シタル演說

第十二條　無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ各著作者ノ共有ニ屬ス各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作者中ニ其發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ自己ノ部分ヲ分離シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作者ノ意ニ反シテ其氏名ヲ其ノ著作物ニ揭クルコトヲ得ス

第十四條　數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノミ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬ス

第十五條　著作權ノ相續讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ其ノ實名ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十六條　登錄ハ行政廳之ヲ行フ

登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押ヲ受クルコトナシ但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　著作權ヲ承繼シタル者ハ著作者ノ同意ナクシテ其ノ著作者ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得ス

第十九條　原著作物ニ訓點、傍訓、句讀、批評、註解、附錄、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正增減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　新聞紙ニ揭載シタル記事ニ關シテハ小說及文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ヲ除ク外著作權者カ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得

第二十一條　翻譯者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著作者ノ權利ハ之カ爲ニ妨ケラルルコトナシ

第二十二條　原著作物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ屬製シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十三條　寫眞著作權ハ十年間繼續ス

前項ノ期間ハ此ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セサルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著作物ノ著作權ト同一ノ期間內本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ノ制限ニ從フ

第二十四條　文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作者ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間內繼續ス

第二十五條　他人ノ囑託ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑託者ニ屬ス

第二十六條　寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ準用ス

第二十七條　著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セサルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

第二十八條　外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限リ本法ノ保護ヲ享有ス

第二章　僞作

第二十九條　著作權ヲ侵害シタル者ハ僞作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規定ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三十條　既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルトキハ僞作ト看做サス

第一　發行スルノ意思ナク且器機的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スルコト

第二　自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍內ニ於テ節錄引用スルコト

第三　普通敎育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍內ニ於テ拔萃蒐輯スルコト

第四　文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第五　文藝學術ノ著作物ヲ說明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ說明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六　圖畫ヲ彫刻物模型ニ作リ又ハ彫刻模型ヲ圖畫ニ作ルコト

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十一條　帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ僞作物ヲ輸入スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十二條ノ二　活動寫眞術ニ依リ他人ノ著作物ヲ複製シ又ハ興行スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十二條ノ三　音ヲ器械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ他人ノ著作物ヲ寫調スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十三條　善意ニシテ且過失ナク僞作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之カ爲ニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十四條　敎人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ僞作ニ對シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分ニ對スル損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應シテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條　僞作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既ニ發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作者トシテ氏名ヲ揭ケタル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作物ニ發行者トシテ氏名ヲ揭ケタル者ヲ以テ其ノ發行者ト推定ス

未タ發行セサル脚本及樂譜ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作者トシテ氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

著作者ノ氏名ヲ顯ハササルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

第三十六條　僞作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ假ニ僞作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ差止メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ僞作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三章　罰則

第三十七條　僞作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ僞作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條　第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者竝第十三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　著作權ノ消滅シタル著作物ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條　虛僞ノ登錄ヲ受ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　僞作物及專ラ僞作ノ用ニ供シタル器械器具ハ僞作者印刷者發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限リ之ヲ沒收ス

第四十四條　本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作者ノ死亡シタルトキ竝第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條　本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第四章　附則

第四十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年六月勅令第三一三號ヲ以テ同年七月十五日ヨリ施行）

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫眞版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條　本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

第四十八條　本法施行前僞作ト認メラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シ

タルモノ又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施行後五年間仍其ノ複製ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條　本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年内ニ發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得

第五十條　本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ興行スルコトヲ得

第五十一條　第四十八條至乃第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

第五十二條（創除）

著作權者不明ノ著作物ニ關スル件

（明治三十二年六月二十八日）
（内務省令第二十七號）

著作權法第二十七條ニ依リ著作物ヲ發行又ハ興行セントスル者ハ其ノ由著作物ノ題號及著作者ノ氏名稱號等ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙竝ニ著作者ノ氏名住所明ナル場合ハ其ノ居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告スヘシ

前項期日ノ最終日ヨリ六箇月以内ニ著作權者ノ出テサルトキハ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

著作權登錄手續

（明治四十三年六月十五日）
（内務省令第二十三號）

【沿革】大正十二年一月省令第一號昭和二年十二月同第四八號改正

第一條　著作權ニ關スル登錄ヲ受ケムトスル者ハ本手續ニ依リ内務大臣ニ願出ヘシ

第二條　登錄願書ニハ左ノ區別ニ從ヒ各列記事項ヲ記載スルヲ要ス

一　相續登錄ノ場合
　著作物ノ題號及冊（箇）數
　著作權者ノ氏名
　相續人ノ氏名、住所（外國人ハ國籍及住所）

二　讓渡又ハ質入登錄ノ場合
　著作物ノ題號及冊（箇）數
　讓渡人又ハ質入人ノ氏名、住所（外國人ハ國籍及住所）
　讓受人又ハ質取人ノ氏名、住所（外國人ハ國籍及住所）
　質入登錄ノ場合ハ課稅價格

二ノ二　信託登錄ノ場合
　著作物ノ題號及冊（箇）數
　委託者、受託者、受益者及信託管理人ノ氏名住所（外國人ハ國籍及住所）

三　實名登錄ノ場合
　著作物ノ題號及冊（箇）數
　著作者ノ稱號若無名著作物ナルトキハ其旨
　著作者ノ氏名、住所（外國人ハ國籍及住所）
　發行者ノ氏名、住所（外國人ハ國籍及住所）

四　質權相續登錄ノ場合
　著作物ノ題號及冊（箇）數
　質入登錄ノ年月日及番號
　質權讓渡人ノ氏名、住所（外國人ハ國籍及住所）
　質權讓受人ノ氏名、住所（外國人ハ國籍及住所）

五　質權讓渡登錄ノ場合
　著作物ノ題號及冊（箇）數
　質入登錄ノ年月日及番號
　質取人ノ氏名
　相續人ノ氏名、住所（外國人ハ國籍及住所）

六　登錄ノ更正、變更、抹消ノ場合
　著作物ノ題號及冊（箇）數
　登錄ノ年月日及番號
　更正、變更、抹消ノ事項及其ノ理由
　願人ノ氏名、住所

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ願書ニ著作物ノ明細書ヲ添付スルノ外尚第一號及第四號ノ場合ニ於テハ戸籍謄本ヲ添付スヘシ

第二條ノ二　登錄稅法施行規則第四條第一項ノ場合ニ於テハ登錄官廳ニ於テ登記又ハ登錄ヲ受ケタルトキハ登錄願書ニ其ノ登記所又ハ登錄官廳ノ受付シタル受領書ノ添付スヘシ

第三條　著作物ノ明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス

一　著作物ノ題號
二　著作者ノ氏名稱號
三　著作ノ年月日
四　發行又ハ興行ノ年月日若發行又ハ興行ヲ爲ササルトキハ其ノ旨
五　著作物ノ内容又ハ體裁若著作物ノ體裁ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナルトキハ其ノ圖面
六　著作物ニ付登錄ヲ受ケタルコトアル場合ハ前登錄ノ年月日

第四條　内務大臣ハ第一條ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄簿ニ登錄シ官報ニ報告ス

第四條ノ二　登錄稅法施行規則第四條第一項ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ後ニ登記又ハ登錄ヲ申請スヘキ登記所又ハ登錄官廳ノ數ニ應シ課稅價額ヲ記載シタル登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スルモノトス但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附ス

第五條　登錄簿ノ閲覽又ハ其ノ謄本若クハ抄本ノ下付ハ何人モ之ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ書面ヲ以テシ且ツ登錄ノ年月日若クハ登錄番號ヲ記入スヘシ

第六條　前條ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　登錄簿ノ閲覽　　金參拾錢
二　登錄簿謄本ノ下付　原簿一枚毎ニ　金壹拾錢
三　登錄簿抄本ノ下付　　金貳拾錢

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ用ユルモノトス

第七條　登錄簿ノ閲覽ニ關スル日時ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十三年法律第六十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年内務省令第二十八號ハ之ヲ廢止ス

陸軍軍人軍屬著作規則

（明治三十八年十二月一日）
（陸達第五十五號）

第一條　本規則ニ於テ著作ト稱スルハ著作物ヲ出版シ又ハ雜誌新聞紙ニ

ヲ意見ヲ掲載スルヲ謂フ

第二條　著作ヲ爲サムトスルトキハ學術技藝ニ關スルモノノ外所屬長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　學術ニ關スル著作ト雖現行ノ制度規則ニ對シ評論ヲ加フルトキハ所屬長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　軍事上ノ妨害ト爲リ其ノ他軍紀ニ害アル著作ヲ爲スヘカラス

第五條　軍事其ノ他官廳ノ秘密ニ關シ公ニセサル事項ノ記述ニ關シテハ一般ノ規定ニ依ル

第六條　前諸條ニ規定スルモノノ外著作ニ關シテハ所屬長官ノ監督ヲ受クルモノトス

第七節　競　賣

競　賣　法

（明治三十一年六月二十一日法律第十五號）

【沿革】十正十五年四月法律第六號改正

第一章　通則

第一條　競賣ノ申込ハ他ノ高價競賣ノ申込アリタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣ヲ終了シタルトキハ當然其效力ヲ失フ

第二條　競買人ハ競落ニ因リテ競賣ノ目的タル權利ヲ取得ス

競賣ノ目的ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競落ニ因リテ消滅ス

競買人ハ留置權者、競賣人ニ對シテ優先權ヲ有スル質權者及ヒ其質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ辨濟スルニ非サレハ競賣ノ目的物ヲ受取ルコトヲ得ス

第三條　動產ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者其他民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ其競賣ヲ爲サントスル者ノ委任ニ因リ競賣ヲ爲スヘキ仙ノ區裁判所所屬ノ執達吏之ヲ爲ス

前項ノ委任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條　競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其競賣人ト爲ルコトヲ得ス

債權者ノ委任ニ因リテ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ債務者ハ現金ヲ以テ代價ヲ提供スルニ非サレハ其競買ノ申込ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　競賣ハ競賣ニ付スヘキ物ノ現在地ニ於テ之ヲ爲ス但其地ニ於テ相當ノ代價ヲ得ル見込ナキトキハ他所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第六條　競賣ノ日時ハ執達使カ其委任ヲ受ケタルトキ直チニ之ヲ定ムルコトヲ要ス但直チニ之ヲ定ムルコト能ハサル事情アルトキハ此限ニ在ラス

第七條　競賣ノ場所及日時ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ要ス

公告ハ競賣ニ付スヘキ物ノ品質及ヒ價格ニ準シ競賣地ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　競賣委任者ノ氏名、住所

二　競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及品質

三　競賣ノ條件ヲ定メタルトキハ其條件

四　競賣ノ場所及ヒ年月日時

五　競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ノ氏名、住所

委任者カ競賣ノ條件ヲ定メサリシトキハ民事訴訟法第五百七十七條第三項ノ規定ヲ準用ス

第八條　競賣ノ場所及ヒ競時ハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第九條　公告ト競賣トノ間ニハ五日以上ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス但競賣ニ付スヘキ物ニ關シ之ヨリ速ニ競賣ヲ爲スコトヲ要スル特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス

第十條　高價品ノ競賣ハ鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシメタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條　金銀及ヒ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

取引所ノ相場アル物ハ其相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

第十二條　前條ニ揭ケタル物ヲ競賣スル場合ニ於テ競賣ノ日ニ相當ナル競賣ノ申込ナキトキハ執達吏ハ金銀及ヒ金銀ノ製品ニ付テハ地金銀ノ相場以上ノ代價、取引所ノ相場アル物ニ付テハ競賣ノ日ノ相場以上ノ代價ヲ以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第十三條　競賣ハ其條件ヲ告知シ各競賣物ニ付キ競買ノ申込ヲ催告スルニ始マリ最高價競買ノ申込人ニ對シ競落ノ告知ヲ爲スニ因リテ終了ス

競落ノ告知ハ最高價競買ノ申込ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

第十四條　執達吏ハ競賣調書ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シ署名捺印スヘシ

一　競賣委任者ノ氏名、住所

二　競賣ニ付スヘキ物ノ種類數量及ヒ品質

三　鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタルトキハ其評價額

四　競賣ノ場所及ヒ日時

五　第九條但書ノ事由アリタルトキハ其事由

六　利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知ヲ發シタルコト若シ之ヲ發セサリシトキハ其事由

七　告知シタル競賣ノ條件

八　各競賣物ニ對スル競落人ノ氏名及ヒ其申込價額

九　競賣ヲ停止シタルトキ又ハ競落ヲ爲ササリシトキハ其事由

十　競賣ノ開始及ヒ完結ノ日時

十一　競賣調書ヲ作リタル場所及ヒ年月日

競賣調書ニハ委任者又ハ其代理人ヲシテ署名、捺印セシメ且競買ノ公告ヲ爲シ及ヒ通知ヲ發シタルコトヲ證スル書面及ヒ委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス

執達吏ハ委任者ノ請求ニ因リ競賣調書ノ謄本ヲ交付スルコトヲ要ス

第十五條　執達吏ハ競賣ノ完結後賣得金ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金及ヒ競落セサリシ物ハ遲滯ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付シ又ハ其者ノ爲メニ之ヲ供託スルコトヲ要ス

第十六條　執達吏ハ競賣ニ付キ正副二通ノ計算書ヲ作リ其正本ハ計算ニ關スル證明書ト共ニ之ヲ委任者ニ交付シ其副本ハ之ヲ競賣調書ニ添附スヘシ

第十七條　競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ競賣ノ完結ニ至ルマテ其手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付キ其所屬區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ裁判ハ申立人ニ之ヲ通知スヘシ此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツ

ルコトヲ得ス

異議ノ裁判ハ之ヲ以テ善意ノ競落人ニ對抗スルコトヲ得ス

第十八條　前條ノ規定ニ依リテ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ競賣ノ停止ヲ命スルコトヲ得但停止ニ因リテ著シキ損害ヲ生スル虞アルトキハ此限ニ在ラス

第十九條　第三者カ競賣ノ目的物ニ關シテ訴ヲ提起シタルコトヲ證明シタルトキハ執達吏ハ其競賣ヲ停止スルコトヲ要ス

物ノ保管ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ又ハ遲滯ノ爲メ著シク物ノ價格ヲ減少スル虞アルトキハ執達吏ハ競賣ヲ續行シテ賣得金ヲ供託スルコトヲ得

第二十條　前二條ノ規定ニ依リテ競賣ヲ停止シタル場合ニ於テハ執達吏ハ相當ノ方法ヲ以テ競賣ノ目的物ヲ保管スルコトヲ要ス此場合ニ於ケル競賣手續及ヒ保管ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第二十一條　競賣ノ委任ハ競落ノ告知アルマテハ之ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル競賣手續ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第三章　不動產ノ競賣

第二十二條　不動產ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者、抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サントスル者ノ申立ニ因リ不動產所在地ノ區裁判所之ヲ爲ス

民事訴訟法第六百四十一條第一項ノ規定ハ競賣ヲ爲スヘキ裁判所ノ管轄ニ之ヲ準用ス

第二十三條　申立人ハ競法期日マテハ最高價競賣申込人ノ同意アル場合ニ限リ其申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　競賣ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一　債務者及ヒ所有者ノ氏名、住所

二　競賣ニ付スヘキ不動產ノ表示

三　競賣ノ原因タル事由

四　年月日

五　裁判所

申立書ニハ競賣ニ付スヘキ不動產ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ第一項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第二十五條　競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ氏名、住所及ヒ前條第二項第一號乃至第四號ニ揭ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名、捺印スヘシ

民事訴訟法第二百三十九條ノ規定ハ開始決定ニ之ヲ準用ス

第二十六條　裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ヲ付スヘキ不動產ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘシ

民事訴訟法第六百五十一條第二項第六百五十二條及ヒ第六百五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　裁判所カ開始決定ヲ爲シタルトキハ競賣期競及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

競賣ノ期日ハ競賣手續ノ利害關係人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

一　申立人

二　債務者及ヒ所有者

三　登記簿ニ登記シタル不動產上ノ權利者

四　不動產上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

第二十八條　裁判所ハ鑑定人ヲシテ競賣ニ付スヘキ不動產ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額トスヘシ

第二十九條　競賣期日ノ公告ニハ第二十二條ニ揭ケタル者ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號第五號乃至第七號第九號及ヒ第十號ニ揭ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百六十一條ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

第三十條　競賣期日、其開始、競賣調書及ヒ競賣終局ノ告知ニ關スル民事訴訟法第六百五十九條第六百六十二條乃至第六百六十九條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第三十一條　競賣期日ニ相當ノ競賣申込ナキトキハ裁判所ハ更ニ期日ヲ定メテ競賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　競落期日ハ民事訴訟法第六百六十條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

競落ノ手續、競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日、競賣ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事訴訟法第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條及ヒ第六百八十八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第三十三條　競落人ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル後直チニ代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ其裁判ノ謄本ヲ添ヘ競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘシ

裁判所ハ前項ノ代價ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ハ遲滯ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ要ス

第三十四條　裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス前申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

第三十五條　競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ

第四章　船舶ノ競賣

第三十六條　登記シタル船舶ノ競賣ハ申立ニ因リ其當時ノ碇舶港又ハ船舶ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス

第三十七條　競賣ノ申立書ニハ船舶所有者竝ニ船長ノ氏名、住所、船舶ノ表示及ヒ競賣ノ原因ヲ記載シ且船舶登記簿ノ謄本及ヒ官ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其認可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十八條　競賣期日ノ公告ニハ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外船舶ノ表示及ヒ其碇泊港又ハ現在ノ場所ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條　前章ノ規定及ヒ民事訴訟法第七百十九條第七百二十條第二項第七百二十三條第七百二十五條ノ規定ハ船舶ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第五章　增價競賣

第四十條　民法第三百八十四條ノ規定ニ依リテ抵當不動產ノ增價競賣ノ請求スル債權者ハ第三取得者ニ競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日內ニ抵當不動產所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且擔保ノ認許ヲ求

ムルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ラサル競賣ノ請求ハ無效トス

第四十一條　競賣ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求債權者之ニ署名捺印スヘシ

一　債務者ノ氏名、住所

二　抵當不動產ノ表示

三　第三取得者及ヒ讓渡人ノ氏名、住所

四　擔保ノ表示

五　第三取得者カ提供シタル金額

六　請求者カ定メタル增價金額

七　年月日

八　裁判所

申立書ニハ民法第三百八十三條ノ送達ヲ受ケタル日ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百四十三條第一項第三號乃至第五號第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ申立ニ之ヲ準用ス

第四十二條　裁判所ハ擔保ノ許否ニ付キ期日ヲ定メ決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ

期日ニハ請求債權者及ヒ第三取得者ヲ呼出スヘシ

擔保ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十三條　競賣ノ請求ハ擔保ヲ認許セサル裁判ニ因リテ當然其效力ヲ失フ

民法第三百八十四條ニ定メタル期間內ニ第三取得者ニ對シテ競賣ノ請求書ノ送達シタル他ノ債權者ハ前項ノ裁判アリタル日ヨリ三日內ニ第四十條ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　裁判所カ擔保ヲ認許シタルトキハ競賣手續ノ開始ノ決定ヲ爲スヘシ

決定ニハ認許シタル擔保ヲ表示シ且第四十一條第一項第一號乃至第三號第六號及ヒ第七號ニ揭ケタル事項ヲ記載スヘシ

第二十五條第二項第三項及ヒ第二十六條第一項ノ規定ハ本條ノ決定ニ之ヲ準用ス

第四十五條　第二十七條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ增價競賣ニ之ヲ準用ス

左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

一　競賣請求者

二　債務者

三　第三取得者及ヒ讓渡人

四　登記簿ニ登記シタル不動產上ノ權利者

五　不動產上ノ權利者トシテ其權利ノ證明シタル者

第四十六條　競賣ノ公告ニハ增價競賣ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨及ヒ請求者ノ定メタル增價金額ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號第五號第七號第九號及ヒ第十號ニ揭ケタル事項ヲ記載スヘシ

第三十三條及ヒ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十九條、第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十六條、第六百八十七條ノ規定ハ本章ノ競賣及ヒ競落ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四十七條　競賣期日ニ請求債權者カ定メタル增價金額ニ達スル競賣ノ申込ナキトキハ請求債權者ヲ以テ競落人トス

民事訴訟法第六百七十八條ノ規定ニ依リ最高價競買人カ其競買ヲ取消シタルトキハ裁判所ハ更ニ競賣期日及競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四十八條　增價競賣ノ擔保ハ競落代價ノ完濟ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ

第四十九條　裁判所ハ競賣請求者ノ申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

附　則

第五十條　本法施行ノ日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十一年六月勅令第一二三號ヲ以テ同年七月十六日ヨリ施行）

第五十一條　明治二十三年法律第九十二號增價競賣法ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附　則

本法ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年五月勅令第一〇五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

土地抵當權ア ル外國人增價競賣請求ニ關スル件

（明治三十二年三月十六日法律第六十七號）

土地ノ抵當權者ナル外國人カ增價競賣ヲ請求スルニハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上高價ニ抵當不動產ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ提供金額ニ十分ノ一ヲ加ヘタルモノト競落價額トノ差額ヲ負擔スヘキ旨ヲ附言スルコトヲ要ス

（參考）明治四十三年四月法律第五一號ヲ以テ改正セラレタルモ未施行ニ付訂正セス

第八節　供託

供託法（明治三十二年二月八日法律第十五號）

【沿革】大正十年四月法律第六九號改正

第一條　法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ供託局ニ於テ之ヲ保管ス

第一條ノ二　前條ノ規定ニ依ル供託ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第一條ノ三　利害關係人ハ供託官吏ノ處分ニ對シ供託局ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第一條ノ四　抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ供託官吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

第一條ノ五　供託官吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ書類ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ之ヲ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第一條ノ六　裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ供託官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲シ供託官吏及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第一條ノ七　前條ノ規定ニ依リ抗告ヲ却下スル決定ニ對シテハ法律違背ヲ理由トスルトキニ限リ非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ抗告ニ付爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二條　供託局ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作リ供託物ニ添ヘテ之ヲ差出スコトヲ要ス

第三條　供託金ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ利息ヲ付スルコトヲ要ス

第四條　供託局ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條　司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者又ハ銀行ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者又ハ銀行ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限リ之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第六條　倉庫營業者又ハ限行ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作リ供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條　倉庫營業者又ハ限行ハ第五條第一項ノ規定ニ依ル供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條　供託物ノ還付ヲ請求スル者ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ其權利ヲ證明スルコトヲ要ス

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト、供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條　供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定タシルトキハ其供託ハ無效トス

第十條　供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託者ノ書面又ハ裁判、公正證書其ノ他ノ公正ノ書面ニ依リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附　則

第十一條　本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條　本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條　第四條、第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條　明治二十三年勅令第百四十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附　則　（大正十年四月法律第六九號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年二月勅令第二八號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

本法施行前爲シタル供託ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

供託局所在地外ニ於テハ司法大臣ハ當分ノ內其ノ適當ト認ムル銀行ヲシテ第一條ノ規定ニ依ル供託事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

供託物取扱規則

（大正十一年三月一日司法省令第二一號）

【沿革】大正十二年四月省令第七號改正

第一條　金錢及有價證券ノ供託ニ關スル手續ハ本令ニ依ル

第二條　供託ヲ爲サムトスル者ハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第二號書式ノ供託通知書ヲ添附スヘシ

供託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　供託者ノ氏名住所、官吏公吏其ノ職務上爲ス供託ニ付テハ其ノ官公職氏名及所屬官公署ノ名稱、代理人ニ依ル場合ニ於テハ其ノ代理人ノ氏名住所

二　供託金額、有價證券ニ付テハ其ノ種類記號番號枚數券面額及拂込額

三　供託ノ原因タル事實及法令ノ條項

四　供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ表示若之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ其ノ事由

五　反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物ノ表示其ノ他供託物ヲ受取ルニ付テノ條件

第三條　供託官吏供託ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ大藏大臣ノ定ムル預金部領金ノ取扱ニ關スル規定又ハ供託有價證券ノ取扱ニ關スル規定ニ從ヒ拂込書ヲ作成シ且供託書ニ供託受理ノ記載ヲ爲シテ之ニ捺印シ拂込書及供託書ノ一通ヲ供託者ニ交付シ供託物ヲ日本限行ニ納入セシムヘシ

供託官吏日本銀行ヨリ大藏大臣ノ定ムル預金部預金取扱ニ關スル規定又ハ日本銀行ノ供託有價證券ノ取扱ニ關スル規定ニ依ル供託物受領ノ證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ前條第一項ノ供託通知書ヲ債權者ニ發送スヘシ

第三條ノ二　供託金ノ受入ヲ取扱フ供託局ニ金錢ノ供託ヲ爲サムトスル者ハ第二條ノ供託書ト共ニ供託金ヲ提出スヘシ

供託官吏供託ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ供託書ノ一通ニ受領ヲ證シテ之ヲ供託者ニ交付シ且第二條第一項ノ供託通知書ヲ債權者ニ發送スヘシ

第四條　供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ノ代供託又ハ附屬供託ヲ請求セムトスル者ハ第三號書式ノ代供託請求書又ハ附屬供託請求書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ第三條第一項ノ拂込書及大藏大臣ノ定ムル供託有價證券ノ取扱ニ關スル規定ニ依ル拂渡請求書ヲ作成シ且代供託請求書又ハ附屬供託請求書ニ請求受理ノ旨ヲ記載シテ之ニ捺印シ拂込書、拂渡請求書及代供託請求書又ハ附屬供託請求書ノ一通ヲ請求者ニ交付シ之ヲ日本銀行ニ提出セシムヘシ

第五條　供託物ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ノ供託物還付請求書（供託物カ有價證券ナルトキハ請求書二通）ニ左ニ揭クル書類ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ提出スヘシ

一　供託物受入ノ記載アル供託書

二　辨濟供託ニ在リテハ供託通知書

三　法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

四　裁判ニ依リテ定マリタルトキハ執行力アル裁判ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

五　反對給付ヲ爲スヘキトキハ供託法第十條ノ規定ニ依ル證明書類

第六條　供託物ノ取戻ヲ爲サムトスル者ハ第五號書式ノ供託物取戻請求書（供託物カ有價證券ナルトキハ請求書二通）ニ左ニ揭クル書類ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ提出スヘシ

一　供託物受入ノ記載アル供託書

二　債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シタル債權者ノ書面及供託ヲ有效ト宣告シタル確定判決ナキコトヲ證スル書面

三　民法第四百九十六條第二項ノ場合ニ該當セサルコトヲ證スル書面
四　供託ノ原因消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スルニ足ル裁判ノ正本其ノ他ノ書面

第七條　供託者供託ヲ爲シタル供託局ノ預金取扱店タル日本銀行所在地外ノ日本銀行ニ於テ供託金ノ還付又ハ取戻ヲ爲サムトスルトキハ第五條又ハ前條ノ請求書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第八條　供託官吏供託金ノ還付又ハ取戻ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出シテ供託書ト引換ニ請求者ニ交付スヘシ但シ內渡ノ場合ニ於テハ供託書ニ其ノ額ヲ記載シテ之ヲ請求者ニ返還スヘシ

供託金ノ還付又ハ取戻ニ付前條ノ請求アリタルトキハ供託官吏ハ大藏大臣ノ定ムル預金部預金ノ他店拂ニ關スル規定ニ依ル手續ヲ爲シ第六號書式ノ供託金支拂通知書ヲ請求者ニ交付シ指定ノ日本銀行ヨリ供託金ノ還付又ハ下戻ヲ受ケシムヘシ

第九條　供託官吏供託有價證券ノ還付又ハ取戻ノ請求ニ理由アリト認ムルトキハ供託物還付請求書又ハ供託物取戻請求書ノ一通ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ請求者ニ交付シ日本銀行ヨリ有價證券ノ還付又ハ下戻ヲ受ケシムヘシ

第十條　請求者カ第五條及第六條ノ規定ニ依ル書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ供託官吏ハ利害關係人ニ對シ供託物ノ還付又ハ下戻ニ異議アラハ一定ノ期間內ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

供託官吏ハ前項ノ期間經過後ニ非サレハ供託物ノ還付又ハ下戻ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求者カ利害關係人ノ承諾書ヲ提出シタルトキハ之ヲ適用セス

第十一條　配當其ノ他供託物ノ分割拂渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ供託者ハ第七號書式ノ支拂委託書ニ供託物受入ノ記載アル供託書ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ送付シ分割拂渡ヲ受クヘキ者ニ第八號書式ノ證明書ヲ交付スヘシ

分割拂渡ヲ受クヘキ者カ前項ノ證明書ヲ提出シテ供託物拂渡ノ請求ヲ爲シタルトキハ供託官吏ハ第八條及第九條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條　保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者利札ヲ受取ラムトスルトキハ第九號書式ノ供託有價證券利札請求書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ其ノ一通ヲ請求書ニ交付シ日本銀行ヨリ利札ヲ受取ラシムヘシ

第十三條　供託金ノ利息ハ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ノ受取人ト利息ノ受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ

保證トシテ金錢ヲ供託シタル場合ニ於テ供託カ一年以上繼續スルトキハ其ノ利息ハ每年六月ニ於テ前月迄ニ生シタル金額ヲ計算シ供託者又ハ之ヲ受取ルヘキ者ニ拂渡スヘシ

第十四條　前條第一項ノ利息ノ拂渡ヲ受ケムトスル者ハ第十號書式ノ供託金利息請求書二通、同第二項ノ利息ノ拂渡ヲ受ケムトスル者ハ第十一號書式ノ供託金利息請求書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ前項ノ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ其ノ一通ヲ請求者ニ交付シ日本銀行ヨリ利息ヲ受取ラシムヘシ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年大藏省令第六號供託取扱規程ハ之ヲ廢止ス

銀行ニ於テ爲ス供託法第一條ノ供託事務取扱ニ關スル件

（大正十一年三月一日　司法省令第四號）

銀行ニ於テ爲ス供託法第一條ノ供託事務取扱ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　銀行ニ於テ爲ス供託法第一條ノ供託事務ノ取扱ハ本令ニ依ル

第二條　供託ヲ爲サムトスル者ハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託物ト共ニ銀行ニ提出スヘシ但シ辨償供託ニ付テハ第二號書式ノ供託通知書ヲ添附スヘシ

供託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　供託者ノ氏名住所、官吏公吏其ノ職務上爲ス供託ニ付テハ其ノ官公職氏名及所屬官公署ノ名稱、代理人ニ依ル場合ニ於テハ其ノ代理人ノ氏名住所

二　供託金額、有價證券ニ付テハ其ノ種類記號番號枚數券面額及拂込額

三　供託ノ原因タル事實及法令ノ條項

四　供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ表示若之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ其ノ事由

五　反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物ノ表示其ノ他供託物ヲ受取ルニ付テノ條件

第三條　銀行供託ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ供託書ノ一通ニ受領ヲ證シテ之ヲ供託者ニ交付スヘシ

銀行前項ノ手續ヲ終リタルトキハ直ニ前條第一項ノ供託通知書ヲ債權者ニ發送スヘシ

第四條　供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ノ代供託又ハ附屬供託ヲ請求セムトスル者ハ第三號書式ノ代供託請求書又ハ附屬供託請求書二通ヲ銀行ニ提出スヘシ

銀行前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ代供託請求者又ハ附屬供託請求書ノ一通ニ受領ヲ證シテ之ヲ請求書ニ交付スヘシ

第五條　供託物ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ノ供託物還付請求書ニ左ニ揭クル書類ヲ添附シテ之ヲ銀行ニ提出スヘシ

一　供託物受入ノ記載アル供託書

二　辨濟供託ニ在リテハ供託通知書

三　法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

四　裁判ニ依リテ定マリタルトキハ執行力アル裁判ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

五　反對給付ヲ爲スヘキトキハ供託法第十條ノ規定ニ依ル證明書類

第六條　供託物ノ取戻ヲ爲サムトスル者ハ第五號書式ノ供託物取戻請求書ニ左ニ揭クル書類ヲ添附シテ之ヲ銀行ニ提出スヘシ

一　供託物受入ノ記載アル供託書

二　債權者カ供託ヲ受託セサル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シタル債權者ノ書面及供託ヲ有效ト宣告シタル確定判決ナキコトヲ證スル書面

三　民法第四百九十六條第二項ノ場合ニ該當セサルコトヲ證スル書面

四　供託ノ原因消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スルニ足ル裁判ノ正本其ノ他ノ書面

第七條　銀行供託物ノ還付又ハ取戻ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ供

託書ト引換ニ供託物ノ還付又ハ下戻ヲ爲スヘシ但シ内渡ノ場合ニ於テハ供託官吏ハ請求者ヲシテ公告費用ヲ豫約セシムルコトヲ得

前二項ニ規定スル司法大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　請求者カ第五條及第六條ノ規定ニ依ル書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ銀行ハ利害關係人ニ對シ供託物ノ還付又ハ下戻ニ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

銀行ハ前項ノ期間經過後ニ非サレハ供託物ノ還付又ハ下戻ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　配當其ノ他供託物ノ分割拂渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ供託者ハ第六號書式ノ支拂委託書ニ供託物受入ノ記載アル供託書ヲ添附シテ之ヲ銀行ニ送付シ分割拂渡ヲ受クヘキ者ニ第七號書式ノ證明書ヲ交付スヘシ

前二項ノ規定ハ請求者カ利害關係人ノ承諾書ヲ提出シタルトキハ之ヲ適用セス

分割拂渡ヲ受クヘキ者カ前項ノ證明書ヲ提出シテ供託物拂渡ノ請求ヲ爲シタルトキハ銀行ハ第七條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者利札ヲ受取ラムトスルトキハ第八號書式ノ供託有價證券利札請求書ヲ銀行ニ提出スヘシ

銀行前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ受領書ヲ徴シテ請求者ニ利札ヲ交付スヘシ

第十一條　供託金ノ利息ハ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ノ受取人ト利息ノ受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ

保證トシテ金錢ヲ供託シタル場合ニ於テ供託カ一年以上繼續スルトキハ其ノ利息ハ毎年六月ニ於テ前月迄ニ生シタル金額ヲ計算シ供託者又ハ之ヲ受取ルヘキ者ニ拂渡スヘシ

供託金ノ利息　（大正十一年三月一日司法省令第三號）

供託法第三條ニ依ル供託金ノ利息ハ一箇年三歩六厘ト定ム

前項ノ利息ハ供託金受入ノ月及拂渡ノ月ハ其ノ金額ニ對シテ之ヲ付セス

供託金ノ一圓未滿ノ端數ニ對シ亦同シ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

供託物ノ還付又ハ取戻ヲ請求スル場合ニ關スル件　（大正十一年三月二十九日勅令第七十五號）

供託物ノ還付又ハ取戻ヲ請求スル者カ其ノ還付又ハ取戻ノ請求ニ付司法大臣ノ定ムル書類ヲ提出スルコト能ハサル場合ニ於テ供託官吏必要ト認ムルトキハ請求者ヲシテ其ノ還付又ハ取戻ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保トシテ現金又ハ國債ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ供託官吏カ司法大臣ノ定ムル公告ノ手續ヲ爲ストキハ供託官吏ハ請求者ヲシテ公告費用ヲ豫約セシムルコトヲ得

前二項ニ規定スル司法大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二章　國籍、戸籍

第一節　國籍

國籍法　（明治三十二年三月十六日法律第六十六號）

【沿革】　大正五年三月法律第二七號、同十三年七月同第一九號改正

第一條　子ハ出生ノ時其父カ日本人ナルトキハ之ヲ日本人トス其出生前ニ死亡シタル父カ死亡ノ時日本人ナリシトキ亦同シ

第二條　父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離緣ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ前條ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ父母カ共ニ其ノ家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第三條　父カ知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テ母カ日本人ナ

ルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス

第四條　日本ニ於テ生マレタル子ノ父母カ共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス

第五條　外國人ハ左ノ場合ニ於テ日本ノ國籍ヲ取得ス

一　日本人ノ妻トナリタルトキ

二　日本人ノ入夫トナリタルトキ

三　日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタルトキ

四　日本人ノ養子トナリタルトキ

五　歸化ヲ爲シタルトキ

第六條　外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　本國法ニ依リテ未成年者タルコト

二　外國人ノ妻ニ非サルコト

三　父母ノ中先ツ認知ヲ爲シタル者カ日本人ナルコト

四　父母カ同時ニ認知ヲ爲シタルトキハ父カ日本人ナルコト

第七條　外國人ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ歸化ヲ爲スコトヲ得

內務大臣ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ非サレハ其歸化ヲ許可スルコトヲ得ス

一　引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スルコト

二　滿二十年以上ニシテ本國法ニ依リ能力ヲ有スルコト

三　品行端正ナルコト

四　獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資產又ハ技能アルコト

五　國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ノ取得ニ因リテ其國籍ヲ失フヘキコト

第八條　外國人ノ妻ハ其夫ト共ニスルニ非サレハ歸化ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　左ニ揭ケタル外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

一　父又ハ母ノ日本人タリシ者

二　妻ノ日本人タリシ者

三　日本ニ於テ生マレタル者

四　引續キ十年以上日本ニ居所ヲ有スル者

前項第一號乃至第三號ニ揭ケタル者ハ引續キ三年以上日本ニ居所ヲ有スルニ非サレハ歸化ヲ爲スコトヲ得ス但第三號ニ揭ケタル者ノ父又ハ母カ日本ニ於テ生マレタル者ナルトキハ此限ニ在ラス

第十條　外國人ノ父又ハ母カ日本人ナル場合ニ於テ其外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號、第二號及ヒ第四號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

第十一條　日本ニ特別ノ功勞アル外國人ハ第七條第二項ノ規定ニ拘ハラス內務大臣勅裁ヲ經テ其歸化ヲ許可スルコトヲ得

第十二條　歸化ハ之ヲ官報ニ告示スルコトヲ要ス

歸化ハ其告示アリタル後ニアラサレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十三條　日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ妻ハ夫ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス

前項ノ規定ハ妻ノ本國法ニ反對ノ規定アリタルトキハ之ヲ適用セス

第十四條　日本ノ國籍ヲ取得シタル者ノ妻カ前條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ取得セサリシトキハ第七條第二項ニ揭ケタル條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

百十五條　日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ子カ其本國法ニ依リテ未成年者ナルトキハ父又ハ母ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス

前項ノ規定ニ依リ日本ノ國籍ヲ留保シタル者又ハ前項ノ規定ニ依ル指定前其指定セラレタル外國ニ於テ生マレタルニ因リテ其國ノ國籍ヲ取得シタル日本人當該外國ノ國籍ヲ有シ且其國ニ住所ヲ有スルトキハ其志望ニ依リ日本ノ國籍ノ離脫ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ國籍ノ離脫ヲ爲シタル者ハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十條ノ三　前條第一項ノ外國以外ノ外國ニ於テ生マレタルニ因リテ其國ノ國籍ヲ取得シタル日本人カ其國ニ住所ヲ有スルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ノ離脫ヲ爲スコトヲ得

前條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ國籍ノ離脫ヲ爲シタル者ニ之ヲ準用ス

第二十一條　日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子カ其者ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本人ノ國籍ヲ失フ

第二十二條　前條ノ規定ハ離婚又ハ離緣ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子ニハ之ヲ適用セス但妻カ夫ノ離緣ノ場合ニ於テ離婚ヲ爲サス又ハ子カ父ニ隨ヒテ其家ヲ去リタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條　日本人タル子カ認知ニ因リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失ヒ但日本人ノ妻、入夫又ハ養子ト爲リタル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條　滿十七年以上ノ男子ハ第十九條、第二十條及前三條ノ規定ニ拘ハラス既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルトキ又ハ之ニ服スル義務ナキトキニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

現ニ文武ノ官職ヲ帶フル者ハ前八條ノ規定ニ拘ハラス其官職ヲ失ヒタル後ニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

第二十五條　婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ婚姻解消ノ後日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得

第二十六條　第二十條乃至第二十一條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得但第十六條ニ揭ケタル者カ日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ハ此限ニ在ラス

第二十七條　第十三條乃至第十五條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條ノ二　國籍ノ離脱及回復ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第二十八條　本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十三年七月法律第一九號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十三年十一月勅令第二六一號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行）

國籍法施行規則

（大正十三年十一月十七日内務省令第二十六號）

第一條　國籍法第七條第一項ノ規定ニ依リ歸化ヲ爲サムトスル者ハ歸化ニ必要ナル條件ヲ具備スルコトヲ證スヘキ書類ヲ添ヘ其ノ住所地ヲ管轄スル地方廳ヲ經テ内務大臣ニ其ノ許可ノ申請ヲ爲スヘシ

第二條　國籍法第二十條ノ二第一項ノ規定ニ依リ國籍ヲ留保セントスルトキハ戸籍法第七十二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ出生ノ届出ヲ爲ス者戸籍法第六十九條ノ期間内ニ出生ノ届出ニ添ヘ其ノ旨届出ツヘシ

天災又ハ避クヘカラサル事由ニ因リ前項ノ期間内ニ國籍ノ留保ノ届出ヲ訟ス能ハサル場合ニ於テハ其ノ期間ハ届出ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル時ヨリ之ヲ起算ス

航海中ニ出生シタル者ニ關シテハ第一項ノ届出ハ戸籍法第七十五條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ船長ノ發送スル航海日誌ノ謄本ニ其ノ届書ヲ添付スルコトニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

第三條　國籍法第二十條ノ二第二項ノ規定ニ依リ國籍ノ離脱ヲ爲サントスル者ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使公使又ハ領事ヲ經テ内務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ハ國籍ノ離脱ヲ爲ス者カ十五年未滿ナルトキハ法定代理人ヨリ之ヲ爲シ十五年以上ノ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ要ス

繼父、繼母、嫡母又ハ後見人カ前項ノ届出又ハ届出ノ同意ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第四條　前條ノ届書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　戸籍謄本

二　出生シタル國ノ當該官憲ノ發給シ若ハ證明アル出生證書

三　前條第二項又ハ第三項ニ規定スル同意ヲ要スルモノニアリテハ其ノ同意書

第五條　國籍法第二十條ノ三第一項ノ規定ニ依リ國籍ノ離脱ヲ爲サムトスル者ハ第三條及前條ノ規定ニ準シ内務大臣ニ其ノ許可ノ申請ヲ爲スヘシ

第六條　國籍ノ離脱ノ許可ハ許可書ノ日附ノ翌日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタル時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第七條　内務大臣ハ國籍ノ離脱ノ届出ヲ受理シタルトキ又ハ國籍ノ離脱ヲ許可シタルトキハ之ヲ告示ス

第八條　國籍法第二十五條又ハ同法第二十六條ノ規定ニ依リ國籍ノ回復ヲ爲サムトスル者ハ第一條ノ規定ニ準シ内務大臣ニ其ノ許可ノ申請ヲ爲スヘシ

前項　規定スル許可ノ申請ハ國籍法第二十條ノ二又ハ同法第二十條ノ三ノ規定ニ依リ國籍ヲ失ヒタル者カ十五年未滿ナルトキハ父、父之ヲ爲スコト能ハサルトキハ母、母之ヲ爲スコト能ハサルトキハ祖父、祖父之ヲ爲スコト能ハサルトキハ祖母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

附　則

本令ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年内務省令第八號ハ之ヲ廢止ス

大正十三年勅令第二百六十二號ニ依リ指定セラレタル外國ニ於テ生レタルニ因リテ其ノ國ノ國籍ヲ取得シタル日本人ニ關シ本令施行前大正五年内務省令第八號ノ規定ニ依リテ爲シタル國籍ノ離脱ノ許可ノ申請ハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リテ爲シタル國籍ノ離脱ノ届出ト看做ス

國籍喪失者ノ權利ニ關スル件

（明治三十二年三月二十九日法律第九十四號）

日本ノ國籍ヲ失ヒタル家族カ日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合ニ於テ一年内ニ之ヲ日本人ニ讓渡ササルトキハ其權利ハ國庫ニ歸屬ス

（參考）明治四十三年四月法律第五一號ヲ以テ本法中改正セラレタルモ未施行ニ付訂正セス

國籍法第二十條ノ二第二項ノ規定ニ依リ外國ヲ指定スルノ件

（大正十三年十一月十五日勅令第二百六十二號）

國籍法第二十條ノ二第一項ノ規定ニ依リ外國ヲ指定スルコト左ノ如シ

一　亞米利加合衆國　二　亞爾然丁國

三　伯剌西爾國　四　加奈陀

五　智利國　六　祕露國

附　則

本令ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ件

（明治三十一年七月十一日法律第二十一號）

明治六年第百三號布告左ノ通改正ス

第一條　日本人カ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スニハ内務大臣ノ許可ヲ經ルコトヲ要ス

第二條　内務大臣ハ外國人カ左ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ前條ノ許可ヲ與フルコトヲ得ス

一　引續キ一年以上日本ニ住所又ハ居所ヲ有スルコト

二　品行端正ナルコト

外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者及歸化ヲ爲シ又ハ國籍ヲ回復セシトスル者出願方

（明治三十二年九月十四日内務省令第五十一號）

【沿革】大四十三年十一月省令第二七號改正

明治三十一年法律第二十一號ニ依リ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者ハ本籍地又ハ寄留地地方廳ヲ經由シテ内務大臣ニ願出ツヘシ

樺太ニ本籍ヲ有スル者ノ國籍ノ留保及離脱竝樺太ニ住所ヲ有スル者ノ歸化及國籍ノ回復ニ關スル件

（大正十三年十一月二十八日閣令第七號）

樺太ニ本籍ヲ有スル者ノ國籍ノ留保及離脱竝樺太ニ住所ヲ有スル者ノ歸化及國籍ノ回復ニ關スル手續ニ付テハ大正十三年内務省令第二十六號國籍法施行規則ニ依ル但シ同令中地方廳トアルハ樺太廳、内務大臣トアルハ内閣總理大臣、三十日トアルハ六十日トス

附　則

本令ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年閣令第五號ハ之ヲ廢止ス

大正十三年勅令第二百六十二號ニ依リ指定セラレタル外國ニ於テ生レタルニ因リテ其ノ國ノ國籍ヲ取得シタル日本人ニ關シ本令施行前大正十三年閣令第五號ニ依リテ爲シタル國籍ノ離脱ノ許可ノ申請ハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リテ爲シタル國籍ノ離脱ノ届出ト看做ス

第二節　戸籍

戸籍法（大正三年三月三十一日法律第二十六號）

【沿革】大正十年四月法律第四八號、同十三年七月同第二〇號改正

第一章　戸籍事務ノ管掌
第二章　戸籍ノ記載手續
第三章　戸籍ノ記載手續
第四章　届出
第一節　通則
第二節　出生
第三節　認知
第四節　養子緣組
第五節　養子離緣
第六節　婚姻
第七節　離婚
第八節　親權及ヒ後見
第九節　隱居
第十節　死亡及ヒ失踪

第一章　戸籍事務ノ管掌

第一條　戸籍ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

第二條　市町村長ハ自己又ハ自己ト家ヲ同シクスル者ニ關スル戸籍事件ニ付キ其職務ヲ行フコトヲ得ス

第三條　戸籍事務ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戸籍事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條　市町村長カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ市町村長ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ノ賠償スル責ニ任ス

第五條　市制第六條及ヒ第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ本法中市、市長及ヒ市役所ニ關スル規定ハ區、區長及ヒ區役所ニ之ヲ準用ス

第六條　市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ本法中市町村、市町村長及ヒ市役所竝ニ町村役場ニ關スル規定ハ之ニ相當スル地域、吏員及ヒ公署ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スル吏員ナキ地ニ在リテハ其地ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其代理者ヲ定ム

第七條　第二條及ヒ第四條ノ規定ハ戸籍事務ヲ管掌スル吏員ノ代理者ニ之ヲ準用ス

第八條　本法ノ規定ニ依リテ納付スル手數料ハ之ヲ市町村ノ收入トス

手數料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章　戸籍簿

第九條　戸籍ハ市町村ノ區域内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ戸主ヲ本トシテ一戸毎ニ之ヲ編製ス

第十條　戸籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス

一ノ市町村内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二箇以上ノ區畫アル場合ニ於テハ其區畫ノ順序ハ市町村長之ヲ定ム

第十一條　戸籍ハ正副二本ヲ設ク

正本ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備ヘ副本ハ監督區裁判所之ヲ保存ス

第十二條　新ニ戸籍ヲ編製シタルトキハ市町村長ハ遲滯ナク其副本ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第一編　民事、商事、刑事
第二章　戸籍
第一節　戸籍

第十三條　戸籍簿ハ筆ヲ選ンテ之ヲ調製シ役場外ニ持出スコトヲ得ス

第十四條　戸籍簿ノ謄本若ハ抄本又ハ戸籍簿ニ關スル證明書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ手數料ノ納付ヲ請求スルコトヲ得

第十五條　戸籍簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十六條　戸籍簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ戸籍簿ノ滅失ノ場合ニ於テ其ノ回復ノ爲ニ必要ナル書類ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十七條　戸籍簿ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第十八條　左ノ事項ハ戸籍ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

一　戸主、前戸主及ヒ家族ノ氏名

二　戸主ノ本籍

三　戸主カ華族又ハ士族ナルトキハ其族稱

四　戸主ノ直系尊屬及ヒ其配偶者

五　戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者

六　戸主ノ直系卑屬

七　戸主ノ配偶者ノ直系尊屬又ハ其配偶者

八　戸主ノ傍系親又ハ其配偶者ノ直系卑屬

九　戸主ノ傍系親又ハ其配偶者ノ傍系尊屬

十　戸主ノ傍系親又ハ其配偶者ノ傍系卑屬

十一　戸主ノ傍系親又ハ其配偶者ノ傍系尊屬ノ直系卑屬

第二節　戸籍ノ記載手續

第十九條　戸籍ノ記載ハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　戸主、前戸主及ヒ家族ノ氏名

二　戸主ノ本籍

三　戸主カ華族又ハ士族ナルトキハ其族稱

四　戸主ノ直系尊屬及ヒ其配偶者

五　戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者

六　戸主ノ直系卑屬

七　戸主ノ配偶者ノ直系尊屬又ハ其配偶者

八　戸主ノ傍系親又ハ其配偶者ノ直系卑屬

九　戸主ノ傍系親又ハ其配偶者ノ傍系尊屬

十　戸主ノ傍系親又ハ其配偶者ノ傍系卑屬

十一　戸主ノ傍系親又ハ其配偶者ノ傍系尊屬ノ直系卑屬

第一編　民事、商事、刑事
第二章　戸籍

第二十條　戸籍ノ記載ハ戸主ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但法律ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　戸籍ノ記載ハ申請ノ受附ノ年月日、事件ノ本人ノ申請又ハ裁判ノ謄本ノ受附ノ年月日及ヒ其ノ事件ノ種類ニ從ヒ之ヲ爲ス

第二十二條　戸籍ノ記載ハ第十八條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スル爲ニ必要ナルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

一　戸籍ニ入ル者ノ出生ノ年月日

二　戸籍ニ入ル者ノ死亡ノ年月日、事件ノ本人ニ非サル者ノ申請又ハ裁判ノ謄本ノ受附ノ年月日及ヒ其ノ事件ノ種類

三　戸籍ニ入ル者ノ婚姻又ハ離婚ノ年月日及ヒ其ノ相手方ノ氏名

四　戸籍ニ入ル者ノ養子縁組又ハ離縁ノ年月日及ヒ其ノ相手方ノ氏名

五　戸籍ニ入ル者ノ認知ノ年月日及ヒ其ノ父又ハ母ノ氏名

六　戸籍ニ入ル者ノ親權又ハ後見ノ始マリタル年月日及ヒ親權者又ハ後見人ノ氏名

七　戸籍ニ入ル者ノ推定家督相續人カ胎兒ナルトキハ其出生ノ年月日

八　戸籍ニ入ル者ノ失踪又ハ其ノ宣告ノ年月日及ヒ生死カ分ラサルニ至リタル年月日

九　戸籍ニ入ル者ノ復籍又ハ分家ノ年月日及ヒ其ノ戸籍

十　戸籍ニ入ル者ノ廢疾又ハ治癒ノ年月日

十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ得喪ノ年月日及ヒ其ノ事由

十二　戸籍ニ入ル者ノ姓名ノ變更ノ年月日及ヒ其ノ事由

十三　戸籍ニ入ル者ノ住所ノ定マリタル年月日及ヒ其ノ住所

十四　戸籍ニ入ル者ノ職業ノ變更ノ年月日及ヒ其ノ職業

十五　戸籍ニ入ル者ノ死亡ノ年月日及ヒ其ノ原因

十六　戸籍ニ入ル者ノ失踪ノ宣告ノ年月日及ヒ其ノ裁判ノ年月日

十七　戸籍ニ入ル者ノ失踪ノ宣告ノ取消ノ年月日及ヒ其ノ裁判ノ年月日

十八　戸籍ニ入ル者ノ死亡ノ擬制ノ取消ノ年月日及ヒ其ノ裁判ノ年月日

十九　戸籍ニ入ル者ノ離婚又ハ離縁ニ因リ生シタル氏ノ變更ノ年月日

二十　戸籍ニ入ル者ノ分家又ハ入家ノ年月日及ヒ其ノ戸籍

二十一　戸籍ニ入ル者ノ廢家又ハ入家ノ年月日及ヒ其ノ戸籍

二十二　戸籍ニ入ル者ノ離籍又ハ除籍ノ年月日及ヒ其ノ事由

二十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

三十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

三十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

三十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

三十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

三十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

三十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

三十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

三十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

三十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

三十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

四十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

四十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

四十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

四十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

四十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

四十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

四十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

四十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

四十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

四十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

五十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

五十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

五十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

五十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

五十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

五十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

五十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

五十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

五十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

五十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

六十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

六十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

六十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

六十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

六十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

六十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

六十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

六十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

六十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

六十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

七十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

七十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

七十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

七十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

七十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

七十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

七十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

七十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

七十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

七十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

八十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

八十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

八十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

八十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

八十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

八十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

八十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

八十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

八十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

八十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

九十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

九十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

九十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

九十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

九十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

九十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

九十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

九十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

九十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

九十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百二十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百二十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百二十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百二十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百二十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百二十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百二十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百二十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百二十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百二十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百三十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百三十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百三十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百三十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百三十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百三十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百三十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百三十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百三十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百三十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百四十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百四十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百四十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百四十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百四十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百四十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百四十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百四十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百四十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百四十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百五十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百五十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百五十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百五十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百五十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百五十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百五十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百五十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百五十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百五十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百六十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百六十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百六十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百六十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百六十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百六十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百六十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百六十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百六十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百六十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百七十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百七十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百七十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百七十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百七十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百七十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百七十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百七十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百七十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百七十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百八十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百八十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百八十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百八十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百八十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百八十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百八十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百八十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百八十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百八十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百九十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百九十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百九十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百九十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百九十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百九十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百九十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百九十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

百九十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

百九十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百二十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百二十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百二十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百二十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百二十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百二十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百二十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百二十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百二十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百二十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百三十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百三十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百三十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百三十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百三十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百三十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百三十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百三十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百三十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百三十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百四十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百四十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百四十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百四十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百四十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百四十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百四十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百四十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百四十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百四十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百五十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百五十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百五十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百五十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百五十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百五十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百五十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百五十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百五十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百五十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百六十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百六十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百六十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百六十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百六十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百六十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百六十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百六十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百六十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百六十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百七十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百七十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百七十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百七十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百七十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百七十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百七十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百七十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百七十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百七十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百八十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百八十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百八十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百八十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百八十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百八十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百八十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百八十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百八十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百八十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百九十　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百九十一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百九十二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百九十三　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百九十四　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百九十五　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百九十六　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百九十七　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百九十八　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

二百九十九　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

三百　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

三百一　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ喪失ノ年月日及ヒ其ノ事由

三百二　戸籍ニ入ル者ノ國籍ノ回復ノ年月日及ヒ其ノ事由

認印シ其削除ニ係ル文字ハ尚ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第二十九條　戸籍ノ記載ヲ爲ス毎ニ市町村長ハ其文末ニ認印スルコトヲ要ス

第三十條　戸籍用紙中ノ一部分ヲ用キ盡シタルトキハ掛紙ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ市町村長ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第三十一條　届出事件ノ本人ノ本籍カ一ノ市町村ヨリ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル市町村長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後遲滯ナク届書ノ一通ヲ他ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第三十二條　前條ノ場合ヲ除ク外他ノ市町村長カ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ必要アル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル市町村長ハ遲滯ナク届書ノ一通ヲ他ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第三十三條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ届出ヲ受理シタル後其ノ者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタル旨ノ届出アリタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ハ其届書及ヒ前ニ受理シタル届書ニ付キ之ヲ適用ス

第三十四條　前三條ノ規定ハ届書ニ非サル書面ニ因リ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ市町村長ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作リ其謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

第三十五條　届出事件ノ本人ノ本籍カ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ入籍地ノ市町村長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後除籍地ノ市町村長ニ入籍ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス但入籍地ノ市町村長カ届出ヲ受理シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ市町村長カ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條　戸籍ノ記載手續ヲ完了シタルトキハ届書其他受理シタル書類ハ本籍人及ヒ非本籍人ニ區別シ本籍人ニ關スルモノハ戸籍編綴ノ順序ニ從ヒテ之ヲ編綴シ非本籍人ニ關スルモノハ事件ノ種類ニ依リ各別ニ之ヲ編綴シ且各目錄ヲ附スルコトヲ要ス

戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ受理シタル書類ハ之ヲ合綴シ且目錄ヲ附スルコトヲ要ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ受理シタル書類亦同シ

第三十七條　前條第一項ノ書類ハ一箇月毎ニ遲滯ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第三十八條　第三十六條ノ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條　戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコト又ハ其記載ニ錯誤若クハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ市町村長ハ遲滯ナク届出事件ノ本人ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス但其錯誤又ハ遺漏カ市町村長ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ通知ヲ爲シタルモ戸籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキトキハ市町村長ハ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ得前項但書ノ場合亦同シ

裁判所其他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ其職務上戸籍ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク届出事件ノ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第四十條　同一ノ事件ニ付キ數人ノ届出義務者ヨリ各別ニ届出アリタル場合ニ於テ後ニ受理シタル届出ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ前ニ受理シタル届書ニ付キ之ヲ適用ス

第四十一條　行政區畫又ハ土地ノ各稱ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ハ訂正セラレタルモノト看做ス但其記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

地番號ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ヲ更正スルコトヲ要ス

第四十二條　市町村ノ區域ノ變更アリタルトキハ戸籍及ヒ之ニ關スル書類ハ之ヲ當該市町村ニ引繼クコトヲ要ス

第四十二條ノ二　第三十一條乃至第三十四條及ヒ第三十五條第一項ノ規定ハ共通法第三條ノ規定ニ依リテ内地ノ家ヲ去リタル者及ヒ他ノ地域ノ家ヲ去リテ内地ノ家ニ入リタル者ノ戸籍ノ記載手續ニ付キ之ヲ準用ス

第四章　届出

第一節　通則

第四十三條　届出ハ届出事件ノ本人ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十四條　日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル届出ハ其寄留地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

所在地ノ市町村長カ届書ヲ受理シタルトキハ之ヲ寄留地ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第四十五條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ届出アリタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタルトキ又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ届出事件ヲ表示シテ届出ヲ受理シタル市町村長ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第四十六條　届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一　届出事件
二　届出ノ年月日
三　届出人ノ出生ノ年月日及ヒ本籍

届出事件ニ因リ届出事件ノ本人ニ隨ヒテ家ヲ去リ、他家ニ入リ其他身分ニ變更ヲ生スル者アル場合ニ於テハ届書ニ其者ノ氏名、出生ノ年月日竝ニ本籍及ヒ身分變更ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十八條　届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十九條　届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス但出生、死亡其他單純ノ事實ニ關スル届出ハ未成年者又ハ禁治產者モ亦之ヲ爲スコトヲ得

親權ヲ行フ者又ハ後見人カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
二　無能力ノ原因
三　届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人ナルコト

第五十條　無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付テハ無能力者之ヲ届出ツルコトヲ要ス

禁治產者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ

理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スルコトヲ證スヘキ診斷書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十一條　證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ出生ノ年月日及ヒ本籍ヲ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

第五十二條　届出人、届出事件ノ本人又ハ證人カ本籍ニ在ラサルトキハ届書ニ其所在ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三條　届書ニ記載スヘキ事項ニシテ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但市町村長ハ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十四條　届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナルモノハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十五條　第二十八條第一項及ヒ第三項ノ規定ハ届書ニ之ヲ準用ス

第五十六條　二箇所以上ノ市役所又ハ町村役場ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ市役所又ハ町村役場ノ數ト同數ノ届書ヲ提出スルコトヲ要ス

本籍地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ前項ノ規定ニ依ルモノノ外尚ホ一通ノ届書ヲ提出スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ相當ト認ムルトキハ市町村長ハ届書ノ謄本ヲ作リ之ヲ以テ届書ニ代フルコトヲ得

第五十七條　口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ市役所又ハ町村役場ニ出頭シ届書ヲ記載スヘキ事項ヲ陳述スルコトヲ要ス

市町村長ハ届出人ノ陳述ヲ筆記シ届出ノ年月日ヲ記載シテ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ其齊而ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ以テ届出ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　届書事件ニ付キ戸主、父母、後見人、親族會其他ノ者ノ同意、承諾又ハ承諾ヲ要スルトキハ届出ニ其同意、承諾又ハ承認ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但同意、承諾又ハ承認ヲ爲シタル者ノシテ届書ニ其旨ヲ附記シ署名、捺印セシムルヲ以テ足ル

届出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十九條　届書ニ關スル規定ハ第五十七條第二項及ヒ前條第一項ノ書面ニ之ヲ準用ス

第六十條　外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　外國ニ在ル日本人カ其國ノ方式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ一箇月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ提出スルコトヲ要ス

第六十二條　大使、公使又ハ領事ハ前二條ノ規定ニ依リ受理シタル書類ヲ一箇月内ニ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第六十三條　届出期間ハ届出事件發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ裁判カ送達又ハ交付前確定シタルトキハ其送達又ハ交付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十四條　市町村長カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ届出義務者ニ對シ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ市町村長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條第二項ノ規定ハ前二項ノ催告ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ催告ヲ爲スモ届出ヲ爲ササル場合ニ、同條第三項ノ規定ハ裁判所其他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　市町村長カ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ届書ニ欠缺アル爲メ戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルトキハ届出義務者ヲシテ其追完ヲ爲サシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十六條　届出期間經過後ノ届出ト雖モ市町村長ハ之ヲ受理スルコトヲ要ス

第六十七條　届出人ハ届出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得但受理ノ證明書ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要ス

利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ第三十六條ノ書類ノ閲覽ヲ請求シ又ハ其書類ニ記載シタル事項ニ付キ證明書ヲ請求スルコトヲ得

第十四條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

利害關係人ハ特別ノ理由アル場合ニ限リ第三十七條ノ書類ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條　届出人其他ノ者カ署名、捺印スヘキ場合ニ於テ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ書面ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第二節　出生

第六十九條　出生ノ届出ハ十四日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　子ノ氏名及ヒ男女ノ別

二　子カ私生子又ハ庶子ナルトキハ其旨

三　出生ノ年月日時及ヒ場所

四　父母ノ氏名、本籍及ヒ職業

五　子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

六　子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所

七　日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第七十條　出生ノ届出ハ出生地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　汽車又ハ航海日誌ノ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ到著地ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ得

第七十二條　嫡出子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合又ハ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ者カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ揭ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一　戸主

第二　同居者
第三　分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ產婆
第四　分娩ヲ介抱シタル者

第七十三條　嫡出子否認ノ訴ヲ提起シタルトキト雖モ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十四條　民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條　航海中ニ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時間内ニ第六十九條第二項ニ揭ケタル事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其他ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ發送シ大使、公使又ハ領事ハ一箇月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第七十六條　病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ出生アリタル場合ニ於テ父母共ニ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ公設所ノ長又ハ管理人届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條　出生ノ届出前ニ子カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條　棄兒ヲ發見シタル者又ハ棄兒發見ノ申告ヲ受ケタル警察官ハ二十四時内ニ其旨ヲ市町村長ニ申出ツルコトヲ要ス

前項ノ申出アリタルトキハ市町村長ハ氏名ヲ命シ本籍ヲ定メ且附屬品發見ノ場所、年月日時其他ノ狀況及ヒ氏名、男女ノ別、出生ノ推定年月日竝ニ本籍ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス其調書ハ之ヲ届書ト看做ス

第七十九條　父又ハ母カ棄兒ヲ引取ルトキハ一箇月内ニ第六十九條第二項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シ且戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第八十條　第七十八條第一項又ハ前條ノ手續ヲ爲ス前ニ棄兒カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ其手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三節　認知

第八十一條　私生子認知ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　子ノ氏名、男女ノ別、出生ノ年月日及ヒ本籍
二　死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日
三　父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名竝ニ本籍及ヒ父ノ職業
四　子カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主ト子トノ續柄

第八十二條　胎内ニ在ル子ヲ認知スル場合ニ於テハ其書ニ其旨、母ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載シ認知者ノ本籍地ニ於テ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十三條　父カ庶子出生ノ届出ヲ爲シタルトキハ其届出ハ認知届出ノ效力ヲ有ス民法第八百三十六條第二項ノ規定ニ依リ嫡出子タルヘキ者ニ付キ父母カ嫡出子出生ノ届出ヲ爲シタルトキ亦同シ

第八十四條　認知ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第八十一條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十五條　遺言ニ依ル認知ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添附シ第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ從ヒテ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條　認知セラレタル胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十四日内ニ認知ノ届出地ニ於テ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス但遺言執行者カ前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條　第五十七條第三項ノ規定ハ第八十一條及ヒ第八十二條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第四節　養子緣組

第八十八條　緣組ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍及ヒ職業
二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄

婚家又ハ養家ヨリ更ニ緣組ニ因リテ他家ニ入ル者ニ付テハ前項ニ揭ケタル事項ノ外實家ノ戸主、前養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條　配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十條　民法第八百四十三條ノ規定ニ依リ緣組ノ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其承諾ヲ爲シメル者之ヲ爲スコトヲ得

第九十一條　民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ緣組ノ届出ヲ爲ストキハ緣組ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第九十二條　緣組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十三條　緣組取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名及ヒ本籍
二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍
三　養子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
四　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所
五　裁判確定ノ日

第九十四條　第五十七條第三項ノ規定ハ緣組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第五節　養子離緣

第九十五條　離緣ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、本籍及ヒ職業
二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
四　養子ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
五　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第九十六條　民法第八百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ離緣ノ協議ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其協議ヲ爲シタル者之ヲ爲スコトヲ得

第九十七條　民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ離緣ヲ爲ス場合ニ於テハ養子其届出ヲ爲スコトヲ得

第九十八條　離緣ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確

定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第九十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十九條　第五十七條第三項ノ規定ハ第九十五條乃至第九十七條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節　婚姻

第百條　婚姻ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日、戸籍及ヒ職業
二　父母ノ氏名及ヒ本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄
四　入夫婚姻又ハ婿養子緣組ナルトキハ其旨
五　入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ルトキハ其旨
當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ揭ケタル事項ノ外實家ノ戸主養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百一條　婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻又ハ婿養子緣組ノ場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ籍出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二條　第九十三條ノ規定ハ婚姻取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス
檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ裁判確定ノ後遲滯ナク戸籍記載ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第百三條　第五十七條第三項ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節　離婚

第百四條　離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、本籍及ヒ職業
二　父母ノ氏名及ヒ本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
四　婚家ヲ去ル者ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
五　婚家ヲ去ル者カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所
所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第百五條　離婚ヲ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六條　第五十七條第三項ノ規定ハ第百四條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節　親權及ヒ後見

第百七節　父カ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ母其權利ヲ行フトキハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八條　第九十三條第一項ノ規定ハ失權宣告取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ届書ニ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九條　後見開始ノ届出ハ後見人其就職ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　後見人及ヒ被後見人ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
二　被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
三　後見開始ノ原因及ヒ年月日
四　後見人就職ノ年月日

第百十條　後見人重選ノ場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第百十一條　遺言ニ依ル後見人指定ノ場合ニ於テハ指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス
後見人選任ノ場合ニ於テハ選任ヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スル事ヲ要ス

第百十二條　後見終了ノ届出ハ後見人十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　被後見人ノ氏名及ヒ本籍
二　後見終了ノ原因及ヒ年月日

第百十三條　前四條ノ届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十四條　後見人ニ關スル本節ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

第九節　隱居

第百十五條　隱居ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　隱居者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
二　家督相續人ノ氏名、出生ノ年月日竝ニ本籍及ヒ家督相續人ト隱居者トノ續柄
三　隱居ノ原因

第十節　死亡及ヒ失踪

第百十六條　死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ七日内ニ診斷書若クハ檢案書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　死亡者ノ氏名、本籍及ヒ職業
二　死亡ノ年月日時及ヒ場所
三　死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト死亡者トノ續柄

第百十七條　左ニ揭ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス但順序ニ拘ハラス届出ヲ爲スコトヲ得

第一　戸主
第二　同居者
第三　家主、地主又ハ家屋若クハ土地ノ管理人

第百十八條　死亡ノ届出ハ死亡地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百十九條　水難、火災其他ノ事變ニ因リ死亡シタル者アル場合ニ於テハ其取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十條　死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滯ナク監獄所在地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ報告書ニ診斷書又ハ檢案書ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條　前二條ノ報告書ニハ第百十六條第二項ニ揭ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十二條　死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ニ於テハ警察官ハ檢視調書ヲ作リ之ヲ添附シテ遲滯ナク死亡地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス
死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ死亡者ヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滯ナク其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第一項ノ報告アリタル後第百十七條第一號及ヒ第二號ニ揭ケタル者カ

一　當事者ノ氏名、本籍及ヒ職業
二　父母ノ氏名及ヒ本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
四　婚家ヲ去ル者ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
五　婚家ヲ去ル者カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因ニ付タル場所

但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第百五條　離婚ヲ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコト

第百六條　第五十七條第三項ノ規定ハ第百四條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節　親權及ヒ後見

第百七條　父カ親權ヲ行フトキハ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第百八條　第九十三條第二項ノ規定ハ失權宣告取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ届書ニ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九條　後見開始ノ届出ハ後見人其就職ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十條　後見人ハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　被後見人及ヒ被後見人ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
二　後見開始ノ原因及ヒ年月日

第百十一條　後見人ノ選任ヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百十二條　後見終了ノ届出ハ後見人十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一　被後見人ノ氏名及ヒ本籍
二　後見終了ノ原因及ヒ年月日

第百十三條　前四條ノ届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十四條　後見人ニ關スル本節ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

第九節　隱居

第百十五條　隱居ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　隱居者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
二　家督相續人ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
三　隱居者トノ續柄
　隱居ノ原因

第十節　死亡及ヒ失踪

第百十六條　死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ七日内ニ診斷書若クハ檢案書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコト

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　死亡者ノ氏名、本籍及ヒ職業
二　死亡ノ年月日時及ヒ場所
三　死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
四　死亡者ノ父母及ヒ配偶者ノ有無
五　届出人ノ死亡者トノ關係

第百十七條　左ニ揭ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ得

一　同居ノ親族
二　後見人又ハ後見監督人
三　家主、地主又ハ家屋若クハ土地ノ管理人

第百十八條　死亡ノ届出ハ死亡地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百十九條　水難、火災其他ノ非愛ノ事變ニ因リ死亡シタル者ハ其取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ノ死亡者ノ本籍地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十條　死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滯ナク監獄所在地ノ市町村長ニ前項ノ規定ニ依リ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十一條　前二條ノ報告ヲ爲スニハ第百十六條第二項ニ揭ケタル事項ノ外死亡ノ原因ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十二條　死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ノ認識スルコト能ハサル場合ニ於テハ死亡地ノ市町村長ハ調査ヲ作リ之ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十三條　死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍ヲ届書ニ附記スルヲ要ス

第百二十四條　後見人ニ關スル本節ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

第九節　隱居

第百二十五條　隱居ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　隱居者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
二　家督相續人ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
三　隱居者トノ續柄
　隱居ノ原因

第十節　死亡及ヒ失踪

第百二十六條　死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ七日内ニ診斷書若クハ檢案書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコト

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十七條　後見人又ハ後見監督人カ後見ノ終了ニ因リ被後見人ノ死亡ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第百二十八條　後見人又ハ後見監督人カ後見ノ終了ニ因リ被後見人ノ死亡ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第百二十九條　後見人又ハ後見監督人カ後見ノ終了ニ因リ被後見人ノ死亡ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第百三十條　遺言ニ依ル後見人指定ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ準用ス

後見人選任ノ場合ニ於テハ選任ヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スルヲ要ス

第百三十一條　後見人ハ遺言ニ依リ指定セラレタル順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲スヘシ

第百三十二條　後見人ノ選任ニ關スル審判ノ確定ノ日ヨリ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スヘシ

第百三十三條　第五十七條第三項ノ規定ハ第九十五條乃至第九十七條ノ届出ニ之ヲ適用セス

第九十九條　第五十七條第三項ノ規定ハ第九十五條ノ規定ニ依ル届出ニ之ヲ適用セス

第二章　國籍、戸籍

第一節　民事、商事、刑事

第一款　民事、商事、刑事

第一目　通則

第百三十四條　離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第七節　離婚

第百三十五條　離婚ノ届書ニハ第七十六條第三項ノ規定ニ依リ證人二人以上署名スルコトヲ要ス

第百三十六條　離婚ノ届出ハ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘキ場合ヲ除ク外離婚ニ因リ新ニ戸籍ヲ編製スヘキ者ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第百三十七條　離婚ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但夫婚姻又ハ婚姻ノ取消ノ場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ締結スヘキ婚姻ニ付キ證人タルコトヲ要ス

第百三十八條　第九十三條ノ規定ハ婚姻取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百三十九條　第五十七條第三項ノ規定ハ婚姻ノ届出ニ之ヲ適用セス

第百四十條　離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日、戸籍及ヒ職業
二　父母ノ氏名及ヒ本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主ノ續柄
四　入夫婚姻又ハ婿養子緣組ナルトキハ其旨
五　入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主トナルトキハ其旨

當事者ノ一方カ婚家又ハ壻家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ揭ケタル事項ノ外實家ノ戸主壻養ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十一條　婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻又ハ婿養子緣組ノ場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ締結スヘキ婚姻ニ付キ證人タルコトヲ要ス

第百四十二條　第九十三條ノ規定ハ婚姻取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百四十三條　第五十七條第三項ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節　離婚

第百四十四條　離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十八條　民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ入籍サセントスルトキハ入籍スベキ者ノ戸主ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第百三十九條　民法第七百三十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百四十條　民法第七百四十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百四十一條　民法第七百四十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百四十二條　民法第七百四十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百四十三條　民法第七百四十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百四十四條　民法第七百四十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百四十五條　民法第七百四十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百四十六條　民法第七百四十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百四十七條　民法第七百四十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百四十八條　民法第七百四十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百四十九條　民法第七百四十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百五十條　民法第七百五十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百五十一條　民法第七百五十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百五十二條　民法第七百五十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百五十三條　民法第七百五十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百五十四條　民法第七百五十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百五十五條　民法第七百五十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百五十六條　民法第七百五十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百五十七條　民法第七百五十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百五十八條　民法第七百五十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百五十九條　民法第七百五十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百六十條　民法第七百六十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百六十一條　民法第七百六十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百六十二條　民法第七百六十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百六十三條　民法第七百六十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百六十四條　民法第七百六十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百六十五條　民法第七百六十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百六十六條　民法第七百六十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百六十七條　民法第七百六十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百六十八條　民法第七百六十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百六十九條　民法第七百六十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百七十條　民法第七百七十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百七十一條　民法第七百七十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百七十二條　民法第七百七十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百七十三條　民法第七百七十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百七十四條　民法第七百七十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百七十五條　民法第七百七十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百七十六條　民法第七百七十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百七十七條　民法第七百七十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百七十八條　民法第七百七十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百七十九條　民法第七百七十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百八十條　民法第七百八十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百八十一條　民法第七百八十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百八十二條　民法第七百八十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百八十三條　民法第七百八十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百八十四條　民法第七百八十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百八十五條　民法第七百八十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百八十六條　民法第七百八十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百八十七條　民法第七百八十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百八十八條　民法第七百八十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百八十九條　民法第七百八十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百九十條　民法第七百九十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百九十一條　民法第七百九十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百九十二條　民法第七百九十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百九十三條　民法第七百九十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百九十四條　民法第七百九十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百九十五條　民法第七百九十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百九十六條　民法第七百九十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百九十七條　民法第七百九十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百九十八條　民法第七百九十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第百九十九條　民法第七百九十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百條　民法第八百條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百一條　民法第八百一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百二條　民法第八百二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百三條　民法第八百三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百四條　民法第八百四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百五條　民法第八百五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百六條　民法第八百六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百七條　民法第八百七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百八條　民法第八百八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百九條　民法第八百九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百十條　民法第八百十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百十一條　民法第八百十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百十二條　民法第八百十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百十三條　民法第八百十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百十四條　民法第八百十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百十五條　民法第八百十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百十六條　民法第八百十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百十七條　民法第八百十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百十八條　民法第八百十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百十九條　民法第八百十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百二十條　民法第八百二十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百二十一條　民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百二十二條　民法第八百二十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百二十三條　民法第八百二十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百二十四條　民法第八百二十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百二十五條　民法第八百二十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百二十六條　民法第八百二十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百二十七條　民法第八百二十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百二十八條　民法第八百二十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百二十九條　民法第八百二十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百三十條　民法第八百三十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百三十一條　民法第八百三十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百三十二條　民法第八百三十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百三十三條　民法第八百三十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百三十四條　民法第八百三十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百三十五條　民法第八百三十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百三十六條　民法第八百三十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百三十七條　民法第八百三十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百三十八條　民法第八百三十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百三十九條　民法第八百三十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百四十條　民法第八百四十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百四十一條　民法第八百四十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百四十二條　民法第八百四十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百四十三條　民法第八百四十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百四十四條　民法第八百四十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百四十五條　民法第八百四十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百四十六條　民法第八百四十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百四十七條　民法第八百四十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百四十八條　民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百四十九條　民法第八百四十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百五十條　民法第八百五十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百五十一條　民法第八百五十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百五十二條　民法第八百五十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百五十三條　民法第八百五十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百五十四條　民法第八百五十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百五十五條　民法第八百五十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百五十六條　民法第八百五十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百五十七條　民法第八百五十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百五十八條　民法第八百五十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百五十九條　民法第八百五十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百六十條　民法第八百六十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百六十一條　民法第八百六十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百六十二條　民法第八百六十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百六十三條　民法第八百六十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百六十四條　民法第八百六十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百六十五條　民法第八百六十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百六十六條　民法第八百六十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百六十七條　民法第八百六十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百六十八條　民法第八百六十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百六十九條　民法第八百六十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百七十條　民法第八百七十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百七十一條　民法第八百七十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百七十二條　民法第八百七十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百七十三條　民法第八百七十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百七十四條　民法第八百七十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百七十五條　民法第八百七十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百七十六條　民法第八百七十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百七十七條　民法第八百七十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百七十八條　民法第八百七十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百七十九條　民法第八百七十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百八十條　民法第八百八十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百八十一條　民法第八百八十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百八十二條　民法第八百八十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百八十三條　民法第八百八十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百八十四條　民法第八百八十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百八十五條　民法第八百八十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百八十六條　民法第八百八十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百八十七條　民法第八百八十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百八十八條　民法第八百八十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百八十九條　民法第八百八十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百九十條　民法第八百九十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百九十一條　民法第八百九十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百九十二條　民法第八百九十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百九十三條　民法第八百九十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百九十四條　民法第八百九十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百九十五條　民法第八百九十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百九十六條　民法第八百九十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百九十七條　民法第八百九十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百九十八條　民法第八百九十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第二百九十九條　民法第八百九十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百條　民法第九百條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百一條　民法第九百一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百二條　民法第九百二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百三條　民法第九百三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百四條　民法第九百四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百五條　民法第九百五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百六條　民法第九百六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百七條　民法第九百七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百八條　民法第九百八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百九條　民法第九百九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百十條　民法第九百十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百十一條　民法第九百十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百十二條　民法第九百十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百十三條　民法第九百十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百十四條　民法第九百十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百十五條　民法第九百十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百十六條　民法第九百十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百十七條　民法第九百十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百十八條　民法第九百十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百十九條　民法第九百十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百二十條　民法第九百二十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百二十一條　民法第九百二十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百二十二條　民法第九百二十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百二十三條　民法第九百二十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百二十四條　民法第九百二十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百二十五條　民法第九百二十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百二十六條　民法第九百二十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百二十七條　民法第九百二十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百二十八條　民法第九百二十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百二十九條　民法第九百二十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百三十條　民法第九百三十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百三十一條　民法第九百三十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百三十二條　民法第九百三十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百三十三條　民法第九百三十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百三十四條　民法第九百三十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百三十五條　民法第九百三十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百三十六條　民法第九百三十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百三十七條　民法第九百三十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百三十八條　民法第九百三十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百三十九條　民法第九百三十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百四十條　民法第九百四十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百四十一條　民法第九百四十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百四十二條　民法第九百四十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百四十三條　民法第九百四十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百四十四條　民法第九百四十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百四十五條　民法第九百四十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百四十六條　民法第九百四十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百四十七條　民法第九百四十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百四十八條　民法第九百四十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百四十九條　民法第九百四十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百五十條　民法第九百五十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百五十一條　民法第九百五十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百五十二條　民法第九百五十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百五十三條　民法第九百五十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百五十四條　民法第九百五十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百五十五條　民法第九百五十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百五十六條　民法第九百五十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百五十七條　民法第九百五十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百五十八條　民法第九百五十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百五十九條　民法第九百五十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百六十條　民法第九百六十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百六十一條　民法第九百六十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百六十二條　民法第九百六十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百六十三條　民法第九百六十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百六十四條　民法第九百六十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百六十五條　民法第九百六十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百六十六條　民法第九百六十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百六十七條　民法第九百六十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百六十八條　民法第九百六十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百六十九條　民法第九百六十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百七十條　民法第九百七十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百七十一條　民法第九百七十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百七十二條　民法第九百七十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百七十三條　民法第九百七十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百七十四條　民法第九百七十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百七十五條　民法第九百七十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百七十六條　民法第九百七十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百七十七條　民法第九百七十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百七十八條　民法第九百七十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百七十九條　民法第九百七十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百八十條　民法第九百八十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百八十一條　民法第九百八十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百八十二條　民法第九百八十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百八十三條　民法第九百八十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百八十四條　民法第九百八十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百八十五條　民法第九百八十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百八十六條　民法第九百八十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百八十七條　民法第九百八十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百八十八條　民法第九百八十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百八十九條　民法第九百八十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百九十條　民法第九百九十條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百九十一條　民法第九百九十一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百九十二條　民法第九百九十二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百九十三條　民法第九百九十三條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百九十四條　民法第九百九十四條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百九十五條　民法第九百九十五條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百九十六條　民法第九百九十六條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百九十七條　民法第九百九十七條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百九十八條　民法第九百九十八條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第三百九十九條　民法第九百九十九條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第四百條　民法第千條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第四百一條　民法第千一條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第四百二條　民法第千二條ノ規定ニ依リ家族トシテ入籍スル者ハ戸主ノ指定スル家ニ入ル

第四百三條　民法第千三

因リテ戸主ト爲リタル者ニ非サルトキハ其旨ヲ届書ニ記載スルコトヲ要ス

第百四十四條 絶家ノ家族ハ絶家ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 絶家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

二 絶家ノ原因及ヒ年月日

第十六節　分家及ヒ廢絶家再興

第百四十五條 分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 本家ノ戸主ノ氏名、本籍及ヒ其戸主ト分家ノ戸主トノ續柄

二 民法第七百四十三條第二項ノ規定ニ依リ分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其氏名及ヒ出生ノ年月日

三 分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ本籍

第百四十六條 廢絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 廢絶家ノ戸主及ヒ本籍

二 廢絶ノ年月日

三 廢絶家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄

四 再興ヲ爲ス者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

第十七節　國籍ノ得喪

第百四十七條 外國人カ養子縁組又ハ婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ縁組又ハ婚姻ノ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十八條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知ノ届書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

認知者カ父ナルトキハ届書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十九條 歸化ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 歸化ヲ爲シタル者ノ原國籍

二 父母ノ氏名及ヒ國籍

三 許可ノ年月日

四 歸化ヲ爲シタル者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其氏名、出生ノ年月日及ヒ其者ト歸化人トノ續柄

歸化ヲ爲シタル者ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セサルトキハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十條 國籍喪失ノ届出ハ戸主又ハ家督相續人其事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 國籍喪失者ノ氏名及ヒ本籍

二 國籍喪失ノ原因及ヒ年月日

三 新ニ國籍ヲ取得シタルトキハ其國籍

第百五十一條 國籍喪失者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ其者カ陸海軍ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコトヲ證スヘキ書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス但シ國籍法第二十條ノ二又ハ第二十條ノ三ノ規定ニ依ル國籍喪失者ニ付テハ此限ニ在ラス

國籍喪失者カ日本ノ官職ヲ帶ヒタル者ナルトキハ其官職ヲ失ヒタルコトヲ證スヘキ書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百五十二條 國籍回復ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日

二 國籍回復前ニ有セシ國籍

三 許可ノ年月日

四 國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ其氏名、出生ノ年月日及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

第百四十九條第三項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第十八節　氏名、族稱ノ變更及ヒ襲爵

第百五十三條 氏名變更ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 變更前ノ氏名

二 變更シタル氏名

三 許可ノ年月日

第百五十四條 新ニ華族ニ列セラレ又ハ士族ニ編入セラレタル者ハ十日内ニ辭令書又ハ許可書ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 新舊族稱

二 族稱變更ノ原因

三 辭令又ハ許可ノ年月日

第百五十五條 爵ヲ襲キタル者ハ辭令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ其謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ辭令ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十六條 華族又ハ士族ノ族稱ヲ喪失シタル場合ニ於テハ戸主ハ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ族稱喪失ノ原因及ヒ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十七條 前條ノ規定ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ喪失シタル場合ニハ之ヲ適用セス此場合ニ於テハ裁判所ハ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第十九節　轉籍及ヒ就籍

第百五十八條 轉籍セント欲スルトキハ新本籍ヲ届書ニ記載シ戸主其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

他ノ市町村ニ轉籍スル場合ニ於テハ戸籍ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百五十九條 轉籍ノ届出ハ轉籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百六十條 本籍ヲ有セサル者ハ其就籍セント欲スル地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ十日内ニ就籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ第十八條ニ掲ケタル事項ノ外就籍許可ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六十一條 就籍ノ届出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百六十二條 就籍許可ノ裁判ヲ得タル者カ就籍ノ届出ヲ爲ササルトキハ戸主之ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十三條 第百六十條ノ規定ハ確定判決ニ因リテ就籍ノ届出ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ判決ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第五章　戸籍ノ訂正

第百六十四條 戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコト又ハ其記載ニ錯誤若ハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ利害關係人ハ其戸籍ノ存スル市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許

可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

第百六十五條　届出ニ因リ效力ヲ生スヘキ行爲ニ付キ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後其行爲ノ無效ナルコトヲ發見シタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ前條ノ區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

第百六十六條　前二條ノ許可ノ裁判アリタルトキハ一箇月内ニ其謄本ヲ添附シ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第百六十七條　確定判決ニ因リ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘキトキハ訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一箇月内ニ判決ノ謄本ヲ添附シ訂正ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ判決確定ノ後遲滯ナク戸籍ノ訂正ヲ請求スルコトヲ要ス

第百六十八條　第四十三條、第四十六條乃至第五十條、第五十二條乃至第五十九條及第六十三條乃至第六十八條ノ規定ハ戸籍訂正ノ申請ニ之ヲ準用ス

第六章　抗告

第百六十九條　戸籍事件ニ付キ市町村長ノ處分ヲ不當トスル者ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第百七十條　抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ提出シテ之ヲ爲ス

抗告狀ニハ届書又ハ申請書及ヒ關係書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十一條　抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ市町村長ニ添附シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

第百七十二條　市町村長ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ書類ヲ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第百七十三條　裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ市町村長ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ市町村長及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第百七十四條　裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百七十五條　抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第七章　罰則

第百七十六條　正當ノ理由ナクシテ期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス

第百七十七條　第六十四條ノ規定ニ依リ市町村長カ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處ス

第百七十八條　市町村長ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ届出又ハ申請ヲ受理セサルトキ

二　戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

三　正當ノ理由ナクシテ戸籍簿、除籍簿又ハ第三十六條ノ書類ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ

四　正當ノ理由ナクシテ戸籍若ハ除カレタル戸籍ノ謄本、抄本又ハ第

六十七條ノ證明書ヲ交付セサルトキ

五　其他戸籍事件ニ付職務ヲ怠リタルトキ

第百七十九條　過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第百八十條　戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ虚僞ノ届出ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ虚僞ノ届出ヲ爲シタル者亦同シ

附　則

第百八十一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正三年六月勅令第一二一號ヲ以テ大正四年一月一日ヨリ施行）

第百八十二條　本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百八十三條　本法ノ規定ハ本法施行前ノ届出其他ノ事由ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第百八十四條　舊法ノ規定ニ依ル戸籍ハ本法ノ規定ニ依ル戸籍トシテ其效力ヲ有ス但本法ノ規定ニ依リ戸籍ニ記載スヘキ事項ニシテ舊法ノ規定ニ依ル戸籍ニ記載ナキモノハ身分登記ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ得

司法大臣ハ前項ノ規定ニ拘ハラス本法ノ規定ニ依リ戸籍ヲ改製スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第百八十五條　舊法ノ規定ニ依リテ改製セサリシ戸籍ハ司法大臣ノ命スル所ニ依リ本法ノ規定ニ依リテ之ヲ改製スルコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ從前ノ戸籍ニ依リ其事實ヲ知ルコト能ハサルモノハ其記載ヲ省クコトヲ得

第百八十六條　身分登記簿及ヒ舊法ニ保存期間ノ定アル帳簿竝ニ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

附　則（大正十四年四月法律第四八號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年六月勅令第二八三號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

附　則（大正十三年七月法律第二一〇號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十三年十一月勅令第二六三號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行）

戸籍法施行細則（大正三年十月三日司法省令第七號）

【沿革】大正四年七月省令第六號、同五年二月同第一號、同年三月同第六號、同九年七月同第一二號、同十三年三月同第三號改正

第一條　戸籍用紙ハ强靱ナル美濃紙ヲ用ヰ附錄第一號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　戸籍カ數葉ニ渉ルトキハ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

舊法ノ規定ニ依ル戸籍ノ用紙ヲ用ヰ盡シタルトキハ前條ノ戸籍用紙ヲ用ヰテ其記載ヲ繼續スヘシ

第三條　戸籍簿ニハ附錄第二號樣式ニ依ル表紙ヲ附スヘシ

戸籍簿ハ之ヲ分冊スルコトヲ得此場合ニ於テハ其表紙ニ番號ヲ記載シ地區ニ依リテ分冊シタルトキハ其地區ノ各稱ヲモ記載スヘシ

第四條　除籍簿ハ年每ニ之ヲ別冊トシ其表紙ニ「大正何年除籍簿」ト記載スヘシ

前條ノ規定ハ各年度ノ除籍簿ニ之ヲ準用ス

市町村長ハ相當ト認ムルトキハ數年度ノ除籍簿ヲ合綴スルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ表紙ヲ附シ「自大正何年　至大正何年除籍簿綴」ト記載スヘシ

第五條　戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ市町村長ハ遅滯ナク其戸籍ノ副本ヲ監督區裁判所ニ送付スヘシ

區裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ハラス何時ニテモ戸籍ノ副本ヲ徴スルコトヲ得戸籍簿施行前戸籍簿ヨリ除カレタル戸籍ノ副本亦同シ

第六條　區裁判所カ前條第一項ノ規定ニ依リテ送付ヲ受ケタル副本及ヒ同條第二項ノ規定ニ依リテ徴シタル除籍ノ副本ハ市町村ノ區別ニ從ヒ之ヲ編綴シ除籍簿ノ副本トシテ之ヲ保存スヘシ

第四條　ノ規定ハ前項ノ帳簿ニ之ヲ準用ス

第七條　市町村長ハ戸籍簿及ヒ除籍簿ニ付キ各別ニ見出帳ヲ調製シ之ニ戸主ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スヘシ

前項ノ記載ハ戸主ノ氏ノイロハ順ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

第八條　市町村長カ届書其他ノ書類ヲ受理シ又ハ送付ヲ受ケタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ノ外本籍人及ヒ非本籍人ノ區別ニ從ヒ受附ノ順序ニ依リ種類番號ヲ記載スヘシ

市町村長カ戸籍法第三十九條第二項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正又ハ記載ヲ爲ストキハ前項ニ揭ケタル事項ハ許可書ニ之ヲ記載スヘシ

第九條　事件ノ種類ハ戸籍法第四章第二節乃至第十九節ニ揭ケタル事件ノ區別ニ從ヒテ之ヲ定ムヘシ

届出ノ追完、戸籍ノ訂正及ヒ戸籍法第百四十二條ニ依ル一家創立ノ届出ニ關スル書類ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ハラス別ニ一ノ種目ヲ定ムヘシ

第十條　市町村長ハ附錄第三號樣式ニ依リ毎年受附帳ヲ調製シ其年度内ニ受理シタル事件ニ付キ受附ノ順序ニ從ヒ件名、届出事件ノ本人ノ氏名竝ニ本籍、受附ノ番號竝ニ年月日及ヒ種類番號ヲ記載スヘシ

受附番號及ヒ種類番號ハ毎年之ヲ更新スヘシ

第十一條　戸籍ノ副本又ハ届書其他ノ書類若ハ其謄本ノ送付ハ送付スヘキ書類ニ發送ノ年月日及ヒ發送者ノ職氏名ヲ記載シテ之ヲ爲スヘシ

第十二條　戸籍ノ記載ハ附錄第一號樣式附属雛形ニ定メタル相當欄ニ之ヲ爲スヘシ

直系尊属、直系卑属若ハ傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ同シキ者又ハ戸主ノ親族ニ非サル者ハ親族順位ニ依リ親族順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ之ヲ記載スヘシ

事項欄ノ記載ハ附錄第四號記載例ニ從ヒ事件毎ニ行ヲ更メテ之ヲ爲スヘシ

第十三條　婚姻及ヒ離婚ニ關スル事項ハ夫及ヒ妻ノ事項欄ニ之ヲ記載スヘシ

第十四條　復籍拒絶及ヒ家督相續人ノ指定ニ關スル事項ハ戸主ノ事項欄ニ之ヲ記載スヘシ

新ニ戸籍ヲ編製スルトキハ戸主及ヒ家族ノ身分ニ關スル事項ニシテ基本タル戸籍ニ記載シタルモノハ之ヲ新戸籍ニ記載スヘシ

第十五章　戸籍法第百五十八條第二項ノ場合ニ於テハ届書ニ添附シタル戸籍ノ謄本ニ記載シタル事項ハ婚姻其他ノ事由ニ因リ除籍者ニ關スルモノヲ除ク外之ヲ轉籍地ノ戸籍ニ記載スヘシ

第十六條　本籍地變更ノ後原籍地ノ市町村長カ受理シタル届書其他ノ書類ハ之ヲ新本籍地ノ市町村長ニ送付シ其書類ニ依リテ爲シタル戸籍ノ記載ハ之ヲ抹消シ且其事由ヲ戸籍ニ記載スヘシ

新本籍地ノ市町村長カ前項ノ書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ依リテ戸籍ノ記載ヲ爲スヘシ

第十七條　離緣又ハ離婚ニ因リ實家ニ復籍シタル者ニ付テハ戸籍ニ離緣又ハ離婚ニ關スル事項ノ外實家ノ戸籍又ハ除カレタル戸籍ニ基キ其者ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スヘシ但實家ノ本籍地ノ市役所又ハ町村役場ニ保存スル戸籍及ヒ除カレタル戸籍ニ記載ナキ事項ハ此限ニ在ラス

第十八條　前條ノ規定ハ緣組又ハ婚姻ノ無效又ハ取消其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ記載ヲ回復スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　復籍拒絶ニ關スル記載ヲ抹消スル時ハ其事由ヲ記載スヘシ

指定家督相續人ニ付キ死亡、指定ノ取消又ハ指定ノ效力ヲ失フヘキ事由ノ届出アリタル場合ニ於テハ事由ヲ記載シテ家督相續人ノ指定ニ關スル戸籍ノ記載ヲ抹消スヘシ

第二十條　戸籍ノ全部若クハ一部又ハ其記載ヲ抹消スルニハ附錄第五號樣式ニ依リ之ヲ朱抹スヘシ

第二十一條　戸籍ノ訂正ヲ爲スニハ訂正ノ趣旨及ヒ事由ヲ記載シ附錄第六號樣式ニ依リ訂正スヘキ記載ヲ朱抹スヘシ

第二十二條　行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ更正ヲ爲スニハ事項欄ニ更正ノ事由ヲ記載シ附錄第七號樣式ニ依リ更正スヘキ事項ノ記載ヲ訂正スヘシ

行政區畫又ハ土地ノ名稱ヲ更正スル場合ニ於テハ戸籍簿ノ表紙ニ記載シタル名稱ヲ更正シ表紙ノ裏面ニ其事由ヲ記載スヘシ

第二十三條　戸籍法第百八十四號第一項但書ノ規定ニ依リ身分登記ニ依リテ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ記載スヘシ

第二十四條　戸籍法第百八十五條但書ノ規定ニ依リ戸籍ノ記載ヲ省クトキハ事由ヲ記載スヘシ

第一編　民事、商事、刑事　第二章　國籍、戸籍

戸籍ノ記載ヲ爲スヘシ

第十七條　離緣又ハ離婚ニ因リ實家ニ復籍シタル者ニ付テハ戸籍ニ離緣又ハ離婚ニ關スル事項ノ外實家ノ戸籍又ハ除カレタル戸籍ニ基キ其者ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スヘシ但實家ノ本籍地ノ市役所又ハ町村役場ニ保存スル戸籍及ヒ除カレタル戸籍ニ記載ナキ事項ハ此限ニ在ラス

第十八條　前條ノ規定ハ緣組又ハ婚姻ノ無效又ハ取消其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ記載ヲ回復スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　復籍拒絶ニ關スル記載ヲ抹消スル時ハ其事由ヲ記載スヘシ

指定家督相續人ニ付キ死亡、指定ノ取消又ハ指定ノ效力ヲ失フヘキ事由ノ届出アリタル場合ニ於テハ事由ヲ記載シテ家督相續人ノ指定ニ關スル戸籍ノ記載ヲ抹消スヘシ

第二十條　戸籍ノ全部若クハ一部又ハ其記載ヲ抹消スルニハ附錄第五號樣式ニ依リ之ヲ朱抹スヘシ

第二十一條　戸籍ノ訂正ヲ爲スニハ訂正ノ趣旨及ヒ事由ヲ記載シ附錄第六號樣式ニ依リ訂正スヘキ記載ヲ朱抹スヘシ

第二十二條　行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ更正ヲ爲スニハ事項欄ニ更正ノ事由ヲ記載シ附錄第七號樣式ニ依リ更正スヘキ事項ノ記載ヲ訂正スヘシ

行政區畫又ハ土地ノ名稱ヲ更正スル場合ニ於テハ戸籍簿ノ表紙ニ記載シタル名稱ヲ更正シ表紙ノ裏面ニ其事由ヲ記載スヘシ

第二十三條　戸籍法第百八十四號第一項但書ノ規定ニ依リ身分登記ニ依リテ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ記載スヘシ

第二十四條　戸籍法第百八十五條但書ノ規定ニ依リ戸籍ノ記載ヲ省クトキハ事由ヲ記載スヘシ

第二十五條　市町村長ノ代理者カ戸籍ノ記載ヲ爲ストキハ其文末ニ代理資格ヲ記載シテ認印スヘシ

第二十六條　戸籍法第三十七條ノ書類ニシテ非本籍人ニ關スルモノハ其書類ヲ受理シタル市役所又ハ町村役場ノ區別ニ從ヒ年毎ニ各別ニ之ヲ編綴スヘシ但分綴スルコトヲ妨ケス

第二十七條　戸籍法第三十六條第二項ノ書類ハ年毎ニ各別ニ之ヲ編綴スヘシ但分綴スルコトヲ妨ケス

第二十八條　區裁判所カ新戸籍ノ副本及ヒ第五條第一項ノ戸籍ノ副本ノ送付ヲ受ケタルトキ又ハ第五條第二項ノ規定ニ依リ戸籍ノ副本ヲ徴シタルトキハ前ニ送付ヲ受ケタル戸籍ノ副本ハ其戸籍ニ關スル届書其他ノ書類ハ之ヲ抹消シ且其事由ヲ戸籍ニ記載スヘシ但第六條ノ帳簿ニ編綴スヘキモノハ此限ニ在ラス

第二十九條　區裁判所カ戸籍法施行前ノ戸籍ノ副本ノ引繼ヲ受ケタル場合ニ於テ第五條第一項又ハ第二項ニ依リ戸籍ノ副本ノ送本ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ地方裁判所長ニ通知スヘシ

第三十條　市町村ノ區域ノ變更アリタル場合ニ於テ戸籍及ヒ之ニ關スル書類ノ引繼ヲ完了シタルトキハ引繼ノ受ケタル市町村長ヨリ其旨ヲ監督區裁判所ニ報告スヘシ

市町村ノ區域ノ變更ニ因リ區裁判所ノ管轄ニ變更ヲ生シタルトキハ舊管轄區域内ノ本籍人ノ戸籍竝ニ除カレタル戸籍ノ副本及ヒ之ニ關スル書類ハ新管轄區裁判所ニ之ヲ引繼クヘシ

第三十一條　戸籍簿及ヒ届書其他ノ書類ハ鎖鑰アル書箱ニ藏メ其保存ヲ嚴ニシ尚ホ倉庫アルトキハ倉庫ニ藏置クヘシ

第三十二條　本籍ヲ避クル爲メ戸籍簿又ハ除籍簿ヲ市役所又ハ町村役場

外ニ持出シタルトキハ遅滞ナク其旨ヲ監督區裁判所ニ報告スヘシ

第三十三條　戸籍簿又ハ除籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ市町村長ハ遅滯ナク其事由、年月日、帳簿ノ名稱、冊數其他必要ナル事項ヲ記載シ監督區裁判所ニ申報スヘシ

監督區裁判所前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ必要ノ調査ヲ爲シタル後其再製又ハ補完ノ方法ヲ具シ之ヲ管轄地方裁判所長及ヒ司法大臣ニ具申スヘシ

第三十四條　戸籍簿又ハ除籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失スル虞アルトキハ前條ノ例ニ準シ申報及ヒ具申ヲ爲スヘシ

第三十五條　戸籍簿、除籍簿又ハ届書其他ノ書類ノ閲覽ハ吏員ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第三十六條　戸籍又ハ除カレタル戸籍ノ謄本又ハ抄本ハ原本ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作ルヘシ

謄本又ハ抄本ニハ其記載ニ接續シテ附錄第八號書式ニ依ル附記ヲ爲スヘシ

謄本又ハ抄本カ數葉ニ渉ルトキハ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

前項ノ規定ハ謄本又ハ抄本ニ掛紙ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條　前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ市町村長ノ作ルヘキ届書其他ノ書類ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第三十八條　戸籍法第十四條第三項ニ依ル告知ノ書面ハ附錄第九號書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ

第三十九條　届出又ハ申請ノ受理又ハ不受理ノ證明書ハ附錄第十號書式ニ依リ届書、申請書其他ノ書類ニ記載シタル事項ノ證明書其他法令ノ規定ニ依リテ交付スヘキ戸籍ニ關スル證明書ハ附錄第十一號書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ但市町村長ハ第四條ノ定

第四十條　身分登記簿ノ閲覽及ヒ身分登記ノ謄本竝ニ抄本ニ交付ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第四十一條　市町村長カ届出、申請又ハ其追完ヲ怠リタル者ニ對シ戸籍法第六十四條又ハ第六十五條ニ依リ爲スヘキ催告ハ附錄第十二號書式ニ依リ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十二條　市町村長カ届出、申請又ハ其追完ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ届出事件ノ具シ其旨ヲ管轄區裁判所ニ通知スヘシ

第四十三條　届出地カ届出事件ノ本人ノ寄留地ナルトキハ届出人ハ届書ニ其旨ヲ記載スヘシ

戸籍法第四十四條第一項ノ規定ニ依リ日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事實ニ付キ届出人ノ所在地ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ニ本人ノ寄留地ヲ記載スヘシ

第四十三條ノ二　同一市町村ニ於テ二以上ノ戸籍ニ記載ヲ爲スヘキ事項ニ付テハ監督區裁判所ハ其戸籍ノ數ト同數ノ届書又ハ申請書ヲ提出セシムヘキ事ヲ市町村長ニ命スルコトヲ得但市町村長ハ受理シタル届書又ハ申請書ノ謄本ヲ作リ之ヲ以テ届書又ハ申請書ニ代フルコトヲ得

前項ノ書類ハ戸籍法第三十七條ノ規定ニ從ヒ之ヲ監督區裁判所ニ送付スヘシ

第四十四條　戸籍及ヒ之ニ關スル帳簿竝ニ書類ノ保存期間ハ第四條ノ定

ムル所ニ依ル

第四十五條　除籍簿及ヒ除籍簿ノ副本ノ保存期間ハ五十年トス

戸籍法第三十六條第二項ノ書類ノ保存期間ハ十年戸籍法第三十七條ノ書類ニシテ非本籍人ニ關スルモノノ保存期間ハ三年トス

前二項ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第四十六條　受附帳ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ五年トス

第四十七條　廢書簿ノ保存期間ハ第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ戸籍ノ副本ノ送付アリタル翌年ヨリ三年トス

第四十八條　戸籍法第百八十四條第二項又ハ第百八十五條ニ依リテ戸籍ヲ改製シタル場合ニ於テハ原戸籍ノ保存期間ハ改製ノ翌年ヨリ五十年トス

第四十九條　本籍人身分登記簿ノ正本、非本籍人身分登記簿ノ正本竝ニ副本及ヒ非本籍人ノ身分ニ關スル届書竝ニ附屬書類ノ保存期間ハ戸籍法施行ノ日ヨリ三年トス但第五十一條第一項第三號ニ揭ケタルモノハ此限ニ在ラス

本籍人身分登記簿ノ副本ノ保存期間ハ戸籍法施行ノ日ヨリ五十年トス

但區裁判所カ第五條第二項ノ規定ニ依リ市町村每ニ戸籍及ヒ戸籍法施行前戸籍簿ヨリ除カレタル戸籍ノ副本ノ全部ノ送付ヲ要ケタル翌年ヨリ三年間之ヲ保存スルヲ以テ足ル

第五十條　戸籍法施行前ノ戸籍ノ副本ハ新戸籍ノ副本ノ送付アルマテ又ハ戸籍法第百八十四條第二項若クハ第百八十五條ノ規定ニ依リ戸籍ノ改製ヲ爲スマテ之ヲ保存スヘシ

第五十一條　前二條ニ揭ケタルモノヲ除ク外戸籍法施行前ノ帳簿及ヒ書類ノ保存期間ハ左ノ區別ニ依ル

一　除籍簿　五十年

二　舊戸籍法第二百二十一條第一項ニ依リ戸籍ヲ改製シタル場合ニ於ケル原戸籍　五十年

三　戸籍ノ記載ヲ要セサル事項竝ニ日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付テノ届書及ヒ附屬書類　十年

四　戸籍及ヒ本籍人ノ身分ニ關スル届書及ヒ附屬書類　十年

五　受附帳　三年

前項第一號及ヒ受三號乃至第五號ノ帳簿及ヒ書類ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ第二號ノ原戸籍ノ保存期間ハ改製ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第五十二條　前條第一項第二號ニ揭ケタルモノヲ除ク外舊戸籍法施行前ノ帳簿及ヒ書類ノ保存期間ハ從前ノ規定ニ依ル

第五十三條　市町村長カ保存期間ヲ經過シタル帳簿又ハ書類ヲ廢棄セントスルトキハ目錄ヲ作リ監督區裁判所ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條　戸籍事務ノ取扱ニ關シ疑義ヲ生シタルトキハ市町村長ハ監督區裁判所ヲ經由シテ司法大臣ニ稟伺スルコトヲ得

附　則

本令ハ天正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

戸籍手數料規則

（大正三年九月五日勅令第百八十三號）

【沿革】大正九年五月勅令第一三七號改正

第一條　戸籍簿、除籍簿又ハ戸籍法第三十六條ノ書類ノ閲覽ニ付テノ手數料ハ一回ニ付十五錢トス

第二條　戸籍又ハ除カレタル戸籍ノ謄本又ハ抄本ノ交付ニ付テノ手數料

ハ一枚ニ付十五錢トス一枚ニ滿タサルトキ亦同シ

第三條　届出若ハ申請ノ受理又ハ戸籍法第三十六條ノ書類ニ記載シタル事項ノ證明書ノ交付ニ付テノ手數料ハ一枚ニ付十五錢トス

附　則

本令ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

戸籍法ノ規定ニ依リ納付スヘキ手數料ノ件

（明治三十一年一月十二日　司法省令第十三號）

戸籍法ノ規定ニ依リテ納付スル手數料ノ金額左ノ通相定ム

第一條　身分登記簿又ハ戸籍簿ノ閲覽ヲ請求スル者ハ金拾錢ヲ納ムヘシ

第二條　身分登記又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ請求スル者ハ一枚ニ付キ金拾錢ヲ納ムヘシ其一枚ニ滿タサルモノト雖モ亦同シ但シ枚數ハ原本ニ依リ之ヲ計算ス

第三條　身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ノ受理ノ證明書ヲ請求スル者ハ一件ニ付キ金五錢ヲ納ムヘシ

第四條　手數料カ國庫ノ收入ト爲ルヘキ場合ニ於テハ前三條ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル手數料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ、

戸主ニ非サル者爵ヲ授ケラレタル場合ニ關スル件

（明治三十八年三月十三日　法律第六十二號）

【沿革】大正三年三月法律第二八號改正

第一條　戸主ニ非サル者カ爵ヲ授ケラレタルトキハ一家ヲ創立ス

民法中分家ニ關スル規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二條　前條ノ規定ニ依リ一家ヲ創立シタル者ハ授爵ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ辭令書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ市町村長ニ届出ツヘシ

一　一家創立ノ場所

二　届出人カ家族タリシ家ノ戸主ノ氏名、本籍及其ノ戸主ト届出人トノ續柄

三　届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其ノ名、出生ノ年月日、及其ノ者ト届出人トノ續柄

四　届出人及其ノ家族ノ父母ノ氏名、本籍及父母ノ續柄

五　授爵ノ年月日

市町村長カ前項ノ届出ヲ受理シタルトキハ之ニ依リ戸籍記載ノ手續ヲ爲スヘシ

本條ノ場合ニ於テ戸籍法第百五十四條ノ届出ヲ爲スコトヲ要セス

附　則（大正三年三月法律第二八號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正三年六月勅令第一二一號ヲ以テ同四年一月一日ヨリ施行）

外國ニ於テ婚姻ヲ爲サントスルトキノ證明書ニ關スル件

（明治三十三年七月十六日　司法省令第二十五號）

帝國臣民外國ニ於テ婚姻ヲ爲サントスルニ方リ帝國ノ法律ニ依リ其婚姻ノ障碍ト爲ルヘキ事項ノ存セサル旨又ハ婚姻ヲ爲ス男カ其婚姻ニ因リ日本ノ國籍ヲ喪失スルコトナク之ヲ其妻及ヒ嫡出子ニ取得セシムルコトヲ得ル旨ヲ證スル當該吏員ノ證明書ヲ差出スコトヲ要スル場合ニ於テハ本籍地ノ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ吏員ニ證明書ノ下附ヲ申請スルコトヲ得但婚姻ニ付テ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ申請書ニ同意ノ證書ヲ添附スルコトヲ要ス

市區町村長又ハ之ニ準スヘキ吏員ハ證明書下付ノ申請ヲ適當ト認ムルトキハ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シタル證明書ヲ下付スルコトヲ要ス

第二節　寄留

寄留法

（大正三年三月三十一日　法律第二十七號）

第一條　九十日以上本籍外ニ於テ一定ノ場所ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ハ之ヲ寄留者トス本籍ナキ者、本籍分明ナラサル者及日本ノ國籍ヲ有セサル者ニシテ九十日以上一定ノ場所ニ居住スルモノ亦同シ

寄留ニ關スル事項ハ届出ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ寄留簿ニ記載スルコトヲ要ス

第二條　寄留ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

戸籍法第三條、第五條及第六條ノ規定ハ寄留ニ關スル事務ニ之ヲ準用ス

第三條　寄留ニ關スル届出、届出義務者、届出期間、寄留簿其ノ他寄留ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　寄留ニ關スル届出ヲ怠リタル者ハ五圓以下ノ過料ニ處ス

戸籍法第百七十九條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正三年六月勅令第一二一號ヲ以テ同四年一月一日ヨリ施行）

寄留手續令

（大正三年十月二十八日　勅令第二百二十六號）

【沿革】大正九年五月勅令第一三八號、同十三年四月同第八九號改正

第一條　本令ニ於テ住所又ハ居所ト稱スルハ九十日以上本籍外ニ於テ居住スル目的ヲ以テ定メタル住所又ハ居所ヲ謂フ

第二條　寄留簿ハ住所寄留簿及居所寄留簿ノ二種トス

第三條　寄留簿ハ市町村内ノ寄留者ニ付寄留ノ場所ノ地番號ノ順序ニ從ヒ世帶ヲ同クスル者ニ付テハ世帶毎ニ區別シテ之ヲ編製ス

一ノ市町村内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二箇以上ノ區畫アル場合ニ於テハ其ノ區畫ノ順序ハ戸籍編綴ノ順序ニ從フ

第四條　寄留簿ヲ閲覽シ又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

寄留簿ノ閲覽ニ付テノ手數料ハ一回ニ付十錢、寄留簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ニ付テノ手數料ハ一枚ニ付十錢トス一枚ニ滿タサルトキ亦同シ

第五條　住所寄留簿ニハ市町村内ニ住所ヲ有スル者、居所寄留簿ニハ市町村内ニ居所ヲ有スル者ニ付左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　寄留者ノ氏名及職業

二　世帶主ノ氏名及世帶主ト寄留者トノ續柄
三　寄留者ノ本籍、華士族ノ稱及出生ノ年月日
四　寄留者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主ノ寄留者トノ續柄
五　配偶者アル者ニ付テハ其ノ配偶者ノ氏名
六　本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ニ付テハ其ノ事由
七　日本ノ國籍ヲ有セサル寄留者ニ付テハ其ノ者ノ國籍又ハ其ノ者カ國籍ヲ有セサルコト
八　寄留ノ年月日及場所
九　寄留地ヲ變更シタル者ニ付テハ原寄留地

住所外ニ寄留スル者ニ付テハ住所寄留簿ニハ其ノ住所外ノ寄留ノ年月日及場所、居所寄留簿ニハ其ノ所住ヲ記載スルコトヲ要ス

第六條　寄留簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ變更ノ年月日ヲ記載シテ其ノ事項ニ關スル記載ヲ更正スルコトヲ要ス

第七條　寄留者カ其ノ住所ヲ居所ニ又ハ居所ヲ住所ニ變更シタルトキハ住所寄留簿又ハ居所寄留簿ノ記載ヲ居所寄留簿又ハ住所寄留簿ニ移記シ且變更ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス但シ住所又ハ居所ノ變更カ世帶ヲ同クスル寄留者ノ全員ニ關スルトキハ移記ニ代ヘ其ノ寄留簿ノ用紙ヲ當該寄留簿中ニ編綴スルコトヲ得

第八條　市町村長屆出ニ因リテ寄留簿ノ記載ヲ爲ストキハ其ノ旨ヲ記載シ職權ヲ以テ寄留簿ノ記載ヲ爲ストキハ其ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第九條　寄留地又ハ原寄留地ノ市町村長寄留ニ關スル屆出ヲ受ケタルトキハ寄留簿ノ記載ヲ爲シタル後遲滯ナク本籍地ノ市町村長ニ屆書ヲ送付スルコトヲ要ス但シ住所地外ノ寄留ニ關スル屆書ハ住所地ノ市町村長ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

寄留地、原寄留地又ハ本籍地ノ市町村長寄留ニ關スル屆出ヲ受ケタル場合ニ於テ原寄留地又ハ住所地外ノ寄留地ニ於テ寄留簿ノ記載ヲ爲スヘキトキハ遲滯ナク屆書ノ謄本ヲ作リ原寄留地又ハ住所地外ノ寄留地ノ市町村長ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第十條　前條ノ規定ニ依リ屆書又ハ其ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル市町村長ハ其ノ屆書又ハ謄本ニ依リ遲滯ナク寄留ニ關スル記載ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條　寄留者ノ本籍地ノ市町村長ハ其ノ者ノ戸籍ニ用紙ヲ添附シ之ニ其ノ氏名、寄留ノ場所及年月日竝寄留ノ場所ノ住所又ハ居所ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス但シ住所外ノ寄留ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ用紙ハ別ニ之ヲ編綴スルコトヲ得

第十二條　第四條及第六條ノ規定ハ前條ノ用紙ニ付之ヲ準用ス

第十三條　第四條及前條ノ規定ニ依ル手數料ハ之ヲ市町村ノ收入トス

第十四條　戸籍ニ記載シタル事項ノ變更ニ因リ寄留簿ノ記載ヲ更正又ハ抹消スヘキ場合ニ於テハ本籍地ノ市町村長ハ第十一條ノ用紙ニ記載シタル寄留地ノ市町村長ニ更正又ハ抹消スヘキ事項ヲ通知スルコトヲ要ス

住所地ノ市町村長住所地外ニ寄留スル者ニ付前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ住所寄留簿ノ記載ヲ更正又ハ抹消シタル後遲滯ナク住所地外ノ寄留地ノ市町村長ニ更正又ハ抹消シタル事項ヲ通知スルコトヲ要ス

第十五條　前條第一項ノ規定ハ寄留地ノ市町村長カ戸籍ニ關スル屆書其ノ他ノ書類ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ寄留地ノ市町村長ハ其ノ書類ニ依リ寄留簿ノ記載ヲ更正又ハ抹消シタル後遲滯ナク本籍地ノ市町村長ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

住所地外ノ寄留地ノ市町村長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ住所地ノ市町村長ニ、住所地ノ市町村長之ヲ受ケタルトキハ住所地外ノ寄留地ノ市町村長ニ更正又ハ抹消シタル事項ヲ通知スルコトヲ要ス

第十六條　寄留者寄留地ヲ退去シタルトキハ其ノ者ニ關スル原寄留地ノ寄留簿ノ記載ハ之ヲ抹消シ世帶ヲ同クスル寄留者ノ全員退去シタル場合ニ於テハ其ノ寄留ニ關スル用紙ヲ閉鎖シ之ヲ寄留簿ヨリ除クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ同一市町村內ニ於テ寄留所及本籍ヲ有スル寄留者本籍ニ復歸シ又ハ住所及居所ヲ有スル寄留者住所若ハ居所ヲ退去シタル場合ニ之ヲ準用ス寄留者カ寄留ノ場所ニ本籍ヲ定メタル場合、第七條ノ規定ニ依リ寄留簿ノ記載ヲ移記シタル場合其ノ他寄留者ヲ寄留簿ヨリ除クヘキ場合亦同シ

第十七條　前條ノ規定ハ第十一條ノ用紙ニ之ヲ準用ス但シ寄留者カ住所外ノ寄留所ヲ退去シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　市町村長職權ヲ以テ寄留簿ノ記載ヲ爲シタルトキハ屆出義務者ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ第十五條第二項ノ規定ニ準シ寄留簿ニ記載シタル事項ヲ通知スルコトヲ要ス

第一項ノ場合ニ於テ寄留ノ場所及年月日ニ關スル記載ヲ爲シタルトキハ本籍地ノ市町村長ニモ其ノ事項ヲ通知スルコトヲ要ス但シ住所外ノ寄留ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　市町村長第十四條、第十五條又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク寄留ニ關スル記載ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條　寄留者カ其ノ本籍ヲ他ノ市町村ニ轉シタルトキハ原籍地ノ市町村長ハ第十一條ノ用紙ヲ新本籍地ノ市町村長ニ送付シ新本籍地ノ市町村長ハ寄留者ノ新戸籍ニ之ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十一條　市町村長ハ地方裁判所長ノ許可ヲ得テ何時ニテモ寄留簿及第十一條ノ用紙ヲ改製スルコトヲ得

第二十二條　寄留者寄留ノ場所ヲ退去シタル場合ニ於テ原寄留地ノ市町村長寄留簿ノ記載ヲ爲シタルトキハ世帶ニ屬シタル者ニ付テハ世帶主第二十五條ノ寄留者ニ付テハ場屋ノ管理者、其ノ他ノ寄留者ニ付テハ原寄留所ノ家主又ハ家屋ノ管理人ニ遲滯ナク其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス但シ世帶ニ屬スル者又ハ第二十五條ノ寄留者ニ付第三十四條ノ屆出ヲ爲スヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　寄留ニ關スル帳簿及書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第二十四條　寄留ニ關スル屆出ハ寄留者、世帶ヲ同クスル者ニ付テハ世帶主之ヲ爲スコトヲ要ス

寄留者屆出ヲ爲スコト能ハサルトキハ同居者、世帶主屆出ヲ爲スコト能ハサルトキハ之ニ代リテ世帶ヲ管理スル者其ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條　寄宿所、宿舍其ノ他ノ多數同居ヲ目的トスル場屋ノ寄留者ニ付テハ其ノ場屋ノ管理ヲ爲ス者寄留ニ關スル屆出ヲ爲スコトヲ要ス

第二十六條　寄留ニ關スル屆出ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本人ノ寄留地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條　寄留ニ關スル屆出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　屆書ニハ本人ノ氏名及屆出ノ年月日ヲ記載シ屆出人又ハ其ノ代理人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第二十九條　口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人又ハ其ノ代理人市役所又ハ町村役場ニ出頭シ届書ニ記載スヘキ事項ヲ陳述スルコトヲ要ス

市町村長ハ前項ノ陳述ヲ筆記シ届出ノ年月日ヲ記載シテ届出人又ハ其ノ代理人ニ讀ミ聞カセ且之ヲシテ其ノ書面ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

届書ニ關スル規定ハ前項ノ書面ニ之ヲ準用ス

第三十條　前二條ノ場合ニ於テ署名スルコト能ハサル者ハ氏名ヲ代署セシメ印ヲ有セサル者ハ拇印スルヲ以テ足ル但シ自ラ署名スル者ハ拇印スルコトヲ要セス

第三十一條　寄留ノ届出ハ住所又ハ居所ヲ定メタル日ヨリ十四日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ第五條ニ掲ケタル事項及寄留ノ場所ノ住所又ハ居所ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス

届書ニハ家主若ハ家屋ノ管理人ノ承諾書ヲ添附シ又ハ其ノ者ヲシテ承諾ヲ爲シタル旨ヲ記載シ署名捺印セシムルコトヲ要ス但シ世帶ニ屬スル者ニ關スル届出及第二十五條ノ届出ニ付テハ此限ニ在ラス

第三十二條　寄留者同一市町村内ニ於テ寄留ノ場所ヲ變更シタルトキハ十日内ニ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ原寄留所、新寄留所及變更ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第三十三條　寄留者本籍又ハ住所ニ復歸シタルトキハ復歸ノ日ヨリ十日内ニ本籍地又ハ住所地ニ於テ其ノ旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ本籍又ハ住所及復歸ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十四條　前條ノ場合ヲ除クノ外寄留者カ新ニ寄留ノ場所ヲ定メスシテ寄留地ヲ退去シ又ハ朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島若ハ外國ニ居住スル目的ヲ以テ寄留地ヲ退去スルトキハ豫メ其ノ旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第三十五條　寄留者カ其ノ住所ヲ居所ニ又ハ居所ヲ住所ニ變更シタルトキハ十日内ニ其ノ旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ變更ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十六條　第十四條第一項及第四條ノ場合竝行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタル場合ヲ除クノ外寄留簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ十日内ニ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ變更ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十七條　第二十二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者カ寄留者ノ退去ノ後二十日内ニ其ノ通知ヲ受ケサルトキハ爾後十日内ニ原寄留地ニ於テ退去ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

寄留ノ場所ヲ退去シタル寄留者ノ原寄留地又ハ退去先カ樺太ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ届出ハ寄留者ノ退去ノ後四十日内ニ第二十二條ノ通知ヲ受ケサルトキニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

届書ニハ退去ノ年月日及知レタル退去先ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十八條　届書ニハ前數條ニ定メタル事項ノ外寄留簿ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナルモノヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條　市町村長カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ届出義務者ニ對シ其ノ期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ市町村長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第四十條　本令ニ規定スル届出ヲ爲スヘキ期間ハ樺太ニ在リテハ之ヲ二倍トス

第四十一條　本令ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ寄留スル者ニシテ從前ノ規定ニ依リテ寄留ノ届出ヲ爲ササルモノハ本令ニ從ヒ本令施行ノ日ヨリ十四日内ニ寄留ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

市町村長ハ本令施行前寄留ノ届出ヲ爲シタル者ニ付第三十九條ノ規定ニ準シ本令ニ依リテ寄留簿ノ記載ヲ爲ス爲必要ナル事項ノ届出ヲ爲サシムルコトヲ得

附　則（大正十三年四月勅令第八九號）

本令ハ大正十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ樺太ニ居住スル者ニ付テハ本令ニ規定スル届出ヲ爲スヘキ期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

寄留手續細則（大正三年十月二十九日司法省令第十號）

第一條　寄留簿ノ用紙ハ附錄第一號樣式依ニリ寄留手續令第十一條ノ用紙ハ附錄第二號樣式ニ依リテ之ヲ調製スヘシ但シ市町村長ハ地方裁判所長ノ許可ヲ得テ別ニ其ノ樣式ヲ定ムルコトヲ得

第二條　寄留簿ハ世帶ヲ同クスル者ニ付テハ一世帶毎ニ一用紙ヲ備フヘシ

前項ノ寄留者ヲ除クノ外同一番地ニ寄留スル者ハ之ヲ一用紙ニ列記スヘシ但シ其ノ一人又ハ數人ニ付一用紙ヲ備フルコトヲ得

第三條　寄留簿ニハ附錄第三號樣式ニ依ル表紙ヲ附スヘシ

寄留簿ヲ分冊シタル場合ニ於テハ基ノ表紙ニ番號ヲ記載シ地區ニ依リテ分冊シタルトキハ其ノ地區ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第四條　寄留手續令第十一條ノ用紙ヲ編綴スルニハ戸主ノ氏ノ（イ）（ロ）（ハ）順ニ依ルヘシ

前項ノ用紙綴ニハ附錄第四號樣式ニ依ル表紙ヲ附スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ用紙綴ニ付之ヲ準用ス

第五條　市町村長ハ寄留簿ニ付見出帳ヲ備フヘシ但シ地方裁判所長ノ許可ヲ得タルトキハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

第六條　寄留簿ノ記載ハ附錄第五號記載例ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

寄留簿ノ記載ハ附錄第一號樣式附屬雛形、寄留手續令第十一條ノ用紙ノ記載ハ附錄第二號樣式附屬雛形ニ定メタル相當欄ニ之ヲ爲シ其ノ欄ヲ用ヰ盡シタルトキハ掛紙ニ之ヲ爲スヘシ

掛紙ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スヘシ

第七條　世帶ヲ同クスル寄留者又ハ同一用紙ニ列記シタル寄留者ノ一人又ハ數人同一市町村内ニ於テ寄留ノ場所ヲ變更シタルトキハ其ノ者又ハ他ノ寄留者ニ關スル記載ヲ抹消シ新ナル用紙ニ之ヲ移記スヘシ

退去其ノ他ノ事由ニ因リ同一用紙ニ列記シタル寄留者ノ全員ヲ寄留簿ヨリ除クヘキ場合ニ於テハ其ノ用紙ヲ閉鎖シ之ヲ寄留簿ヨリ除クヘシ

第八條　寄留簿ノ用紙又ハ寄留手續令第十一條ノ用紙ノ記載ヲ更正又ハ抹消スルニハ其ノ事由及年月日ヲ記載シ附錄第六號樣式ニ依リ更正又ハ抹消スヘキ記載ヲ朱抹スヘシ

第九條　第七條第二項又ハ寄留手續令第十六條若ハ第十七條ノ規定ニ依リテ用紙ヲ閉鎖スルトキハ之ニ其ノ事由及年月日ヲ記載スヘシ

第十條　市町村ノ區域ノ變更アリタルトキハ寄留簿及之ニ關スル書類ハ之ヲ當該市町村ニ引繼クヘシ

前項ノ引繼ヲ完了シタルトキハ引繼ヲ受ケタル市町村長ハ其ノ旨ヲ監督區裁判所ニ報告スヘシ

第十一條　寄留簿ノ記載ヲ爲ス毎ニ市町村長ハ其ノ文末ニ認印スヘシ

市町村長ノ代表者寄留簿ノ記載ヲ爲ストキハ其ノ文末ニ代理資格ヲ記載シテ認印スヘシ

第十二條　寄留簿及寄留手續令第十一條ノ用紙ノ閲覽ハ吏員ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第十三條　寄留簿又ハ寄留手續令第十一條ノ用紙ノ謄本又ハ抄本ハ原本ト同一ノ樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作ルヘシ

謄本又ハ抄本ニハ其ノ記載ニ接續シテ附錄第七號書式ニ依ル附記ヲ爲スヘシ

謄本又ハ抄本數葉ニ渉ルトキハ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

前項ノ規定ハ謄本又ハ抄本ニ掛紙ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　前條第二項及第三項ノ規定ハ市町村長ノ作ルヘキ届書ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第十五條　市町村長届出ヲ怠リタル者ニ對シ寄留手續令第三十九條ニ依リ爲スヘキ儆告ハ附錄第八號書式ニ依リ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十六條　市町村長届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ届出事件ヲ具シ其ノ旨ヲ管轄區裁判所ニ通知スヘシ

第十七條　第七條第二項又ハ寄留手續令第十六條若ハ第十七條ノ規定ニ依リ閉鎖シタル用紙ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ三年トス

第十八條　寄留手續令第二十一條ニ依リ寄留簿ノ全部又ハ一部ヲ改製シタル場合ニ於テ原寄留簿又ハ改紙セラレタル用紙ノ保存期間ハ改製ノ翌年ヨリ三年トス

前項ノ規定ハ寄留手續令第十一條ノ用紙ヲ改製シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　寄留ニ關スル届書其ノ他ノ附屬書類ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ二年トス

第二十條　從前ノ規定ニ依ル入寄留簿又ハ出寄留簿ニ記載シタル寄留者ニ付寄留簿又ハ寄留手續令第十一條ノ用紙ノ記載ヲ爲シタルトキハ原寄留簿ノ保存期間ハ其ノ記載ヲ爲シタル翌年ヨリ三年トス

第二十一條　前條ニ揭ケタルモノヲ除クノ外從前ノ帳簿及書類ノ保存期間ハ從前ノ規定ニ依ル

第二十二條　市町村長保存期間ノ經過シタル帳簿又ハ書類ヲ廢棄セムスルトキハ目錄ヲ作リ監督區裁判所ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四節　華族、朝鮮貴族

華族令（明治四十年五月八日皇室令第二號）

【沿革】明治四十三年八月皇室令第一七號改正

第一條　凡ソ有爵者ヲ華族トス

有爵者ノ家族ハ華族ノ族稱ヲ享ク

第二條　爵ハ公侯伯子男ノ五等トス

第三條　爵ヲ授クルハ勅旨ヲ以テシ官内大臣之ヲ奉行ス

第四條　有爵者ハ其ノ爵ニ相當スル禮遇ヲ享ク

第五條　有爵者ノ嫡ハ其ノ夫ノ爵ニ相當スル禮遇及名稱ヲ享ク

有爵者ノ寡嫡其ノ家ニ在ルトキハ特ニ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシメ其ノ家ノ戸主トナリタルトキ又ハ襲爵者ナクシテ其ノ家ニ在ルトキハ其ノ者ニ限リ特ニ華族ノ族稱ヲ保有セシメ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシム

第六條　有爵者ノ家族ニシテ左ニ揭ケタル者ハ華族ノ禮遇ヲ享ク

一　曾祖父、祖父、父

二　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ法定ノ推定家督相續人及其ノ嫡長男子、嫡出ノ男子ナキトキハ其ノ庶長男子

三　戸主タリシ者

四　前三號ニ揭ケタル者ノ配偶者

第七條　有爵者又ハ前二條ノ禮遇ヲ享クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

一　禁治産者及準禁治産者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三　刑事ノ訴ヲ受ケ勾留又ハ保釋中ニ在ル者

四　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第八條　有爵者ハ法律命令及華族ニ關スル規程ノ範圍内ニ於テ家範ヲ定ムルコトヲ得

家範ハ宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ之ヲ廢止變更スルトキ亦同シ

有爵者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ家範ヲ定メ又ハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得ス

第九條　爵ハ男子ノ家督相續人ヲシテ之ヲ襲カシム

第十條　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ家督相續人又ハ其ノ法定代理人ハ相續ノ開始ヲ知リタル時ヨリ六箇月内ニ宮内大臣ニ家督相續ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ宮内大臣ハ勅許ヲ經テ襲爵ノ辭令書ヲ交付ス

第十一條　襲爵ハ家督相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ生ス

第十二條　左ノ場合ニ於テハ家督相續人ハ爵ヲ襲クコトヲ得ス

一　國籍喪失ニ因リ家督相續開始シタルトキ

二　第十條第一項ノ期間内又ハ家督相續開始ノ時ヨリ三箇年内ニ家督相續ノ届出ヲ爲ササルトキ

三　第二十二條又ハ第二十四條ニ依リ華族ノ族稱ヲ享ケサルトキ又ハ之ヲ失ヒ若ハ之ヲ除カレタルトキ

第十三條　有爵者及其ノ家族ノ身分ニ關シ監督上必要ナル事項ハ宮内大臣之ヲ管掌ス

第十四條　有爵者婚姻、養子緣組、離居、協議上ノ離婚若ハ離縁又ハ家
督相續人ノ指定若ハ其ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ戸籍吏ニ其ノ届出
ヲ爲ス前、離居ヲ爲スニ付キ裁判所ノ許可ヲ要スル場合ハ其ノ許可ヲ
請求スル前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

有爵者遺言ヲ以テ養子緣組ヲ爲シ又ハ家督相續人ノ指定ヲ爲スノ意思
ヲ表示シタルトキハ養子ナルト代ハリテ承諾ヲ爲スコトヲ得ル者ニ在リテハ其ノ承諾ヲ爲ス前、被指定者又ハ其ノ法定代理人
ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十五條　有爵者法定ノ推定家督相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ヲ爲サムトスルトキ又ハ被廢除者廢除ノ取消ヲ爲サムトスル
トキハ前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ但シ有爵者遺言ヲ以テ家督相續人ノ
廢除又ハ其ノ取消ヲ爲スノ意思ヲ表示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　有爵者ノ家督相續人ニ選定セラレタル者又ハ其ノ法定代理人
ハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ被選定者皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十七條　有爵者ノ家族婚姻、養子緣組、分家、廢絶家、再興又ハ他家
相續ヲ爲シ若ハ他家ノ家族トナラムトスルトキハ有爵者又ハ其ノ法定
代理人ハ之ニ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ婚姻ノ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十八條　有爵者又ハ其ノ家ニ入ルル者ノ入縁ニ同意ヲ爲サムトスル
トキハ其ノ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第十九條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續人
ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十五條　有爵者法定ノ推定家督相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ヲ爲サム
スルトキ又ハ被廢除者廢除ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ但シ有爵者遺言ヲ以テ家督相續人ノ
廢除又ハ其ノ取消ヲ爲スノ意思ヲ表示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　有爵者ノ家督相續人ニ選定セラレタル者又ハ其ノ法定代理人
ハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ被選定者皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十七條　有爵者ノ家族婚姻、養子緣組、分家、廢絶家、再興又ハ他家
相續ヲ爲シ若ハ他家ノ家族トナラムトスルトキハ有爵者又ハ其ノ法定
代理人ハ之ニ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ婚姻ノ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十八條　有爵者又ハ其ノ家ニ入ルル者ノ入縁ニ同意ヲ爲サムトスル
トキハ其ノ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第十九條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第二十條　有爵者法定ノ推定家督相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ヲ爲サム
トスルトキ又ハ被廢除者廢除ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ但シ有爵者遺言ヲ以テ家督相續人ノ
廢除又ハ其ノ取消ヲ爲スノ意思ヲ表示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　有爵者死刑又ハ懲役ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁判確定シタルトキ
ハ其ノ爵ヲ失フ

有爵者ノ嫌前項ノ場合ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ禁止ス

第二十二條　第五條第二項ノ禮遇ヲ享クヘキ者又ハ有爵者ノ家族前條ノ
場合ニ該當スルトキハ其ノ者ニ限リ華族ノ族稱ヲ失フ

キハ其ノ者ニ限リ華族ノ族稱ヲ享クルコトヲ得ス

第二十三條　有爵者又ハ第五條、第六條ノ禮遇ヲ享クヘキ者左ノ各號ノ
一ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ停止ス

二　華族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者

三　宮内大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シ情狀重キ者

第二十四條　前三條ニ規定シタル場合ノ外華族ノ體面ヲ汚ス又ハ其ノ族
籍ヲ除キ又ハ其ノ品位ヲ返上セシメ、華族ノ族籍ヲ除キタル者ハ
停止若ハ禁止ス

左ノ各號ノ一ニ該當セサルトキハ宮内大臣ノ認許ヲ受クルコトヲ得ス

一　妻父又ハ被相續人ノ男系ノ六親等内ノ血族但シ他家ヨリ入リタル
者ノ貨方ノ親族ヲ除ク

二　本家又ハ同家ノ家族若ハ分家ノ戸主又ハ家族

三　華族ノ族籍ヲ享クル者

第二十條　宮内大臣ノ認可ヲ受クヘキ者認許ヲ依リ華族ノ族籍ヲ停止シ又ハ
前條第十八條ノ行爲ヲ爲シタルトキハ情狀ニ依リ華族ノ禮遇ヲ停止シ又ハ
爵ヲ褫カシメルコトアルヘシ

第十八條ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テハ入籍者ハ華族ノ族籍ヲ享ク
ルコトヲ得ス

第二十一條　有爵者死刑又ハ懲役ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁判確定シタルトキ
ハ其ノ爵ヲ失フ

有爵者ノ嫌前項ノ場合ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ禁止ス

第二十二條　第五條第二項ノ禮遇ヲ享クヘキ者又ハ有爵者ノ家族前條ノ
場合ニ該當スルトキハ其ノ者ニ限リ華族ノ族稱ヲ失フ

キハ其ノ者ニ限リ華族ノ族稱ヲ享クルコトヲ得ス

第二十三條　有爵者又ハ第五條、第六條ノ禮遇ヲ享クヘキ者左ノ各號ノ
一ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ停止ス

二　華族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者

三　宮内大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シ情狀重キ者

第二十四條　前三條ニ規定シタル場合ノ外華族ノ體面ヲ汚ス又ハ其ノ族
籍ヲ除キ又ハ其ノ品位ヲ返上セシメ、華族ノ族籍ヲ除キタル者ハ
停止若ハ禁止ス

一　出願事件又ハ届出事件

證印スヘシ

第二條　願書又ハ届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ出願者又ハ届出者之ニ署名
ニ宛テ之ヲ差出スヘシ

第三條　願書又ハ届書ハ總テ書面ヲ以テシ宮内大臣

華族令施行規則（宮内省令第四十五號　明治四十年五月二十八日）

第一條　華族令及本令ニ依ル出願又ハ届出ハ總テ書面ヲ以テシ宮内大臣
ニ宛テ之ヲ差出スヘシ

第二條　願書又ハ届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ出願者又ハ届出者之ニ署名
捺印スヘシ

一　出願事件又ハ届出事件

第一編　民事、商事、刑事　第二章　國籍、戸籍

第五條、第六條ノ禮遇ヲ享ケタル家族ニシテ前項ノ先行アリタル者ハ
華族ノ族稱ヲ除ク

第十五條　有爵者婚姻、養子緣組、離居、協議上ノ離婚若ハ離縁又ハ家
督相續人ノ指定若ハ其ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ戸籍吏ニ其ノ届出
ヲ爲ス前、離居ヲ爲スニ付キ裁判所ノ許可ヲ要スル場合ハ其ノ許可ヲ
請求スル前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

有爵者遺言ヲ以テ養子緣組ヲ爲シ又ハ家督相續人ノ指定ヲ爲スノ意思
ヲ表示シタルトキハ養子ナルト代ハリテ承諾ヲ爲スコトヲ得ル者ニ在リテハ其ノ承諾ヲ爲ス前、被指定者又ハ其ノ法定代理人
ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十六條　有爵者ノ家督相續人ニ選定セラレタル者又ハ其ノ法定代理人
ハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ被選定者皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十七條　有爵者ノ家族婚姻、養子緣組、分家、廢絶家、再興又ハ他家
相續ヲ爲シ若ハ他家ノ家族トナラムトスルトキハ有爵者又ハ其ノ法定
代理人ハ之ニ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ婚姻ノ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十八條　有爵者又ハ其ノ家ニ入ルル者ノ入縁ニ同意ヲ爲サムトスル
トキハ其ノ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第十九條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第二十條　有爵者法定ノ推定家督相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ヲ爲サム
トスルトキ又ハ被廢除者廢除ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ但シ有爵者遺言ヲ以テ家督相續人ノ
廢除又ハ其ノ取消ヲ爲スノ意思ヲ表示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　有爵者ノ家督相續人ニ選定セラレタル者又ハ其ノ法定代理人
ハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ被選定者皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第二十二條　有爵者ノ家族婚姻、養子緣組、分家、廢絶家、再興又ハ他家
相續ヲ爲シ若ハ他家ノ家族トナラムトスルトキハ有爵者又ハ其ノ法定
代理人ハ之ニ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ婚姻ノ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第二十三條　有爵者又ハ其ノ家ニ入ルル者ノ入縁ニ同意ヲ爲サムトスル
トキハ其ノ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第二十四條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第二十五條　有爵者ノ家督相續人ニ選定セラレタル者又ハ其ノ法定代理人
ハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ被選定者皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第二十六條　有爵者ノ家督相續人ニ選定セラレタル者又ハ其ノ法定代理人
ハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ被選定者皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第二十七條　有爵者ノ家族婚姻、養子緣組、分家、廢絶家、再興又ハ他家
相續ヲ爲シ若ハ他家ノ家族トナラムトスルトキハ有爵者又ハ其ノ法定
代理人ハ之ニ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ婚姻ノ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第二十八條　有爵者又ハ其ノ家ニ入ルル者ノ入縁ニ同意ヲ爲サムトスル
トキハ其ノ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第二十九條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第三十條　有爵者法定ノ推定家督相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ヲ爲サム
トスルトキ又ハ被廢除者廢除ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ但シ有爵者遺言ヲ以テ家督相續人ノ
廢除又ハ其ノ取消ヲ爲スノ意思ヲ表示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　有爵者ノ家督相續人ニ選定セラレタル者又ハ其ノ法定代理人
ハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ被選定者皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第三十二條　有爵者又ハ其ノ家ニ入ルル者ノ入縁ニ同意ヲ爲サムトスル
トキハ其ノ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第三十三條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第三十四條　有爵者法定ノ推定家督相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ヲ爲サム
トスルトキ又ハ被廢除者廢除ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ但シ有爵者遺言ヲ以テ家督相續人ノ
廢除又ハ其ノ取消ヲ爲スノ意思ヲ表示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　有爵者ノ家督相續人ニ選定セラレタル者又ハ其ノ法定代理人
ハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ被選定者皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第三十六條　有爵者又ハ其ノ家ニ入ルル者ノ入縁ニ同意ヲ爲サムトスル
トキハ其ノ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第三十七條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第三十八條　有爵者又ハ其ノ家ニ入ルル者ノ入縁ニ同意ヲ爲サムトスル
トキハ其ノ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第三十九條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第四十條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第四十一條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第四十二條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第四十三條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第四十四條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第四十五條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第四十六條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第四十七條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第四十八條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第四十九條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第五十條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第五十一條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第五十二條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第五十三條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第五十四條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第五十五條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第五十六條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第五十七條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第五十八條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第五十九條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第六十條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第六十一條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第六十二條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第六十三條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第六十四條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第六十五條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第六十六條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第六十七條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第六十八條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第六十九條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第七十條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第七十一條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第七十二條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第七十三條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第七十四條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第七十五條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第七十六條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第七十七條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第七十八條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第七十九條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第八十條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第八十一條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第八十二條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第八十三條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第八十四條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第八十五條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ妻、家督相續人ノ指定又ハ遺言ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續
人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第八十六條　

一　氏名及出生ノ年月日
二　父母ノ氏名
三　出願者ト本人トノ續柄
四　本人ニシテ出願者以外ノ有爵者ノ家族ナルトキハ戶主ノ爵、氏名及本人ト戶主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業、氏名及本人ト戶主ノ續柄

第十條　華族令第十四條第一項ニ依リ隱居、協議上ノ離婚若ハ離緣又ハ家督相續人指定ノ取消ニ付キ認許ヲ請フニハ願書ニ理由ヲ具シ隱居ニ付テハ家督相續人ノ承認アリタルコト、離婚若ハ離緣ニ付テハ相手方ノ承諾アリタルコトヲ證スルニ足ル書面ヲ添フヘシ

第十一條　華族令第十四條第二項ニ依リ養子緣組ノ承諾又ハ相續ノ承認ニ付キ認許ヲ請フニハ養子トナル者又ハ被指定者ニ關シ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　出生ノ年月日
二　父母ノ氏名
三　遺言者ノ爵、氏名
四　本人ト遺言者トノ續柄
五　本人ニシテ遺言者以外ノ有爵者ノ家族ナルトキハ戶主ノ爵、氏名及本人ト戶主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業、氏名及本人ト戶主トノ續柄

第十二條　華族令第十五條ニ依リ法定ノ推定家督相續人ノ廢除又ハ其ノ取消ニ付キ認許ヲ請フニハ願書ニ其ノ理由ヲ具スヘシ

第十三條　華族令第十六條ニ依リ相續ノ承認ニ付キ認許ヲ請フニハ被選定者ニ關シ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　出生ノ年月日
二　父母ノ氏名
三　被選定者ト被相續人トノ續柄
四　被選定者ニシテ被相續人以外ノ有爵者ノ家族ナルトキハ戶主ノ爵氏名及被選定者ト戶主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業、氏名及被選定者ト戶主トノ續柄

第十四條　華族令第十七條ニ依リ婚姻又ハ養子緣組ノ認許ヲ請フニハ各當事者ニ關シ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　出生ノ年月日
二　父母ノ氏名
三　各當事者間ノ續柄
四　當事者ノ一方ニシテ出願者以外ノ有爵者ノ家族ナルトキハ戶主ノ爵、氏名及其ノ當事者ノ一方ト戶主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業、氏名及其ノ當事者ノ一方ト戶主トノ續柄

第十五條　華族令第十七條ニ依リ分家ノ認許ヲ請フニハ願書ニ分家ノ家族ト爲サムトスル者ノ氏品ヲ具スヘシ

第十六條　華族令第十七條ニ依リ廢絕家再興ノ認許ヲ請フトキハ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　再興セムトスル家ノ最後ノ戶主ノ族籍、職業及氏名
二　再興ヲ爲サムトスル本人ト再興セムトスル家トノ關係
三　再興ノ理由

第十七條　華族令第十七條ニ依リ他家相續ノ認許ヲ請フニハ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　本人他家ノ相續人トナル原因
二　被相續人有爵者ナリシトキハ其ノ爵、氏名及相續人ト被相續人トノ續柄、有爵者ニ非サル者ナリシトキハ其ノ族籍、住所、職業、氏名及相續人ト被相續人トノ續柄

第十八條　華族令第十七條又ハ第十八條ニ依リ家族カ他家ニ入リ又ハ他家ヨリ入ルニ付キ認許ヲ請フニハ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　入籍セムトスル家ノ戶主有爵者ナルトキハ戶主ノ爵、代名及入籍セントスル者ト戶主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業、氏名及入籍セムトスル者ト戶主トノ續柄
二　入籍セムトスル者戶主ナルトキハ其ノ族籍、住所、職業、氏名及其ノ者ト入籍セムトスル家ノ戶主トノ續柄有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業、氏名及其ノ者ト入籍セムトスル家ノ戶主トノ續柄
三　入籍ノ理由

第十九條　民法ノ規定ニ依リ同意ヲ得ルコトヲ要スル行爲ニ付キ認許ヲ請フニハ願書ニ其ノ同意ヲ得タルコトヲ證スルニ足ル書面ヲ添フヘシ

第二十條　華族令第二十六條ニ依リ爵ノ返上ヲ請願スルニハ願書ニ返上ノ理由ヲ具スヘシ

第二十一條　新ニ爵ヲ授ケラレタル者ハ三十日內ニ戶籍ノ謄本ヲ添ヘ住所ノ屆書ヲ差出スヘシ

第二十二條　有爵者又ハ其ノ家族ニ付キ左ノ事實アリタルトキハ遲滯ナク其ノ屆出ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ屆書ニ事實ノ生シタル年月日及其ノ事由ヲ具スヘシ

一　戶籍ノ異動アリタルトキ
二　身分登記ノ變更アリタルトキ
三　轉籍又ハ轉居シタルトキ
四　私生子ノ認知ヲ爲シタルトキ
五　禁治産若ハ準禁治産ノ宣告又ハ其ノ取消アリタルトキ
六　親權ノ全部若ハ一部ノ喪失ノ宣告又ハ其ノ取消アリタルトキ
七　家資分散若ハ破産ノ宣告又ハ其ノ取消アリタルトキ
八　身代限ノ處分ヲ受ケタル者債務ノ辨濟ヲ終ヘタルトキ
九　行方知レサルトキ

第二十三條　前條ノ屆出ニ付テハ有爵者又ハ其ノ法定代理人ヲ以テ屆出義務者トス

有爵者又ハ其ノ法定代理人屆出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其ノ順序ニ從ヒ屆出ヲ爲ス義務ヲ負フ但シ成年者ニ限ル

第一　家督相續人
第二　同居ノ家族
第三　屆出事件ノ本人ノ三親等內ノ親族

同順位ノ屆出義務者數人アルトキハ其ノ中ノ一人ヨリ屆出ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十四條　有爵者死亡シタルトキハ遲滯ナク其ノ屆出ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ屆書ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ死亡ノ年月日及原因ヲ具スヘシ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ屆出ニ之ヲ準用ス

第二十五條　華族令第十條第一項ニ依リ家督相續ノ屆出ヲ爲スニハ屆書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　相續人ノ出生ノ年月日

二　被相續人ノ爵、氏名
三　相續開始ノ原因及其ノ年月日
四　相續人トナリタル原因

爵ヲ襲グコトヲ得ヘキ家督相續人又ハ其ノ法定代理人届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ本人ノ三親等内ノ親族タル成年者一人ヨリ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

第二十六條　有爵者ノ爲ニ後見開始シタルトキハ後見人ハ自己其ノ後見人タルコトヲ知リタル後遲滯ナク後見開始ノ原因及後見監督人ノ氏名ヲ届出ツヘシ

第二十七條　有爵者ニ保佐人ヲ附シタルトキハ保佐人ハ自己其ノ保佐人タルコトヲ知リタル後遲滯ナク其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第二十八條　有爵者無能力者ナル場合ニ於テ親族會ヲ設ケタルトキハ其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遲滯ナク親族會員ノ族籍、住所、職業及氏名ヲ届出ツヘシ

附　則

本令ハ明治四十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

華族世襲財産法（大正五年九月二十日法律第四十五號）

第一條　有爵者ハ其ノ家格ヲ維持スルニ必要ナル範圍内ニ於テ世襲財産ヲ設定スルコトヲ得

第二條　世襲財産ノ設定ハ遺言ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條　世襲財産ハ家實、不動産、登錄國債又ハ記名ノ有價證券ニ限ル

第四條　世襲財産ヲ設定セムトスルトキハ其ノ財産ノ目錄ヲ添ヘ宮内大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

第五條　有爵者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人、準禁治産者ナルトキハ其ノ保佐人ハ豫メ家政協議員會ノ決議ヲ經テ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

有爵者カ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ家産ヲ治ムルニ堪ヘス又ハ之ヲ傾クルノ虞アルトキハ家政協議員會ハ本人ニ代リテ前項ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

家政協議員會ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

第六條　世襲財産設定ノ認可ノ申請アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ當否ヲ調査スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ本人ノ財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第七條　宮内大臣ハ世襲財産設定ノ認可ノ申請ヲ相當ナリト認ムルトキハ其ノ申請アリタル旨ヲ一週間公告スヘシ

前項ノ公告ニハ土地ニ付テハ其ノ所在地目及面積、建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項ヲ掲クヘシ

第八條　前條ノ規定ニ依リ公告シタル財産ニ關シ權利ヲ有スル者及債權者ハ前條第一項ノ公告期間内又ハ其ノ期間滿了後二月内ニ之ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

世襲財産設定ノ認可ハ前項ニ定メタル期間滿了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　宮内大臣ハ世襲財産設定ノ認可ノ申請ノ全部又ハ一部ヲ認可スヘカラサル理由アリト認ムルトキハ華族世襲財産審議會ニ諮詢スヘシ

第十條　宮内大臣ハ世襲財産ノ設定ヲ認可シタルトキハ其ノ旨及第七條第二項ニ揭クル事項ヲ公告スヘシ

第十一條　前十條ノ規定ハ世襲財産ヲ增加スル場合ニ亦之ヲ適用ス

第十二條　宮内大臣ハ華族世襲財産臺帳ヲ設ケ世襲財産ニ關スル事項ヲ登錄スヘシ

第十三條　世襲財産タル登錄國債ニ付テハ國債登錄簿ニ世襲財産タル旨ヲ登錄シ有價證券ニ付テハ宮内大臣ハ之ニ世襲財産タル旨ヲ記入スヘシ

棧券及社債券ニ付テハ前項ノ規定ニ依ルノ外株主名簿又ハ社債原簿ニ世襲財産タル旨ヲ記入スヘシ

登錄國債又ハ有價證券ノ世襲財産タル效力ハ前二項ノ手續ヲ踐ミタル後ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條　世襲財産ノ效力ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルニ至リタル日以後ハ其ノ前ノ原因ニ基キ世襲財産ニ付所有權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ確定判決又ハ確定日附アル證書ニ依リテノミ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ權利ヲ主張セムトスル者ハ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

第十五條　世襲財産ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

第十六條　世襲財産及其ノ法定果實ヲ收取スル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ質權若ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ス棧券カ世襲財産タル場合ニ於テ利益又ハ利息ノ配當ヲ受クル權利ニ付亦同シ

第十七條　土地カ世襲財産タル場合ニ於テ地上權又ハ永小作權ノ設定又ハ變更ハ宮内大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十八條　世襲財産及第十六條ニ揭クル權利ハ世襲財産ノ管理ニ因リテ生シタル權利及不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ニ基ク場合ヲ除クノ外民事上ノ强制執行ノ目的ヲ以テ之ヲ差押ヘ又ハ一般ノ先取特權ニ基キ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

世襲財産ノ果實及第十六條ノ利益又ハ利息カ他ノ財産ト混合セサル間其ノ三分ノ二ニ付亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ハ世襲財産ノ效力ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルニ至リタル日前ニ爲シタル假差押ニ基キ差押ヲ爲シ又ハ一般ノ先取特權ニ基キ著手シタル競賣ヲ續行スルコトヲ妨ケス

第十九條　世襲財産ハ重大ナル事由アルトキニ限リ其ノ一部ヲ廢止スルコトヲ得

世襲財産ハ他ノ世襲財産ニ換フル爲其ノ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得

第四條、第五條第一項及第六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十條　宮内大臣ハ世襲財産ノ廢止ヲ認可スヘキヤ否ヤニ付華族世襲財産審議會ニ諮詢スヘシ

第二十一條　第十九條第二項ノ規定ニ依リ世襲財産ヲ廢止シタル場合ニ於テハ廢止ノ認可ヲ受ケタル者又ハ其ノ家督相續人ハ認可アリタル日ヨリ六月内ニ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ期間内ニ申請ヲ爲ササルトキハ宮内大臣ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ申請ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

第二十二條　世襲財産カ收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ他ノ財産ニ代リタルトキハ所有者ハ其ノ財産ヲ以テ世襲財産ヲ補

充スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

世襲財産ニ代リタル財産ニシテ他ノ財産ト混合セサルモノニ付テハ第十八條第一項ノ規定ヲ準用ス

宮内大臣ハ相當ノ事由アリト認ムルトキハ前條第一項ノ認可ノ申請ヲ免除スルコトヲ得

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テ宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ管理人ヲ選任シ世襲財産タリシ財産又ハ前條ノ財産及其ノ財産ノ處分ニ因リテ得タル財産ヲ管理セシムルコトヲ得果實又ハ配當ヲ受ケタル利益若ハ利息ニシテ管理財産ト混合シタルモノニ付亦同シ

宮内大臣ハ管理人ヲ改任シ其ノ他財産ノ管理ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　管理人ノ選任アリタル場合ニ於テ本人、其ノ法定代理人又ハ保佐人カ世襲財産設定ノ認可ヲ申請セサルトキハ管理人ハ遲滯ナク管理財産ニ付其ノ申請ヲ爲スヘシ

第二十五條　管理財産ハ管理人ニ於テノミ之ヲ處分シ又ハ管理ニ因リテ生シタル權利若ハ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ニ基キテノミ民事上ノ强制執行若ハ競賣ヲ爲スコトヲ得

第十六條及第十八條第二項ノ規定ハ管理財産ノ果實ニ之ヲ準用ス管理財産中株券アル場合ニ於テ利益又ハ利息ニ付亦同シ

第二十六條　有爵者爵ヲ失ヒ又ハ襲爵者ナキコト確定シタルトキハ世襲財産ハ失爵又ハ家督相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第二十七條　世襲財産ニ付第十四條第二項ノ申出アリタル後二月内ニ主張ニ係ル權利ヲ消滅セシメ又ハ主張ニ對シ訴ヲ提起セサルトキハ其ノ財産ハ初ヨリ世襲財産タル效力ヲ失フ

前項ノ期間内ハ主張ニ係ル利權ニ基キテ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　第二十三條乃至第二十五條ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リテ世襲財産タル效力ヲ失ヒタル財産アル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ財産ニ代リ其ノ所有者ニ歸シタル財産アル場合ニ於テハ第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條　世襲財産ノ廢止、失效其ノ他ノ異動アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ管理人ヲ選任又ハ改任シタルトキ亦同シ

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

登錄國債又ハ有價證券ニ付世襲財産ノ廢止又ハ失效アリタルトキハ第十三條ノ登錄又ハ記入ヲ抹消スヘシ

第三十條　管理財産中登錄國債アルトキハ國債登錄簿ニ管理財産タル旨ヲ登錄シ管理終了シタルトキハ其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條　世襲財産ニ關スル公告、登記又ハ登錄ノ費用ハ其ノ名義人ノ負擔トス

第三十二條　宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ世襲財産ノ檢查ヲ爲サシムルコトヲ得

宮内大臣ハ世襲財産ノ管理ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十三條　本法ノ施行ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

附　則

從前ノ規定ニ依ル世襲財産及其ノ附屬物ハ本法ニ依ル世襲財産ト看做ス

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ世襲財産ノ純收益ニ付他人ノ有スル權利ハ本法施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス本法施行前著手シタル差押又ハ假差押ニ付亦同シ

不動産登記法第百四條中「創設」ヲ「設定」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加ヘ同法第百四十三條中「解除ヲ認可シタルトキ」ヲ「廢止又ハ失效アリタルトキ」ニ「創設」ヲ「設定」ニ改ム

華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル管理財産中不動産アルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク管理財産タル旨ノ登記ヲ登記所ニ囑託シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス

管理人カ其管理中取得シタル不動産ニ付テハ取得ノ登記ト共ニ管理財産タル旨ノ登記ヲ申請シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

華族世襲財産法施行規則

（大正五年九月二十日　宮内省令第七號）

第一章　世襲財産

第一條　世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ家實ハ所有者ノ家ニ由緒アルモノタルコトヲ要ス

第二條　世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ土地ハ相當ノ收益ヲ生スルモノ、所有者ノ家ニ由緒アルモノ又ハ所有者ノ邸地タルコトヲ要ス

第三條　世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ建物其ノ他土地ノ定著物ハ所有者ノ家ニ由緒アルモノ又ハ其ノ所有ニ屬スル世襲財産タル土地ノ上ニ存スルモノタルコトヲ要ス

第四條　家實又ハ不動産ニシテ特ニ歷史ノ證徵又ハ美術ノ模範トナルヘキモノハ前三條ノ定規ニ拘ラス之ヲ世襲財産ト爲スコトヲ得

第五條　世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ有價證券ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

一　國債證券又ハ地方債證券

二　政府ノ特別保護若ハ特別監督ヲ受クル會社又ハ宮内大臣ニ於テ確實ト認ムル會社ノ株券ニシテ拂込濟ノモノ

三　政府ノ特別保護若ハ特別監督ヲ受クル會社又ハ宮内大臣ニ於テ確實ト認ムル會社ノ社債券

第二章　世襲財産ノ設定

第六條　世襲財産設定ノ認可ノ申請書ニハ家實ニ付テハ其ノ品目、種類及箇數、土地ニ付テハ其ノ所在、地目及面積、建物其ノ他土地ノ定著物ニ付テハ其所在、種類、構造及建坪、登錄國債及有價證券ニ付テハ其ノ種類、名稱、記號、番號、金額及箇數ヲ記載シタル財産目錄ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ理由ヲ詳記シタル書類

二　家實ニ付テハ其ノ內容、構造其ノ他必要ナル事項ヲ詳記シタル書類

三　土地ニ付テハ其ノ位置形狀ヲ示スヘキ圖面及土地臺帳ノ謄本

四　建物其ノ他土地ノ定著物ニ付テハ其ノ位置、構造ヲ示スヘキ圖面及建物臺帳アルトキハ其ノ謄本

五　土地又ハ建物ニ付テハ登記簿ノ謄本

六　家實又ハ建物ヲ保險ニ付シタルトキハ其ノ契約ノ要旨ヲ記載シタル書類

七　申請ニ係ル土地ニ生立スル立木ニ付テハ立木登記簿ノ謄本

八　登錄國債ニ付テハ國債登錄簿ノ謄本及登錄所管國債事務取扱店ノ名稱ヲ記載シタル書類

九　當該財産ニ對スル權利者ノ有無、其ノ氏名及權利ノ種類、内容ヲ證スヘキ書類

十　民事上ノ强制執行、假差押若ハ假處分又ハ競賣ノ手續中ノ財産ニ付テハ其ノ事實ヲ證スヘキ公正ノ證明書竝權利者ノ氏名及權利ノ種類、内容ヲ證スヘキ書類

十一　土地收用法、森林法、鑛業法其ノ他公益ノ爲ニスル財産ノ收用、徵發又ハ制限ニ關スル法令ノ適用ヲ受ケタル財産及滯納處分其ノ他公法上ノ執行處分ニ依リ差押アリタル財産ニ付テハ其ノ事實ヲ示スヘキ書類

十二　收益ヲ生スル財産ニ付テハ總收益及純收益ノ年額竝其ノ算出ノ基礎ヲ示スヘキ書類

第七條　世襲財産設定ノ遺言アルコトヲ知リタル相續人、其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遺言カ其ノ效力ヲ生シタル後遲滯ナク遺言者ノ氏名、遺言ノ趣旨竝遺言執行者ノ有無及之アルトキハ其ノ氏名ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ遺言執行者ナキニ至リタルトキ又ハ遺言執行者ノ更迭アリタルトキ亦同シ

第八條　遺言ニ基キ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スヘキ場合ニ於テ遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ相續人、其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遲滯ナク遺言執行者ノ選任ヲ裁判所ニ申請スヘシ

第九條　遺言執行者ハ其ノ資格ヲ證スヘキ書類ヲ添ヘ遲滯ナク世襲財産設定ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ世襲財産ノ設定ニ關スル遺言書又ハ其ノ謄本及遺言書ノ檢認書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ但シ公正證書ニ依ル遺言ニ在リテハ其ノ正本又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第十條　華族世襲財産法第五條第一項ノ規定ニ依リ有爵者ノ法定代理人又ハ保佐人カ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ資格ヲ證スヘキ書類及家政協議員會ノ決議書ヲ添附スヘシ

華族世襲財産法第五條第二項ノ規定ニ依リ家政協議員會カ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ理由ヲ詳記シ家政協議員會ノ決議書ヲ添附スヘシ

第十一條　世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テ有價證券ハ申請ト同時ニ之ヲ宮内大臣ニ提出スヘシ

前項ノ證券利札付ナルトキハ支拂期ノ到來セサル利札ヲモ提出スヘシ但シ其ノ利札完備セサルトキハ財産目錄ニ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第十二條　華族世襲財産法第六條第一項ノ規定ニ依リ調査ヲ爲ス場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ家寶及不動産ニ付テハ其ノ所在ニ就キ之ヲ爲スヘシ但シ家寶ハ之ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第十三條　華族世襲財産法第六條第二項ノ規定ニ依リ財産ノ狀況ヲ調査スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ申請者ヲシテ書面ヲ以テ其ノ狀況ヲ申告セシメ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ財産ノ所在ニ就キ調査ヲ爲サシムヘシ

前項ノ申告書ニハ動産、不動産、債權、債務其ノ他一切ノ財産ニ付申告書調製ノ時ニ於ケル價額ヲ附記スヘシ

第十四條　前二條ノ規定ニ依リ財産ノ所在ニ就キ調査ヲ爲ストキハ其ノ所有者、法定代理人、保佐人、家政協議員又ハ同居ノ成年家族ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第十五條　世襲財産設定ノ認可アリタルトキハ登錄國債ニ付テハ登錄所管國債事務取扱店ニ於テ、株券又ハ社債券ニ付テハ當該會社ニ於テ宮内大臣ノ通知ニ依リ世襲財産設定ノ認可アリタル旨及其ノ年月日ノ登錄又ハ記入ヲ爲スヘシ

第十六條　宮内大臣世襲財産ノ設定ヲ認可シタルトキハ有價證券ニハ世襲財産タルコトヲ證スヘキ印章ヲ押捺シ且認可ノ年月日ヲ記入シ其ノ利札ニハ各葉ニ世襲財産タル有價證券ノ利札タルコトヲ證スヘキ印章ヲ押捺スヘシ

第十七條　第十一條及第十二條ノ規定ニ依リ提出シタル物件ハ世襲財産ノ設定ヲ認可シタルトキハ之ヲ還付スヘシ其ノ設定ヲ認可セサルトキ亦同シ但シ時宜ニ依リ其ノ前ニ還付スルコトアルヘシ

第十八條　宮内大臣華族世襲財産法第七條ノ規定ニ依リ公告シタル財産ニ付世襲財産ノ設定ヲ認可セサルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ申請者其ノ申請ヲ取下ケタルトキ亦同シ

第十九條　華族世襲財産法及本令ノ規定ニ依ル公告ハ官報及新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告ヲ爲スヘキ新聞紙ハ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第二十條　世襲財産設定ノ認可ノ申請アリタル後其ノ財産ニ付異動アル場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ此ノ場合ニハ第七章ノ規定ヲ準用ス

華族世襲財産法第七條ノ規定ニ依ル公告アリタル後前項ノ異動ヲ生シタルトキハ宮内大臣ハ之ヲ公告スヘシ

第三章　家政協議員會

第二十一條　華族世襲財産法第五條ノ規定ニ依リ世襲財産設定ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ本人、親族、後見人後見監督人、保佐人其ノ他本人ノ家ニ特別ノ緣故アル者ノ中五人以上ニ於テ家政協議員ヲ選定シ連署ヲ以テ其ノ選定ノ認可ヲ宮内大臣ニ申請スヘシ

第二十二條　世襲財産ヲ有スル有爵者カ無能力者トナリタル場合又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ家産ヲ治ムルニ堪ヘス若ハ之ヲ傾クルノ虞アルニ至リタル場合ニ於テハ家政協議員ヲ選定スヘシ此ノ場合ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條　家政協議員ハ有爵者遺言ヲ以テ之ヲ選定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ遲滯ナク家政協議員選定ノ認可ヲ宮内大臣ニ申請スヘシ此ノ場合ニハ第九條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十四條　家政協議員ハ三人以上七人以下ノ範圍内ニ於テ其ノ數ヲ定メ親族其ノ他本人ノ家ニ特別ノ緣故アル者ノ中ヨリ之ヲ選定スルコトヲ要ス但シ次ニ揭クル者ハ家政協議員タルコトヲ得ス

一　未成年者、禁治産者及準禁治産者

二　後見人、後見監督人及保佐人

三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

五　刑事ノ訴ヲ受ケ勾留、保釋又ハ實付中ニ在ル者

六　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

七　裁判所ニ於テ免黜セラレタル法人代理人及保佐人

八　華族令第二十條第一項、第二十三條、第二十四條及第二十六條ノ規定ニ依リ爵ヲ返上シタル者、爵ヲ襲カシメサル者、華族ノ禮遇ヲ禁止又ハ停止セラレタル者及華族ノ族稱ヲ除カレタル者但シ華族ノ禮遇ノ禁止又ハ停止ヲ解除セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

家政協議員前項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第二十五條　宮内大臣ハ重要ナル事由アルトキハ家政協議員ヲ解任スルコトヲ得

第二十六條　家政協議員ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

家政協議員其ノ職ヲ辭セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シテ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條　家政協議員ニ闕員アルトキハ有爵者、其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第二十一條ノ規定ハ補闕員ノ選定ニ之ヲ準用ス

第二十八條　家政協議員會ノ存續スヘキ事由止ミタルトキハ協議員ハ連署シテ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ具申シ華族世襲財産法第五條第二項ノ場合ニ於テハ出席シタル官吏ハ議事錄ニ署名捺印スヘシ

第二十九條　家政協議員會ハ華族世襲財産法及本章ニ於テ定ムル任務ヲ有スルノ外世襲財産ニ關スル事項ヲ協議スルモノトス

華族世襲財産法第五條第二項ニ揭クル事實アル場合ニ於テハ家政協議員會ハ遲滯ナク世襲財産ノ管理方法ヲ定メ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ

宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ世襲財産ニ關シ家政協議員會ノ決議ヲ經ヘキ事項ヲ指定スルコトヲ得

第三十條　家政協議員會ハ本人、其ノ法定代理人若ハ保佐人又ハ各協議員之ヲ招集ス

家政協議員會ヲ招集スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出テ且各協議員及第三十三條ニ揭クル者ニ通知スルコトヲ要ス

第三十一條　家政協議員會ハ協議員定數ノ過半出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

家政協議員會ノ議事ハ出席協議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第三十二條　華族世襲財産法第五條第二項ノ規定ニ依リ出席シタル者之ニ署名捺印スヘシ

員及第三十三條ノ規定ニ依リ出席シタル者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第三十三條　本人、家ニ在ル父母、配偶者、法定ノ推定家督相續人、本家、分家及同家ノ戸主、後見人、後見監督人、保佐人竝親族會員ハ家政協議員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十四條　宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ家政協議員會ニ出席セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出席シタル官吏ハ議事錄ニ署名捺印スヘシ

第三十五條　家政協議員會ノ存續スヘキ事由止ミタルトキハ協議員ハ連署シテ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ具申シ華族世襲財産法第五條第二項ノ場合ニ於テハ家政協議員會終了ノ認可ヲ申請スヘシ

第四章　華族世襲財産審議員

第三十六條　華族世襲財産審議員會會員ハ七人トシ左ノ區分ニ依ル

一　宮内勅任官及同待遇職員　二人

二　有爵者　五人

第四十二條ノ規定ニ該當スル會員アルニ因リ會議ヲ開クコト能ハサル場合ニ於テハ當該事件ノ審議ニ參加セシムル爲其ノ會員數以内ニ於テ前項ノ例ニ從ヒ臨時會員ノ數ヲ增加スルコトヲ得

第三十七條　華族世襲財産審議會會員ハ勅任待遇トス但シ官職アル者其ノ官職ニ付享クル待遇高キトキハ其ノ待遇ニ依ル

第三十八條　華族世襲財産審議會ノ議長ハ會員中ヨリ勅命セラルヘシ

議長事故アルトキハ會員中ノ上席者其ノ事務ヲ代理ス

第三十九條　華族世襲財産審議會ハ宮内大臣之ヲ招集ス

第四十條　華族世襲財産審議會ハ會員四人以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第四十一條　華族世襲財産審議會ノ議事ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十二條　華族世襲財産審議會會員ニシテ會議ノ事項ニ付特別ノ關係ヲ有スル者ハ會議ニ出席スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル特別關係ノ有無ハ審議會之ヲ決ス

第四十三條　宮内大臣ハ華族世襲財産審議會ニ出席シテ意見ヲ陳述シ又ハ宮内高等官ヲシテ之ヲ陳述セシムルコトヲ得

第四十四條　華族世襲財産審議會ハ其ノ決議ニ依リ宮内大臣ヲ經テ本人其ノ法定代理人、保佐人又ハ家政協議員ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條　華族世襲財産審議會ノ議事ハ之ヲ議事錄ニ記載シ出席會員之ニ署名捺印スヘシ

第四十六條　華族世襲財産審議會ノ議長ハ審議會ノ決議書ニ議事錄ヲ添ヘ宮内大臣ニ答申スヘシ

第五章　權利ノ申出

第四十七條　華族世襲財産法第八條ノ規定ニ依ル權利ノ申出ヲ爲スニハ申出書ニ左ニ揭クル書類其ノ他權利ヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

一　申出ツル權利ニ關スル登記簿又ハ登錄簿ノ抄本

二　建物ノ所有ヲ目的トスル登記ヲナキ地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ公告ニ揭ケタル土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトサハ建物登記簿ノ抄本

三　公告ニ揭ケタル土地ニ生立スル立木ニ付テハ立木登記簿ノ抄本

四　公告ニ揭ケタル財産カ民事上ノ强制執行、假差押若ハ假處分又ハ

競賣ノ手續中ニ在ルトキハ其ノ事實ヲ證スヘキ公正ノ證明書

第四十八條　前條ノ申出アリタルトキハ宮内大臣ハ世襲財産設定ノ認可ノ申請者ニ其ノ申出ノ要旨ヲ通達スヘシ

申請者前項ノ通達ヲ受ケタルトキハ申出ヲ承認スルヤ否ヤヲ遲滯ナク宮内大臣ニ申出ツヘシ

第四十九條　前二條ノ規定ハ華族世襲財産法第十四條ノ規定ニ依ル權利ノ申出ニ之ヲ準用ス

第六章　臺帳

第五十條　世襲財産ニ關スル臺帳ハ華族世襲財産臺帳及管理財産臺帳ノ二種トス

臺帳ハ財産所有者毎ニ別冊トス但シ登錄事項夥多ナルトキハ更ニ之ヲ分冊トスコトヲ得

第五十一條　臺帳ニハ表紙ノ裏面ニ紙數及調製ノ年月日ヲ記入シ主管部局長官之ニ捺印スヘシ前條第二項ノ規定ニ依リ分冊トスルトキ其ノ各冊ニ付亦同シ

第五十二條　臺帳ニ登錄スヘキ事項及登錄ノ方式ハ附錄樣式ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條　世襲財産設定ノ登錄ハ認可ノ當日之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ管理ヲ命シタル場合ニ於テ其ノ登錄ニ付之ヲ準用ス

第五十四條　臺帳ノ登錄事項ニ異動アリタルトキハ異動ニ係ル既登錄ノ事項ハ之ヲ抹消シ新ニ登錄スヘキ事項ハ之ヲ別欄ニ登錄スヘシ

第五十五條　世襲財産ノ廢止アリタルトキハ廢止ノ認可ノ當日、其ノ失效アリタルトキハ遲滯ナク其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第五十六條　華族世襲財產法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ命シタル管理終了シタルトキハ終了ノ認可ノ當日其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第五十七條　臺帳ノ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ更正シ且年月日ヲ記シ主管部局長官捺印スヘシ

第五十八條　抹消ハ朱線ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七章　世襲財產ノ異動

第五十九條　世襲財產ニ付相續ノ開始アリタルトキハ家督相續人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮內大臣ニ屆出ツヘシ

第十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ於ケル名義變更ノ登錄及記入ニ付之ヲ準用ス

第六十條　土地收用法ニ依リ世襲財產タル土地ヲ收用スル場合ニ於テ協議ニ依リ補償金ヲ定メ得ヘキトキハ起業者ハ協議成立前其ノ協議ノ要旨ヲ宮內大臣ニ屆出ツヘシ

地方長官ハ收用審査會ヨリ裁決ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代リテ裁決ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ裁決ノ要旨ヲ宮內大臣ニ報告スヘシ土地收用法第三十四條ノ規定ニ依リ地方長官ノ公告又ハ通知カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ及土地收用法第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決カ取消サレタルトキ其ノ事實ニ付亦同シ

土地所有者ハ土地收用法第六十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ其ノ旨ヲ宮內大臣ニ屆出ツヘシ

第六十一條　收用審査會ノ裁決ニ對シ訴願又ハ訴訟ノ提起アリタルトキハ土地所有者ハ遲滯ナク左ニ揭クル事項ヲ宮內大臣ニ屆出ツヘシ

一　訴願又ハ訴訟ニ係ル事項

二　訴願ノ裁決ハ却下アリタルトキ又ハ裁判所ノ判決若ハ裁決アリタルトキハ其ノ要旨

三　訴願又ハ訴ノ取下アリタルトキハ其ノ旨

四　通常裁判所ノ判決ニ對シ上訴アリタルトキハ其ノ旨及上訴判決ノ要旨

第六十二條　前二條ノ規定ハ世襲財產カ公益ノ爲ニスル收用、徵發又ハ制限ニ關スル法令ニシテ土地收用法以外ノモノノ適用ヲ受ケ他ノ財產ニ代ルヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條　世襲財產ニ對シ假差押若ハ假處分ヲ爲シ又ハ强制執行若ハ競賣手續ニ著手シタルトキハ當該官署又ハ執達吏ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮內大臣ニ報告スヘシ手續ノ停止、變更又ハ消滅アリタルトキ亦同シ

第六十四條　滯納處分ニ依リ世襲財產ヲ差押ヘ之ヲ賣却セムトスルトキハ當該官公署ハ賣却手續ノ開始前其ノ旨ヲ宮內大臣ニ報告スヘシ

前項ノ報告後ニ於テ差押ノ解除アリタルトキハ當該官公署ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮內大臣ニ報告スヘシ

第六十五條　前二條ノ場合ニ於テ世襲財產ヲ換價シ賣得金ニ剩餘アルコト確定シタルトキハ當該官公署又ハ執達吏ハ直ニ其ノ金額ヲ宮內大臣ニ報告スヘシ

第六十六條　世襲財產タル國債ノ償還アルヘキコト確定シタルトキハ國債事務取扱店ハ直ニ其ノ旨ヲ宮內大臣ニ申出ツヘシ

前項ノ規定ハ世襲財產タル地方債證券若ハ社債券ノ償還アルヘキコト確定シタルトキ又ハ株券ニ代リテ其ノ所有者ニ歸スヘキ財產アルトキ其ノ發行者ニ之ヲ準用ス

第六十七條　世襲財產ノ保險者ハ保險金ヲ支拂フヘキコト確定シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ宮內大臣ニ申出ツヘシ

第六十八條　世襲財產ノ所有者ハ收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ世襲財產ニ代リテ自己ニ歸スヘキ財產アルトキハ豫メ其ノ旨ヲ宮內大臣ニ屆出ツヘシ

第六十條第二項及第六十二條乃至第六十四條ノ規定ニ依リ前項ニ揭ケタル事由ノ變更又ハ消滅アリタル場合ニ於テモ所有者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮內大臣ニ屆出ツヘシ

第六十九條　世襲財產ニ付左ニ揭クル事實アリタルトキハ所有者ハ遲滯ナク其ノ時期、事由其ノ他必要ナル事項ヲ詳記シテ之ヲ宮內大臣ニ屆出ツヘシ

一　第六條ノ規定ニ依リ提出シタル財產目錄其ノ他ノ添附書類ノ記載事項ニ異動アリタルトキ

二　世襲財產ノ全部又ハ一部カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

三　世襲財產ノ全部又ハ一部カ滅失若ハ紛失シタルトキ又ハ之ヲ發見シタルトキ

四　收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ世襲財產ニ代リテ其ノ所有者ニ歸シタル財產アルトキ

第七十條　世襲財產タル有價證券又ハ其ノ利札カ滅失又ハ毀損シタル等ノ爲代證券ノ交付ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク宮內大臣ニ其ノ證券ヲ提出スヘシ此ノ場合ニハ第十六條ノ規定ヲ準用ス

有價證券ノ利札カ滅失又ハ毀損シタル等ノ爲代利札ノ交付ヲ受ケ又ハ利札ノ盡了ニ因リ繼足利札ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於ケル其ノ代利札又ハ繼足利札ノ提出及印章ノ押捺亦前項ノ例ニ依ル

第七十一條　世襲財產廢止ノ認可ノ申請書ニハ廢止セムトスル財產ノ目錄及廢止ノ事由ヲ詳記シタル書類ヲ添附スヘシ

他ノ世襲財產ニ換フル爲世襲財產ヲ廢止セムトスル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ルノ外之ニ代ルヘキ財產ニ關スル詳細ナル說明書ヲ添附スヘシ

第七十二條　第十條第一項ノ規定ハ有爵者ノ法定代理人又ハ保佐人カ前條ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

家政協議員會アルヘキ場合ニ於テ有爵者カ世襲財產廢止ノ認可ヲ申請セムトスル時ハ申請書ニ家政協議員定數ノ全員ノ同意書ヲ添附スヘシ

第七十三條　第十二條乃至第十四條ノ規定ハ世襲財產廢止ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十四條　世襲財產ノ廢止又ハ失效アリタル場合ニ於テ其ノ財產ニ關スル登錄及記入ノ抹消ニ付テハ第十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十五條　世襲財產ノ廢止又ハ失效アリタル場合ニ於テ宮內大臣ハ有價證券及其ノ利札ニ押捺シタル世襲財產及其ノ利札タルコトヲ證スヘキ印章竝記入シタル年月日ヲ抹消スヘシ

第七十六條　第十五條ノ規定ハ世襲財產ノ異動ノ場合ニ於ケル登錄及記入ノ變更ニ付之ヲ準用ス

第八章　管理財產

第七十七條　他ノ世襲財產ニ換フル爲世襲財產ヲ廢止セムトスル若ハ華族世襲財產法第二十三條ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレムコトヲ欲スルトキハ廢止ノ認可ノ申請ト共ニ其ノ旨ヲ宮內大臣ニ申出ツヘシ

第七十八條　前條ノ規定ハ收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ世襲財產ニ代リテ其ノ所有者ニ歸スル財產アルトキ其ノ財產ノ所有者カ華族世襲財產法第二十三條ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレムコトヲ欲スル場合ニ之ヲ準用ス華族世襲財產法第二十七條ノ規定ニ依

ヲ世襲財産タル效力ヲ失ヒタル財産アルトキ其ノ財産ノ所有者カ華族世襲財産法第二十八條ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレムコトヲ欲スル場合亦同シ

前項ノ申出ハ所有者カ第六十八條又ハ第六十九條ノ届出ヲ爲ス際之ヲ爲スヘシ

第七十九條　宮内大臣管理人ヲ選任スルトキハ管理スヘキ財産ヲ指定スヘシ

管理人ハ世襲財産設定ノ認可アル迄前項ノ財産ヲ管理スヘシ

第八十條　第六十條、第六十二條乃至第六十四條及第六十六條乃至第六十八條ノ規定ニ依ル報告、届出又ハ申出アリタル場合ニ於テハ宮内大臣ハ豫メ管理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル管理人ノ選任ハ之ヲ報告、届出又ハ申出ヲ爲シタル者ニ通知スヘシ

第八十一條　管理人ハ遲滯ナク財産目錄ヲ調製シ之ニ署名捺印スヘシ

財産目錄ハ二通ヲ調製シ之ヲ宮内大臣ニ提出シテ其ノ承認ヲ受ケ其ノ一通ハ管理人之ヲ保管スヘシ

宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ目錄ノ調製ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ立會官吏ハ財産目錄ニ署名捺印スヘシ

第八十二條　管理人民法第百三條ニ定メタル權限ヲ超ユル行爲ヲ爲サムトスルトキハ豫メ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十三條　宮内大臣ハ管理財産ノ所有者ニ對シ相當ノ報酬ヲ管理人ニ與フルコトヲ命スルコトヲ得

第八十四條　管理財産中登錄國債ニ付テハ登錄所管國債事務取扱店ニ於テ宮内大臣ノ通知ニ依リ管理財産タル旨、管理ヲ命セラレタル年月日及管理人ノ氏名住所ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ管理ノ終了シタル場合ニ於ケル登錄ノ抹消及管理人ノ改任アリタル場合ニ於ケル登錄ノ變更ニ付之ヲ準用ス

第八十五條　管理財産ニ異動アリタルトキハ管理人ハ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ此ノ場合ニハ第五十九條及第六十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ届出書ニハ異動ニ係ル財産ノ目錄ヲ添附スヘシ此ノ場合ニハ第八十一條ノ規定ヲ準用ス

管理財産ノ異動ニ關スル登錄及其ノ變更、抹消ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條　管理ヲ繼續スヘキ事由止ミタルトキハ管理人ハ遲滯ナク管理調書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ具申シ管理終了ノ認可ヲ申請スヘシ

管理人ノ改任アリタルトキ前任管理人ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ管理調書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ宮内大臣ハ特ニ指定シタル者ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

第八十一條ノ規定ハ管理調書ノ調製及其ノ提出ニ付之ヲ準用ス

第九章　雜則

第八十七條　本令中世襲財産ノ設定ニ關スル規定ハ其ノ增加ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第八十八條　宮内大臣ハ華族世襲財産法第三十一條ノ規定ニ依ル費用ヲ算定シ名義人ニ對シ納入告知書ヲ發スヘシ

第八十九條　第十四條ノ規定ハ華族世襲財産法第三十二條ノ規定ニ依リ世襲財産ノ檢査ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十條　世襲財産タル有價證券又ハ其ノ利札タルコトヲ證スヘキ印章ノ樣式竝押捺及抹消ノ方法ハ別ニ之ヲ告示ス

附　則

本令ハ大正五年法律第四十五號華族世襲財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

華族世襲財産法附則第一項ノ規定ニ依リ世襲財産タル有價證券ノ利札ニハ第十一條及第十六條ノ規定ヲ準用ス

從前ノ華族世襲財産臺帳ハ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

華族戒飭令

（明治四十四年十二月二十八日　皇室令第六號）

第一條　華族ニシテ華族令ノ懲戒ニ該ラサル失行アルトキハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ戒飭ス

第二條　戒飭ハ左ノ如シ

一　譴責

二　訓誡

第三條　譴責ハ宗秩寮審議會ノ審議ヲ經テ宮内大臣之ヲ行ヒ訓誡ハ宮内大臣之ヲ專行ス

第四條　戒飭ヲ爲スヘキ場合左ノ如シ

一　華族ノ體面ニ關スル失行アリト認メタルトキ

二　不謹愼ノ言行アリト認メタルトキ

三　家産ヲ傾ケ又ハ傾クヘキ虞アリト認メタルトキ

四　家政ヲ紊シ又ハ紊スヘキ虞アリト認メタルトキ

五　宮内大臣ノ認許ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認許ノ受ケスシテ華族令第十四條乃至第十八條ノ行爲ヲ爲シ其ノ情狀華族令第二十條ニ該當セサルトキ

六　宮内大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シ其ノ情狀華族令第二十三條ニ該當セサルトキ

第五條　譴責ハ失行ヲ糺シ且將來ヲ戒飭スルモノトス

譴責ハ辭令書ヲ以テス

第六條　訓誡ハ過去ニ照シ主トシテ將來ヲ戒飭スルモノトス

訓誡ハ口頭ヲ以テス但シ必要ナル場合ニハ書面ヲ以テスルコトヲ得

第七條　宮内大臣ハ戒飭ニ關シ必要アリト認メタルトキハ本人ヲ召喚辯明ヲ求メ又ハ始末書ヲ徵スルコトヲ得

舊堂上華族保護資金令

（明治四十五年七月十日　皇室令第三號）

【沿革】　大正元年十月皇室令第一八號、同七年六月同第六號、同八年三月同第二號、同十三年十月同第一三號、同十四年六月同第八號改正

舊堂上華族保護資金令

第一條　舊堂上華族トハ從前公卿ノ稱ヲ有セシ家ニシテ明治十七年七月、明治二十年四月及明治三十一年三月公侯伯子爵ヲ授ケラレタル家ノ戸主タル有爵者ヲ謂フ

第二條　保護資金ノ元資ニハ從前ノ舊堂上華族恩賜金會計中惠恤部ニ於テ管理シタル現金、登錄國債及有價證券ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　保護資金ノ元資中明治二十七年三月九日ノ勅旨ニ由リ御資ヨリ分置シタルモノハ之ヲ其ノ元資ノ原額トス

第四條　保護資金ノ管理及出納ハ内藏頭之ヲ主管ス

保護資金ノ元資ニ屬スル登錄國債及有價證券ノ記名者ハ内藏頭トス

第五條　保護資金ノ元資ニ屬スル現金ハ之ヲ登錄國債若ハ有價證券ニ換ヘ又ハ銀行ニ預ケ入ルヘシ

前項ノ外元資ニ關スル現金ハ之ヲ舊堂上華族ニ付スルコトヲ得

保護資金ノ元資ニ屬ス貸登錄國債又ハ有價證券ハ之ヲ信託業者ニ信託スルコトヲ得

第六條　保護資金ノ元資ヨリ生スル收入ハ每年ノ保護金及經費ニ充ツ

每年賜フヘキ保護金ノ總額ハ別ニ之ヲ定ム

第七條　每年ノ保護金ハ六月及十二月ニ之ヲ賜フ

保護金ハ公侯爵者ニ在リテハ各三、伯爵者ニ在リテハ各二、子爵者ニ在リテハ各一ノ率ニ依リ之ヲ賜フ

第八條　每年ノ支出ニ對シ收入ニ剩餘アリタルトキハ之ヲ保護基金ノ元資ニ組入ルヘシ

第九條　保護資金ノ元資ヨリ生スル收入ハ之ヲ銀行ニ預ケ入ルヘシ

第十條　保護資金ノ元資ニ屬スル登錄國債及有價證券ハ購入ニ係ルモノハ其ノ價格ニ依リ引受ニ係ルモノハ拂込金額ニ依リ之ヲ計算ス

第十一條　保護資金ノ元資ハ本令ノ有效期間滿了ノ時ニ於テ之ヲ分賜ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ分賜ニ之ヲ準用ス

第十二條　每年賜フヘキ保護金及前條ノ分賜ニ付テハ保護資金ノ原額ノ御資ヨリ分置セラレタル當時ノ爵ニ依ル

第十三條　華族ノ禮遇ヲ停止セラレタル者ニハ其ノ停止中每年ノ保護金ヲ賜フコトナシ

第十四條　華族ノ禮遇ヲ禁止セラレタル者ニハ每年ノ保護金ヲ賜フコトナシ但シ禮遇ノ禁止ヲ解除セラレタル後ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　本令ノ有效期間滿了ノ時華族ノ禮遇ノ停止中ニ在ルトキハ保護資金ノ元資ノ分賜ヲ停止ス

前項ノ場合ニ於テ分賜スヘキ金額ハ內藏寮ニ留保シ禮遇ノ停止ヲ解除セラレタル時ニ於テ之ヲ賜フ但シ禮遇ノ停止中家督相續開始シタルトキハ之ヲ其ノ家督相續人ニ賜フ

第十六條　第十三條及前條ノ規定ハ華族令第七條第三號及第四號ニ該當スル者ニ之ヲ準用ス

第十七條　本令ノ有效期間滿了ノ時華族ノ禮遇ノ禁止中ニ在ル者ニハ保護資金ノ元資ヲ分賜スルコトナシ

第十八條　宮內省ニ舊堂上華族保護資金調查委員會ヲ置ク

第十九條　舊堂上華族保護資金調查委員會ハ委員長一人委員十人ヲ以テ之ヲ組織ス

委員ハ宮內高等官二人舊堂上華族八人トス

委員長及委員ハ宮內大臣勅裁ヲ經テ之ヲ命ス

第二十條　調查委員會ハ宮內大臣ノ諮問シタル事項ヲ調查議定ス

第二十一條　宗秩寮總裁及內藏頭ハ調查委員會ニ列シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十二條　調查委員會ハ保護資金ノ管理及出納ノ狀況ニ付キ內藏頭ニ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條　調查委員會ノ庶務ハ宗秩寮ニ於テ之ヲ主管ス

第二十四條　保護資金ニ關スル會計ハ帝室會計審查局ノ審查ニ付ス

第二十五條　宮內大臣ハ每年末ニ於テ保護資金ニ關スル會計ノ狀況ヲ上奏スヘシ

第二十六條　本令ノ施行ニ關スル規程ハ宮內大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

第二十七條　本令ノ有效期間滿了ノ時華族ノ禮遇ノ停止中ニ在ルトキハ保

但シ皇室會計令第六章ノ規定ハ保護資金ノ出納ヲ掌ル官吏ニ之ヲ準用ス

第二十八條　本令ノ有效期間ハ大正三十五年十二月三十一日マテトス但シ事情ニ依リ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ大正三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ舊堂上華族恩賜金會計中保護部ニ於テ管理シタル現金及有價證券ハ本令施行ノ際資金會計財本部ニ移入スヘシ

附　則（大正十四年六月皇室令第八號）

本令ハ大正十四年六月以降賜フヘキ保護金ニ付之ヲ適用ス

朝鮮貴族令（明治四十三年八月二十九日皇室令第十四號）

第一條　本令ニ依リ爵ヲ授ケラレ又ハ爵ヲ襲キタル者ヲ朝鮮貴族トス

有爵者ノ婦ハ朝鮮貴族ノ族稱ヲ享ク

第二條　爵ハ李王ノ現在ノ血族ニシテ皇族ノ禮遇ヲ享ケサル者及門地又ハ功勞アリタル朝鮮人ニ之ヲ授ク

第三條　爵ハ公侯伯子男ノ五等トス

第四條　爵ヲ授クル勅旨ヲ以テ宮內大臣之ヲ奉行ス

第五條　有爵者ハ其ノ爵ニ應シ華族令ニ依ル有爵者ト同一ノ禮遇ヲ享ク

第六條　有爵者ノ婦ハ其ノ夫ノ爵ニ相當スル禮遇及名稱ヲ享ク

有爵者ノ寡婦其ノ家ニ在ルトキハ特ニ貴族ノ族稱ヲ保有セシメ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシム

第七條　有爵者ノ家族ニシテ左ニ揭ケタル者ハ華族ト同一ノ禮遇及貴族ノ族稱ヲ享ク

一　曾祖父、祖父、父

二　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人及其ノ嫡長男子、嫡出ノ男子ナキトキハ其ノ庶長男子

三　前二號ニ揭ケタル者ノ配偶者

第八條　有爵者又ハ前二條ノ禮遇ヲ享クヘキ者身體若ハ精神ニ重患アリ又ハ貴族ノ體面ニ關スル事故アルトキハ其ノ重患又ハ事故ノ止ムマテ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

前項ノ重患又ハ事故ノ有無ハ宮內高等官中ヨリ勅命シタル審查委員ヲシテ審查セシメタル後宮內大臣ノ上奏ニ依リ之ヲ勅裁ス

第九條　有爵者ハ家範ヲ定ムルコトヲ得

家範ハ宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ之ヲ廢止變更スルトキ亦同シ

有爵者二十年未滿ナルトキ又ハ前條ノ場合ニ該當スル者ナルトキハ家範ヲ定メ又ハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得ス

第十條　爵ハ家ノ相續人タル男子ヲシテ之ヲ襲カシム

第十一條　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人ハ相續開始ノ時ヨリ六箇月內ニ宮內大臣ニ相續ノ屆出ヲ爲スヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ宮內大臣ハ勅許ヲ經テ襲爵ノ辭令書ヲ交付ス

第十二條　左ノ場合ニ於テハ相續人ハ襲爵ノ特權ヲ失フ

一　第十一條第一項ノ期間內ニ相續ノ屆出ヲ爲ササルトキ

二　第十六條第二項又ハ第十八條ノ規定ニ依リ貴族ノ族稱ヲ除カレタルトキ

第十四條　相續人忠順ヲ缺クノ行爲アリタルトキハ襲爵ヲ勅許セラルルコトナシ

第十五條　有爵者及第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者ノ身分ニ關シ第八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條　有爵者又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者ノ身分ニ關シ監督上必要ノ事項ハ宮内大臣之ヲ管掌ス

第十七條　有爵者國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ禁錮若ハ禁獄以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁判確定シタルトキハ其ノ爵ヲ失フ

第十八條　第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者前項ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ禁止ス

第十九條　有爵者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ爵ヲ返上セシメ又ハ禮遇ヲ停止ス

一　貴族ノ體面ヲ汚辱スル失行アル者
二　貴族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者
三　忠順ヲ缺クノ行爲アル者
四　宮内大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シ情狀重キ者

第二十條　第六條又ハ第七條ノ禮遇ノ享クヘキ者前條ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ停止若ハ禁止ス

第二十一條　第十六條第三項、第十七條及第十八條ノ處分ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ行フ禮遇ノ停止ヲ解除スルトキ亦同シ

第八條第二項ノ規定ハ前項ヲ處分及解除ニ之ヲ準用ス

禮遇ノ禁止ヲ解除スルハ特旨ニ由ル

第二十二條　審査委員ニ關スル規程ハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮ニ在住スル貴族ニ關スル件

（明治四十三年八月二十九日　皇室令第十五號）

第一條　朝鮮貴族令第八條、第十四條及第二十一條ノ場合ニ於テハ朝鮮ニ在住スル貴族ニ限リ當分ノ内朝鮮總督ニ於テ審査委員ヲシテ審査セシメタル後之ヲ宮内大臣ニ移牒スヘシ

前項ノ審査委員ハ朝鮮總督府高等官ノ内ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

察査委員ニ關スル規程ハ朝鮮總督宮内大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第二條　朝鮮貴族令第九條第二項、第十一條第一項及第二十條ノ規定ニ依リ届出、認許ノ申請又ハ請願ヲ爲スニハ朝鮮ニ在住スル貴族ニ限リ當分ノ内朝鮮總督ヲ經由スヘシ

第三條　朝鮮貴族令第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮ニ在住スル貴族ノ監督上必要ノ事項ハ當分ノ内朝鮮總督之ヲ管掌ス但シ主要ノ事項ニ付テハ宮内大臣ニ協議スヘシ

第四條　朝鮮ニ在住スル貴族朝鮮總督ノ命令ニ違反シ情狀重キトキハ朝鮮貴族令第十七條ヲ適用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三章　登　記

第一節　法人及夫婦財産

法人及夫婦財産契約登記取扱手續法

（明治三十二年五月三十一日　司法省令第十五號）

【沿革】明治三十五年七月省令第一七號、同四十四年八月同第二一號、大正二年五月同第一九號、同五年十二月同第三〇號、同七年三月同第二號、同十一年十二月同第三六號改正

法人及夫婦財産契約登記取扱手續左ノ通相定ム

第一條　法人登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ夫婦財産契約登記簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條　法人登記見出帳及ヒ夫婦財産契約登記見出帳ハ附錄第三號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條　登記所ニハ登記簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

一　印鑑簿
二　申請書類綴込帳
三　決定原本綴込帳
四　抗告書類綴込帳
五　登記濟證交付帳
六　謄本抄本證明書交付帳
七　受領證原符元帳

前項第二號乃至第七號ノ帳簿ハ一箇年毎ニ別冊ト爲スヘシ但分冊スルコトヲ妨ケス

第三條ノ二　夫婦財産契約登記見出帳中名稱欄ニハ夫ノ氏名ヲ記載シ備考欄ニ妻ノ民名ヲ登記スヘシ

第三條ノ三　法人設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中名稱欄ニ法人ノ種類ヲ登記スヘシ

第四條　外國法人ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ事項ノ名稱カ或欄ノ表示ニ適合セサルトキハ最モ之ニ類似セル欄ニ登記シタル上其名稱ヲ附記スヘシ

第五條　外國法人ノ事務所ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中變更欄ニ之ヲ爲シ其登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第六條　民法施行法第二十條第一項ノ規定ニ依リテ申請シタル法人ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中第四欄ニ主務官廳ノ認可アリタルコト及ヒ其年月日ヲ登記スヘシ

第七條　夫婦財産契約カ夫婦ノ一方ノ死亡ニ因リテ終了シタルトキハ他ノ一方ノ者ノミニテ登記ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ申請書ニ其事由ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第八條　夫婦財産契約ニ關シ登記シタル事項ノ變更ノ登記又ハ夫婦財産契約ノ登記ノ更正ハ登記用紙中管理者ノ變更及ヒ共有財産ノ分割欄ニ之ヲ爲スヘシ

第九條　商業登記取扱手續第二十一條第五項、第二十三條及ヒ第二十六條ノ規定ハ法人ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十條　不動産登記法施行細則第四條、第五條、第十二條、第十三條、第二十條乃至第二十四條、第二十七條、第三十三條乃至第三十五條ノ二、第

三十六條、第三十七條、第三十九條、第四十七條、第五十一條及ヒ商業登記取扱手續第五條乃至第七條、第九條乃至第二十條、第二十四條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第二十九條乃至第三十二條、第四十六條ノ規定ハ法人及ヒ夫婦財産契約ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十一條（削除）

附　則

第十二條　本令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　明治三十一年七月司法省令第六號法人及ヒ夫婦財産契約登記取扱規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

法人登記簿及夫婦財産契約登記簿ノ謄本抄本請求等ニ關スル手數料

（明治三十二年六月十二日司法省令第二十四號）

【沿革】大正十年十月省令第二三號改正

第一條　非訟事件手續法第百二十五條ノ規定ニ依リ法人登記簿及ヒ夫婦財産契約登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其用紙一枚ニ付キ手數料金十五錢ヲ納ムヘシ但一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

第二條　非訟事件手續法第百二十五條ノ規定ニ依リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ請求スル者ハ每一件手數料金十五錢ヲ納ムヘシ

第三條　明治三十二年司法省令第十五號第十條ノ規定ニ依リ法人又ハ夫婦財産契約ノ登記ニ付キ登記濟證ノ交付ヲ請求スル者ハ手數料金十錢ヲ納ムヘシ

第四條　非訟事件手續法第四十二條第一項又ハ第五十七條第一項ノ規定ニ依リ書類ノ謄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其謄本一枚ニ付キ手數料金十五錢ヲ納ムヘシ但一行二十字詰二十行ヲ以テ一枚トシ十一行以上ハ一枚ニ算シ十行以下ハ半枚ニ計算ス

第五條　手數料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

第六條　前五條ノ規定ハ官吏又ハ公吏カ政府ノ利益ノ爲メ其職務ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第七條　本令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　明治三十一年司法省令第十號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二節　不動産

不動産登記法

（明治三十二年二月二十四日法律第二十四號）

【沿革】明治三十八年三月法律第三九號、同四十四年三月同第一二號、大正二年四月同第一八號、同五年九月同第四五號、同八年三月同第二四號、同十一年四月同第六四號、昭和二年三月同第三四號改正

第一章　總則

第二章　登記所及ヒ登記官吏

第三章　登記手續

第一節　通則

第二節　所有權ニ關スル登記手續

第一條　登記ハ左ニ揭ケタル不動産ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ之ヲ爲ス

一　所有權
二　地上權
三　永小作權
四　地役權
五　先取特權
六　質權
七　抵當權
八　賃借權

第二條　假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一　登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ
二　前條ニ揭ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ

右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同シ

第三條　豫告登記ノ登記原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲ス但登記原因ノ取消ニ因ル訴ニ付テハ其取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對スルコトヲ得ル場合ニ限ル

第四條　詐欺又ハ强迫ニ因リテ登記ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第五條　他人ノ爲メ登記ヲ申請スル義務アル者ハ其登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス但其登記ノ原因カ自己ノ登記ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六條　同一ノ不動産ニ關シテ登記シタル權利ノ順位ニ付キ法律ニ別段ノ定ナキトキハ其順位ハ登記ノ前後ニ依ル

登記ノ前後ハ登記用紙中同區ニ爲シタル登記ニ付テハ順位番號ニ依リ別區ニ爲シタル登記ニ付テハ受附番號ニ依ル

第七條　附記登記ノ順位ハ主登記ノ順位ニ依ル但附記登記間ノ順位ハ其前後ニ依ル

假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依ル

第二章　登記所及ヒ登記官吏

第八條　登記スヘキ權利ノ目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

不動産カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ其各登記所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所ニ於テ申請ニ因リ管轄登記所ノ指定ス

第八條ノ二　司法大臣ハ一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル事務ヲ他ノ登記所ニ委任スルコトヲ得

第九條　町村其他登記簿ヲ分設シタル區畫カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其區畫ニ關スル登記簿及ヒ其附屬書類ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス

一箇又ハ數箇ノ不動産ノ所在地カ甲登記所ノ管轄ヨリ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其不動産ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ附屬書類又ハ其謄本ヲ乙登記所ニ移送スルコトヲ要ス但登記簿ノ謄本ニ

ハ抹消ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫シ其不動産ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第十條　登記所ニ於テ其事務ヲ停止セサルコトヲ得サル事故ノ生シタルトキハ司法大臣ハ期間ヲ定メテ其停止ヲ命スルコトヲ得

第十一條　登記所ハ土地ニ付キ左ニ掲ケタル事項ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ土地臺帳所管廳ニ通知スルコトヲ要ス

一　所有權ノ保存若クハ移轉

二　質權ノ設定及ヒ存續期間、存續期間ノ變更、移轉若クハ消滅

三　百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ設定、移轉若クハ消滅又ハ百年ヨリ長キ存續期間ヲ百年以下ニ變更シ若クハ百年以下ノ存續期間ヲ百年ヨリ長キ期間ニ變更シ又ハ存續期間ノ定ナキ地上權ニ百年ヨリ長キ期間ヲ定メ若クハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ヲ存續期間ノ定ナキモノト爲シタルコト

四　所有權、質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ登記名義人ノ表示ノ變更

第十二條　登記官吏ハ自己、其妻又ハ四親等内ノ親族カ申請人ナルトキハ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者ニシテ且登記官吏ノ妻又ハ四親等内ノ親族ニ非サル者二人以上ノ立會アルニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス但親族ニ付テハ親族關係カ止ミタル後亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ調書ヲ作リ立會人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第十三條　登記官吏カ其職務ノ執行ニ付キ申請其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ登記官吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

第三章　登記ニ關スル帳簿

第十四條　登記簿ハ土地登記簿及ヒ建物登記簿ノ二種トス

各種ノ登記簿ハ市ニ付テハ從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲シ町村ニ付テハ町村毎ニ別冊ト爲ス但登記事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ別冊ト爲スコトヲ得

第十五條　登記簿ハ一筆ノ土地又ハ一棟ノ建物ニ付キ一用紙ヲ備フ

同一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル不動産カ登記簿ヲ分設シタル數箇ノ區畫ニ跨カル時ハ其一個ノ區畫ノ登記簿ニノミ其不動産ニ關スル用紙ヲ備フ

第十六條　登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙ノ二區ニ分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ク各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各土地又ハ各建物ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ土地又ハ建物ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ所有權以外ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十七條　（削除）

第十八條　登記簿ニハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且毎葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條　土地登記簿及ヒ建物登記簿ニ付キ各其見出帳ヲ設ク

第二十條　登記簿、見出帳、共同人名簿及ヒ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス

申請書其他ノ附屬書類ハ申請書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第二十一條　何人ト雖モ手數料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又利害ノ關係アル部分ニ限リ登記簿又ハ其附屬書類ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條ノ二　登記簿ノ抄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者カ不動産ノ目錄ヲ提出シタルトキハ登記所ハ其裏面ヲ用ヰテ謄本又ハ謄本ヲ作成スルコトヲ得

第二十二條　登記簿及ヒ其附屬書類ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外登記所外ニ持出スコトヲ得ス但第二十條第二項ニ掲ケタル書類ニ付テハ裁判所又ハ豫審判事ノ命令又ハ囑託アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ三箇月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其期間内ニ登記ノ回復ヲ申請スル者ハ仍ホ其登記簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第二十四條　登記簿及ヒ其附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ司法大臣ハ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四章　登記手續

第一節　通則

第二十五條　登記ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請又ハ官廳若クハ公署ノ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ因ル登記ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請ニ因ル登記ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條　登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條　判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條　登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ登記名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條ノ二　滯納處分ニ因ル差押ノ登記ヲ囑託スル場合ニ於テ必要アルトキハ官廳又ハ公署ハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ不動産ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル權利移轉ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第二十八條ノ三　第四十六條ノ二、第五十條第三項、第六十條ノ二及ヒ第六十三條ノ三ノ規定ハ前條ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十九條　官廳又ハ公署ノ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ其官廳又ハ公署ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十條　官有不動産又ハ府縣、郡、市、町村若クハ區ノ所有ニ係ル不動産ニ關スル權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳若クハ公署ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十一條　官廳又ハ公署カ不動産ニ關スル權利ヲ取得シタルトキハ其權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ其官廳又ハ公署ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面及ヒ登記義務者ノ承諾書ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

官廳又ハ公署カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ變更又ハ處分ノ制限ニ付キ爲スヘキ登記ハ官廳又ハ公署カ登記權利者ナルトキハ職權ヲ以テ、登記義務者ナルトキハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳又ハ公署ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス但官廳又ハ公署カ登記權利者ナルトキハ登記義務者ノ承諾書ヲモ添附スルコトヲ要ス官廳又ハ公署カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ消滅ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳又ハ公署ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十二條　假登記ハ次條ノ場合ヲ除ク外假登記權利者ノ申請ニ因リ其目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滯ナク囑託者ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ假處分命令ハ假登記權利者カ假登記原因ヲ疎明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス

申請ヲ却下シタル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第三十三條　假登記ハ假登記義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其承諾書ヲ添附シテ假登記權利者ヨリ之ヲ登記所ニ申請スルコトヲ得

第三十四條　豫告登記ハ第三條ニ揭ケタル訴ヲ受理シタル裁判所ヨリ職權ヲ以テ滯遲ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十五條　登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

一　申請書

二　登記原因ヲ證スル書面

三　登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證

四　登記原因ニ付キ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

五　代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其權限ヲ證スル書面

登記原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ前項第三號及ヒ第四號ニ揭ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第三十六條　申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　不動産所在ノ郡、市、區、町村、字及ヒ土地ノ番號

二　地目及ヒ段別又ハ坪數

三　申請人氏名、住所若シ申請人カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所

四　代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其氏名、住所

五　登記原因及ヒ其日附

六　登記ノ目的

七　登記所ノ表示

八　年月日

第三十七條　登記スヘキ權利ノ目的カ建物ナル場合ニ於テハ申請書ニ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載シ若シ建物ノ番號アルトキハ其番號ヲ記載シ附屬建物アルトキハ其種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

前條第二號ニ揭ケタル事項ハ前項ノ申請書ニハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

第三十八條　登記原因ニ買戻ノ特約其他登記ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條　登記權利者カ多數ナル場合ニ於テ登記原因ニ其持分ノ定ア

ルトキハ申請書ニ其持分ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十條　登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ノ副本ヲ提出スルコトヲ要ス

第四十一條　登記原因カ相續ナルトキハ申請書ニ相續ヲ證スル戶籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十二條　申請人カ登記權利者又ハ登記義務者ノ相續人ナルトキハ申請書ニ其身分ヲ證スル戶籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十三條　登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其表示ノ變更ヲ證スル戶籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十四條　登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證カ滅失シタルトキハ申請書ニ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者二人以上カ登記義務者ノ人違ナキコトヲ保證シタル書面二通ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十五條　申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其第三者ヲシテ申請書ニ署名、捺印セシメテ其書面ニ代フルコトヲ得

第四十六條　同一ノ登記所ノ管轄內ニ在ル數個ノ不動産ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テハ登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ナルトキニ限リ同一ノ申請書ヲ以テ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四十六條ノ二　債券者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ債權者及ヒ債務者ノ代稱、住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載シ且代位原因ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十七條　登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ登記ノ目的申請人ノ氏名、受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス但同一ノ不動産ニ關シテハ同時ニ數個ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ記載スル事ヲ要ス

申請書其他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ之ヲ申請人ニ交付スルコトヲ要ス

第四十八條　登記官吏ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條　登記官吏ハ左ノ場合ニ限リ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スルコトヲ要ス但申請ノ欠缺カ補正スルコトヲ得ヘキモノナル場合ニ於テ申請人カ卽日ニ之ヲ補正シタルトキハ此限ニ在ラス

一　事件カ其登記所ノ管轄ニ屬セサルトキ

二　事件カ登記スヘキモノニ非サルトキ

三　當事者カ出頭セサルトキ

四　申請書カ方式ニ適合セサルトキ

五　申請書ニ揭ケタル不動産又ハ登記ノ目的タル權利ノ表示カ登記簿ト牴觸スルトキ

六　第四十二條ニ揭ケタル書面ヲ提出シタル場合ヲ除ク外申請書ニ揭ケタル登記義務者ノ表示カ登記簿ト符合セサルトキ

七　申請書ニ揭ケタル事項カ登記原因ヲ證スル書面ト符合セサルトキ

八　申請書ニ必要ナル書面又ハ圖面ヲ添附セサルトキ

九　登錄稅ヲ納付セサルトキ

第五十條　表示欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登記ノ目的其他申請書ニ揭ケタル事項ニシテ不動産ノ表示ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

事項欄ニ登記ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的其他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ登記スヘキ權利ニ關スルモノヲ記載シテ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第四十六條ノ二ノ申欄アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スニハ前項ノ規定ニ依ルノ外事項欄ニ債權者ノ氏名又ハ名稱住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十一條　登記權利者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名、住所及ヒ他ノ人員ヲ登記用紙ニ記載シ其氏名、住所ヲ共同人名簿ニ記載スルコトヲ得登記義務者ノ氏名、住所ヲ登記用紙ニ記載スルコトヲ要スル場合ニ於テ登記義務者カ多數ナルトキ亦同シ

第五十二條　表示欄ニ登記ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ事項欄ニ登記ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三條　附記ニ依ル登記ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登記ノ番號ヲ用ヰ其番施ノ左側ニ附記何號ト記載スルコトヲ要ス

第五十四條　假登記ハ登記用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其左側ニ除白ヲ存スルコトヲ要ス

第五十五條　假登記ヲ爲シタル後本登記ノ申請アリタルトキハ假登記ノ左側ノ餘白ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十六條　權利ノ變更ノ登記ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リテ其登記ヲ爲ス

第五十七條　權利ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ變更シタル登記事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第五十八條　登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ登記ヲ爲ストキハ前ノ表示ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第五十九條　行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス字又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第六十條　登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記原因ヲ證スル書面又ハ申請書ノ副本ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記權利者ニ還付スルコトヲ要ス

申請書ニ添附シタル登記濟證又ハ第四十四條ニ掲ケタル書面ノ一通ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記義務者ニ還付スルコトヲ要ス但登記名義人カ多數ナル場合ニ於テ其一部カ登記義務者ナルトキハ登記義務者ノ氏名、住所ヲモ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ代名、住所及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六十條ノ二　第四十六條ノ二ノ場合ニ於テ登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ前條第一項ニ掲ケタル書類ヲ債務者ニ還付シ且登記濟ノ旨ヲ登記權利者ニ通知スルコトヲ要ス

第六十一條　第四十四條ノ場合ニ於テ登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ不動産ノ表示、登記原因、其日附、登記權利者ノ氏名、住所、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ登記義務者又ハ其一人ニ通知スルコトヲ要ス

第六十二條　官廳又ハ公署カ登記權利者ノ爲メニ登記ヲ囑託シタル場合ニ於テ登記所ヨリ登記濟證ノ還付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第六十三條　登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルヲ以テ足ル

第六十三條ノ二　前條ノ場合ニ於テ登記ノ錯誤又ハ遺漏カ登記官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ヲ除ク外登記官吏ハ遲滯ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲シ其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス

前條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條ノ三　前二條ノ通知ハ第四十六條ノ二ノ場合ニ於テハ債務者ニ亦之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十四條　第五十六條及ヒ第五十七條ノ規定ハ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　抹消シタル登記ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十六條　登記回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ回復スルトキハ回復ノ登記ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登記ト同一ノ登記ヲ爲シ若シ或登記事項ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第　十七條　第九條第二項ノ場合ニ於テ乙登記所ハ移送ヲ受ケタル登記簿ノ謄本ニ依リ相當登記區畫ノ登記簿ニ登記ヲ移スコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記區畫ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ登記スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ登記簿ノ謄本ニ依リ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第六十八條　同一ノ登記所ノ管轄内ニ於テ一個又ハ數個ノ不動産ノ所在地カ甲登記區畫ヨリ乙登記區畫ニ轉屬シタルトキハ登記所ハ乙登記區畫ノ登記簿ニ其不動産ニ關スル登記ヲ移スコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ前登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第六十九條　第二十三條ノ場合ニ於テハ登記權利者ノミニテ登記ノ回復ヲ申請スルコトヲ得

第七十條　前條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ前登記ノ順位番號、申請書受附ノ年月日、受附番號ヲ記載シ前登記ノ登記濟證ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十一條　第條十九條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スヘキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順位ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示二ニ不欄産ノ表示ヲ爲シ相當區順位番號欄ニ前登記ノ番號ヲ記載シ事項欄ニ前登記ノ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十二條　第二十三條ノ規定ニ依リテ定メタル期間中新登記ノ申請アリタルトキハ假設登記簿ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ登記濟證ニ假設登記簿ニ登記ヲ爲シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

ヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條　登記ヲ爲シ又ハ申請書其他登記ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫明瞭ナルコトヲ要ス

金錢其ノ他ノ數量、年月日及ヒ番號ヲ登記スルニハ壹貳參拾ノ字ヲ用キルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ捺印シ其削除ニ係ル文字ハ尚ホ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第二節　所有權ニ關スル登記手續

第七十八條　所有權ノ一部移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其部分ノ表示ヲ爲シ若シ登記原因ニ民法第二百五十六條第一項但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十九條　土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ增減又ハ地目、若クハ番號ノ變更アリタルトキハ其土地ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滯ナク其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第八十條　前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ土地ノ分合、滅失若クハ增減シタル段別若クハ坪數竝ニ現在ノ段別若クハ坪數又ハ新地目若クハ新番號ヲ記載シ且土地臺帳謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十一條　土地ノ分合、滅失、段別若クハ坪數ノ減少又ハ地目ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十二條　甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ乙地ノ登記用紙ヨリ所有權其他ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ且所有權以外ノ權利ニ關スル登記中ニ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲地ノ登記用紙中表示欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十三條　前條第一項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權其他ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ且所有權以外ノ權利ニ關スル登記中ニ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ヨリ乙地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ乙地ト共ニ其權利ノ目的タル旨ヲ附記スルコトヲ要ス

申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ乙地ニ關シ其權利ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第八十四條　甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ乙地ノミカ所有權以外ノ權利ノ目的タルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ移シ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ甲地ノ登記用紙中所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ乙地ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ附記シ其登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス

申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ其權利ノ消滅ヲ承諾シタル

登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲地ノ登記用紙中表示欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十三條　前條第一項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權其他ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シ且所有權以外ノ權利ニ關スル登記中ニ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ヨリ乙地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ轉寫シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ乙地ト共ニ其權利ノ目的タル旨ヲ附記スルコトヲ要ス

申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ乙地ニ關シ其權利ノ消滅ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第八十四條　甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ乙地ノミカ所有權以外ノ權利ノ目的タルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ移シ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ甲地ノ登記用紙中所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ乙地ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ附記シ其登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス

申請書ニ所有權以外ノ權利ノ登記名義人カ其權利ノ消滅ヲ承諾シタル

コトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ甲地ノ登記用紙中其權利ニ關スル登記ニ其旨ヲ附記シ其登記ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十五條　甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ニ合併シタル場合ニ於テ合併ノ登記ヲ爲ストキハ乙地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ轉寫シ合併シタル部分ノミカ甲地ト共ニ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十二條第二項、第三項及ヒ前條第二項、第三項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十六條　甲地ヲ乙地ニ合併シタル場合ニ於テ合筆ノ登記ヲ爲ストキハ乙地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ甲地ノ表示、其番號及ヒ登記番號ヲ朱捺シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第八十七條　前條ノ場合ニ於テハ乙地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ甲地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ移シ其ノ登記カ甲地タリシ部分ノ

ミニ關スル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

甲地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ乙地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其權利ニ關スル登記ヲ移シ甲地タリシ部分ノミカ其權利ノ目的タル旨、申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第八十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十八條　土地ノ段別又ハ坪數ノ增減ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ增減ノ原因ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第八十九條　地目、又ハ土地ノ番號ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第九十條　（削除）

第九十一條　建物ノ分合、其番號若クハ構造ノ變更、其減失、其建坪ノ增減又ハ附屬建物ノ新築アリタルトキハ其建物ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滯ナク登記ヲ申請スルコトヲ要ス

建物ノ敷地ノ番號ノ變更アリタルトキ亦同シ

第九十二條　前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ分合シタル建坪、新番號若クハ新構造又ハ減失、增減若クハ新築シタル建坪竝ニ現在ノ建坪ヲ記載シ又ハ敷地ノ新番號ヲ記載シ且建物ノ分合、構造ノ變更又ハ建坪ノ增減ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ其圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第九十三條　建物ノ分合、其構造ノ變更、其減失又ハ其建坪ノ減少ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其建物ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ第八十一條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條　甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割又ハ區分ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲建物ノ登記用紙中表示欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割又ハ區分ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス但分割又ハ區分シタル附屬建物ノミニ關スル表示番號アルトキハ其番號ヲモ朱抹スルコトヲ要ス

第九十五條　甲建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙建物ノ附屬建物ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ乙建物ノ登記用紙中表示欄ニ合併ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十六條　第八十三條及ヒ第八十四條ノ規定ハ第九十四條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ノ記載ナキトキハ第八十三條ニ定メタル手續ヲ爲ス外乙建物ノ登記用紙中甲區事項中ニ申請人ノ氏名、住所及ヒ分割又ハ區分ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十七條　第八十五條第二項乃至第四項ノ規定ハ第九十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス但甲建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ分割又ハ區分シタル附屬建物ニ關スル登記原因ノ記載ナキトキハ第八十五條第二項乃至第四項ニ定メタル手續ヲ爲ス外乙建物ノ登記用紙中甲區事項欄ニ申請人ノ氏名、住所及ヒ合併ニ因リテ其者ノ所有權ノ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十八條　甲建物ヲ乙建物又ハ其附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲スニ付テハ第八十六條及ヒ第八十七條ノ規定ヲ準用ス但甲建物ヲ乙建物ノ附屬建物ニ合併シタル場合ニ於テハ乙建物ノ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要セス

第九十九條　第八十八條ノ規定ハ建物又ハ附屬建物ノ建坪ノ增減ノ登記ニ之ヲ準用ス

附屬建物ノ新築ノ登記ヲ爲ストキハ主タル建物ノ登記用紙中表示欄ニ附屬建物ノ種類、構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

第百條　第八十九條ノ規定ハ建物ノ番號ノ變更、建物若クハ附屬建物ノ構造ノ變更又ハ敷地ノ番號ノ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百條ノ二　行政區畫又ハ字ノ變更ニ伴ヒ土地ノ番號ノ變更アリタルトキハ土地臺帳所管廳ハ遲滯ナク其旨ヲ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク登記用紙中表示欄ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百一條　不動產ノ減失ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ノ減失ノ原因ヲ記載シ不動產ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第百二條　前條ノ場合ニ於テ減失シタル不動產カ他ノ不動產ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タリシトキハ他ノ不動產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ減失シタル不動產ノ表示ヲ爲シ減失ノ原因及ヒ其不動產ノ減失シタルコトヲ附記シ其不動產ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨ヲ記載シタル登記中減失シタル不動產ノ表示ヲ朱抹スルコトヲ要ス

他ノ不動產ノ所在地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滯ナク前項ノ登記ヲ其登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百二條ノ二　既登記ノ不動產ヲ世傳御料ニ編入シタル場合ニ於テ其登記ノ抹消ノ囑託アリタルトキハ登記用紙中表示欄ニ世傳御料ニ編入シタル旨ヲ記載シ不動產ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第百二條ノ三　既登記ノ土地カ河川ノ敷地ト爲リタル場合ニ於テハ當該官廳ハ遲滯ナク其登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ必要アルトキハ當該官廳ハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ土地ノ表示若クハ登記名義人又ハ相續人ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

第一項ノ囑託ヲ受ケタル登記所ハ登記用紙中表示欄ニ河川ノ敷地ト爲リタル旨ヲ記載シ土地ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第百二條ノ規定ヲ準用ス

第百三條　土地ノ收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得其申請書ニハ補償金ノ受取證又ハ供託受領證ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ必要アルトキハ起業者ハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ土地ノ表示若ハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

官廳又ハ公署カ起業者ナルトキハ其官廳又ハ公署ハ遲滯ナク前二項ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百三條ノ二　第四十六條ノ二、第五十條第三項、第六十條ノ二及ヒ第六

十三條ノ三ノ規定ハ第百二條ノ三第二項及ヒ前條第二項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百三條ノ三　不動産ニ付キ遺留財産ノ設定又ハ增加ノ勅許アリタルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク遺留財産ノ設定ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百三條ノ四　前條ノ規定ハ王公家軌範ニ依ル世襲財産ノ設定又ハ增加ノ勅許アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第百四條　不動産華族世襲財産ト爲スコトヲ認可シタルトキハ當該官廳ハ滯遲ナク世襲財産ノ設定ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル管理財産中不動産アルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク管理財産タル旨ノ登記ヲ登記所ニ囑託シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス

管理人カ其管理中取得シタル不動産ニ付テハ取得ノ登記ト共ニ管理財産タル旨ノ登記ヲ申請シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

第百四條ノ二　不動産ノ信託ノ登記ニ付テハ受託者ヲ登記權利者トシ委託者ヲ登記義務者トス

第百四條ノ三　信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル不動産ノ信託ノ登記ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ信託法第二十七條ノ規定ニ基ク信託財産ノ復舊ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ四　受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ信託ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四十六條ノ二ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登記ノ申請ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ申請書ニ代位原因ヲ證スル書面ノ外登記ノ目的タル不動産カ信託財産タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百四條ノ五　信託ノ登記ノ申請ハ信託ニ因ル不動産ノ所有權ノ移轉ノ登記ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル不動産ノ取得ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ六　受託者更迭ノ場合ニ於テ所有權移轉ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其更迭ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スヘキ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ七　受託者ノ任務カ死亡、破產、禁治產、準禁治產又ハ裁判所若クハ主務官廳ノ解任命令ニ因リテ終了シタルトキハ前條ノ登記ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務カ解散ニ因リテ終了シタルトキ亦同シ

第百四條ノ八　信託ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス

一　委託者、受託者、受益者及ヒ信託管理人ノ氏名、住所法人ニ在リテハ其名稱及ヒ事務所

二　信託ノ目的

三　信託財産ノ管理方法

四　信託終了ノ事由

五　其他信託ノ條項

前項ノ書面ニハ申請人署名、捺印スルコトヲ要ス

第百四條ノ九　前條ノ規定ニ依リ申請書ニ添附シタル書面ハ之ヲ信託原簿トス

信託原簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第百四條ノ十　裁判所カ信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ遲滯ナク信託原簿ノ記載ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス主務官廳カ信託管理人ヲ選任シタルトキ亦同シ

第百四條ノ十一　前條ノ規定ハ裁判所又ハ主務官廳カ受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ十二　裁判所カ信託財產ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク信託原簿ノ記載ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ主務官廳カ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百四條ノ十三　前三條ノ場合ヲ除ク外第百四條ノ八第一項ニ揭ケル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ受託者ハ遲滯ナク其變更ヲ證スル書面ヲ添ヘテ信託原簿ノ記載ヲ申請スルコトヲ要ス但第百四條ノ六又ハ第百四條ノ七ノ場合ニ於テ登記ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ信託原簿ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第百四條ノ十四　第百四條ノ十一ノ規定ニ依リテ信託原簿ノ記載ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ登記簿ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第百四條ノ十五　第百四條ノ二乃至前條ノ規定ハ擔保附社債信託法ニ依ル登記ニ之ヲ適用セス

第百五條　未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ揭ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一　土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ所有者トシテ登記セラレタルコトヲ證スル者

二　判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

第百六條　未登記ノ建物所有權ノ登記ハ左ニ揭ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一　建物ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者トシテ登記簿ニ登記セラレタル者

二　土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ敷地ノ所有者トシテ登錄セラレタルコトヲ證スル者

三　既登記ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者ノ證明書ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

四　判決其他官廳又ハ公所ノ書面ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

第百七條　前二條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ第百五條第何號又ハ前條第何號ニ依リテ登記ヲ申請スル旨ヲ記載シ必要ナル證明書類ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ圖面ヲ添附スルコトヲ要ス但登記原因及其日附ヲ記載シ又ハ第三十五條第二號乃至第四號ニ揭ケタル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第百八條　未登記ノ不動產所有權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九條　第百二十八條及ヒ第百二十九條ノ規定ハ未登記ノ不動產所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百十條　官廳又ハ公署カ未登記ノ不動產所有權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ第百五條又ハ第百六條ノ規定ニ依リテ證明ヲ爲スコトヲ要セス

第三節　所有權以外ノ權利ニ關スル登記手續

第百十一條　地上權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ地上權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間、地代又ハ其支拂時期ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十二條　永小作權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ小作料ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間、小作料ノ支拂時期其他永小作人ノ權利若クハ義務ニ關スル特約又ハ民法第二百七十二條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十三條　地役權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ要役地ノ表示ヲ爲シ地役權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載シ若シ登記原因ニ民法第二百八十一條第一項但書、第二百八十五條第一項但書又ハ第二百八十六條ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十四條　地役權ノ設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ要役地タル不動產ノ登記用紙中相當事項欄ニ承役地タル不動產ノ表示ヲ爲シ其不動產カ地役權ノ目的タル旨、地役權設定ノ目的及ヒ範圍ヲ記載スルコトヲ要ス要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滯ナク其登記所ニ承役地、要役地、地役權設定ノ目的竝ニ範圍及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク要役地タル不動產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十五條　先取特權ノ保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス但不動產工事ノ先取特權ノ保存ニ付テハ其工事費用ノ豫算額ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十六條　質權ノ設定又ハ轉質ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間若クハ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、違約金若クハ賠償額ノ定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ、民法第三百四十六條但書ノ定アルトキ、第三百五十六條若クハ第三百五十七條ノ規定ニ異ナリタル定アルトキ又ハ第三百七十條但書ノ定サルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十七條　抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、其發生期若クハ支拂時期ノ定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ又ハ民法第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十八條　先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其權利ノ目的カ所有權以外ノ權利ナルトキハ申請書ニ其權利ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

第百十九條　質權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質權又ハ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十條　一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其債權ノ價格ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十一條　官吏又ハ公吏ノ身元保證ヲ目的トスル抵當權ノ設定ノ登記ハ囑託書ニ其官吏又ハ公吏カ差出シタル登記請求書ヲ添附シテ當該官廳又ハ公署ヨリ遲滯ナク之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百二十二條　數箇ノ不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ各不動產ニ關スル權利ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十二條ノ二　前條ノ場合ニ於テ不動產カ五個以上ナルトキハ申請書ニ共同擔保目錄ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ目錄ニハ各不動產ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ申請人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第百二十二條ノ三　一個又ハ數個ノ不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ爲シタル後同一ノ債權ニ付キ他ノ一個又ハ數個ノ不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ前ノ登記ヲ表示スルニ足ルヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十三條　債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ因ル先取特權、質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ日的タル債權額ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十四條　第百二十二條ノ規定ニ從ヒテ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ其一個ノ不動產ニ關スル權利ニ付キ登記ヲ爲ストキハ其不動產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ他ノ不動產ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其權利カ共ニ擔保ノ目的タル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十四條ノ二　申請書ニ共同擔保目錄ヲ添附シタル場合ニ於テ其一個ノ不動產ニ關スル權利ニ付キ登記ヲ爲ストキハ其不動產ノ登記用紙中相當區事項欄ニ共同擔保目錄ニ揭ケタル他ノ不動產ニ關スル權利ト共ニ擔保ノ目的タル旨ヲ記載スルヲ以テ足ル

第百二十四條ノ三　共同擔保目錄ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第百二十四條ノ四　第百二十二條ノ三ノ規定ニ依ル登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ其登記及ヒ前ノ登記ニ各不動產ニ關スル權利カ共ニ擔保ノ目的タルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十四條及ヒ第百二十四條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十五條　先取特權、質權又ハ抵當權ノ移轉ノ登記ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第百二十六條　數個ノ不動產ニ關スル權利カ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其一個ノ不動產ニ關スル權利ヲ目的トスル先取特權、質權又ハ抵當權ノ消滅ノ登記ヲ爲シタルトキハ他ノ不動產ニ關スル權利ニ付キ第百二十四條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ニ其旨ヲ附記シ消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス其一個ノ不動產ニ關スル權利ノ表示ニ付キ變更ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百十四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十六條ノ二　前條第一項ノ規定ニ從ヒテ爲スヘキ登記ハ共同擔保目錄アル場合ニ於テハ其目錄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十七條　賃借權ノ設定又ハ賃借物ノ轉貸ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ借賃ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間若クハ借賃ノ支拂時期ノ定アルトキ又ハ賃借權ノ移轉若クハ賃借物ノ轉貸ヲ許シタルトキハ之ヲ記載シ賃貸借ヲ爲ス者カ處分ノ能力若クハ權限ヲ有セサル者ナルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

賃借權ノ移轉又ハ賃借物ノ轉貸ヲ許シタル旨ノ登記アラサル場合ニ於テ賃借權ノ移轉又ハ賃借物ノ轉貸ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ賃貸人ノ承諾書ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十七條ノ二　第百三條及ヒ第百三條ノ二ノ規定ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用ニ因ル權利移轉ノ登記ニ、第百四條ノ二乃至第百四條ノ十五ノ規定ハ不動產ニ關スル所有權以外ノ權利ノ信託ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百二十八條　未登記ノ不動產ノ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ハ之ヲ

命スルニ裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證明スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第百三十九條　前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記官吏ハ其權利ヲ證明スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得ル者ニ對シ其權利ヲ登記スルコトヲ命スルノ裁判ヲ爲スニ付キ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ申請ヲ爲サザルトキハ其申請ハ之ヲ爲サザリシモノト看做ス

第百四十條　前條ノ裁判ニ依リ權利ヲ登記スル者ハ其裁判ノ確定ノ日ヨリ一箇月内ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百四十一條　前條ノ裁判ニ依リ權利ヲ登記スル者ハ其裁判ノ確定ノ日ヨリ一箇月内ニ登記ヲ爲サザルトキハ其裁判ハ其效力ヲ失フ

第百四十二條　前條ノ裁判ニ依リ權利ヲ登記スル者ハ其裁判ノ確定ノ日ヨリ一箇月内ニ登記ヲ爲サザルトキハ其裁判ハ其效力ヲ失フ

第百四十三條　前條ノ裁判ニ依リ權利ヲ登記スル者ハ其裁判ノ確定ノ日ヨリ一箇月内ニ登記ヲ爲サザルトキハ其裁判ハ其效力ヲ失フ

第百四十四條　前四條ノ規定ハ所有權以外ノ權利ニ之ヲ準用ス

第百三十五條　官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産ニ付キ登記ヲ爲スニ付キ又ハ登記ノ不動産ニ付キ所有權以外ノ權利ヲ設定シ又ハ其變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スニ付キ又ハ登記ノ抹消ヲ爲スニ付キ其官廳又ハ公署ハ其所屬官廳ニ對シ登記ヲ爲スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第百三十六條　登記ハ之ヲ申請スルコトヲ得ル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得ル者ニ對シ其權利ヲ登記スルコトヲ命スルノ裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ登記スルコトヲ命スルノ裁判ニ依リテ登記ヲ爲ス

第百三十七條　前條ノ申請ハ登記ノ目的タル權利ヲ有スル者又ハ登記ニ因リテ利益ヲ受ケル者ノ承諾アルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第百三十八條　既ニ登記ノ爲サレタル權利ヲ讓渡シ又ハ之ヲ目的トスル權利ヲ設定シ若クハ其權利ノ順位ヲ變更スル場合ニ於テ登記名義人ノ承諾アルトキハ其承諾ヲ證スル書面ヲ添附シテ其變更ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

第百三十九條　既ニ登記ノ爲サレタル權利ヲ目的トスル權利ヲ有スル者ハ其權利ニ付キ登記ヲ爲スニ付キ利害關係ヲ有スル者ノ承諾アルトキハ其承諾ヲ證スル書面ヲ添附シテ其權利ニ付キ登記ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得

第百四十條　前條ノ規定ハ所有權以外ノ權利ニ之ヲ準用ス

第百四十一條　登記ハ之ヲ申請スル者ノ申請ニ依リテ之ヲ爲ス但シ法律ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百四十二條　登記ハ登記官吏カ職權ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第百四十三條　登記ハ法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外登記官吏ノ處分ニ依リテ之ヲ爲ス

第百四十四條　登記ハ登記官吏カ其作成シタル登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百四十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百四十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百四十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百四十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百四十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百五十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百五十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百五十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百五十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百五十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百五十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百五十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百五十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百五十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百五十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百六十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百六十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百六十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百六十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百六十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百六十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百六十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百六十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百六十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百六十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百七十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百七十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百七十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百七十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百七十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百七十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百七十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百七十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百七十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百七十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百八十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百八十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百八十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百八十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百八十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百八十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百八十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百八十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百八十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百八十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百九十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百九十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百九十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百九十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百九十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百九十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百九十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百九十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百九十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第百九十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百二十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百二十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百二十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百二十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百二十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百二十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百二十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百二十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百二十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百二十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百三十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百三十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百三十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百三十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百三十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百三十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百三十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百三十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百三十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百三十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百四十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百四十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百四十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百四十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百四十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百四十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百四十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百四十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百四十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百四十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百五十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百五十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百五十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百五十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百五十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百五十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百五十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百五十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百五十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百五十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百六十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百六十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百六十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百六十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百六十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百六十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百六十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百六十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百六十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百六十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百七十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百七十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百七十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百七十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百七十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百七十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百七十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百七十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百七十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百七十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百八十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百八十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百八十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百八十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百八十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百八十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百八十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百八十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百八十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百八十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百二十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百二十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百二十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百二十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百二十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百二十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百二十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百二十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百二十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百二十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百三十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百三十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百三十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百三十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百三十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百三十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百三十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百三十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百三十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百三十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百五十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百五十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百五十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百五十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百五十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百五十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百五十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百五十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百五十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百五十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百七十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百七十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百七十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百七十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百七十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百七十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百七十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百七十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百七十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百七十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百九十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百九十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百九十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百九十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百九十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百九十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百九十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百九十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百九十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百九十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十五條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十六條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十七條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十八條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十九條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百三十條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百三十一條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百三十二條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百三十三條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百三十四條　登記ハ登記官吏カ登記簿ニ記載スル

シ何權利ノ登記ヲ抹消シタルニ因リテ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十八條　第二十九條ノ規定ニ從ヒ官廳又ハ公署ヨリ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ノ囑託アリタル場合ニ於テハ滯納處分ニ關スル差押ノ登記ヲ抹消シ若シ其權利ヲ目的トセル先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百四十九條　第百三條ノ規定ニ從ヒ土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ノ申請又ハ囑託アリタル場合ニ於テ其ノ不動產ノ登記用紙中所有權又ハ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス但其不動產ノ爲メニ存スル地役權ノ登記ハ此限ニ在ラス

第百四十九條ノ二　登記官吏ハ登記ヲ完了シタル後其登記カ第四十九條第一號又ハ第二號ニ該當スルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記權利者、登記義務者及ヒ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ對シ一箇月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間內ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ商業登記ニ付キ定メタル公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スルコトヲ要ス登記官吏ハ前項ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ揭載セシムルコトヲ得

第百四十九條ノ三　異議ノ申立アリタルトキハ登記官吏ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第百四十九條ノ四　前條第二項ノ卽時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ提定ヲ準用ス

第百四十九條ノ五　異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第五章　抗告

第百五十條　登記官吏ノ決定又ハ處分ヲ不當トスル者ハ管轄地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第百五十一條　抗告ハ登記所ニ抗告狀ノ差出シテ之ヲ爲ス

第百五十二條　抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ其憑據ト爲スコトヲ得ス

第百五十三條　登記官吏カ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ三日內ニ意見ヲ附シテ事件ヲ抗告裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

登記官吏カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登記完了ノ後ナルトキハ其登記ニ付キ異議アル旨ノ附記ヲ爲シ之ヲ登記上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第百五十四條　抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

抗告裁判所ハ抗告ニ付キ決定ヲ爲ス前登記官吏ニ假登記ヲ命スルコトヲ得

第百五十五條　抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送達スルコトヲ要ス

第百五十六條　抗告裁判所ノ決定ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第百五十七條　登記官吏カ抗告裁判所ノ命令ニ依リテ登記ヲ爲ストキハ命令ヲ爲シタル裁判所、命令ノ年月日、命令ニ依リテ登記ヲ爲ス旨及ヒ登記ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第百五十八條　抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル決定ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

第百五十四條乃至第百五十七條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第百五十九條　送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

附　則

第百六十條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年四月勅令第一三四號ヲ以テ同年六月十六日ヨリ施行）

第百六十一條　明治十九年法律第一號登記法中地所及ヒ建物ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第百六十二條　明治六年第十八號布告地所質入書入規則又ハ同八年第百四十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ一年內ニ債權者ヨリ其登記ヲ申請セサルトキハ其權利ハ公證ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ニ從ヒテ登記シタル權利ノ順位ハ公證ノ順位ニ依ル

第一項ニ定メタル登記ニ關スル手續ハ司法大臣之ヲ定ム

第百六十三條　本法施行前ニ登記シタル不動產ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ノ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動產ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及ヒ事項欄ニ舊登記簿ノ用紙中抹消ニ係ラサル番號及ヒ事項ヲ移シ舊登記簿ノ用紙ニ移シタル番號及ヒ事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第百六十四條　本法施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

附　則（大正二年四月法律第一八號）

第一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正二年五月勅令第九一號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

第二條　本法施行前ニ登記所ノ受附ケタル事件ハ從前ノ規定ニ依リ完結ス

第三條　本法施行前ニ調製シタル登記簿ハ當分ノ內之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ關スル從前ノ規定ハ仍ホ其效力ヲ有ス

第四條　本法ニ依ル登記簿ニ始メテ登記ヲ爲ス場合ニ於ケル登記番號ハ從來ノ番號ヲ追ヒテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五條　從前ノ規定ニ依ル登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ本法ニ依ル登記簿ニ繼續用紙ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ乙區事項欄ニ登記ヲ爲ストキハ新ナル順位番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第六條　所有權以外ノ權利ニ關スル登記ノ前後ハ從前ノ規定ニ依ル登記簿ニ爲シタルモノト本法ニ依ル登記簿ニ爲シタルモノトノ間ニ在リテハ受附番號ニ依ル

第七條　從前ノ規定ニ依ル登記簿ニ爲シタル所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ付キ本法ニ依ル登記簿ニ附記登記ヲ爲ス場合ニ於テハ主登記ヲ爲シタル區ノ名稱ヲ記載スルコトヲ要ス

第八條　從前ノ規定ニ依ル登記簿ヨリ本法ニ依ル登記簿ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スルトキハ受附番號ノ順序ヲ追ヒテ

新ナル順位番號ヲ記載シ其左側ニ從前ノ規定ニ依ル登記簿ニ於ケル區ノ名稱及ヒ順位番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第九條　不動産登記法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本法施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ本法ニ依ル登記簿ニ登記ヲ爲ストキハ第百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十條　明治三十九年法律第五十五號ハ之ヲ廢止ス

附　則　（昭和二年三月法律第三四號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年四月勅令第八八號ヲ以テ同年同月二十日ヨリ施行）

不動産登記法施行細則（明治三十二年五月十二日司法省令第十一號）

【沿革】明治三十二年十一月省令第五四號、同三十四年九月同第一七號、同三十五年七月同第一三號、同三十六年十月同第二五號、同三十七年九月同第一八號、大正四二年五月同第一五號、同三年一月同第三號、同年十月同第八號、同五年九月同第一九號、同年十二月同第二四號、同十一年十二月同第四六號、昭和二年四月同第一〇號、同四年四月同第一六號改正

第一章　登記ニ關スル帳簿

第一條　土地登記簿及ヒ建物登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條　共同人名簿ハ土地共同人名簿及ヒ建物共同人名簿ノ二種トス

共同人名簿ハ登記簿ヲ分設シタル區畫ニ從ヒ別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

共同人名簿ヲ合綴シタル場合ニ於テハ登記簿ヲ分設シタル區畫毎ニ見出ヲ附スヘシ

第三條　土地共同人名簿及ヒ建物共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條　登記簿及ヒ共同人名簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方裁判所長之ヲ交付スヘシ

登記所ハ翌年中ニ必要ナル帳簿ヲ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ每十一月中ニ請求ヲ爲スヘシ

豫定外ニ帳簿ノ必要ヲ生シタルトキハ臨時其請求ヲ爲スコトヲ得

第五條　登記簿及ヒ共同人名簿ノ用紙ニハ豫メ丁數ヲ記入スヘシ

第六條　土地登記見出帳ハ附錄第三號雛形ニ依リ土地分合登記見出帳ハ附錄第四號雛形ニ依リ建物登記見出帳ハ附錄第五號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條　土地登記見出帳ニハ土地ノ番號ヲ逐ヒ豫メ各葉ノ見出欄ヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル每ニ其登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ

第八條　土地分合登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテヲ設ケ置キ土地ノ分合ニ關スル登記ヲ爲ス每ニ其土地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部十百千ノ數ヲ冠スルモノニ土地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ但土地カ合併ニ因リ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其少キ番號ノ部ニノミ記入スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキハ土地登記見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其見出ヲ朱抹スヘシ

第九條　建物登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル每ニ敷地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ敷地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入シ若シ建物ノ番號アルトキハ其番號チモ記入スヘシ但敷地カ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其少キ番號ノ部ニノミ記入スヘシ

第十條　登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其見出ヲ朱抹スヘシ

第十一條　受附帳ハ附錄第六號雛形ニ依リ每年之ヲ調製スヘシ

第十二條　受附番號ハ一箇年每ニ更新スヘシ

第十三條　受附帳ニ申請人ノ氏名ヲ記載スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ揭ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第十四條　登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

一　圖面綴込帳
二　印鑑簿
三　共同擔保目錄綴込帳
四　信託原簿綴込帳
五　申請書類綴込帳
六　決定原本綴込帳
七　抗告書類綴込帳
八　評價事件簿
九　評價書類綴込帳
十　印鑑證明書綴込帳
十一　本登記濟證交付帳
十二　土地登記濟通知簿
十三　謄本抄本交付帳
十四　各種通知簿
十五　受領證原符元帳

十六　還納受領證綴込帳

前項第三號乃至第十六號ノ帳簿ハ一箇年每ニ別冊ト爲スヘシ但分冊スルコトヲ妨ケス

第十五條　申請書、囑託書、通知書、許可書、答辭轉屬ニ因リ移送ヲ受ケタル登記簿謄本、登記立會調書其他ノ附屬書類ハ受附番號ノ順序ニ依リテ申請書類綴込帳ニ之ヲ編綴スヘシ

第十六條　圖面ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ登記番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ

第十六條ノ二　共同擔保目錄ノ表紙ニハ申請書受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ番號ヲ附スヘシ

第十六條ノ三　共同擔保目錄ハ一箇年每ニ其番號ヲ更新スヘシ

第十六條ノ四　前二條ノ規定ハ信託原簿ニ之ヲ準用ス

第十七條　不動産登記法第四十四條ノ規定ニ依リ申請書ヲ添附シタルトキハ面二通ノ內一通ハ登記所ニ之ヲ保存スヘシ

第十八條　第十四條第十四號ノ通知簿ニハ不動産登記法第二十八條ノ三、第六十條ノ二第六十一條、第六十三條乃至第六十三條ノ三、第七十五條第一項、第百三條ノ二、第百十四條第二項、第百二十六條第二項、第百二十七條ノ二、第百四十九條ノ二第一項、第百五十三條第二項及ヒ本令第六十二條第一項、第六十三條第一項、第六十九條、第六十九條ノ二ノ通知事項、通知ヲ受クル者及ヒ通知ヲ發スル年月日ヲ記入スヘシ

第十九條　評價事件簿ハ附錄第七號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二十條　事變ヲ避クル爲メ登記簿又ハ其附屬書類ヲ登記所外ニ持出シタルトキハ登記官吏ハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申スヘシ

第二十一條　裁判所又ハ豫審判事ヨリ申請書其他ノ附屬書類ヲ竝附スヘ

キ命令又ハ嘱託アリタルトキハ登記官吏ハ其關係アル部分ニ限リ之ヲ登記スヘシ

第三十二條　登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ登記官吏ハ遅滯ナク其亦由、年月日、滅失セシ登記簿ノ冊數其他不動産登記法第二十三條ノ地方裁判所長ニ申報スヘシ但區裁判所出張所ノ申報ハ管轄區裁判所ニ之ヲ轉送スヘシ

ヲ經由スヘシ

第三十三條　登記簿又ハ其附屬書類ノ滅失ヒ其他不動産登記法第二十三條ノ地方裁判所長カ前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ相當ノ調査ヲ爲シタル後司法大臣ニ具申ヲ爲スヘシ

第三十四條　登記所ニ於テ登記ニ關スル帳簿又ハ書類ヲ作リ地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ但區裁判所出張所カ登記ニ關スル帳簿又ハ書類ヲ作リ地方裁判所長ノ認可ヲ受ケタルトキハ其本籍地又ハ所在地ノ市、區、町、村長ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第三十五條　不動産ヲ所有スル法人又ハ外國會社ノ代表者ハ法人又ハ外國會社ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記所ニ提出シタル印鑑ヲ提出スヘシ但法人又ハ外國會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタルトキハ登記所ニ提出スヘシ

ヲ經由スヘシ

第三十六條　印鑑ハ附錄第八號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十七條　印鑑簿ノ調製ノ樣式及ヒ貼附ノ方法等ハ地方裁判所長之ヲ定ム

第三十八條　登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其登記ヲ爲スヘキ不動産ノ所在ノ市、區、町、村、字及ヒ土地ノ番號、地目及ヒ地積、家屋ノ種類、構造及ヒ坪數、申請ノ原因及ヒ年月日、登記ノ目的、申請人ノ氏名、住所及ヒ其代表者ノ資格、代理人ヲ以テ申請スルトキハ其氏名、住所及ヒ代理ノ權限、登記ノ目的タル權利ノ價格、登記ノ費用ノ見積額、登記ヲ爲スヘキ登記所ノ表示、添附書類ノ表示、年月日ヲ記載シ申請人又ハ代理人之ニ記名捺印スヘシ

一　其事由ヲ記載シタル書面ヲ以テ申請スルトキハ其書面ヲ以テ申請書ニ代ヘシム

二　利害ノ關係アル第三者ニ於テ登記ヲ爲スニ付承諾ヲ與ヘタルトキハ其承諾書ヲ以テ申請書ニ代ヘシム

三　登記ニ付テハ課稅標準ノ價格ヲ記載スヘシ但書、第三條ノ四及ヒ第十六條ノ登記ヲ爲スニ付テハ課稅標準ノ價格ヲ記載スヘシ

四　年月日

第三十一條　土地登記簿抄本ノ交付ヲ請求スルニハ前條ニ揭ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ登記ノ名捺印スヘシ

第三十二條　前二條ノ規定ハ建物登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付又ハ登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ニ之ヲ準用ス

第三十三條ノ二　不動産登記法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於ケル不動産ノ目錄ハ登記簿及ヒ共同擔保目錄ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作リ登記簿ノ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於ケル不動産ノ目錄ハ半紙竪ニ折リ之ヲ綴合スヘシ

第三十四條　登記官吏カ第二十九條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ申請ノ的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シタル上受附番號ノ順序ニ從ヒテ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第三十五條　登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作リ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但抄本用紙ハ半紙竪紙ヲ用ユヘシ

第三十五條ノ二　登記簿ノ謄本ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外登記簿一用紙ノ全部ヲ謄寫シテ之ヲ作ルヘシ但請求ニ因リ抹消登記ニ關スル部分ノミヲ謄寫シテ之ヲ作ルコトヲ得此場合ニ於テハ認證文ニ其旨ヲ附記スヘシ

第三十五條ノ三　前條但書ノ規定ハ登記簿ノ謄本ノ交付ノ申請書ニ共同擔保目錄又ハ信託原簿ノ謄寫ヲ除ク旨記載アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條　登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スルトキハ謄本抄本ノ交付ヲ請求スル旨ヲ記載シ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ登記ノ名捺印スヘシ

第三十七條　登記簿又ハ附屬書類ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ登記官吏ハ遅滯ナク其亦由、年月日、滅失セシ登記簿ノ冊數其他不動産登記法第二十三條ノ地方裁判所長ニ申報スヘシ但區裁判所出張所ノ申報ハ管轄區裁判所ニ之ヲ轉送スヘシ

第三十八條　登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其登記ヲ爲スヘキ不動産ノ所在ノ市、區、町、村、字及ヒ土地ノ番號、地目及ヒ地積、家屋ノ種類、構造及ヒ坪數、申請ノ原因及ヒ年月日、登記ノ目的、申請人ノ氏名、住所及ヒ代理人ノ權限、登記ノ目的タル權利ノ價格、登記ノ費用ノ見積額、登記ヲ爲スヘキ登記所ノ表示、添附書類ノ表示、年月日ヲ記載シ申請人又ハ代理人之ニ記名捺印スヘシ

一　其事由ヲ記載シタル書面ヲ以テ申請スルトキハ其書面ヲ以テ申請書ニ代ヘシム

二　利害ノ關係アル第三者ニ於テ登記ヲ爲スニ付承諾ヲ與ヘタルトキハ其承諾書ヲ以テ申請書ニ代ヘシム但問題ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十九條　申請書カ數葉ニ亙ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ノ契印ヲ以テ足ル

第四十條　登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコトヲ得サルトキハ申請書ニ其旨ヲ記載スヘシ

第四十一條　不動産カ數個ノ登記所ノ管轄ニ跨カル場合ニ於テハ申請書ニ登記ヲ爲スヘキ登記所ノ管轄ニ屬スル部分ニ付テノミ申請スルヲ得

第四十二條　不動產登記法第百二十八條又ハ第百三十條ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利ノ目的タル不動產カ建物ナルトキハ申請書ニ圖面ヲ添附スヘシ

第四十三條　建物ノ圖面ニハ不動產登記法第三十六條第一號並ニ第三十七條ニ揭ケタル事項及ヒ敷地ノ方位並ニ建物ノ形狀、間尺、位置ヲ記載シテ申請人署名捺印スヘシ

圖面ハ總テ墨引、墨字ト爲シ若シ登記ノ目的外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引朱字ト爲スヘシ

圖面ハ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第四十三條ノ二　共同擔保目錄ハ附錄第九號雛形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第四十三條ノ三　申請人ハ共同擔保目錄ノ表紙ニ不動產共同擔保目錄ト記載シ之ニ署名捺印スヘシ

共同擔保目錄ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル

第四十三條ノ四　共同擔保目錄ニ不動產ニ關スル權利ノ表示ヲ爲スニハ其表示ノ順序ヲ追ヒテ番號欄ニ番號ヲ附記スヘシ

第四十三條ノ五　質權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ先順位ノ質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ申請書ニ其旨ヲ記載スヘシ

第四十三條ノ六　信託原簿ハ附錄第十號雛形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第四十三條ノ七　信託原簿用紙中ノ或欄カ記載スヘキ餘白ナキトキハ豫備欄ニ記載ヲ爲スヘシ

第四十三條ノ八　信託原簿用紙中ノ豫備欄カ記載スヘキ餘白ナキトキハ申請人ハ附錄第十一號雛形ノ豫備欄用紙ヲ編綴シ之ニ記載ヲ爲スヘシ

第四十三條ノ九　第四十三條ノ三ノ規定ハ信託原簿ニ之ヲ準用ス

第四十四條　登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ニシテ且登錄稅法第二條第一項第七號、第十二號乃至第十四號、第十六號、第十九號但書及ヒ第二十號但書ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ數箇ノ登記所ノ管轄內ニ在ル數箇ノ不動產ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登錄稅ノ全額ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應シ登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添附スヘシ

第四十四條ノ二　數箇ノ不動產ニ關シ登錄稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ登記官吏ハ後ニ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

不動產及ヒ他ノ權利ニ關シ登錄稅法施行規則第四條ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ徵收スル場合亦前項ニ同シ

前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條ノ三　登錄稅法施行規則第五條ノ規定ニ依リ登錄稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ登記ノ申請書ニ左ノ各號ニ從ヒ附屬書類ヲ添附スヘシ

一　登錄稅法施行規則第五條第一號ノ場合ニ於テハ同號ニ該當スル施設ナルコトノ地方長官ノ證明書及ヒ資金ノ貸付證書又ハ貸付ヲ爲シタル北海道府縣市町村、產業組合若クハ產業組合聯合會ノ認證シタル貸付證書ノ謄本

二　登錄稅法施行規則第五條第二號ノ場合ニ於テハ同號ニ該當スル施設ナルコトノ地方長官ノ證明書及ヒ資金ノ貸付證書又ハ貸付ヲ爲シタル北海道府縣ノ認證シタル貸付證書ノ謄本

三　登錄稅法施行規則第五條第三號ノ場合ニ於テハ同條第一號又ハ第二號ニ該當スル施設ナルコトノ地方長官ノ證明書

四　登錄稅法施行規則第五條第四號ノ場合ニ於テハ同條第一號又ハ第二號ニ該當スル施設ナルコト及ヒ登記義務者カ資金ノ貸付ヲ受ケタル者ニシテ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタルモノナルコトノ地方長官ノ證明書

第四十四條ノ四　登錄稅法施行規則第五條ノ四ノ規定ニ依リ登錄稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ登記ノ申請書ニ大藏大臣ノ認定書ヲ添附スヘシ

第四十四條ノ五　不動產登記法第百二十二條ノ三ノ規定ニ依リ申請書ニ前ノ登記ヲ表示スルニハ共同擔保目錄ノ番號又ハ登記番號及ヒ順位番號ヲ記載スルヲ以テ足ル

第四十四條ノ六　不動產登記法第百二條ノ三第一項ノ規定ニ依リ當該官廳カ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ囑託書ニ河川法ノ規定ニ依リ河川ノ敷地ト爲リタル旨ヲ記載スヘシ

第四十四條ノ七　法人又ハ外國會社ノ代表者カ不動產ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テ其法人又ハ外國會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ト不動產所在地ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ申請書ニ不動產登記法第三十五條第一項第五號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十四條ノ八　法人又ハ外國會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ト不動產所在地ヲ管轄スル登記所ト異ナル場合ト雖モ同時ニ數箇ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ不動產登記法第三十五條第一項第五號ノ書面ハ一箇ノ申請書ノミニ一通ヲ添附スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ他ノ各申請書ニ其旨ヲ附記スヘシ

第四十四條ノ九　前條ノ規定ハ數箇ノ申請書ニ戶籍吏ノ書面ヲ添附スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條ノ十　不動產登記法第百六條第一號ノ規定ニ依リテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記番號ヲ記載スル外證明書類ヲ添附スルコトヲ要セス

第四十四條ノ十一　申請書ニ添附シタル書類ノ原本ノ還付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請人ハ其原本ト共ニ原本ニ相違ナキ旨ヲ記載シタル謄本ヲ添附スヘシ

登記官吏カ書類ノ原本ヲ還付スルトキハ其謄本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印スヘシ

第四十四條ノ十二　不動產登記法第百四條第二項ノ限定ニ依ル管理財產タル旨ノ登記ノ囑託書ニハ管理人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ管理人ノ改任ノ登記ノ囑託書ニ付キ亦同シ

第四十四條ノ十三　不動產登記法第百四條第三項ノ規定ニ依ル登記ノ申請書ニハ管理人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

管理人ノ表示ノ變更ノ登記ハ本人ヨリ之ヲ申請スヘシ

第四十四條ノ十四　不動產登記法第百四條第三項ノ規定ニ依ル取得ノ登記及ヒ管理財產タル旨ノ登記ノ申請ハ同一ノ申請書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得管理財產ノ移轉ニ因リテ管理終了スル場合ニ於テ其移轉ノ登記及ヒ管理終了ニ因ル登記抹消ノ申請ニ付キ亦同シ

第四十四條ノ十五　管理財產ノ移轉其他ノ處分ニ因ル登記ノ申請書ニハ

宮内大臣ノ認可書ヲ添附スヘシ

第四十五條　不動産登記法第四十四條ノ場合ニ於テハ申請書ニ登記濟證カ滅失シタル旨ヲ記載スヘシ

第四十六條　不動産登記法第四十四條ニ揭ケタル書面ニハ左ノ諸件ヲ記載シ保證人署名捺印スヘシ

一　登記ヲ受クヘキ不動産ノ表示及ヒ登記ノ目的

二　登記義務者ノ人違ナキコト

三　保證人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ登記番號

四　保證人ノ住所、年齡

五　年月日

第四十六條ノ二　帝國ノ臣民又ハ法人カ明治三十四年勅令第百七十九號第一條第二項ニ依リ所有權ヲ取得シタル場合ニ於テ所有權保存ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ永代借地券ノ抹消ニ因リ所有權ヲ取得シタルモノナル旨ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ三　登錄稅法第十九條ノ五ノ規定ニ依リ價格ヲ認定シタルトキハ之ヲ申請書ニ記載シ且書面又ハ口頭ヲ以テ告知スヘシ

第四十六條ノ四　評價ノ請求ヲ爲サントスル者ハ其請求書ニ登記官吏ノ指示シタル費用ノ豫納額ニ相當スル印紙ヲ貼附シテ之ヲ差出スヘシ

第四十六條ノ五　登錄稅法第十九條ノ六ノ規定ニ依ル評定價格及ヒ課稅標準價格ハ遲滯ナク書面ヲ以テ之ヲ評價請求者ニ告知スヘシ

前項ノ告知書ニハ評價費用額ヲ記載シ且評價費用ノ豫納額ニ不足アルトキハ其不足額ヲ遲滯ナク納付スヘキ旨ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ六　課稅標準價格確定シタルトキハ登記官吏ハ申請ヲニ其價格及ヒ登錄稅額ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ七　登記申請人カ其負擔ヲ超エテ納付シタル登記稅額及ヒ評價費用額ノ還付ヲ請求シタルトキハ登記官吏ハ遲滯ナク其請求書ヲ地方裁判所長ニ送附シ且事件ヲ表示シテ左ノ事項ヲ報告スヘシ

一　申告價格、認定價格、評定價格及ヒ確定價額

二　既納及ヒ確定ノ登錄稅額

三　豫納及ヒ確定ノ評價費用額

四　還付ヲ要スル金額

五　還付ヲ受クヘキ者ノ氏名、住所

第三章　登記手續

第四十七條　登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ遲滯ナク申請ニ關スル總テノ事項ヲ調査スヘシ

第四十八條　登記番號ハ不動産登記法施行ノ日ヨリ更ニ新ナル番號ヲ附スヘシ

第四十九條　表示欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及ヒ表示欄ニ縱線ヲ劃シ事項欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及ヒ事項欄ニ縱線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

假登記ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縱線ヲ劃シ其左側ニ本登記ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及ヒ事項欄ニ縱線ヲ劃スヘシ

第五十條　登記ノ申請書ニ圖面ヲ添附シタル場合ニ於テハ登記用紙中表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ圖面綴込帳ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載スヘシ

第五十一條　申請書ニ記載シタル代理人ノ氏名、住所ハ登記簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要セス

第五十二條　不動産登記法第七十六條第一項ノ場合ニ於テハ新用紙中登記番號ノ左側ニ其番號ノ第二ナルコトヲ附記シ前用紙中登記番號ノ左側ニ第一ノ文字ヲ追記スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第五十三條　不動産登記法第五十一條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ全員ノ氏名、住所ヲ記載シ豫備欄ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シテ登記官吏捺印スヘシ

第五十四條　共同人名簿ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所等ヲ記載シタルトキハ氏名、住所欄及ヒ持分欄ニ於ケル縱線ヲ番號欄及ヒ豫備欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

登記原因ニ持分ノ定ナキトキハ持分欄ニハ朱線ヲ交叉スヘシ

第五十五條　共同人名簿ニ記載シタル登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ノ變更又ハ持分ノ移轉若クハ變更ニ付キ登記簿ニ登記ヲ爲シタルトキハ人名簿中豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十六條　前條ノ場合ニ於テ豫備欄ニ餘白ナキトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其左側ニ第二ノ文字、前番號ノ用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名ノミヲ記載シ持分欄ニハ朱線ヲ交叉シ豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號ノ左側ニ第一ノ文字、繼續用紙ノ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條　共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ登記用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第五十七條ノ二　不動産登記法第百二十四條ノ二ノ規定ニ依ル記載ハ登記用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ共同擔保目錄ノ番號ヲモ記載スヘシ

第五十七條ノ三　申請書ニ共同擔保目錄ヲ添附シタル場合ニ於テ登記ヲ爲シタルトキハ其目錄ニ揭ケタル各不動産ニ關スル權利ノ表示ノ上ニ其登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、登記番號及ヒ順位番號ヲ記載シ且申請書ニ共同擔保目錄ノ番號ヲ記載スヘシ

第五十七條ノ四　不動産登記法第百二十六條ノ二ノ規定ニ依リ共同擔保目錄ニ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スニハ第四十三條ノ四ノ規定ニ依ル番號ヲ用ヒテ之ヲ豫備欄ニ記載シ登記官吏捺印シ其變更又ハ消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十七條ノ五　前條ノ手續ヲ爲シタルトキハ豫備欄ニ縱線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第五十七條ノ六　共同擔保目錄用紙中豫備欄カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ登記官吏ハ其目錄ニ繼續用紙ヲ編綴シ之ニ契印ヲ爲スヘシ

第五十七條ノ七　不動産登記法第六十三條ノ二第一項ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ於テハ許可ヲ爲シタル裁判所ノ名稱、許可ノ年月

日及ヒ登記ノ年月日ヲモ記載スヘシ

第五十七條ノ八　信託ノ登記ヲ爲ストキハ信託原簿ノ番號ヲ記載スヘシ

第五十七條ノ九　不動産登記法第百四條ノ五、第百二十七條ノ二及ヒ第百四十三條ノ二第一項第二項ノ規定ニ依ル登記ノ申請アリタルトキハ其登記ハ登記用紙中同一順位ノ事項欄ニ之ヲ爲シ縱線ヲ以テ各登記ヲ分界スヘシ

第五十七條ノ十　信託原簿ノ記載ヲ變更スヘキトキハ登記官吏ハ附錄第十二號雛形ノ變更欄用紙ヲ編綴シテ契印ヲ爲シ之ニ記載ヲ爲スヘシ

第五十七條ノ十一　信託原簿ノ變更欄ニ記載ヲ爲シタルトキハ縱線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第五十八條　登記シタル權利ノ順位ヲ讓渡シ又ハ拋棄シタル場合ニ於テ變更登記ヲ爲シタルトキハ其權利ノ登記ノ順位番號ノ左側ニ變更登記ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第五十九條　附記登記ヲ爲シタルトキハ主登記ノ順位番號ノ左側ニ附記番號ヲ記載スヘシ

第六十條　登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルニ因リ登記回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ前登記ノ登記濟證ニ不動産登記法第六十條第一項ノ手續ヲ爲シタル上之ヲ申請人ニ還付スヘシ

第六十一條　不動産登記法第百四十九條ノ五ノ規定ニ依リ抹消ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ其事由及ヒ登記ノ年月日ヲモ記載スヘシ

第六十二條　不動産カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カル場合ニ於テ裁判所ノ指定ニ因リ登記ヲ爲シタルトキハ登記所ハ速ニ其旨ヲ他ノ登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ見出帳中備考欄ニ其通知事項ヲ記入スヘシ

第六十三條　地役權ノ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其要役地カ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ遲滯ナク其登記所ニ變更又ハ消滅ノ事由及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滯ナク要役地タル不動産ノ登記用紙中相當區事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第六十三條ノ二　不動産登記法第四十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ表示欄ニ登記ヲ爲スニハ債權者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ不動産登記法第二十八條ノ三及ヒ第百三條ノ二ノ規定ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス

第六十四條　登記用紙ヲ閉鎖スルニハ表示欄ニ閉鎖ノ事由及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ不動産ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹スヘシ

第六十五條　不動産登記法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ受領證ヲ交付スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ揭ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六十六條　不動産登記法第四十七條第二項ノ受領證ハ登記濟證ヲ交付スルトキニ之ヲ還納セシムヘシ

還納ヲ受ケタル受領證ハ之ヲ保存スヘシ

第六十七條　不動産登記法第十二條第二項ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　申請人ノ氏名住所

二　申請人カ登記官吏ナルコト又ハ登記官吏ノ妻若クハ登記官吏ノ四親等内ノ親族ナルコト

三　登記ヲ爲スヘキ不動産ノ表示及ヒ登記ノ目的

四　申請書受付ノ年月日及ヒ受付番號

五　立會人ノ氏名、住所及ヒ年齡

六　立會人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ登記番號

第六十八條　不動産登記法第十一條第一項ノ通知ニハ土地所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別若クハ坪數、申請書受附ノ年月日、登記ノ目的及ヒ申請人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

前項ノ通知ハ登記ヲ完了シタル日ヨリ十日內ニ之ヲ爲スヘシ但地租納期開始前十五日內ハ其都度通知ヲ爲スヘシ

第六十九條　登記官吏カ不動産登記法第百二十九條、第百三十一條又ハ第百三十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ不動産ノ表示、登記原因、其日附、登記權利者ノ氏名、住所、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ不動産ノ所有者ニ通知スヘシ但第百三十一條又ハ第百三十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ所有權以外ノ權利者ニモ其通知ヲ爲スヘシ

第六十九條ノ二　不動産登記法第百四十九條ノ二第一項ノ通知ハ同法第四十六條ノ二ノ場合ニ於テハ債權者ニ亦之ヲ爲スヘシ

第六十九條ノ三　不動産登記法第百四十九條ノ二第一項ノ通知ニハ登記ヲ完了シタル事件ノ表示及ヒ事件カ登記所ノ管轄ニ屬セサルコト若クハ登記スヘキモノトヲ記載スヘシ

第七十條　不動産登記法第二十八條ノ三、第六十條ノ二、第六十一條、第六十三條乃至第六十五條第一項、第百三條ノ二、第百二十七條ノ二、第百四十九條第一項、第百五十三條第二項及ヒ本令第六十九條、第六十九條ノ二ノ通知ハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七十一條　不動産登記法第九條第一項ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ管轄ノ變更アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル登記所ノ名稱ヲ變更スヘシ

同法第五十九條ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ行政區畫若クハ字又ハ其名稱ノ變更アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ニ記載シタル行政區畫若クハ字又ハ其名稱ヲ變更スヘシ

第七十一條ノ二　第四十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ永代借地登記簿ノ用紙中永代借地權ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル登記アリテ其登記カ未タ抹消ニ係ラサルトキハ登記官吏ハ普通登記簿ニ所有權ノ登記ヲ爲シタル土地ノ權利ニ關スル登記ヲ移スヘシ

第七十一條ノ三　前條ノ規定ニ依リ他ノ權利ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移ストキ又ハ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ノ普通登記簿ニ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ前登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

附　則

第七十二條　不動産登記法第百六十三條ノ規定ニ依リ舊登記簿ヨリ登記ヲ移シタルトキハ表示欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ舊登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊登記簿表題部取消欄ニ新登記簿第何冊第何丁　移シタル旨、新登記番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第七十三條　不動産登記法第百六十三條ノ登記ヲ爲サヽル不動産ニ付キ其滅失又ハ其不動産ニ關スル權利ノ抹消ノ登記ノ申請アリタルトキハ舊登記簿ニ其登記ヲ爲スヘシ

第七十四條　受附番號ハ明治三十二年分ニ限リ六月十六日ヨリ之ヲ更新シ十二月三十一日ニ止ムヘシ

第七十五條　舊登記簿ノ謄本ハ舊謄本用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

第七十六條　明治二十六年(三月)司法省令第三號ニ依リ既ニ印鑑ヲ提出シタル者ハ更ニ之ヲ提出スルコトヲ要セス

附　則　(大正二年五月司法省令第一五號)

第一條　大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　從前ノ規定ニ依ル登記簿ノ謄本ハ從前ノ規定ニ依ル謄本用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

第三條　從前ノ規定ニ依ル登記簿ヨリ改正登記簿ニ建物ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スル場合ニ於テハ敷地ノ地目及ヒ段別若クハ坪數ハ之ヲ移シ又ハ轉寫スルコトヲ要セス舊登記簿ヨリ從前ノ規定ニ依ル登記簿又ハ改正登記簿ニ建物ニ關スル登記ヲ移シ又ハ轉寫スルトキ亦同シ

第四條　前條ノ規定ハ舊建物登記簿及ヒ從前ノ規定ニ依ル建物登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第五條　不動産登記法施行前ニ登記シタル不動産ニ付キ本令施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ於テ改正登記簿ニ登記ヲ爲ストキハ第七十二條ノ規定ヲ準用ス

第六條　本令施行前ニ調製シタル土地登記見出帳及ヒ土地分合登記見出帳ハ當分ノ内其儘之ヲ使用スルコトヲ得

第七條　土地臺帳謄本及ヒ土地異動通知書綴込帳ハ司法大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ廢毀スルコトヲ得

區裁判所出張所カ前項ノ許可ヲ請フトキハ管轄區裁判所ヲ經由スヘシ

土地登記簿建物登記簿及商業登記簿等ノ謄本抄本請求等ノ手數料

(明治三十二年五月十三日 司法省令第十四號)

【沿革】 明治三十八年七月省令第二〇號、同四十三年四月同第六號、大正二年五月同第一五號、同十年十月同第二一號、同十四年七月同第一七號改正

土地登記簿、建物登記簿、工場財團登記簿、鑛業財團登記簿、漁業財團登記簿、立木登記簿及ヒ商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル手數料左ノ通相定ム

第一條　不動産登記法第二十一條又ハ非訟事件手續法第百四十二條ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其用紙一枚ニ付キ手數料金十五錢ヲ納ムヘシ但一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

共同擔保目錄ヲ提出シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請求スル者ハ其提出シタル用紙一枚ニ付キ手數料金十錢ヲ納ムヘシ豫備欄ニ登記シタル事項ヲ謄寫セサル用紙ニ付キ亦同シ

第二條　不動産登記法第二十一條ノ規定ニ依リ登記簿又ハ其附屬書類ノ閲覽ヲ請求スル者ハ手數料金十五錢ヲ納ムヘシ

第三條　非訟事件手續法第百四十三條ノ規定ニ依リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ請求スル者ハ毎一件手數料金十五錢ヲ納ムヘシ

第四條　明治三十二年司法省令第十三號第二十七條ノ規定ニ依リ商業登記ニ付キ登記濟證ノ交付ヲ請求スル者ハ手數料金十錢ヲ納ムヘシ

第五條　手數料ハ收入印紙ヲ申請規ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第六條　第一條乃至第三條ノ書定ハ官吏又ハ公吏カ政府ノ利益ノ爲メ其職務ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

外國人又ハ外國法人ノ物權ノ登記ニ關スル件

(明治三十二年三月二十日 法律第七十一號)

外國人又ハ外國法人カ改正條約實施前ニ爲シタル不動産又ハ船舶ニ關スル物權ノ得喪及ヒ其變更ニ付登記ヲ爲スヘキ場合及ヒ其登記ノ手續ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ルコトヲ得

永代借地權ニ關スル件

(明治三十四年九月二十一日 勅令第七百十八號)

第一條　永代借地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ永代借地權ノ移轉ヲ地券ニ記載スルコトノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ永代借地權ニ關スル屆出ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ永代借地ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

永代借地權ノ移轉ニ關スル通知ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ通知書ニ永代借地券ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ既ニ通知ヲ爲シタル永代借地ニ關シ更ニ通知ヲ爲ス場合ニ於テハ地券ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ通知書ニ永代借地ノ表示、當事者ノ氏名、國籍、住所、權利移轉ノ原因及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第二條　永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ特別ノ登記簿ヲ設ケ之ヲ登記所ニ備フヘシ

第三條　登記簿ハ永代借地登記簿及永代借地建物登記簿ノ二種トス

第四條　永代借地登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁戊ノ五區ニ分チ尙表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號ヲ設ク

登記番號欄ニハ各永代借地ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ永代借地ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載タル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ永代借地權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地上權、永小作權及此等ノ權利ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ先取特權、質權抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

戊區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順位ヲ記載ス

第五條　永代借地建物登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部甲乙丙丁ノ四區ニ分チ尙表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各建物ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ建物及附屬建物ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ先取特權、質權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第六條　未登記ノ永代借地權ヲ目的トスル權利ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ永代借地權ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第七條　登記所ニ於テ永代借地權ノ移轉ニ關スル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ永代借地權ノ既登記ナルト未登記ナルトヲ問ハス職權ヲ以テ永代借地權移轉ノ登記ヲ爲スヘシ

既登記ノ永代借地權ニ關スル届出ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ登記ニ變更ヲ生スヘキトキハ職權ヲ以テ變更ノ登記ヲ爲スヘシ

未登記ノ永代借地權ヲ目的トスル權利ニ付登記ノ申請アリタルトキハ職權ヲ以テ永代借地權ノ登記ヲ爲スヘシ

第八條　明治三十二年勅令第二百五十一號ヲ以テ定メタル期日前ニ永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關シ外國領事廳ニ於テ爲シタル登記ハ領事廳ヨリ登記簿又ハ其ノ謄本ヲ登記所ニ引渡シタルモノニ限リ本令ニ依リテ爲シタル登記ト同一ノ效力ヲ有ス

第九條　明治三十二年勅令第三百二十九號ニ依リ登記セラレタル不動産ニ付本令施行ノ後登記ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ニ依リテ備ヘタル登記簿ノ用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區順位番號欄及事項欄ニ舊登記簿ノ用紙ニ爲シタル登記ヲ移シ舊登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ規定ハ外國領事廳ニ於テ登記セラレタル不動産ニ付本令施行ノ後登記ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十條　永代借地權ハ他ノ名稱ニテ登記セラレタルモノト雖前條ノ規定ニ依リ登記ヲ移ス場合ニ於テハ之ヲ永代借地權ト記載スヘシ

第十一條　永代借地權又ハ永代借地ノ上ニ存スル建物ノ所有權ヲ目的トスル權利ニ付登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利第四條又ハ第五條ノ規定ニ適合セサルトキハ登記用紙ノ各區中其ノ權利ト最モ類似スル權利ヲ登記スヘキ區ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十二條　本令ニ規定セサル事項ニ付テハ不動産登記法ノ規定ヲ準用ス

附　則

第十三條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　明治三十二年勅令第三百二十九號ハ之ヲ廢止ス

永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記取扱手續

（明治三十四年九月二十一日　司法省令　第十五號）

第一條　永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外不動産登記法施行細則ノ規定ヲ準用ス

第二條　永代借地登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ永代借地建物登記簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條　外國領事廳ノ登記簿ノ謄本及ヒ其譯文ハ之ヲ登記所ニ備フヘシ

第四條　登記ノ申請書ニ添附スル書面カ外國語ヲ以テ記載シタルモノナルトキハ申請人ハ之ニ其譯文ヲ附スヘシ

第五條　外國領事廳ノ登記ヲ登記簿ニ移スニハ其譯文ニ依ルヘシ

外國領事廳ノ登記ヲ登記簿ニ移シタルトキ外國領事廳ノ登記簿ノ謄本及ヒ其譯文ニ登記簿第何冊何丁ニ移シタル旨、登記番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第六條　明治三十四年勅令第百七十九號第二條ニ依リ地方廳ヨリ永代借地券ノ抹消ノ通知アリタルトキハ登記官吏ハ永代借地登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其登記用紙中永代借地權ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル登記アルトキハ表示欄ニ地券抹消ノ通知アリタル旨ヲ記載シ置キ他ノ權利ニ關スル總テノ登記ニ付キ抹消ノ登記ヲ爲シタル後又ハ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ因リ他ノ權利ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移シタル後登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

第七條　前條第一項ノ通知アリタル場合ニ於テ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ其登記ヲ普通登記簿ニ移シ前登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

附　則

第八條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九條　明治三十二年司法省令第四十一號外國人又ハ外國法人ノ權利ノ目的タル不動産ニ關スル登記取扱手續ハ之ヲ廢止ス

永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物登記簿ノ謄本抄本等交付ノ請求ニ關スル手數料ノ件

（明治三十四年九月二十一日　司法省令　第十六號）

永代借地及ヒ永代借地ノ上ニ存スル建物ノ登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付ノ請求又ハ登記簿若クハ其附屬書類ノ閱覽ノ請求ニ關スル手數料ニ付テハ明治三十二年司法省令第十四號ノ規定ヲ準用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年司法省令第四十二號ハ之ヲ廢止ス

立木登記規則

（明治四十三年四月二十六日　司法省令　第五號）

【沿革】大正元年八月省令第一號、同五年十二月同第二六號改正

立木登記規則

第一條　明治四十二年法律第二十二號ニ依ル立木ノ登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外不動産登記法施行細則ノ規定ニ依ル

第二條　立木登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條　立木共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條　立木登記見出帳ハ附錄第三號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條　立木登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九部マテヲ設ケ置キ登記

用紙ヲ登記番號ヲ記載スル毎ニ立木ノ存スル土地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ其ノ土地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及登記番號ヲ記入シ若樹木ノ生存スル部分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號ヲモ記入スヘシ但シ立木ノ存スル土地カ二個以上ノ番號ヲ有スルトキハ其ノ少ナキ番號ノ部ニノミ記入スヘシ

既登記ノ地上權者ノ申請ニ因リ立木ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ前項ノ外其ノ地上權ノ順位番號ヲモ記入スヘシ

第六條　第四條ニ定メタル雛形ノ見出帳ヲ使用スルヲ不便トスル地方ニ在リテハ地方裁判所長ハ特別ノ見出帳ヲ調製セシムルコトヲ得

前項ノ見出帳ノ雛形、之ヲ用ウヘキ登記所及其ノ記入手續ニ付テハ豫メ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　不動產登記法施行細則第三十條及第三十一條ノ規定ハ立木登記簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ立木登記簿若ハ附屬書類ノ閱覽ノ請求ニ之ヲ準用ス但シ樹木ノ生立スル部分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ申請書ニ其ノ名稱又ハ番號ヲモ記載スヘシ

第八條　樹木ノ數量ハ材積及本數ヲ記載スヘシ但シ三十年生以下ノ樹木ニ在リテハ本數ヲ記載スルヲ以テ足ル

材積ノ單位、呼稱及測定方法ハ各地方ノ慣習ニ從フ

第九條　一集團ニ二種以上ノ樹木生立スル場合ニ於テハ各種毎ニ材積及本數ヲ記載スヘシ

第十條　樹齡ハ一集團ニ年齡ノ異ナル樹木ノ生立スル場合ニ於テハ何年生以上何年生以下ト記載スルヲ以テ足ル

第十一條　樹種、數量及樹齡ヲ申請書ニ記載スル場合ニ於テハ之ヲ調査シタル年度ヲ記載スヘシ

第十二條　既登記ノ地上權者カ立木ニ付所有權保存ノ登記ノ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ地上權ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第十三條　登記ノ申請書ニ添附スヘキ圖面ハ附錄第四號雛形ニ準シテ調製シ之ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

一　立木所在ノ郡、市、區、町村、字及土地ノ番號

二　地目及段別

三　樹木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ生立スル場合ニ於テハ其ノ部分ノ位置及段別、其ノ部分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號

四　立木ノ存スル土地又ハ土地ノ部分ノ境界ニ道路、河川、湖海、沼池其ノ他境界ノ目標タルヘキモノアルトキハ其ノ名稱及位置

五　隣接地ノ番號竝地目及其ノ所有者ノ氏名

六　立木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ存スル場合ニ於テハ其ノ部分ニ隣接スル他ノ部分ノ表示

七　隣接スル土地又ハ土地ノ部分ニ生立スル樹木ノ所有者カ土地ノ所有者ト異ナルトキハ其ノ樹木ノ所有者ノ氏名

第十四條　市區町村ノ地方長官ノ認可ヲ得テ作製シタル立木ニ關スル實測圖面及公簿ノ備アルトキハ登記ノ申請書ニ其ノ圖面及公簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ此ノ圖面ハ前條ニ揭ケタル事項ヲ具備スルコトヲ要ス

第十四條ノ二　登記所カ市區町村ヨリ實測圖面ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキハ便宜整理シ永久ニ之ヲ保存スヘシ

第十五條　抵當權設定ノ登記ノ申請書ニ記載スヘキ施業方法カ詳密ニ涉ルトキハ申請書ノ記載ニ代ヘ其ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第十六條　前條ノ添附書面ニハ申請人之ニ署名捺印シ且其ノ書面カ數葉ニ涉ルトキハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル

第十七條　第十五條ノ添附書面ハ受附番號ノ順序ニ依リ之ヲ編綴シ且之ニ丁數ヲ附スヘシ

第十八條　第十五條ノ場合ニ於テ登記官吏カ乙區事項欄ニ抵當權設定ノ登記ヲ爲ストキ施業方法ニ記載シタル添附書面ノ提出アリタル旨ヲ記載シ登記ノ末尾ニ其ノ書面ノ綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記載シ且添附書面ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、登記番號及順位番號ヲ記載スヘシ

前項ノ記載ヲ爲シタルトキハ添附書面ニ揭ケタル施業方法ハ乙區事項欄ニ記載セラレタルモノト看做ス

第十九條　添附書面ニ揭ケタル施業方法ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ變更ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十條　第十六條乃至第十八條ノ規定ハ前條ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十一條　登記官吏カ添附書面ニ揭ケタル施業方法ノ變更ノ登記ヲ爲シタルトキハ添附書面中變更シタル事項ヲ朱抹シ其ノ餘白ニ變更ヲ記載シタル書面ノ冊數及丁數ヲ記入スヘシ

第二十二條　前三條ノ規定ハ添附書面ニ揭ケタル事項ノ更正ノ登記ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十二年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正五年十二月司法省令第二六號）

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前調製シタル帳簿ハ本令施行後ト雖之ヲ使用スヘシ

見出帳ハ之ヲ改製スル迄ハ仍從前ノ雛形ニ依ルヘシ

第三節　船舶

船舶登記規則（明治三十二年六月十五日勅令第二百七十號）

【沿革】明治三十八年三月勅令第七九號、大正二年五月同第九三號、同三年九月同第二〇四號、同八年六月同第二八九號、同十一年十二月同第五二〇號、同十四年十二月同第三二八號改正

第一章　總則

第二章　登記所

第三章　登記簿

第四章　登記手續

第一節　通則

第二節　所有權ニ關スル登記手續

第三節　抵當權及ヒ賃借權ニ關スル登記手續

附　則

船舶登記規則

第一章　總則

第一條　不動產登記法第二條乃至第七條、第八條ノ二、第九條第一項、第十條、第十一條、第十三條、第十八條乃至第三十五條、第三十八條乃至第六十六條、第六十九條乃至第七十八條、第百一條、第百二條、第百四條ノ二乃至第百四條ノ十五、第百八條、第百十七條、第百十九條、第百二十條、第百二十二條乃至第百二十七條ノ二、第百四十一條、第百四十二條、第百四十三條ノ二乃至第百四十八條、第百四十九條ノ二乃至第百五十條乃至第百五十九條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二章　登記所

第二條　此規則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶港ノ管轄登記所トス

又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

船舶港カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ司法大臣管轄登記所ノ指定ス

第三條　登記所ハ船舶所有權移轉ノ登記又ハ第三十條ノ規定ニ依ル抹消ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ通知スルコトヲ要ス

第三章　登記簿

第四條　登記簿ハ船舶港毎ニ別冊ト爲ス

第五條　登記簿ハ一般ノ船舶ニ付キ一用紙ヲ備フ

第六條　登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分チ何ヲ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各船舶ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ第十六條ノ規定ニ依リテ船舶ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ船舶管理人ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ抵當權及ヒ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記シタル順序ヲ記載ス

第四章　登記手續

第一節　通則

第七條　登記ヲ申請スルニハ始メテ船舶所有權ノ登記ヲ爲ス場合ヲ除ク外申請書ニ登記證書ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條　申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　船舶ノ種類、名稱及ヒ總噸

二　船籍港

三　不動產登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ揭ケタル亦同

第九條　登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ所有權ノ登記名義人ニ還付スルコトヲ要ス

第十條　登記證書カ滅失シタルトキハ船舶カ船籍港ニ碇泊スル場合ニ限リ所有權ノ登記名義人ハ其登記ヲ爲シタル船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ對シ證書ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ得テ更ニ登記證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁判所ハ裁判ヲ爲ス前船長ヲ訊問スルコトヲ要ス

第十一條　所有權ノ登記名義人ハ登記證書ヲ提出セシテ登記ヲ申請スルコトヲ得此場合ニ於テハ登記官吏カ特別登記證ニ之ヲ記載スルニ至リタルトキハ之ヲ提出シテ更ニ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ登記證書ヲ提出スルコト能ハサルトキハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第十二條　登記官吏カ前條第二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ特別登記簿ニ移ス其末尾ニ特別登記簿ノ用紙ヲ閉鎖シ登記簿ノ登記ヲ移シタル旨及登記簿ニ移シタル登記ノ順序ヲ記載スルコトヲ要ス

登記官吏カ前項ノ記載ヲ爲シタルトキハ登記證書ニ其旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ還付スルコトヲ要ス

第十三條　船舶ノ種類、名稱及ヒ總噸數

船舶ノ種類、名稱及ヒ總噸數ニ變更ヲ生シタルトキハ登記官吏カ前條第二項ノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ特別登記簿ニ登記ヲ移シタル後其船舶ニ付キ新ニ登記ヲ爲スヘキトキハ登記官吏カ職權ヲ以テ其登記ヲ爲ス

第十四條　船舶ノ所有權ニ關スル登記ハ始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ書面ニ依リ自己カ所有者タルコトヲ證スル者ヨリ其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第十五條　始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ竝ニ不動產登記法第百七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條　始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ表示欄ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　船舶ノ種類及ヒ名稱

二　國籍及ヒ船舶ヲ製造シタル場合ニハ此旨竝ニ製造地ノ管海官廳ニ於テ發給シタル證書ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

三　船舶ヲ製造シタル場合ニハ此旨竝ニ製造地ノ管海官廳ニ於テ發給シタル證書ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

四　總噸數

五　進水ノ年月

第十七條　始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ登記官吏カ其登記ヲ完了シタル後、船舶ノ種類、名稱竝ニ登記番號ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ還付スルコトヲ要ス

第十八條　所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記權利者カ日本人タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十九條　所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ登記權利者カ其船舶法第一條ニ揭ケタル社員、無限責任社員、取締役、業務擔當社員若クハ其本店又ハ主タル事務所ノ在ル地及ヒ船舶ノ法人ナルトキハ申請書ニ其本店又ハ主タル事務所ノ在ル地及ヒ船舶ノ代表者ノ氏名ヲ記載シ且之ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十條　船舶ノ所有權ニ關スル登記ヲ申請スルニハ始メテ船舶ノ登記ヲ爲ス場合ヲ除ク外船舶港ノ管轄登記所ニ登記ノ申請書ニ登記證書ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十一條　第十條第一項ノ場合ヲ除ク外申請書ニハ登記證書ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十二條　登記官吏カ前條第二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ特別登記簿ニ依リテ其末尾ニ特別登記簿ノ登記ヲ移シタル旨及登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ記載スルコトヲ要ス

登記ヲ移シタル後新ナル番號ヲ記載スルコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ之ニ關スル特別登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第二十三條　特別登記簿ノ登記ニ亦著ニ封シ之ニ本登記濟證ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ若シ第四十五條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル登記アルトキハ同時ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第二十四條　不動產登記法第七十五條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二節　所有權ニ關スル登記手續

第二十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第二十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第二十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第二十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第二十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第三十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第三十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第三十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第三十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第三十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第三十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第三十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第三十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第三十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第三十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第四十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第四十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第四十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第四十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第四十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第四十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第四十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第四十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第四十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第四十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第五十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第五十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第五十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第五十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第五十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第五十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第五十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第五十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第五十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第五十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第六十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第六十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第六十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第六十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第六十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第六十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第六十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第六十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第六十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第六十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第七十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第七十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第七十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第七十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第七十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第七十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第七十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第七十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第七十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第七十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第八十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第八十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第八十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第八十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第八十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第八十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第八十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第八十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第八十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第八十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第九十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第九十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第九十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第九十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第九十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第九十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第九十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第九十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第九十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第九十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百二十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百二十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百二十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百二十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百二十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百二十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百二十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百二十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百二十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百二十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百三十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百三十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百三十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百三十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百三十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百三十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百三十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百三十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百三十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百三十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百四十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百四十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百四十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百四十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百四十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百四十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百四十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百四十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百四十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百四十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百五十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百五十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百五十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百五十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百五十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百五十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百五十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百五十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百五十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百五十九條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百六十條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百六十一條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百六十二條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百六十三條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百六十四條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百六十五條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百六十六條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百六十七條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主トノ間ニ賣買ニ關スル契約アルコトヲ要ス

第百六十八條　船舶ノ賣買ニ因リテ船舶ノ所有權ヲ移轉スル場合ニ於テハ賣主ト買主

トヲ要ス

前項ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ登記權利者カ支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル商事會社其他ノ法人ナルトキハ申請書ニ其本店又ハ主タル事務所ノ所在地及ヒ大正十四年法律第五十二號ニ揭ケタル社員、無限責任社員、取締役若クハ代表者ノ全員ノ氏名ヲ記載シ且之ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證及ヒ此等ノ者ノ二分ノ一以上カ日本人ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面竝ニ其法人カ日本船舶ヲ所有スルニ適スルコトノ領事官ノ認定書又ハ其謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

同一ノ登記所ニ於テ既ニ商法第五十一條乃至第五十三條、第百七條、第百四十一條、第二百四十二條、舊商法第百三十八條又ハ民法第四十六條ノ規定ニ依リテ登記ヲ爲シタルトキハ前二項ニ定メタル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添附スルコトヲ要セス

第二十條　始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ船舶カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ申請書ニ各共有者ノ持分及ヒ船舶管理人ノ氏名、住所ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶所有者カ其所有權ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　第十六條ニ揭ケタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ船舶所有者カ船籍港ヲ變更シタルトキハ所有權ノ登記名義人ハ遲滯ナク其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ同一ノ船舶ノ登記用紙ニ抵當權又ハ賃借權ノ登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十一條ノ二　前條第一項ノ場合ニ於テハ申請書ニ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十二條　第十六條ニ揭ケタル事項ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ變更後ノ事項ヲ記載シ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ前ノ表示及其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第二十三條　（削除）

第二十四條　同一ノ登記所ノ管轄内ニ於ケル船籍港變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ新船籍港ノ登記簿ニ舊船籍港ノ登記ヲ移スコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ舊船籍港ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ何船籍港ノ登記簿ニ依リ登記ヲ移シタル旨及申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第二十五條　船舶所有者カ船籍港ヲ甲登記所ノ管轄地ヨリ乙登記所ノ管轄地ニ移シタルトキハ舊船籍港ノ登記簿及ヒ其附屬書類ノ謄本ノ交付ヲ甲登記所ニ申請シ其謄本ヲ乙登記所ニ提出シテ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

前條第二項、第三項及ヒ不動產登記法第九條第二項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　船舶管理人ノ更迭ノ登記ハ所有權ノ登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

不動產登記法第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　船舶管理人ノ表示ノ變更ノ登記ハ本人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

不動產登記法第四十三條及ヒ第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條　所有權ノ移轉ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其移轉ノ結果ニ因リ共有カ消滅スヘキトキハ船舶管理人ノ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十九條　未登記ノ船舶所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

不動產登記法第百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　左ノ場合ニ於テハ所有權ノ登記名義人ハ申請書ニ事由ヲ記載シテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

一　船舶カ滅失又ハ沈沒シタルトキ

二　船舶カ解撤セラレタルトキ

三　船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ

四　船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ

五　船舶カ船舶法第二十條ニ揭クル船舶トナリタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ其事實ヲ證スル官吏又ハ公吏ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三節　抵當權及ヒ賃借權ニ關スル登記手續

第三十一條　登記官吏カ抵當權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動產登記法第百十七條ニ揭ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十二條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ハ製造地ヲ管轄スル登記所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一　船舶ノ種類

二　龍骨ノ長サ若シ船舶カ石數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノナルトキハ航ノ長サ

三　計畫ノ幅及ヒ深サ

四　計畫ノ積量

五　製造地

六　造船者ノ氏名、住所若シ造船者カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所

七　不動產登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ揭ケタル事項

第三十四條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ前條第一號乃至第六號ニ揭ケタル事項ヲ證スル造船者ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十五條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條　特別登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ、表示欄ニ第三十三條第一號乃至第六號ニ揭ケタル事項ヲ記載シ且甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十七條　製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ船籍港カ抵當權ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ所有權ノ登記ヲ爲シタル後其登記用紙ニ抵當權ノ登記ヲ移スコトヲ要ス

抵當權ノ登記ヲ移ストキハ其登記ノ末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記ノ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

抵當權ノ登記ヲ移シタルトキハ之ニ關スル特別登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第三十八條　製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ船籍港カ抵當權ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬セサルトキハ申請書ニ特別登記簿ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ特別登記簿ノ謄本ニ依リ登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ移スコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前登記所カ特別登記簿ノ謄本ヲ交付シタルトキハ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第三十九條　船長カ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權ノ登記ハ日本又ハ支那ニ於テハ其契約ヲ爲シタル港ヲ管轄スル登記所、外國ニ於テハ最近ノ日本領事館ヲ以テ管轄登記所トス

第四十條　船長カ前條ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶ヲ抵當ト爲シタル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十一條　第三十九條ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條　特別登記簿ニ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ船舶ノ種類、名稱竝ニ積量及ヒ船籍港ヲ記載シ且甲區事項欄ニ船舶所有者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十三條　第三十九條ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ代理權ヲ證スル書面カ船中ニ備ヘ置クヘキモノナルトキハ登記官吏ハ登記完了ノ後之ヲ還付スルコトヲ要ス

第四十四條　第三十九條ニ定メタル登記所ハ登記ヲ爲シタル後遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル登記所ニ特別登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第四十五條　特別登記簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタル登記所ハ其謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移シ其末尾ニ特別登記簿ノ謄本ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

登記官吏カ登記證書ニ依リ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權アルコトヲ知リタルトキハ前項ノ登記ヲ爲スマテ登記簿ニ他ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テ登記ノ申請アリタルトキハ其登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條及第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條　登記官吏カ賃借權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動產登記法第百二十七條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十七條　既登記ノ船舶ニ關スル未登記ノ抵當權又ハ賃借權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

不動產登記法第百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

第四十八條　此規則ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十九條　不動產登記法第百六十二條ノ規定ハ明治十年第二十八號布告ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ之ヲ準用ス

第五十條　不動產登記法第百六十三條ノ規定ハ此規則施行前ニ登記シタル船舶ニ付キ此規則施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス但登記用紙中表示欄ニ移スヘキ船舶ノ表示ハ第十六條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條　船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ニ非スシテ此規則施行前ニ登記セサリシ船舶ニ付テハ船舶法第四條ノ規定ニ依リテ其積量ノ測度ヲ受クルマテハ舊法ノ規定ニ依リテノミ登記ヲ爲スコトヲ得但賃借權ノ登記ニ付テハ舊登記用紙ニ丁區事項欄ヲ追加シ之ニ關シテハ此規則ノ規定ヲ適用ス

前條ノ規定ハ前項ノ船舶ニ付キ此規則ニ依リテ登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條　船舶法第二十條ニ揭ケタル船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタル登記アルトキハ此規則施行ノ後ト雖モ舊法ノ規定ニ依リテ其登記ノ變更又ハ抹消ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ船舶ノ所有權カ移轉シタルトキハ其船舶ニ付テ此規則施行前ニ爲シタル質入又ハ書入ノ登記アル場合ニ限リ此規則施行ノ後ト雖モ所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

前二項ニ定メタル申請アリタルトキハ登記官吏ハ舊法ノ規定ニ依リ舊登記簿ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條　此規則ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

附　則（大正二年五月勅令第九三號）

本令ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年法律第十八號附則第二條乃至第八條ノ規定ハ本令ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス但シ同法附則第五條中「乙區」トアルハ「丙區」ヲ謂フ

附　則（大正三年九月勅令第二〇四號）

第一條　本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依リ積量改測ヲ受ケタル船舶ニ付其ノ改測ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶原簿ノ謄本又ハ第十六條第一項第二號ノ事項ヲ除クノ外同條ニ揭ケタル事項及改測ノ事實ヲ記載シタル船舶原簿ノ抄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記チ爲ストキハ變更後ノ事項ノ記載ハ第十六條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　前條ノ規定ニ依ル變更ノ登記チ受ケサル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四條　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ登記簿ニ記載シタル船舶ノ表示ハ本令ニ依ル表示ニ當然變更セラレタルモノト看做ス

船舶登記取扱手續（明治三十二年六月十五日司法省令第三十五號）

【沿革】明治三十五年七月省令第一五號、同三十六年十月同第二六號、同四十四年八月同第三〇號、大正二年五月同第一八號、同三年十二月同第二八號、同十一年十二月同第四七號、昭和二年四月同第一五號同四年四月同第一五號改正

第一條　船舶登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條　船舶共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條　船舶特別登記簿ハ附錄第一號雛形ニ準シ船舶特別共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ準シ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條　船舶登記見出帳ハ附錄第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條　船舶登記見出帳ニイロハ順ニ依リ殘メノ部ヨリスノ部マテヲ

設ケ證キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ其ノ船名ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ船舶ノ名稱、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ

第六條　受附帳ハ登錄第四號雛形ニ依リ毎年之ヲ調製スヘシ

第七條　登記證書ハ附錄第五號雛形ノ用紙ヲ以テ之ヲ作ルヘシ

第八條　船舶所　有者ハ其本籍地又ハ所在地ノ市、區、町村長市、區、町村長ナキ地ニ於テハ其職務ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ但分冊スルコトヲ妨ケス

改印ヲ爲シタルトキ亦同シ但不動產ノ登記ニ關シ其登記所ニ印鑑ヲ提出シタル者ハ此限ニ在ラス

船舶ヲ所有スル法人ノ代表者ハ法人ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ但法人登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ト船籍港ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ此限ニ在ラス

第九條　印鑑ハ登錄第六號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條　第八條ノ規定ハ官廳又ハ公署ニハ之ヲ應用セス

第十一條　登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

一　印鑑簿
二　共同擔保目錄綴込帳
三　信託原簿綴込帳
四　申請書類綴込帳
五　決定原本綴込帳

第十一條ノ七　第十一條ノ五ノ規定ハ信託原簿ニ之ヲ準用ス

第十二條　登記簿謄本ノ交付又ハ登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但閱覽ナ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一　船舶ノ種類及ヒ名稱
二　船籍港
三　手數料ノ金額
四　登記所ノ表示
五　年月日

第十三條　登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ前條ニ揭ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第十四條　登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作リ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺スヘシ

此謄本ハ何船籍港ノ登記簿ニ依リ之ヲ作リ玆ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但抄本用紙ハ半紙罫紙ヲ用ユヘシ

第十四條ノ二　印鑑簿及ヒ信託原簿ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ

受附帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ

決定原本綴込帳、抗告書類綴込帳、評價事件簿、評價書類綴込帳及ヒ印鑑證明書綴込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ

登記證書交付帳、本登記濟證交付帳、船舶登記濟通知簿、謄本抄本交付帳、各種通知簿、受領證原符元帳及ヒ還納受領證綴込帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ

前三項ノ帳簿ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第十四條ノ三　共同擔保目錄ハ抵當權ノ抹消ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ

第十五條　登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其登記ヲ申請スルニ必要ナル事項ノ外登錄稅額ヲ記載スヘシ但登錄稅法第三條第一項第一號乃至第十二號、第三條ノ二、第三條ノ三但書、第三條ノ四及第十六條ノ登記ニ付テハ課稅標準ノ價格ヲモ記載スヘシ

登記稅法第十九條ノ八ノ場合ニ於テハ前項ニ揭ケタル事項ノ外差稅額ヲ記載スヘシ

第十六條　登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ニシテ且登錄稅法第三條第一項第九號乃至第十二號ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ數箇ノ登記所ノ管轄內ニ在ル數箇ノ船舶ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登錄稅ノ全額ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應シ登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添附スヘシ

第十六條ノ二　數箇ノ船舶ニ關シ登錄稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ登記官吏ハ後ニ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付ス、